

博士学位論文

現代日本語における
カテゴリーの周辺例を明示する表現に関する考察

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

日本語文化専攻

関 ソラ

平成31年3月

目 次

第一章 序論	1
1.1 本研究の目的.....	1
1.2 本研究の考察対象.....	2
1.3 本研究の考察方法.....	4
1.4 本論文の構成.....	5
第二章 先行研究	7
2.1 はじめに.....	7
2.2 本論文において援用する諸概念と理論的背景.....	7
2.2.1 「カテゴリー」と「カテゴリー化」.....	7
2.2.2 「百科事典的意味」.....	10
2.3 「カテゴリーの周辺例を明示する表現」に関する先行研究.....	15
2.4 第二章のまとめ.....	18
第三章 カテゴリーの境界に近いことを表す表現の分析	19
3.1 はじめに.....	19
3.2 「ぎりぎりX（である）」.....	19
3.2.1 考察の対象と目的.....	19
3.2.2 先行研究.....	21
3.2.3 「ぎりぎりX（である）」に見られるカテゴリー化の様相.....	24
3.2.3.1 Xがプロトタイプ・カテゴリーである場合.....	24
3.2.3.2 Xが必要十分条件に基づくカテゴリーである場合.....	29
3.2.3.3 「ぎりぎりのX（である）」との比較.....	37
3.2.3.4 「ぎりぎりX（である）」に見られるカテゴリーXの拡張の様相..	39
3.2.4 まとめ.....	41
3.3 「Xの端くれ」.....	42
3.3.1 考察の対象と目的.....	42
3.3.2 先行研究.....	44
3.3.3 「Xの端くれ」に見られるカテゴリー化の様相.....	45
3.3.3.1 カテゴリーXの持つ評価性.....	45
3.3.3.2 表現効果①「謙遜」.....	47
3.3.3.3 表現効果②「軽蔑」.....	49
3.3.3.4 表現効果③「自慢」.....	50
3.3.3.5 表現効果④「認定」.....	52
3.3.3.6 「Xの端くれ」に見られるカテゴリーXの拡張の様相.....	53

3.3.4	まとめ	55
3.4	「ぎりぎりX（である）」と「Xの端くれ」の比較	56
3.4.1	考察の背景と目的	56
3.4.2	先行研究	57
3.4.3	分析	58
3.4.3.1	両表現の共通点：カテゴリー化の様相	58
3.4.3.2	両表現の相違点①：焦点の場所	58
3.4.3.3	両表現の相違点②：話題の対象と比較されるXの中心例	60
3.4.3.4	両表現の相違点③：カテゴリーXの性質	64
3.4.3.5	両表現の相違点④：表現効果	66
3.4.4	まとめ	70
3.5	第三章のまとめ	71
第四章 「比喩」用法を持つ表現の分析		73
4.1	はじめに	73
4.2	「まるでX（である）」	73
4.2.1	考察の対象と目的	73
4.2.2	先行研究	75
4.2.3	「まるでX（である）」に見られるカテゴリー化の様相	79
4.2.3.1	カテゴリーの周辺例を明示する「まるでX（である）」	79
4.2.3.2	「まるでX（である）」に見られる3つの用法の連続性	80
4.2.3.3	カテゴリーXの特徴	81
4.2.3.4	カテゴリーXの中心例の特徴	82
4.2.3.5	「まるでX（である）」に見られるカテゴリーXの拡張の様相	84
4.2.4	まとめ	85
4.3	「もはやX（である）」	85
4.3.1	考察の対象と目的	85
4.3.2	先行研究	86
4.3.3	「もはやX（である）」に見られるカテゴリー化の様相	89
4.3.3.1	カテゴリーの周辺例を明示する「もはやX（である）」	89
4.3.3.2	「もはやX（である）」に見られる2つの用法の連続性	90
4.3.3.3	カテゴリーXの特徴	91
4.3.3.4	カテゴリーXの中心例の特徴	92
4.3.3.5	「もはやX（である）」に見られるカテゴリーXの拡張の様相	93
4.3.4	まとめ	93
4.4	「まるでX（である）」と「もはやX（である）」の比較	94

4.4.1	考察の背景と目的.....	94
4.4.2	先行研究.....	95
4.4.3	分析.....	97
4.4.3.1	両表現の共通点①：カテゴリー化の様相.....	97
4.4.3.2	両表現の共通点②：話題の対象と比較されるXの中心例.....	97
4.4.3.3	両表現の共通点③：カテゴリーXの拡張.....	98
4.4.3.4	両表現の相違点①：カテゴリーXの特徴.....	99
4.4.3.5	両表現の相違点②：焦点の場所.....	100
4.4.3.6	両表現の相違点③：話題の対象の実際の位置.....	101
4.4.3.7	両表現の相違点④：否定形式の有無.....	103
4.4.4	まとめ.....	105
4.5	第四章のまとめ.....	106
第五章 「カテゴリー化」に関わる「と言う（言える）」を含む表現の分析.....		108
5.1	はじめに.....	108
5.2	「Xと言えなくもない」.....	108
5.2.1	考察の対象と目的.....	108
5.2.2	先行研究.....	110
5.2.2.1	「カテゴリー化」に関わる「と言う（言える）」に関する先行研究.....	110
5.2.2.2	「Xと言えなくもない」に関する先行研究.....	111
5.2.3	「Xと言えなくもない」に見られるカテゴリー化の様相.....	114
5.2.3.1	先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合.....	114
5.2.3.2	生起・可能性・存在などが皆無でないことを主張したい場合... ..	116
5.2.3.3	断定・直接的な言い方を避けたい場合.....	118
5.2.3.4	和らげ・配慮を表す場合.....	120
5.2.3.5	「Xと言えなくもない」に見られるカテゴリーXの拡張の様相... ..	121
5.2.4	まとめ.....	122
5.3	「Xとも言える」.....	123
5.3.1	考察の対象と目的.....	123
5.3.2	先行研究.....	124
5.3.3	「Xとも言える」に見られるカテゴリー化の様相.....	125
5.3.3.1	和らげ.....	126
5.3.3.2	比喩.....	128
5.3.3.3	言い換え.....	129
5.3.3.4	誇張.....	131

5.3.3.5	「Xとも言える」に見られるカテゴリーXの拡張の様相.....	133
5.3.3.6	「Xとも言える」と「Xと言える」「Xと言っても過言ではない」の比較.....	134
5.3.4	まとめ.....	137
5.4	「Xと言えなくもない」と「Xとも言える」の比較.....	139
5.4.1	考察の背景と目的.....	139
5.4.2	先行研究.....	139
5.4.3	分析.....	140
5.4.3.1	両表現の共通点①：カテゴリー化の様相.....	140
5.4.3.2	両表現の共通点②：用法.....	142
5.4.3.3	両表現の相違点：用法と話者の態度.....	144
5.4.3.4	「Xと言えなくもない」「Xとも言える」と「Xと言える」との比較.....	145
5.4.4	まとめ.....	148
5.5	第五章のまとめ.....	149
第六章 「再カテゴリー化」が見られる表現の分析.....		151
6.1	はじめに.....	151
6.2	「Xというのもおこがましい(Y)」.....	151
6.2.1	考察の対象と目的.....	151
6.2.2	先行研究.....	153
6.2.3	「Xというのもおこがましい(Y)」に見られるカテゴリー化の様相...	156
6.2.3.1	「Xというのもおこがましい」.....	156
6.2.3.2	「XというのもおこがましいY」.....	157
6.2.3.3	「Xというのもおこがましい(Y)」の評価性が異なる場合.....	160
6.2.3.4	「Xというのもおこがましい(Y)」に見られるカテゴリーXの縮小の様相.....	161
6.2.4	まとめ.....	163
6.3	「Xとは名ばかり(のY)／名ばかり(の)X」.....	164
6.3.1	考察の対象と目的.....	164
6.3.2	先行研究.....	165
6.3.3	「Xとは名ばかり(のY)／名ばかり(の)X」に見られるカテゴリー化の様相.....	167
6.3.3.1	「Xとは名ばかり／名ばかり(の)X」.....	167
6.3.3.2	「Xとは名ばかりのY」.....	170
6.3.3.3	「Xとは名ばかり(のY)／名ばかり(の)X」に見られるカテゴリーX	

の縮小の様相.....	172
6.3.4 まとめ.....	173
6.4 「Xというのもおこがましい (Y) 」と「Xとは名ばかり (のY) /名ばかり (の) X」の比較.....	174
6.4.1 考察の対象と目的.....	174
6.4.2 先行研究.....	175
6.4.3 分析.....	176
6.4.3.1 両表現の共通点：カテゴリー化の様相.....	176
6.4.3.2 両表現の相違点.....	179
6.4.4 まとめ.....	181
6.5 第六章のまとめ.....	182
第七章 否定を含む表現の分析.....	184
7.1 はじめに.....	184
7.2 「大したXではない」.....	184
7.2.1 考察の対象と目的.....	184
7.2.2 先行研究.....	185
7.2.3 「大したXではない」に見られるカテゴリー化の様相.....	188
7.2.3.1 話題の対象の評価性がXの中心例より（－）である場合.....	188
7.2.3.2 話題の対象の評価性がXの中心例より（＋）である場合.....	190
7.2.3.3 カテゴリーXの特徴.....	193
7.2.3.4 「大したXではない」に見られるカテゴリーXの縮小の様相.....	194
7.2.4 まとめ.....	195
7.3 「Xっぽくない」.....	196
7.3.1 考察の対象と目的.....	196
7.3.2 先行研究.....	197
7.3.3 「Xっぽくない」に見られるカテゴリー化の様相.....	204
7.3.3.1 話題の対象がXの成員である場合.....	204
7.3.3.2 話題の対象がXの成員ではない場合.....	206
7.3.3.3 話題の対象がXの成員であるかどうか明確でない場合.....	209
7.3.3.4 「Xっぽくない」に見られるカテゴリーXの縮小の様相.....	212
7.3.4 まとめ.....	213
7.4 「大したXではない」と「Xっぽくない」の比較.....	214
7.4.1 考察の対象と目的.....	214
7.4.2 先行研究.....	214
7.4.3 分析.....	218

7.4.3.1	両表現の共通点：カテゴリー化の様相.....	218
7.4.3.2	両表現の相違点①：話題の対象がXの成員であるかどうか.....	220
7.4.3.3	両表現の相違点②：カテゴリーXの中心例の種類.....	221
7.4.3.4	両表現の相違点③：Xの中心例及び話題の対象の評価性.....	223
7.4.3.5	両表現の相違点④：話者の焦点と態度.....	225
7.4.4	まとめ.....	227
7.5	第七章のまとめ.....	227
第八章	結論.....	229
8.1	本研究のまとめ.....	229
8.1.1	10表現に見られるカテゴリー化の様相のまとめ.....	229
8.1.2	カテゴリー化における特徴による分類.....	230
8.1.3	「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての10表現の位置づけ...	232
8.2	本研究の意義と今後の課題.....	233
表	カテゴリーの周辺例を明示する10表現の特徴.....	235
	引用文献.....	238

表記法について

1. 例文中の考察対象表現はゴシック体の太字で示し、カテゴリー化される話題の対象は実線の下線で示し、例文において考察に関わる部分は点線の下線で、話題の対象がカテゴリー化されるカテゴリー名は四角で囲んで示した。
2. 類義表現分析において、例文中の考察対象表現の前に付される「*」は、その文が非文であることを示す。「？」は、その文が容認度の低い文であること、または置き換えられるが、元の文の意味と多少意味がずれることを表し、「??」は、「？」よりさらに容認度が低いこと、または置き換えると、元の文の意味とかなり意味がずれることを表す。
3. 例文と図表の番号は、各章ごとの通し番号である。
4. 注釈の番号は全章の通し番号である。

本研究の第三章から第八章までの考察は、以下の論文に基づき、その後の考察によって明らかにしたことを加え、加筆・修正したものである。

- 6.2 節：「おこがましい」「口幅ったい」「差し出がましい」の類義語分析」、『名古屋大学大学院国際言語文化研究科年報 Bulletin L&C 2014 vol.6』、p. 21、名古屋大学大学院国際言語文化研究科就職・同窓会委員会（2014年10月）
- 3.2 節、6.2 節、6.3 節、7.2 節：「カテゴリーの周辺例を明示する表現に関する考察」、『日本語文法学会第十五回大会発表予稿集』、pp. 111-118、日本語文法学会（2014年12月）
- 3.2 節：「カテゴリーの周辺例を明示する表現に見られるカテゴリー化—「ぎりぎりX（である）」を中心に—」、『日本認知言語学会論文集』17、pp. 430-436、日本認知言語学会（2017年4月）
- 第四章：「「まるで」と「もはや」に見られる話者の再カテゴリー化の様相」、『日本認知言語学会論文集』18、pp. 380-392、日本認知言語学会（2018年4月）
- 第三章～第八章：「発話におけるカテゴリーの中心例に関する一考察—カテゴリーの周辺例を明示する表現を通して—」、『日本認知言語学会論文集』19、日本認知言語学会（2019年4月予定）

謝辞

本論文の執筆におきましては、多くの方々にご指導及びご助言をいただき、誠にありがとうございました。

まず、靱山洋介先生には、博士前期課程・後期課程を経て本論文の完成に至るまで長年にわたり、きめ細かくご指導いただきました。先生のご指導とお励ましがあったからこそ、諦めずに研究を続け、本論文を書き上げることができたと存じます。心からお礼申し上げます。また、李澤熊先生には、大学院生時代から本研究に関して貴重なご助言をいただき、審査においても本論文の細部にわたりご指導いただきました。深く感謝申し上げます。堀江薫先生、杉村泰先生、永澤済先生には、本論文の審査において様々な角度からご指導いただき、本論文にとどまらず、今後の研究にもつながる大変貴重なご助言をいただきました。誠にありがとうございました。

さらに、名古屋大学大学院国際言語文化研究科の先生方、院生の方々にも多くのご助言をいただきました。特に、現代日本語学講座の修了生、在学生の方々には例文の容認度判定から研究全般にわたるご助言まで、本論文の執筆において様々なところで助けていただき、励ましていただきまして、本論文の完成に至ることができました。誠にありがとうございました。

最後に、私を信じていつも応援してくれる家族に感謝の気持ちを伝えたいと思います。

第一章 序論

1.1 本研究の目的

本研究は現代日本語における「カテゴリーの周辺例を明示する表現」を対象にし、各々のカテゴリー化の様相に注目して、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴について認知言語学的な観点から考察したものである。

「カテゴリーの周辺例を明示する表現」とは、「ペンギンはぎりぎり鳥である」の「ぎりぎり」のように、ある話題の対象があるカテゴリーの中心的な成員ではなく、周辺の成員であることを示す表現を指す。従来の「カテゴリー」と「カテゴリー化」に関する研究には、そのカテゴリーの中心的な成員に注目して考察が行われているものが多く、周辺の成員については、Rosch(1975)をはじめとする、ある特定のカテゴリーの中心的な成員から周辺の成員までを網羅的に調査し、それらがどのようなものであるかを明らかにするものが大半であった。例えば、Rosch(1975)のアメリカの学生を対象とした調査において、「bird(鳥)」カテゴリーでは、robin(コマツグミ)が中心的な成員であり、penguin(ペンギン)やbat(コウモリ)は周辺の成員であるということを明らかにしている。これに対し、本研究は、ある特定のカテゴリーの周辺例そのものに注目するのではなく、不特定のカテゴリーの周辺例を明示する「表現」に注目し、その表現がどのように不特定のカテゴリーの周辺例を明示するかについて考察する。本研究のように、認知言語学的観点からある「表現」に注目し、その表現にカテゴリーの周辺の成員を明示する機能があることを指摘している研究には、野呂(2007、2008、2010)、靱山(2008)、今井(2008)、梶川(2012、2013)、梶原(2014)、滝(2018a、2018b)などがある。この先行研究の中で、野呂(2007)、靱山(2008)、今井(2008)、梶川(2012、2013)は考察対象表現にカテゴリーの周辺例を明示する機能があるという指摘に留まっており、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としてさらなる考察が求められる。野呂(2008、2010)、梶原(2014)、滝(2018a、2018b)では考察対象表現のカテゴリー化の様相について考察されているが、考察の目的はあくまでも当該表現の意味や働きの記述にあり、その表現の「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴を明らかにしているとは言えない。それゆえ、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」に関する領域はまだ考察の余地が十分残っていると言え、本研究の目的は「カテゴリーの周辺例を明示する表現」の特徴を明らかにすることとする。

「カテゴリー」と「カテゴリー化」は認知言語学において重要な意味を持つ概念の一つであり、様々な研究が行われている。カテゴリー化とは事物や事象について同定

(identification)や差異化(differentiation)を行い、共通性や関係性に従って般化(generalization、まとまりを同定する心のプロセス(吉村 2004: 27))することで諸事例を同類であると判断し、まとめる認知過程であるという定義(辻編 2013: 40)や、「カテゴリー化は重要な認知過程(プロセス)の一つ」という吉村(2004: 23)の記述からも、カテゴリー化は我々の認知的営みであることがわかる。それゆえ、「カテゴリー化」に注目する研究では、認知言語学的観点からの考察が必要であると考えられる。また、Taylor(2003: xi-xii)において、「何かをカテゴリー化することは、よくその名前をつけることを伴い、ある語の意味はあるカテゴリーの名前として捉えられる。(中略)多くの場合、語彙意味論の研究はカテゴリー化の研究である(訳:引用者)」と述べているように、カテゴリー化と言語は非常に密接な関係を持っている。したがって、本研究では、認知言語学的観点から「カテゴリー化」に注目して「カテゴリーの周辺例を明示する表現」について考察し、それと同時に人間の認知能力についても研究し、その両方に貢献したいと考える。より具体的に言うと、話者が「カテゴリーの周辺例を明示する表現」を用いて、ある話題の対象をあるカテゴリーの周辺例としてカテゴリー化する際は、必ず何らかの認知的なプロセスを伴うと考えられる。本研究では、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」の特徴を探ることで、考察対象表現そのものの意味・用法を明らかにすると共に、その背景にある、話者によるカテゴリー化のプロセスを明らかにし、現代日本語を使用する話者の「カテゴリー」に対する認識と「カテゴリー化」の様相についてまだ明らかになっていない部分を補うことに貢献したいと考える。

1.2 本研究の考察対象

本研究の考察対象は「カテゴリーの周辺例を明示する表現」に属すると思われる次の10表現である。

本研究の考察対象：「ぎりぎりX(である)」「Xの端くれ」「まるでX(である)」「もはやX(である)」「Xと言えなくもない」「Xとも言える」「Xというものもおこがましい(Y)」「Xとは名ばかり(のY)／名ばかり(の)X」「大したXではない」「Xっぽくない」

これらの10表現は、下の表1の例文のように用いられ、話題の対象である「彼」が「学者」カテゴリーの周辺的な成員であることを明示している。

表1 本研究の考察対象の10表現

特徴	表現	例文
カテゴリーの境界に近いことを表す	ぎりぎりX (である)	彼は ぎりぎり 学者 である 。
	Xの端くれ	彼は 学者 の 端くれ である。
「比喩」用法を持つ	まるでX (である)	彼は まるで 学者 である 。
	もはやX (である)	彼は もはや 学者 である 。
「カテゴリー化」に関わる「と言う(言える)」を含む	Xと言えなくもない	彼は 学者 と 言えなくもない 。
	Xとも言える	彼は 学者 と も言える 。
「再カテゴリー化」用法を持つ	Xというのもおこがましい(Y)	彼は 学者 と いうのもおこがましい 人間である。
	Xとは名ばかり(のY) / 名ばかり(の)X	彼は 名ばかりの 学者 である 。
否定形式「ない」を含む	大したXではない	彼は 大した 学者 ではない 。
	Xっぽくない	彼は 学者 っぽくない 。

これらの10表現は、先行研究においてあまり注目されず、特に、「カテゴリー化」に関わるという側面からはほとんど考察されていないものである。また、先行研究で記述されていても、カテゴリー化に関わる意味・用法が明確に記述されておらず、先行研究の記述では、これらの表現がカテゴリーの周辺例を明示する際の意味・用法を適切に説明できていないと考えられることから、これらの表現を選び、本研究の考察の対象とした。

第二章の先行研究においても一部確認できるが、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」はこれらの10表現以外にも数多く存在すると考えられる。本研究では、その中でも類似した特徴を持っている2つずつの表現を選び出し、5つのグループの10表現を考察対象とした。上記したように、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」とは、話者が話題の対象をあるカテゴリーの周辺的な成員としてカテゴリーの境界に近いところに位置づける表現であるため、まず、ある物事があるカテゴリーXの境界に近い成員であることを表す「ぎりぎりX (である)」と「Xの端くれ」を考察対象とし、分析する。また、従来「比喩」用法と「完全否定」用法にのみ焦点が当てられてきた「まるでX (である)」と、「時間的」用法のみ記述されてきた「もはやX (である)」を取り上げ、これらが「比喩」用法において、ある物事を本来のカテゴリーではなく、カテゴリーXに周辺的な成員としてカテゴリー化する表現であることを見る。なお、「カテゴリー化」に関わる「と言う(言える)」が含まれている表現であり、ある物

事があるカテゴリーの中心的な成員ではないことを表す「Xと言えなくもない」「Xとも言える」も対象とし、類義表現として「Xと言える」「Xと言っても過言ではない」と比較して各々の特徴を明確にする。次に、話者がカテゴリーXにカテゴリー化されているある物事をXよりYにカテゴリー化した方がいいと判断する表現である「XというのもおこがましいY」と「Xとは名ばかりのY」もカテゴリーの周辺的な成員を明示する表現であるため、考察対象とし、両者がどのように異なるかを比較する。最後に、否定形式「ない」を含む表現として「大したXではない」と「Xっぽくない」を取り上げ、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴を明らかにする。

本研究における考察対象表現は、品詞や文法的な性質、形式など様々な面から違いが見られ、同一文において全ての表現が意味のずれを伴わずに置き換えられるとは言えず、単純比較は妥当ではない可能性も存在する。実際、それぞれの表現において話題の対象やカテゴリーXの特徴、話者の焦点や態度、評価性、表現効果などの面において様々な違いが見られる。それゆえ、分析においては、各々の表現においてカテゴリー化に最も影響する部分に注目し、考察を行った。しかし、これらの10表現は、その特徴やカテゴリー化の仕方に違いはあるものの、話者がある話題の対象をあるカテゴリーXの周辺例として位置づけることを明示するという同じ機能を持っている。同じ機能を持つてはいるが、それぞれ形式が異なることから、10表現の意味・用法にも何らかの違いがあることが予測され、その違いを明確にすることは言葉の研究において必要なことと思われる。また、同一形式の表現だけを比較するよりも、同じ機能を持つ多様な表現を対象にし、それぞれの表現主体（話者）のカテゴリー化の様相を見ることで、我々のカテゴリーに関する認識（カテゴリーの中心に位置づけられる成員と周辺に位置づけられる成員の特徴やカテゴリーの境界に関する認識など）及び、我々がカテゴリー化の際にどのようなことに注目し、どのようにカテゴリー化するかに対する答えがより多様な形で得られると考える。

1.3 本研究の考察方法

本研究では、「カテゴリー化」に関わる表現を対象とし、認知言語学的観点から「カテゴリー」と「カテゴリー化」、「百科事典的意味」に関する理論を援用して考察を行った。なお、主に『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』とインターネット検索エンジン「YAHOO! JAPAN」（<https://www.yahoo.co.jp/>）を使い、小説、新聞、ニュースサイト、ブログ、ネット掲示板などから考察対象表現を抽出し、それに基づき、表現それぞれの意味・用法及びカテゴリー化の様相について考察した。具体的には、まず、各表現に関する先行研究を概観し、考察における課題や注目する項目について確認した。その後、实例を基に各表現において話者が話題の対象のどのような特徴に注目し、カテゴリーXのどのような中心的成員と比較しているか、その結

果、Xをどのように変化させ、話題の対象をXにどのように位置づけるかといった「カテゴリー化の様相」について分析した。すでに述べたように、分析においては、先行研究の指摘及び、各表現に見られるカテゴリー化の様相に最も大きく影響する部分に焦点を当て、カテゴリーXの特徴や話者の焦点・態度、評価性、表現効果など、各表現固有の特徴に合わせて考察を行った。さらに、グループ同士で類義表現分析を通し、その用法とカテゴリー化の様相を比較分析することで各々の表現の特徴をより明確にした。類義表現分析では、両表現が互いに置き換えても意味のずれがほとんど感じられない例文と、置き換えることができず、一方の表現しか使えない例文や置き換えると意味がずれる例文に基づき、両表現の意味・用法上の共通点と相違点を探る認知意味論の手法を用いて分析を行った。このような各表現の考察結果を踏まえ、それぞれの表現が「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としてどのような特徴を持ち、どのように位置づけられるかについて考察し、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」の全体的な位置づけを示した。

1.4 本論文の構成

本論文は次のように構成される。まず、第一章の序論では本研究の目的を述べた上で、本研究の考察対象を明確にし、考察方法を示す。

第二章では、まず、考察において援用する諸理論をまとめて概観し、その後、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」について言及している先行研究を概観し、課題を確認する。

第三章から第七章において考察を行うが、上記したように、本研究の考察対象である10個の表現をその特徴が類似しているもの同士を1つのグループにし、5つのグループに分けてそれぞれ1つの章にまとめて考察する。

第三章では、話題の対象がカテゴリーの境界に近いことを表す表現である「ぎりぎりX（である）」と「Xの端くれ」について考察する。

第四章では「比喩」用法を持つ表現である「まるでX（である）」と「もはやX（である）」を対象に分析を行う。

第五章では「カテゴリー化」に関わる「と言う（言える）」を含む表現である「Xと言えなくもない」と「Xとも言える」について考察する。

第六章では「再カテゴリー化」が見られる表現である「Xというのもおこがましい(Y)」と「Xとは名ばかり(のY)／名ばかり(の)X」を分析する。

第七章では否定を含む表現である「大したXではない」と「Xっぽくない」を対象に考察する。

第八章では、第三章から第七章における考察の結果、10語の表現の特徴をまとめ、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」の下位分類を試みる。さらに、10表現が「カ

「テゴリーの周辺例を明示する表現」としてどのように位置づけられるかについて述べた後、本研究の意義と今後の課題を示す。

第二章 先行研究

2.1 はじめに

本章では、本論文全体において援用する「カテゴリー」と「カテゴリー化」、「百科事典的意味」に関する理論的背景、基本概念を概観する。さらに、本論文の主題である「カテゴリーの周辺例を明示する表現」について言及している先行研究を取り上げ、本研究の方向性を示し、本論文の位置づけと考察課題について述べる。

2.2 本論文において援用する諸概念と理論的背景

2.2.1 「カテゴリー」と「カテゴリー化」

本論文では、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」を対象に、その「カテゴリー化」の様相に注目して考察を行うため、本節では「カテゴリー」と「カテゴリー化」に関する概念をまとめる。

まず、「カテゴリー化(categorization)」とは、様々なモノやコトを、必要に応じて何らかの観点から整理・分類する(=まとめるべきものはまとめ、区別すべきものは区別する)ことであり、カテゴリー化の結果作り出されたまとまりの1つ1つをカテゴリー(category)と言う(靱山 2010a: 18)。第一章でも引用したように、辻編(2013: 40)では、カテゴリー化について、事物や事象について同定(identification)や差異化(differentiation)を行い、共通性や関係性に従って般化(generalization)することで諸事例を同類であると判断し、まとめる認知過程であると定義している。吉村(2004: 23-24)では、昔から人は分けること、分類することが好きで、それは「分ける」が「分かる」に近く、分類して名前を付ければ正体をとらえたような安心感が生まれるからであると述べている。また、分類は環境を加工する心のプロセスの一つであり、分類にはことばのレッテルが貼られているため、言語を研究することは分類法を知ること、すなわち、概念化の仕方を知る手がかりとなるという。

次は、「カテゴリー化」において重要な役割を果たす「プロトタイプ」と、カテゴリーの種類について見てみる。Langacker(1987: 16)によると、カテゴリーはプロトタイプの事例(prototypical instances)を囲んで形成され、プロトタイプの事例はそのカテゴリーにおいて普通であり、数多く見られる事例である。また、それは我々の経験の中でよく接し、最も早く学習され、経験的に多様に同定され、プロトタイプではない事例はプロトタイプと対等である、または近いと捉えられるとき、あるカテゴリーに含まれる。したがって、カテゴリーの成員の位置とは程度の問題であり、プロトタイプはそのカテゴリーの完全で中心的な成員であり、他の成員はプロトタイプか

らずれている程度により、中心から周辺へとグラデーションを形成する。吉村(2004: 第4章)によると、一般に、あるカテゴリーの中の代表例をプロトタイプと呼び、「Xと言えYだ」のYに当たるものがプロトタイプであると言う。例えば、「果物と言えバナナだ」「動物と言えライオンだ」において、バナナとライオンがプロトタイプとなり、このようなプロトタイプは一つとは限らず、個人差、年代差、地域差、性差の揺れが存在する。このプロトタイプから周辺事例に進むにしたがって、典型性(typicality: それらしさの程度)の低下が観察できる。例えば、鳥の属性は<空を飛び><羽>と<くちばし>があり、<卵を産む><二本足>の動物などで、このような属性を数多く満たす事例ほど典型性が高まり、カテゴリーの代表例となり、他の事例との認知格差が上昇する。下の図1のように、カテゴリーはプロトタイプを中心に様々な事例が放射状に配置された構造を持ち、ある事例がどの程度、該当カテゴリーに帰属するかの度合いを指して、事例のカテゴリーへの帰属度(membership degree)と言う。

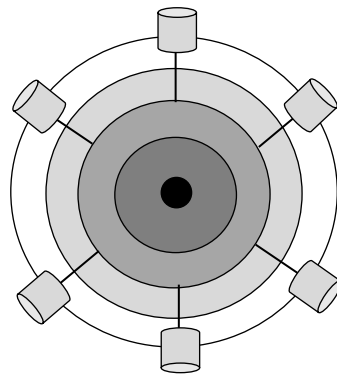


図1 プロトタイプのカテゴリー構造(吉村 2004: 33の図(1))

榎山(2010a: 19-20)においても、「プロトタイプ」とは、あるカテゴリーの典型的なメンバー、あるいは典型的なメンバーが満たす条件・特性の集合を言い、このプロトタイプに基づき形成されたカテゴリーが「プロトタイプ・カテゴリー(prototype category)」であると述べている。このプロトタイプ・カテゴリーは、プロトタイプを中心に(プロトタイプに照らして)様々なメンバーに対して様々な位置付けがなされ、メンバーによって典型性の程度に差があると共に、カテゴリーの境界が明確ではない。例えば、勉強部屋や書斎にあり、本を広げて勉強するところ、オフィスのパソコンが置いてあったり仕事をしたりするところ、教室で学生がテキストやノートを広げるところ、教壇にある教師が教科書や水差しを置くことができるところをまとめて、日本語では「机」と呼ぶ。つまり、形、材質、大きさなどの点でかなりの違いがあっても、何のために使うものか、何をするとところかといった人間との関わり(機能)に注目し、一連のものをすべて「机」と言うのである(榎山 2010a: 18)。このような「机」には学校の机のように誰が見ても「机」と認める典型的なメンバーがある一方、パソコンデスクはより周辺的なメンバーであり、一般的なテーブルとなるとそれを机

として使う人がいるとしても多くの人にはそれを机とは認めないだろう。一方、「必要十分条件に基づくカテゴリー」は、プロトタイプ・カテゴリーとは違い、あるものがカテゴリーに属するか否かが明確であって（つまり、カテゴリーの境界が明確であって）、しかも、カテゴリーのメンバーは同じ資格でそのカテゴリーに所属している。例えば、「4、10、58、726」などの一群の数を「偶数」と言うが、偶数は「2で割り切れる整数」と規定できる。この規定は偶数の必要十分条件であり、この条件を満たす数であれば必ず「偶数」というカテゴリーに属し、この条件を満たさない数は偶数ではない(靱山 2010a: 19)。Taylor(2003: ch. 2)では、カテゴリーを「必要かつ十分な素性を並べることによって定義され、明確な境界を持ち、全ての成員が同等の地位を持つもの」、すなわち、上記の「必要十分条件に基づくカテゴリー」であると見る、カテゴリー化に対する古典的アプローチについて紹介し、このアプローチは長い間言語学の主流であり、語と語の意味関係を説明しやすくするなど、様々な利点を持っていると述べている。しかし、カテゴリー化に対する古典的アプローチがカテゴリーと関わる我々の実際の経験とかけ離れているという問題意識から、その代案としてプロトタイプによるカテゴリー化の概念が生まれたとしている。Taylor(2003: ch. 3)によると、プロトタイプによるカテゴリー化では、ある事象(entity)は、その属性に基づいて、それがどれだけ最適値に近いかによってカテゴリー化される。また、その属性は、ある言語の使用者が、周りの世界に触れることによってアクセスできる、現実世界の対象を持つ性質であり、あるカテゴリーと別のカテゴリーを区別するために必要不可欠な属性や属性の集合は存在しない。あるカテゴリーにおいて、良い、明確な例を中心にしてカテゴリー化が行われ、このプロトタイプが、そのカテゴリーの成員であるかどうかの判断が曖昧な例をカテゴリー化する際の参照点(reference points)の役割を果たす。例えば、「カップ(cup)」と「ボール(bowl)」の間には両者を峻別できる明確な境界線がなく、丸い水平な断面を持っていて、底に向かって細くなり、一番幅の広い部分が深さに等しく、取っ手がついている容器（「カップ」のプロトタイプ）はほとんどの人に「カップ」と呼ばれ、口が広くなり、深さに対して幅が広くなればなるほど、「ボール」と呼ばれやすくなる。取っ手があることや、コーヒーを飲むときに用いられることは、単にある対象がカップとしてカテゴリー化される確率を高めるに過ぎず、「カップ」カテゴリーに属するために必要不可欠な属性ではない(Taylor 2003: 43-44)。

さらに、靱山(2008)では、「人間」及び「人(ヒト/ニン)」という語・形態素が、「ホモサピエンス全体」だけでなく、「ホモサピエンスの一部」、さらには「ホモサピエンス全体に加えてホモサピエンス以外のある種の存在」を表す場合があることを指摘し、カテゴリーが話者によって伸縮されるというカテゴリーのダイナミズムについて述べている。例えば、「人間は、高度な認知能力を有する動物である」における

「人間」はホモサピエンス全体を表すが、「政界に人なし」における「人」は能力・人格などが優れた、一部のホモサピエンスを表し、さらに「このロボットはもはや人間です。あなたの言葉を理解するだけでなく、心も理解します」における「人間」はホモサピエンスに加えて、ある種のロボットも含むカテゴリーを表す。

本研究では、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」の考察にあたり、上記のような観点に基づき、「話者によるカテゴリー化」の様相に注目して考察を進める。

2.2.2 「百科事典的意味」

靱山(2010b)では、意味に関する多様で豊かな現象を的確に記述・説明するには、百科事典的意味観に立つことが必然であると述べ、Haiman(1980)、Langacker(1987)などを踏まえ、百科事典的意味を定義し、日本語の言語事実に基づいて百科事典的意味観の妥当性を示している。まず、Haiman(1980)では、従来区別されてきた辞書的知識(言語的知識)と百科事典的知識(文化的知識)は区別できるものではないと主張している。また、語の全ての意味的特徴を中核(core)と周辺(periphery)とに分けることは妥当ではないとし、ある意味的特徴が中核か周辺かという区別は人や文化によって多様であると述べている(Haiman 1980: 340)。Langacker(1987: 154)においても、言語的知識と言語外的知識の区別は人工的なものであり、言語学の意味論において、そのような間違った二分法を避けるべきであると述べている。また、ある存在の百科事典的概念を構成する諸要素は中心性(centrality)においてグラデーションを形成すると述べ、中心性はある要素が慣習的(conventional)、一般的(generic)、内在的(intrinsic)、特徴的(characteristic)である程度と相関関係があると述べている(Langacker 1987: 158-161)。これらを踏まえ、靱山(2010b: 5)では、「ある語(に相当する言語単位)の百科事典的意味(encyclopedic meaning)とは、その語から想起される(可能性がある)知識の総体のことである」と定義している。なお、この定義における「(その語から)想起される(可能性がある)知識の総体」とは個人レベルのものを想定しており、少なくとも以下の事柄が含まれるとしている。

- ・その語に、(現実)世界に指示物(の集合)が存在する場合は、その指示物が有する諸々の特徴。
- ・その語から連想される(可能性がある)諸々の事柄。そこには、当然のことながら、その語の基盤となる背景知識(フレーム、認知領域、理想化認知モデル(ICM)など)も含まれる。

また、靱山(2010b)では、Langacker(1987)を踏まえ、慣習性、一般性、内在性、特徴性の程度が完全でないものもある語の百科事典的意味として認める必要があると述

べている。まず、「慣習性」は、「ある語の百科事典的意味を構成する要素が言語共同体で共有されている程度、つまりどれだけの人が知っているかということである」と定義される。例えば、「煮詰まる」という多義語の場合、「水分が少なくなる」という意味に対して、おおよそ「完成に近づく」（「計画が煮詰まってきた」など）と「行き詰る」（「煮詰まっちゃってこれ以上アイデアが出ない」など）という2つの意味はいずれも慣習性が劣るであろう。「一般性」は、「ある語の百科事典的意味を構成する要素が、その語が表す対象（カテゴリー）のどれだけの成員に当てはまるかという程度のことである」と定義される。例えば、「鳥」という語において、「卵を産む」という特徴は一般性が完全であるが、「空を飛ぶことができる」という特徴は一般性の程度が完全ではない。また、「内在性」は「ある語の百科事典的意味を構成する要素が、その語が表す対象に内在している程度、つまりは外的な物事に関与しない程度のことである」としている。例えば、「バナナ」に関して「（バナナに特有の）湾曲した形」は完全に内在的な特徴であるが、「食用」という特徴は、人間などの動物というバナナにとっては外的な存在がバナナに対して行う行為に基づくことであるため、内在性の程度が劣る。「特徴性」については「ある語の百科事典的意味を構成する要素が、その語が表す対象に独自のものである程度、言い換えれば、ある語が表す対象と他の（一群の）語が表す対象とに関して弁別的である程度のことである」と定義されている。例えば、「バナナ」に関して、「（バナナに特有の）湾曲した形」は、特徴性が高いが、「食用」という特徴は他の果物も食用であるため、「湾曲した形」に比べると特徴性が低い。しかし、「煮詰まる」の「完成に近づく」と「行き詰る」という慣習性の程度が完全ではない意味や「鳥」の「空を飛ぶことができる」という一般性の程度が完全ではない特徴や、「バナナ」の内在性・特徴性が低い「食用」という特徴は「煮詰まる」、「鳥」、「バナナ」の意味の記述に必要であると考えられる。このようなことから、慣習性、一般性、内在性、特徴性の程度が完全でないものもある語の百科事典的意味として認める必要がある。百科事典的意味観は、ある語に関して、ある要素が、これらの4つの性質を何らかの程度において満たすかぎり、その要素を百科事典的意味に含めるという可能性を有するものである。ただし、各要素はこれらの4つの性質を満たす程度に応じて、百科事典的意味にとってどれだけ中心的であるか、あるいは周辺的であるかの程度が異なる(靱山 2010b: 7-14)。

なお、Lakoff(1987: Ch. 5)には典型例(typical examples)、理想(ideals)、ステレオタイプ(stereotypes)などがあるカテゴリー全体を代表するのに用いられるということが述べられているが、靱山(2010a、2010b)はこれを参考にし、あるカテゴリーにおいて一般性の程度が完全ではない成員（下位カテゴリー）には「典型例」、「理想例」、「ステレオタイプ」があるとし、これらの成員のみが有する一般性の程度が完全ではない意味を語の百科事典的意味の一部として認める必要があると述べている。

さらに、糸山(2014a: 661)では、これらに「顕著例」を加え、それぞれ次のように定義している。

- ・ 典型例：（ある言語共同体において）あるカテゴリーの中で、数多く見られ、想起しやすい一群の成員（下位カテゴリー）のこと。
- ・ 理想例：（ある言語共同体において）あるカテゴリーの中で、（何らかの観点から見て）理想的な（一群の）特徴を有する一群の成員（下位カテゴリー）のこと。
- ・ ステレオタイプ：（ある言語共同体において）あるカテゴリーの成員全般に関して、十分な根拠なしにある特徴を有すると広く信じられてはいるが、実際にそのような特徴を有するのは、カテゴリーの成員の一部であるという場合に、そのような一群の成員（下位カテゴリー）のこと。
- ・ 顕著例：（ある言語共同体において）あるカテゴリーの中で、そのカテゴリーの何らかの程度性のある特徴を顕著に有する一群の成員（下位カテゴリー）のこと。

糸山(2014a)では、次のように実例を挙げて、これらの成員のみが有する一般性の程度が完全ではない意味を語の百科事典的意味の一部として認めることが重要であると述べている。まず、「いくら頼んでも一銭も貸してくれないなんて、あいつは人間じゃない」における「人間」は、ホモサピエンス全体を指しているのではなく、ある種の一般性の程度が完全でない特徴を有する、ホモサピエンスの下位カテゴリー、つまり、〈情・優しさをある程度有する〉という特徴を持ったホモサピエンス（典型例）を指している。「ゴールまでにはまだ距離があるから、力を振り絞ってもう一頑張りしよう」における「距離」は、（ある観点から見て）〈長い〉という特徴を持つものであり、「距離」という語は一次元的に伸びている程度（つまりは「長さ」）について、広い範囲を指すことができるが、「まだ距離がある」という場合の「距離」は、〈長い〉という長さの程度が顕著である場合に限定している（顕著例）。また、野球の試合の大事な場面で、監督が、「男」である選手に対して「男になってこい」と言って代打として送り出す場合、「男になってこい」における「男」は、〈大事な場面で力を発揮し、立派なことを成し遂げる〉と言った「男」の（ある観点から見た）理想例が有する特徴を持つ。「学生気分を一新させ、企業戦士に変えよう」における「学生気分」という語を理解するには、「学生」に〈規律正しくない〉という特徴を認めなければならないが、この種の特徴は、社会人が、学生一般がそうであると十分な根拠なしに信じていること、すなわち、ステレオタイプが有する特徴である。

これらの4タイプの成員が百科事典的意味の一部として認められるということを踏

まえ、さらに本研究では、これらの4タイプの成員が、一般性の程度が完全ではないにもかかわらず、話者によってあるカテゴリーの中心的な成員として考えられ、話題の対象をカテゴリー化する際に基準として比較されることを示し、話者のカテゴリーの中心的・周辺の成員に関する認識を明らかにする。ある話題の対象をあるカテゴリーにカテゴリー化する際にそのカテゴリーのプロトタイプ（中心例）に照らしてそれとの類似性の程度によりカテゴリー化が行われるということは前節で確認したが、本研究では、さらに具体的に見ると、その中心例として、典型例・理想例・ステレオタイプ・顕著例が選ばれるということを示す。

本研究の考え方と同じく、これらの一般性の程度が完全ではない4タイプの成員（下位カテゴリー）がカテゴリーの中心例となり得ることに言及している先行研究には靱山(2008)、滝(2018a、2018b)がある。靱山(2008)では下の(1)(2)を取り上げ、(1)の「人間」は典型例を中心としたカテゴリーであり、(2)の「人間」は理想例を中心としたカテゴリーであると述べている。

(1) 人間がすべて良心(のかけら)を持っているとは限らない。(靱山 2008の例7)

(2) キチジローの言うように人間はすべて聖者や英雄とは限らない。(靱山 2008の例8)

滝(2018a)も靱山(2008)と同様、典型例を中心とするカテゴリーと理想例を中心とするカテゴリーに言及しており、それに基づき、例示の機能をもつ助詞「ナンテ」の意味を大きく3つに分類して記述している。具体的には「典型例を中心とするカテゴリーの典型例を示すタイプ」（市場では「いらっしやいいいらっしやい」「安いよ安いよ」なんて声が飛び交っている。(滝 2018aの例18))、「典型例を中心とするカテゴリーの周辺例を示すタイプ」（小学1年生でこんなに難しい漢字が読めるなんてすごいいね。(滝 2018aの例20))、「理想例を中心とするカテゴリーの周辺例を示すタイプ」（彼女に暴力をふるう男なんて、早く別れたほうがいいよ。(滝 2018aの例28))の3つに分類して考察を行っている。この考察において、「典型例を中心とするカテゴリー」と「理想例を中心とするカテゴリー」の存在が考察の前提となっている。また、滝(2018b)では、カテゴリー化の観点から助詞「トカ」の意味を分析しており、典型例を中心とするカテゴリーと顕著例を中心とするカテゴリーが「トカ」の意味記述において重要な要素として用いられている。滝(2018b)は、「トカ」の意味を以下の5つに分けて記述している。

意味①：話題に該当する事物を、典型例を中心とするカテゴリーの典型例として明示し、それ以外にも例が存在することを示す（書面に出す場合には、その

部分は大事な事柄だから赤い活字で書くとか、あるいは赤枠で囲むということが必要ではないか。(滝 2018bの例1))

意味②：話者の経験や考えをもとに明示した1つの事物が典型例となるような典型例を中心とするカテゴリーを聞き手に想起させ、それ以外にも例が存在するように示すことで、明示した事物の印象を弱める(山崎「『日経エンタテインメント』見てびっくりしたわ。“スガシカオ、山ごもり”、修行か。ヌンチャクでも振り回してんのかと思ったわ。」スガ「滝とか打たれたけどね。」(滝 2018bの例2))

意味③：見聞きしたことをもとに明示したある事柄が典型例となるような典型例を中心とするカテゴリーを聞き手に想起させ、それ以外の典型例に近い例が存在するという可能性を示すことで、明示した事柄が見聞きした情報で定かではないことを表す(「シャリーは?」「ああ、すぐ帰るよ。今、犬の散歩に出ていてね」「ああそうか、たしかジュンとかいう名前だったな」(滝 2018bの例3))

意味④：話題となる状況で、典型例を中心とするカテゴリーの周辺例として、存在や表現が想定しにくいある1つの事物を明示し、話者の経験から想定しやすい典型例が存在することを示すことで、典型例との比較から明示した事物が予想外のものであることを表す(あ、DAMでもっとも人気のある「キセキ」を適当に歌ってみました。挑戦者6600人とかすごすぎでしょw(滝 2018bの例4))

意味⑤：話題となる特徴を持つものの顕著例を中心とするカテゴリーの顕著例としてある事物を明示し、それ以外にも例が存在するように示すことで、明示した事物の特徴を際立たせる(渡る世間って事件起き過ぎじゃないですか?それを言ったら、コナン君とか、身近で殺人事件起きすぎですね。(滝 2018bの例5))

この中で、意味①から④は「典型例を中心とするカテゴリー」、⑤は「顕著例を中心とするカテゴリー」が存在することが前提となっている。

本研究の考察においても、各表現のより精緻な意味記述のために、百科事典的意味に関する概念を援用し、一般性の程度が完全ではない特徴を有する典型例、理想例、ステレオタイプ、顕著例がカテゴリーの中心例として用いられ、カテゴリー化において重要な役割を果たすという立場から、考察を行う。

2.3 「カテゴリーの周辺例を明示する表現」に関する先行研究

まず、本研究の考察対象である「カテゴリーの周辺例を明示する表現」の位置づけに関して述べる。「カテゴリーの周辺例を明示する表現」に関わる先駆的な研究には Lakoff(1972)がある。Lakoff(1972)においては、あるカテゴリーの成員であるかどうかは程度の問題であり、真偽の二分法では表現できないということを指摘し、このようにある物事があるカテゴリーの成員としてどれだけいい成員であるかということを示す「sort of」「kind of」「mostly」「strictly speaking」「actually」などの一連の表現を「hedges (ヘッジ表現、垣根表現)」と言っている。Taylor(2003: ch.4)では、これを踏まえ、「hedges」は、カテゴリーの成員の段階性を表すことを可能にしてくれる言語手段であると言い、「loosely speaking」のような文修飾句、「in that」のような接続詞、「so-called」のような修飾語、引用符のような書記法、さらに（「a ‘liberal’ politician」というときのような）ある種のイントネーション・パターンがヘッジ表現に含まれるとしている。また、意味論的にhedgesは話者が自分の用いている言語について何かを述べるための言語表現であるため、ヘッジ表現を注意深く研究していくと、言語そのものの本質に関して有益な情報が得られる可能性が高いと述べている。特に、「Loosely speaking, France is hexagonal. (大雑把に言えば、フランスは六角形である)」という例を挙げ、「loosely speaking」の場合、非常に周辺の成員、さらに実際には成員ではないものを、より確実な成員との間のわずかな類似性に基づいてカテゴリーに含む表現であり、通常はカテゴリーの成員とは考えられないが、そのカテゴリーと共有する非本質的属性に基づきそのカテゴリーと結びつけられるものを取り込むことにより、カテゴリーを拡張すると述べている。これらを踏まえ、本研究の考察対象である「カテゴリーの周辺例を明示する表現」も、ある話題の対象があるカテゴリーの周辺の成員であることを示す表現であるため、「ヘッジ表現」の一種として位置づけることができると考える。

本研究と同じく、認知言語学的立場から「カテゴリーの周辺例を明示する表現」の一部を対象として考察し、その表現があるカテゴリーの周辺例を示す機能を持っていることに触れている先行研究には野呂(2007、2008、2010)、靱山(2008)、今井(2008)、梶川(2012、2013)、梶原(2014)、滝(2018a、2018b)などがある。すでに第一章で述べたように、この先行研究の中で、野呂(2007)、靱山(2008)、今井(2008)、梶川(2012、2013)は考察対象表現にカテゴリーの周辺例を明示する機能があるという指摘に留まっており、野呂(2008、2010)、梶原(2014)、滝(2018a、2018b)では考察対象表現のカテゴリー化の様相について考察されているが、考察の目的はあくまでも当該表現の意味や働きの記述にあり、その表現の「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴を明らかにしているとは言えない。しかし、そのような点を含め、先行研究の考察方法や記述には本研究の考察において参考にすべき点や継承すべき点も大いにある

と思われるため、以下では「カテゴリーの周辺例を明示する表現」に触れ、考察している先行研究の記述を概観することとする。

まず、野呂(2008)では、Lakoff(1972)を踏まえ、「XといえばX」がカテゴリーの周辺例を浮き立たせるヘッジ表現としての働きをしていることを指摘している。また、同語反復表現「XらしいX」を対象に構文文法からのアプローチで考察している野呂(2007)では、「子供らしくない子供」のような例文における「Xらしくない(らしからぬ)X」に関して、カテゴリー全体の中から周辺的な成員を抜き出す表現であることを指摘している。さらに野呂(2010)では、「NらしくないN」の構文的意味を<Nカテゴリーに属する成員の中で、理想例・ステレオタイプ・典型例としての度合いが低いと、話者が認めるもの>と記述している。

野呂(2008、2010)では、「XといえばX」におけるカテゴリー化に関して、「スイカは野菜といえば野菜だ」という場合、「野菜」カテゴリーを特徴づける属性の中で、「草本性」という属性を際立たせ、「野菜」カテゴリーを拡張させ、その結果、「スイカ」を含めることが可能になると述べている。一方、「ペンギンは鳥といえば鳥だ」においては、「飛べる」という属性を満たす成員に限定することで、「鳥」カテゴリーを縮小していると述べているが、いずれの場合も話題となる事物が狭い方のカテゴリーには属さないが広い方のカテゴリーには所属するという点で共通していると指摘している。

靱山(2008: 124-125)では、「(省略)加藤は人間ではない。およそ人間としては考えられない行動を取っている。野獣が、雪の中に平気でいられるように彼自身もまた野獣に近い人間である(省略)(靱山 2008の例(1))」の例において、「加藤」はホモサピエンスの中の(野獣に近い)周辺的なメンバーと位置づけられていると述べている。また、この例文の後半の「野獣が、雪の中に平気でいられるように彼自身もまた野獣に近い人間である」における「人間」カテゴリーは、ホモサピエンスをプロトタイプ・カテゴリー、すなわち、典型的なメンバーと(典型的なメンバーとは段階的に異なる)周辺的なメンバーから構成されているカテゴリーとして捉えられていることを指摘している。

梶川(2012)は、逆接の「～ながら」に関して分析している。例えば、「山本は教師でありながら、オリンピック選手として活躍している」のような、「XはYながらZ」において、Xに認められた事態や属性(Z)はYカテゴリーのメンバーとしては中心的ではない(周辺事例・非典型的な事例である)という話者の認識を表していると述べている。また、梶川(2013)では、「XはYでありながらZ」に関して、前件の「XはYであり(ながら)」が表しているのは「XはYというカテゴリーに属するものである」ということだと述べている。さらに、その意味を<Yという属性を持つものに凡そ認められない事態(Z)がXに認められた>と記述し、この表現が、ある主体をその属性カ

テゴリーにおける周辺の事例として見なす用法であることを指摘している。

今井(2008)では、カテゴリーへの帰属を表す名詞修飾表現として「立派な」「完全な」「いい」「下手な」を取り上げ、その特徴について考察している。その中で、「先生が怒ると、下手なヤクザより怖い(今井 2008: 507の例32)」という例を挙げ、「下手な」について、「カテゴリー帰属度が低いことを表す表現」とであると述べている。また、梶原(2014)では、今井(2008)を踏まえ、「立派な」「一応」「いい」「大の」「相当の」「とても」「非常に」「完全な」「明らかな」といった名詞修飾表現を「カテゴリー帰属を表す日本語のヘッジ表現」と見なし、それらがカテゴリーに対してどのように働くかを考察し、4つのタイプに分類している。その中で、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」と関わるものはタイプAの「立派な」と「一応」である。

梶原(2014)では、タイプAが「ある対象が、民俗カテゴリーにおいては、外にあることを認めながら、異なる視点から厳密にカテゴリー化しなおす」働きをするとし、「立派な」と「一応」は、話題の対象が「一般性の程度が高い特徴」を備えておらず、周辺例である(と社会的に認知されている)ことを踏まえながらも、実は「慣習性の程度が高い特徴」は備えることに注目させ、その視点から、カテゴリーを再編成する働きを果たしていると指摘している(梶原 2014: 239)¹。

前節で述べたように、滝(2018a, 2018b)では、カテゴリー化の観点から例示の機能を持つ助詞「ナンテ」と「トカ」の意味を記述している。「ナンテ」の意味の3つのタイプの中、「典型例を中心とするカテゴリーの周辺例を示すタイプ」と「理想例を中心とするカテゴリーの周辺例を示すタイプ」において、「ナンテ」が「カテゴリーの周辺例を明示する表現」として用いられることがあることを示している。また、「トカ」についても、意味④「話題となる状況で、典型例を中心とするカテゴリーの周辺例として、存在や表現が想定しにくいある1つの事物を明示し、話者の経験から想定しやすい典型例が存在することを示すことで、典型例との比較から明示した事物

¹ この記述は梶原(2014: 239)の例文「子育ても立派な仕事だ」と「30代だけど一応学生です」の考察のまとめに当たるものであるが、①「立派な」と「一応」がカテゴリーの周辺例に関わる表現であることを指摘している記述であることと、②その他の「立派な」と「一応」の考察の大部分がこの記述を裏付けていることから、「立派な」と「一応」の一般的な働きに関する記述であると見なし、引用している。しかし、梶原(2014)では、下の例文のように、「立派な」と「一応」の再カテゴリー化において基盤となる特徴が「慣習性の程度が高い」と同時に「一般性の程度が高い」特徴である場合も一部取り上げ、そのような場合は「辛さ」や「面白味」といった表現効果が生まれることも指摘している。

(例) 髪の毛が抜けた頭を隠すため、帽子をかぶっている女性がいた。真実を伝えたくて、撮影前に脱帽を求めた。女性は目にいっぱい涙をためて「私も一応女だよ」と答え、帽子をとってくれた。「指が動かなかった。泣きながらシャッターを押した」。被爆者の「真実」を切り取った写真は3万枚以上にのぼる。(梶原 2014: 240の例(5))

が予想外のものであることを表す」において、「トカ」にもあるカテゴリーの周辺例を明示する機能があることを示した。

本研究では、これらの先行研究を踏まえ、「話者によるカテゴリー化の様相」に注目し、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」の考察を行う。

2.4 第二章のまとめ

第二章では、「カテゴリー」と「カテゴリー化」、「百科事典的意味」に関する先行研究の定義と理論を概観し、本研究で援用する概念及び本研究の方向性について確認した。2.2節で確認した理論的背景を踏まえ、本研究では、話者が話題の対象をカテゴリー化するカテゴリーは基本的にプロトタイプ・カテゴリーであると考え（必要十分条件に基づくカテゴリーにも用いられる「ぎりぎりX（である）」の場合は、カテゴリーの種類に基づき、分けて考察する）、話題の対象があるカテゴリーにおいて、典型性が劣り、帰属度が低い周辺例であることを示す表現を考察対象として考察を行う。また、話者が話題の対象をあるカテゴリーにカテゴリー化する際に、具体的にどのような様相が見られるか（話題の対象をそのカテゴリーのどのような成員と比較し、そのように位置づけるか、カテゴリーの伸縮は見られるかなど）に注目して考察する。また、百科事典的意味観の観点から、一般性の程度が完全ではない特徴を有する典型例、理想例、ステレオタイプ、顕著例がカテゴリーの中心例として用いられ、カテゴリー化においても重要な役割を果たすと考え、考察を行う。

さらに、2.3節で確認した「カテゴリーの周辺例を明示する表現」に関する先行研究を踏まえ、本研究の位置づけと考察課題について述べる。まず、Lakoff(1972)とTaylor(2003)を踏まえ、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」に関する考察である本研究は「ヘッジ表現」に関する研究の中に位置づけることができると考える。さらに、認知言語学的観点から「カテゴリーの周辺例を明示する表現」の一部を対象とし、考察している先行研究を参考とし、本研究においても、①話題の対象と典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプとの関係、②カテゴリーの伸縮、③カテゴリー間の属性や関係のカテゴリー化への影響、④話者が話題の対象とそれをカテゴリー化するカテゴリーのどのような特徴に注目しているのかという項目に焦点を当て、考察を行うことにする²。

² 本論文の考察対象である10表現に関する各々の先行研究については、各章において個別に取り上げることとする。

第三章 カテゴリーの境界に近いことを表す表現の分析

3.1 はじめに

本章では、「ぎりぎりX（である）」と「Xの端くれ」を対象に、「カテゴリー化の様相」に注目して実例を分析することで、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴を探る。「ぎりぎりX（である）」と「Xの端くれ」は、話題の対象が、カテゴリーXの境界に近いところに位置することを表す表現である。例えば、下の(1)では、話題の対象「都内の中高一貫校」が「進学校」カテゴリーの境界に近い周辺例であることを表す。なお、(1)の「進学校の端くれ」を「ぎりぎり進学校」に置き換えても意味が大きくずれないことから、両表現は類義表現であると考えられる。

(1)私は中3で、都内の中高一貫校 (進学校の端くれ／ぎりぎり進学校・・・程度)に通っています。現時点での全国的なレベルは分かっていませんが、自分はまだまだです。 (YAHOO!知恵袋、BCCWJ)³

本章では、「ぎりぎりX（である）」と「Xの端くれ」の「カテゴリー化の様相」に注目して考察し、各々の「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴を明らかにすることを目的とする。

3.2 「ぎりぎりX（である）」

3.2.1 考察の対象と目的

現代日本語における「ぎりぎり」には、例(2)のように、話題の対象があるカテゴリーXの中心的な成員ではなく、周辺の成員、つまり、Xの周辺例であることを明示する用法がある。

(2)衣桁を製作、お納めしました。「衣桁」そう、それは着物などを掛けるための家具。いや家具ではない、いえ多分ギリギリ家具。 (<https://blog.goo.ne.jp/dkhgw542/e/6bcfda4fc0384ee6780117a7457dfa10>)

³ 各表現が互いに置き換えられるかどうかの判定は、日本語母語話者9人に依頼し、判断してもらった。

例(2)の話者は、話題の対象である「衣桁」が「家具」カテゴリーの成員であるかどうか悩み、「家具」カテゴリーの周辺的な成員としてカテゴリー化していると思われる。例文に明示されてはいないが、『大辞林 第三版』の意味記述を参考にすると、「家具」とは「家の中に据えて用いる道具。机・いす・テーブル・たんすなど。」とあり、「家具」カテゴリーの中心的な成員は「机・いす・テーブル・たんすなど」であることがわかる。一方、例(2)の「衣桁」は「家の中に据えて用いる道具」という意味には当てはまるが、中心的な成員とは違い、「家具」カテゴリーの成員として想起されやすいとは言えず、例文においても話者がわざわざその用途の説明を加えているほど周辺的な成員であると言える。このように、「ぎりぎりX(である)」の話者は、話題の対象をあるカテゴリーXの成員として認めながらも、そのカテゴリーの中心例と異なる特徴を持っていることに注目し、その周辺例として位置づけていると思われる。

本節では、「ぎりぎりX(である)」を対象に実例に基づいて分析を行う。ただし、例(3)のaとbのように、同じ「ぎりぎりX(である)」の形式でも、意味・用法が異なる場合が存在するため、注意が必要である。

- (3)a. 前回、「ドラム缶じゃない、ギリギリ人間だ。」を書かせていただきました。覚えてくださってる方いらっしゃるかしら。前回、ドラム缶体型を抜け出すべく、70kgから62kgまで痩せましたがストレスで過食を繰り返し現在69kg…(<http://mbbook.jp/bo2.php?ID=tmgawdgjam&no=1229670&page2=1&guid=on&pagecnt=1> 個人ブログ)
- b. 今思えば、いろんな「やらないといけないこと」を後回しにする人間だったと思います。(中略)ささいなことなので、「まあ後でいいや、すぐできる」と思うんですがすぐできるから、ギリギリまでやらない。で、気づいたときには、けっこう時間や手間ヒマかかることが分かって予想以上に時間かかり、時間ギリギリかオーバーになってしまう。そんな**ギリギリ人間**でした。(http://www.jinseikappo.com/entry/bentoubako 個人ブログ)

(3a)は、話者が太っている自分のことをドラム缶体型と言い、そのような体型ではあっても自分はドラム缶ではなく、「人間」カテゴリーの成員であるという意味で「ギリギリ人間だ」と言っている。一方、(3b)は、話者がやるべきことを後回しにし、ギリギリまでやらず、いつも時間ギリギリになってしまうことから、自分のことを「ギリギリ人間でした」と言っている。つまり、話題の対象がカテゴリー「人間」の周辺例であることを明示する(3a)の「ギリギリ人間だ」とは違い、(3b)の「ギリギリ人間でした」は話題の対象がどのような特徴を持つ人間だったのかを説明しているの

である。本節ではカテゴリーの周辺例を明示する表現としての「ぎりぎり」の働きについて考察するため、カテゴリー化用法で用いられている(3a)のような「ぎりぎりX(である)」を分析の対象とする。ここでXはカテゴリー名であり、実際は名詞だけでなく、動詞や形容詞でも広い意味のカテゴリー名と見ることができる⁴と考えるが、ここでは分析の便宜上、Xが名詞のカテゴリー名である例文を中心に分析する。なお、「ぎりぎりX」に後続する表現は、「である」の他に、何も存在しない場合もあり、「と言える」「と呼べる」「になる」など、カテゴリー化に関わる表現がある場合もあるため、「(である)」と示す。

分析においては、話者が話題の対象をカテゴリーXの周辺例としてカテゴリー化する場合に、話題の対象のどのような特徴に注目し、どのようにカテゴリー化するかについて考察する。このように「ぎりぎりX(である)」に見られるカテゴリー化の様相を明らかにし、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての働きを明確に示すことを本節の目的とする。

3.2.2 先行研究

本節では国語辞典における「ぎりぎり」の意味記述における問題点を指摘し、考察課題を設定する。

『日本国語大辞典 第二版』

ぎり - ぎり【限限】〔名〕(形動)それを限度として、それ以上また、それ以外には余地のないこと。また、そのさまを表わす語。極限。極点。

*そばやまで〔1951〕〈永井龍男〉「追ひ詰められるなら、ぎりぎりまで追ひ詰められて見ることが、今の自分には必要な気もした」

⁴ 「ぎりぎり」に動詞や形容詞が後続し、本稿の分析対象のように、話題の対象がカテゴリーの周辺例であることを明示する例には次のようなものがある。①では、「死闘を制して」という表現からも分かるように、強い相手との試合で、おそらく少ない点数の差で勝ったということを、「ぎりぎり勝利しました」と言っているのであると考えられ、「私(の試合の結果)」が「勝利する」というカテゴリーの周辺例であることが表されている。②では、「優作の追っかけ行動」が「異常」に近いが、少し甘く見て「正常な」カテゴリーに周辺例として入ることが表されていると考えられる。

① 試合前に挨拶をしたら以前対戦したことがあると言われ、そういえば!!!となり、今過去の戦跡を調べてみたら二千四年にサンスクエアで対戦しておりました(笑)

その際は私が決勝戦で死闘を制して**ギリギリ勝利しました**。(YAHOO!ブログ、BCCWJ)

② 主人公は日高優作、中学二年生。友人・寛之とともにブカブカなスーツを着てソープランドへ乗り込もうとするシーンから始まります。もちろん失敗するんですけどね、ブフフ。頭の中は女性のこといっぱい。そんな悶々頭の優作の目にうつったのが、瑠璃子先生の真っ白い太腿。そこからは「大丈夫かー?」と思うくらい異常、いや少し甘く見て**ギリギリ正常な追っかけ行動開始**。瑠璃子先生の行動を時間割でチェックして、先回りしてチラリとでも見ようとする努力。(YAHOO!ブログ、BCCWJ)

*フランス文壇史〔1954～56〕〈河盛好蔵〉プルーストの晩年「結局ぎりぎりになって客を呼ぶのであるが」

*道〔1962〕〈庄野潤三〉二「やっどぎりぎり八時に門に飛び込みます」

*彼の歩んだ道〔1965〕〈末川博〉三「成績が悪くて、いつも及第点ぎりぎりのところをもらっていた」

『大辞林 第三版』

ぎりぎり【限り限り】（名・形動）許される範囲いっぱい、それ以上余地のないこと(さま)。限界。限度。極限。副詞的にも用いられる。「一のところ」「時間ぎれまでもう一だった」「時間一にできあがる」「譲歩できるのは一そこまでだ」「一で間に合う」

『講談社 類語辞典』

(「過ぎる」の形容動詞の類(p.501))

【^ぎり^ぎり^の】 限界に限りなく近付きながら、そこを超えない様子。「壁～に駐車する」「時間～に出社する」「～の生活をしているらしい」

(「貧しい」の形容動詞の類(p.1455))

【^ぎり^ぎり^の】 貧乏で、生活するのがやっどである様子。「毎月～の生活で、もうこれ以上切り詰めようがない」

上記の辞書における意味記述を見ると、『講談社 類語辞典』以外の多くの辞書は「ぎりぎり」の意味を一つしか記述しておらず、単義語のように扱っている。しかし、国語辞典にはカテゴリー化に関わる例文が見当たらず、「ぎりぎり」がある行為や状態を修飾している例文のみ挙げられており、(2)のように、話題の対象があるカテゴリーX(家具)に属するか属さないかを問題にし、Xの境界に近い周辺例として位置づけるような例文は見当たらない。

なお、国語辞典の意味記述における「限度・許される範囲・限界」がどのようなものなのか、「それ以上余地がない」とはどのような状態なのか明確ではないということも問題点として挙げられる。例えば、(2)の「ぎりぎり家具」において、「家具の限度・家具の許される範囲・家具の限界」は想定しにくい。また、次の例(4)の「ギリギリ30代」において、「30代」の範囲は明確であるが、「38か、39？」という部分からわかるように、「30代」の限度・許される範囲・限界においてそれ以上余地のないことを表しているとは言いにくく、記述の妥当性に関する再考察が必要であると考えられる。

(4)私は色々調べて、コスメデ○ルテが、あってました。(中略)おかげで、**ギリギリ**3.0代(3.8か、3.9?笑)に見えるって言われるようになりました。(http://komachi.yomiuri.co.jp/t/2006/0227/079914.htm)

上記のように、『講談社 類語辞典』では「ぎりぎり」の意味が2か所に記述されているが、「貧乏で、生活するのがやっとなりである様子」の例文は「毎月～の生活で、もうこれ以上切り詰めようがない」のみであり、「限界に限りなく近付きながら、そこを超えない様子」の意味にも前者と類似している「～の生活をしているらしい」という例文が乗っており、その違いが明確ではない。なお、「貧乏で、生活するのがやっとなりである様子」の意味は「ぎりぎりの生活」の形式で用いられる際の意味であると思われ、下の例(6b)と(7b)に見られるように、よりスキーマ的な「ぎりぎりのX(である)」の意味としてまとめて記述するのが妥当であると考えられる。さらに、次の例(5)のように、一見「ぎりぎりX」と「ぎりぎりのX」の意味が類似しているように見える場合もあるが、(6)(7)に見られるように、多くの場合「ぎりぎりX」と「ぎりぎりのX」の意味には違いが見られる。そのため、国語辞典のようにまとめて記述するよりは、分けて考察し、記述すべきであると考えられる。

(5)本屋で見つけました。GLOW8月号。即お買い上げ。(中略)よーく見ると40代女性誌!!!知らずに買いました。私、まだ一応**ギリギリ**30代なので。40代の予行練習しまーす。(中略)

(SWEETSさんのコメント) いいですねまだ30代ですか～戻りたいです!

(筆者の答え) SWEETSさん、そうはいつでも**ギリギリ**の30代です(笑) (http://blogs.yahoo.co.jp/tic1221tac/39174059.html)

(6)a. **A社はぎりぎり会社**である。(A社は「会社」カテゴリーの周辺例である)

b. **A社はぎりぎりの会社**である。(A社は財政状態などが危ない状況にある会社である)(作例)

(7)a. **ぎりぎりビキニ**(「ビキニ」カテゴリーの周辺例)

b. **ぎりぎりのビキニ**(布の部分が非常に狭いビキニ)(作例)

(6)と(7)から、「ぎりぎりX(である)」は、話題の対象がカテゴリーXに属するかどうかを問題にしている一方、「ぎりぎりのX(である)」は話題の対象がカテゴリーXの成員であることは明確であるが、Xの成員として普通であると考えられる、安定的な状態ではないことを表すと考えられる。(5)の「ぎりぎり30代」と「ぎりぎりの30代」は同じく「30代」の中でも「40代」に近い年齢を指しているが、(6)と(7)に見られる意味上の違いから考えると、(5)の「ぎりぎり30代」と「ぎりぎりの30代」に

も厳密には違いがあると思われる。前者は話題の対象が「30代」カテゴリーの成員であるか否かを考え、まだ「40代」にはなっていないことから「30代」カテゴリーの周辺の成員であるということを表している。一方、後者は年齢が上がることを望ましくないと考えている話者が、自分の年が「30代」の成員の中では「40代」に非常に近く、もうすぐ「30代」ではなくなるという不安定な状態にあるということを表していると考えられる。このように、「ぎりぎりX（である）」は話題の対象がカテゴリーXに属するかどうかを問題にし、話題の対象がXの周辺例であることを明示する表現である一方、「ぎりぎりのX（である）」は話題の対象がXの成員であるかどうかは問題にせず、話題の対象の（不安定な）状態が問題となる。そのため、「ぎりぎりのX（である）」はカテゴリー化とは関係のない表現であると考えられ、本節では「ぎりぎりX（である）」を対象に考察することにする。ただし、両者を比較することで、「ぎりぎりX（である）」の意味の特徴をより明確にすることができると考えるため、3.2.3.3節において比較、分析する。

また、先行研究には言及されていないが、「ぎりぎりX（である）」は話題の対象がカテゴリーXの境界に近いことを表す表現であるため、カテゴリーのタイプ、特にカテゴリーの成員間に「Xらしさ」の違いがあるかどうか、カテゴリーの境界が明確であるかどうかによって、カテゴリー化の様相も異なると思われる。例えば、「家具」カテゴリーは「タンス」「ベッド」などの典型的な家具から「イス」「衣桁」などの周辺の家具まで、その成員の間に「家具らしさ」の違いがあり、境界が明確ではない。一方、「30代」カテゴリーは「30歳」から「39歳」までの成員の間に「30代らしさ」の違いがなく、境界も明確であるため、カテゴリーのタイプによって、カテゴリー化の様相においても何らかの違いがあることが予測される。

以上の問題点を踏まえ、次節では「ぎりぎりX（である）」についてカテゴリーのタイプに注目して考察を行う。

3.2.3 「ぎりぎりX（である）」に見られるカテゴリー化の様相

3.2.3.1 Xがプロトタイプ・カテゴリーである場合

多くの話者は典型例・理想例・顕著例・ステレオタイプがそれぞれのカテゴリーの成員としての一般性を欠いているにもかかわらず、これらがそのカテゴリーの中心的（代表的）な成員であると考え、言葉を発すると考えられる。「ぎりぎりX（である）」のXがプロトタイプ・カテゴリーである場合、Xの成員は、これらの中心的な成員を中心に、それらと何らかの点で異なる度合いに基づき、Xの境界に近づくほどXの成員として持つべき特徴（中心的成員が有する特徴）が備わっていない周辺の成員までを含むと考えられる。「ぎりぎりX（である）」の話者は、話題の対象をXの中心

的な成員と比較し、両者が何らかの点で異なる（話題の対象が中心的な成員が持っている特徴を持っていない）が、Xの成員として認められる何らかの特徴を持っていることから、話題の対象を中心から遠く離れた周辺的な成員として位置づけると考えられる。このようなことから、話者がXのどのような成員を中心的な成員と見なして話題の対象と比較しているかに注目し、分析を行う。

(8)衣桁を製作、お納めしました。「衣桁」そう、それは着物などを掛けるための家具。いや家具ではない、いえ多分**ギリギリ家具**。(例(2)を再掲)

(9)私の昨日の食事。唐揚げ、出し巻き卵、もずく。もずくが**ギリギリ野菜**じゃん！って思ったんですが、海藻なんですね。アハハ。出し巻き卵を大根おろしで食べたから、それが**ぎりぎり野菜**か。(http://relatalia.com/?tag=%E9%87%8E%E8%8F%9C%E4%B8%8D%E8%B6%B3)

3.2.1節でも簡単に述べたが、例(8)の話者は「衣桁」が家具であるか否か悩んだ末、「ぎりぎり家具」と言い、「家具」カテゴリーの周辺例として位置づけている。話者がこのように迷うのは、「家具」カテゴリーがその境界が明確ではないプロトタイプ・カテゴリーであるため、そして、衣桁が「家具」の典型例（「家具」カテゴリーの成員として想起しやすいテーブルやタンスなど）と異なり、「家具」カテゴリーの成員であるかどうかの判断が容易ではないためであると思われる。しかし、ここで話者は衣桁が「家具」カテゴリーの全ての成員に当てはまる、一般性が完全な（スキーマ的な）特徴、つまり「人がある目的のために家の中に据えて使用する道具」という特徴を持っていることから、それを他のカテゴリーではなく「家具」カテゴリーの周辺例として位置づけていると考えられる。(9)で、話者は自分が昨日の食事で「野菜」を摂っているかどうかを確認している。そこで話者は、まず、もずくが典型的な「野菜」とは異なっても「副食物として利用される植物」という、「野菜」カテゴリーの成員の一般性が完全である特徴を持っていることから「野菜」にカテゴリー化しようとしている。しかし、もずくの「海藻」の成員としての特徴により注目し、最終的には「野菜」ではなく「海藻」カテゴリーの成員だと判断していると考えられる。その後、大根おろしについては、「野菜（の摂り方）」カテゴリーの周辺例として位置づけていると思われるが、その判断には次の2つの理由が考えられる。まず、「大根」が「キャベツ」「ニンジン」などに比べると日常的によく見られる野菜ではなく、生でそのまま食べるよりは煮込んで食べることが多いことから、「野菜（の摂り方）」カテゴリーの典型例ではないと判断していると思われる。次に、「大根おろし」は大根を下したもので、それを食べるときはほとんどの場合少量を摂るため、典型的な「野菜（の摂り方）」とは異なる。この2つの理由から、話者は大根おろしを「野菜

(の摂り方) 」カテゴリーの周辺例として位置づけているのであると考えられる。

(10) 異性に言われて傷づいた一言。

前野：俺、**ギリギリイケメン**ですねって言われた事ある。(http://fumoe.blog.shinobi.jp/%E7%A7%81%E7%AB%8B%E8%81%96%E5%B8%9D%E5%AD%A6%E5%9C%92%E6%94%BE%E9%80%81%E9%83%A8/)

(11) 前回、「**ドラム缶**じゃない、**ギリギリ人間**だ。」を書かせていただきました。

覚えてくださってる方いらっしゃるかしら。前回、**ドラム缶**体型を抜け出すべく、70kgから62kgまで痩せましたがストレスで過食を繰り返し現在69kg… (例(2a)を再掲)

(12) 投稿者：sachio 2008/10/24 11:05

どうやらお湯の量には限度があるようです。「夕食後に浴びると水、夕食前なら**ぎりぎりお湯**」ということを最終日に発見しました。(http://hello.ap.teacup.com/snowman/378.html)

例(10)で、「前野」に対して「ぎりぎりイケメンですね」と発言した話者は、話題の対象である「前野」を、「イケメン」カテゴリーの理想例(俳優のように、誰もが容姿が優れていると認める男性)と比較し、それと「前野」は異なると判断していると思われる。しかし、「前野」が「容姿がある程度優れている男性」という、「イケメン」カテゴリーの成員と一般性が完全なスキーマ的特徴は共有していると判断し、「前野」を「イケメン」カテゴリーの周辺例として位置づけていると考えられる。例(11)では、上記のように、話者が太っている自分のことをドラム缶体型と言ひ、そのような体型ではあっても自分はドラム缶ではなく、「人間」カテゴリーの成員であるという意味で「ギリギリ人間だ」と言っている。この場合、話者が話題の対象である自分(の体型)と比較しているのは「人間」カテゴリーの理想例(太っておらず、スマートな体型の人間)であると考えられる。自分の体型が「人間」カテゴリーの理想例のそれとは異なるが、それでも「人間」カテゴリーの成員であることから、周辺例として位置づけているのである。例(12)の話者は、話題の対象であるホテルのシャワー(の温度)を「お湯」カテゴリーの理想例(「お湯」カテゴリーの成員の中でも浴びるのに適した温度のお湯)と比較し、それに比べると温度がかなり低く、水に近い温度であるが、水よりは温かく感じられる(「お湯」としての一般性が完全であるスキーマ的特徴は備えている)ことから、「お湯」カテゴリーの周辺例として位置付けていると思われる。

(13) 確かに**ぎりぎり山**と呼べそうなものはいくつも見えるものの、簡単に言ってし

まえば里山と田んぼである。(http://kaa44.la.coocan.jp/2009nennsaisyuuki04.htm)

(14)Q: 37.7° は微熱?

A: 僕の基準では38度からが熱だという判定にしています。37度ならギリギリ熱でしょうね。微熱は37度丁度とかだと思います。(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q14184690904?__ysp=4oCd44Ku440q44Ku440q54ax4oCd)

例(13)の話者は、比較的低標高のところでもクワガタを採集していたが、標高が高いところにいると思っていたミヤマクワガタが採集され、驚いている。そこで周りを見ると、「山」カテゴリーに入れていかどうか迷うほどの低い里山と田んぼだけで、「ぎりぎり山と呼べそうなもの」と言っている。ここで話者は低い里山を「山」カテゴリーの顕著例(標高が著しく高い山)と比較し、それとは異なるが、周りの土地より高いという「山」カテゴリーの一般性の程度が完全なスキーマ的特徴を持っていることから、話題の対象を「山」カテゴリーの周辺例として位置付けていると思われる。(14)では、37.7°の体温が「熱」かと聞く質問に、話者が「ギリギリ熱でしょうね」と答えている。「38度からが熱だという判断にしています」という発言から、話者は話題の対象(37.7°)を38度以上の顕著な熱と比較し、それより低い、平常時の体温よりは高い(「熱」カテゴリーの成員が持つ一般性の程度が完全である特徴)ということから、「熱」カテゴリーの周辺例として位置づけている。

(15)節分のコーナーで可愛いお菓子と福豆を買いました。早く食べたい。おまけのきったん。ぎりぎり鬼になってるかな? みたいなきくちゃん。(http://yaplog.jp/maru-0331/archive/2687)

(16)A: ハロウィン月間継続中 #ハロウィン #手作りおやつ #おばけ大福 #かぼちゃプリン #そろそろかぼちゃに飽きてきたー

B: すごい♡かぼちゃプリンも気になるけど、おばけ大福がめっちゃ気になる

A: ぎりぎりおばけに見えるかな。(笑) 中身はかぼちゃとあんこ。求肥でおばけっぽく包んでみたよ。(https://web.stagram.com/p/BavF-qdAhkX?locale=ja)

例(15)と(16)におけるカテゴリーXは、架空の存在の「鬼」「おばけ」である。例(15)は、節分を迎え、買って来た節分の飾りや食べ物と一緒に、自分が飼っているハムスターの「きくちゃん(きったん)」にも鬼の角の形をした飾りをつけて写真を撮り、それについて説明している文である。普通我々は鬼について「角がある」という

特徴を持っていると考えているため、(15)の話者もそれに基づき、ハムスターに鬼の角の飾りをつけて鬼に見えるかどうかを判断していると思われる。靱山(2014b: 91-92)では、ステレオタイプの例として「鬼」を取り上げ、架空の存在の場合にも十分な根拠なしに信じられている特徴と見なせるものがあると述べ、架空の存在については、そもそも実際にその種の特徴がどれくらいの成員に当てはまるかを問うことができないと指摘している。そのため、(15)の話者は話題の対象の「きくちゃん」を「鬼」カテゴリーのステレオタイプと比較し、様々な面から⁵それとは異なるが、「角がある」という特徴を共有していることから、「ぎりぎり鬼に見えるかな？みたいなきくちゃん」と表現しているのであると考えられる。(16)は、Aが手作りのハロウィンのお菓子の写真を載せ、それを見たBが、おぼけの形をした大福が気になると書き込み、それに対してAが「ぎりぎりおぼけに見えるかな」と言い、作り方を説明している。「おぼけ」も架空の存在であり、その形などの特徴も「おぼけ」カテゴリーのどれだけの成員に当てはまるか実証することができない。そのため、(16)の話者も自分が作った「おぼけ大福」を「おぼけ」カテゴリーのステレオタイプと比較し、それとは異なるが、形においては少し似ていることから「おぼけ」の周辺例として位置づけているのではないと思われる。ただし、(15)と(16)では、両方とも「～かな」が用いられ、話者が話題の対象をXの周辺例として位置づけることをためらっているように見える。これは、「鬼」と「おぼけ」が架空の存在であることから起因する2つの理由から影響しているものと考えられる。その理由とは、1つ目に、話題の対象は「鬼」と「おぼけ」のステレオタイプとわずかな共通点を持つだけで、実際はあくまでも「ハムスター」と「お菓子」であるということ、2つ目に、「鬼」と「おぼけ」カテゴリーの全ての成員が持つ一般性の完全なスキーマ的特徴が明確ではないということである。

本節では、「ぎりぎりX(である)」におけるカテゴリーXがプロトタイプ・カテゴリーである場合、話者が話題の対象のどのような面に注目し、Xのどのような成員と比較しているのかに焦点を当て、カテゴリー化の様相について分析した。「ぎりぎりX(である)」と表現する話者は話題の対象のある特徴(Xの成員としてある程度一般性の高い特徴)に注目し、Xの中心的な成員である典型例・理想例・顕著例・ステレオタイプと比較する。その比較によって、話題の対象がXの中心的な成員と異なる特徴も持っていることから、両者は異なると判断する。しかし、話題の対象が、Xの全ての成員に当てはまる、一般性が完全であるスキーマ的特徴を有していることに注目し、話者はそれをXの境界(境界が明確ではないが)に近い内側に周辺例として位置

⁵ 靱山(2014b: 91-92)では、架空の存在である「鬼」を含む一連の表現を検討し、「鬼」に<強い><丈夫><冷酷><醜い>という特徴があることを指摘している。

づけると考えられる。これを図に表したのが図1である⁶。

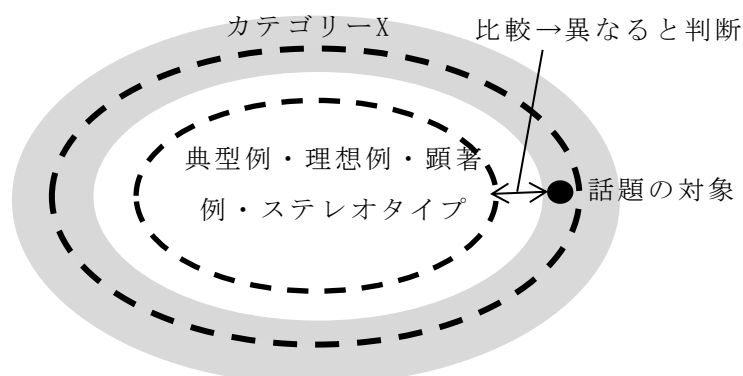


図1 「ぎりぎりX(である)」のカテゴリ化の様相(Xがプロトタイプ・カテゴリである場合)

3.2.3.2 Xが必要十分条件に基づくカテゴリである場合

次に、「ぎりぎりX(である)」におけるカテゴリXが、必要十分条件に基づくカテゴリである場合のカテゴリ化の様相を見る。2.2.1節で確認したように、あるものがあるカテゴリに属するか否かが明確であって(つまり、カテゴリの境界が明確であって)、しかも、カテゴリのメンバーは同じ資格でそのカテゴリに所属しているカテゴリを「必要十分条件に基づくカテゴリ」と言う(靱山2010a: 19)。この場合、カテゴリの成員が同じ資格でそのカテゴリに所属しており、カテゴリの境界が明確であるため、話者は、話題の対象がXの成員であるかどうかを悩む必要がない。また、中心的な成員と周辺的な成員の間に「Xらしさ」の差もないため、Xがプロトタイプ・カテゴリである場合とは違い、話題の対象をカテゴリXの中心的な成員と比較することもない。例えば、「偶数」のカテゴリの場合、「2」「126」などの成員が「偶数」カテゴリに属するということは明確であり、それぞれの成員間に「偶数」らしさの差もない。そのため、Xが「必要十分条件に基づくカテゴリ」である場合は、Xがプロトタイプ・カテゴリである場合と同じ意味で「ぎりぎりX(である)」を用いて「2はぎりぎり偶数である」「126はぎりぎり偶数である」のように表現することはできない⁷。つまり、必要十分条件に基づくカテゴリでは、そ

⁶ 図において、カテゴリXの周辺部の灰色の部分はそのに話者の焦点が置かれていることを表し、破線の境界はXの境界が明確ではないということを表す。

⁷ 「偶数」カテゴリの成員として、「2」のような一桁の成員が「126」や「205684」のような成員より想起しやすいため、「205684はぎりぎり偶数である」と言うと、「2はぎりぎり偶数である」よりは容認度が多少上がるが、これは「2」のほうが「126」や「205684」より「偶数」カテゴリの成員としてよりふさわしいということを表すわけではない。

のカテゴリーの成員らしさを基準としてある成員がそのカテゴリーに属するかどうかを問題にすることができない。しかし、必要十分条件に基づくカテゴリーは明確な境界を持っており、話題の対象がその境界に近い、Xの成員であるという意味では用いることができると考える。Xが必要十分条件に基づくカテゴリーである場合は、Xがプロトタイプ・カテゴリーである場合とはカテゴリー化の様相が異なるため、本節では、Xが必要十分条件に基づくカテゴリーである場合のカテゴリー化の様相について考察する。なお、この場合は成員間に「Xらしさ」の差がないため、Xの中心例が存在しない。したがって本節では、話者が話題の対象をXのどのような成員と比較するかではなく、Xがどのようなカテゴリーであるか、すなわち、Xのカテゴリーとしての性格に注目して分析を進める。

(17) 私は色々調べて、コスメデ〇ルテが、あってました。(中略) おかげで、**ギリギリ3.0代**(3.8か、3.9?笑)に見えるって言われるようになりました。(例(4)を再掲)

(18) 親は2.0代か、**ぎりぎり30代**ぐらいだったことになります。それでマイホーム購入となりましたが、私が年中の時に転勤になりました。(http://women.benesse.ne.jp/forum/zboca040?cid=01410106&stno=472113&nendo=2013&keyexpr=%258FZ%2597F%2597%25D1%258B%25C6+&owner_id=472113&odn=2)

(17)と(18)は同じ「ぎりぎり30代」という表現で異なる年齢を指している例文である。(17)における「ぎりぎり30代」とは「38歳または39歳」であり、(18)における「ぎりぎり30代」とは「20代か、ぎりぎり30代ぐらい」という表現から、「30歳に近い年齢」であることが分かる。(17)(18)において、カテゴリーXは「30代」のカテゴリーであり、30歳から39歳までの年齢(期間)が含まれ、カテゴリー「30代」は明確な境界を挟んでカテゴリー「20代」と「40代」と対立している。そのため、「ぎりぎり30代(である)」の話題の対象はカテゴリー「20代」との境界の近くの「30歳に近い年齢」でも、カテゴリー「40代」との境界の近くの「38歳または39歳」でもいいのである。また、(17)の「38か39?」という表現からも分かるように、30代の境界線にそれ以上余地のないほど近い年齢である39歳だけでなく、38歳も「ぎりぎり30代」で指し示すことができることが分かる。したがって、「ぎりぎりX(である)」において重要なのは、辞書の記述のように「それ以上余地のないこと」というよりは、話者がカテゴリーXとそれと対立している別のカテゴリーとの境界に焦点を当て、話題の対象がその境界に近い周辺例であると判断していることだと考える。

なお、年齢の場合、カテゴリー「30代」の周辺に近ければ、30歳でも39歳でも「ぎりぎり30代」で指し示すことができるが、普通「ぎりぎり30代」と言うと、(17)のよ

うに、40代になる直前の年齢を指すことが多い。これは、年齢というカテゴリーが下がることなく上がっていく一方であるという方向性を持っていることと、ほとんどの大人の方は年を取ることをあまり好ましいとは思わず、年齢が若いほど望ましいという考え方を持っており、評価性も関わっていることに起因すると考えられる。年齢のカテゴリーのように、カテゴリーXが方向性や評価性を持つ場合、その方向性が向かう方や望ましくない方がそのカテゴリーの周辺であると認識しやすく、文脈の助けなく「ぎりぎりX（である）」が指し示す事柄を推測する場合はより周辺だと認識しやすい方を指し示していると判断することになると考えられる。しかし、「偶数」カテゴリーと同じく、これは「30代」カテゴリーにおいて、「30歳」が「39歳」より「30代」カテゴリーの成員としてふさわしいということを表すわけではない。「30代」カテゴリーの成員が「30代」カテゴリーの成員としてふさわしいかどうかの程度は全ての成員において同じである。このようなことから、Xがプロトタイプ・カテゴリーである場合、「ぎりぎりX（である）」は、話題の対象がXの成員としてふさわしいかどうかの程度が低いことを表したが、Xが必要十分条件に基づくカテゴリーである場合は、単にXの境界に近い成員であることを意味すると言える。

年齢のように時間に関わるカテゴリーは、代表的な必要十分条件に基づくカテゴリーである。時間に関わるカテゴリーには次の例文のように、「小学生」のような年齢と年月日を基準とするカテゴリーもあり、「～月」のように時間を表す単位そのものである場合もある。

(19) 小6の子どもの年パスについてです。今年の3月31日までで期限が切れます(VIP)。誕生日は11月なのですでに12歳で、4月から中学生になります。このまま更新してしまうと、大人料金での更新になってしまうんですね。という事は、3月31日に今持っている年パスを使ってインして当日年パスセンターでその日から(3月31日から)の年パスを新規購入すると12歳だけど、**ぎりぎり小学生**という事で、子ども料金で購入できるという事で間違いはないですか？
(https://www.usj.co.jp/svc/cup?method=WisdomDetail&QT_QUESTION_ID=Q000028283)

(20) 2018年03月28日 | 日記

まだ**ぎりぎり3月**だというのに、今日は初夏の陽気。そろそろ衣替えをしなくては。(https://blog.goo.ne.jp/toshikonoheya_0321/e/1eba75b0393a84e1aac882ae958fff48)

(19)では、小6の子どもの現在すでに12歳で4月から中学生になるが、3月31日にはまだ小学生で、「小学生」と「中学生」の境界に非常に近いということ「ぎりぎり

小学生」で表している。(20)では、日記を書いた日付が3月28日であり、「3月」と「4月」の境界(3月31日)に近いということを表している。このような場合も小学校1年から6年までの全ての期間が「小学生」カテゴリーの成員であり、境界が明確で、成員間に小学生らしさに差はない。「3月」カテゴリーも「3月1日」から「3月31日」までの境界が明確で、その成員は全て同程度に「3月」カテゴリーの成員としてふさわしいとされる。このような場合、話題の対象がXと別のカテゴリーの境界の近いところに位置する周辺例であることが注目される。

しかし、次の(21)と(22)における「レコード世代」と「春」は、「30代」「小学生」「3月」カテゴリーと同じく時間に関わるカテゴリーであるが、それらに比べると境界が明確でないように思われる。

(21)ワタシで結構、**ギリギリ**レコード世代か否か?って境界線くらいなんじゃないでしょうかね。生まれて初めて最初で最後に買った芸能人の「レコード」が原田知世さんの「時をかける少女」だっていう。(YAHOO!ブログ、BCCWJ)

(22)ベランダにはこの時期にしてはもう夏のような風が吹いている。花粉症になった俺にとって、梅雨がくるまでのこの時期だけが**ぎりぎり**春だった。葉桜が残り、ハナミズキが咲いているこの時だけが。(http://d.hatena.ne.jp/yamamotoatsushiz/20150427/1430143695)

(21)において、話者は自分がレコード世代か否かを悩んでいて、最初で最後に買ったレコードを取り上げ、境界線くらいだと判断している。「レコード世代」は音楽を聴くためにレコードを買って聞いていた世代を指すが、その時期が「〇年〇月〇日まで」というようにはっきりと決まっているわけではないため、時間に関わる他のカテゴリーに比べると、その境界が明確ではないと思われる。しかし、レコードが流行っていた大体の時期に関する知識が存在し、(21)の話者もその知識に基づき、自分のことを「レコード世代」の境界線くらいだと判断していると考えられる。なお、「レコード世代」カテゴリーの場合、レコードをどれほどたくさん持っているか、レコードに関してどれほど詳しいかなどにより、その成員間に「レコード世代らしさ」に差が見られる場合もあると考えられる。その場合、最もレコードをたくさん持っている成員、または最もレコードに関して詳しい成員から、レコードをほとんど持っていない成員、またはあまりレコードについて詳しくない成員まで「レコード世代らしさ」の差により「レコード世代」カテゴリーが形成され、このように「レコード世代らしさ」を判定する属性に注目して「ぎりぎりレコード世代」と言った場合、その話者は「レコード世代」をプロトタイプ・カテゴリーとして捉えていると考えられる。しかし、(21)のように、「レコード世代」を時期を基準として定める場合は、その成員の間に「レ

コード世代らしさ」の差がなく、「大体この時期からこの時期までレコードを聴いていた人は全てレコード世代」となると思われるため、必要十分条件に基づくカテゴリーとして捉えられていると考えられる。

(22)で、話者は夏のような風を感じながらも、「この時期」は「ぎりぎり春だった」と言っている。そして、「葉桜が残り、ハナミズキが咲いている」「梅雨がくるまでの」という表現から、話者が話題の対象である「この時期」を「春」の周辺例としてカテゴリー化する際は、「春」の典型的な成員の持つ特徴ではなく、「春」から「夏」になる境界の時期の特徴に注目していることが分かる。なお、話者は花粉症にかかっているということからも、おそらく話者は花粉症で「春」を楽しむことができない時期があって、「夏」になっていく「この時期の春」だけが話者には「春」として認識できたのであると考えられる。「春」カテゴリーもいつからいつまでという境界が明確に定まっていなくても、「大体冬が終わるときから、夏が始まる前まで」という区分はあり、(22)の「梅雨が来るまでの」という表現から分かるように、話者が「夏」と「春」の境界に注目して「この時期」を「ぎりぎり春だった」と表現していることから、(22)における「春」は時期を基準として定まった、成員間に「春らしさ」の差がないカテゴリーであると考えられる⁸。

時間に関わるカテゴリーの他、次の(23)(24)のように、ある決まった数値を基準に定められたカテゴリーも、必要十分条件に基づくカテゴリーであると思われる。

(23)「いや、妥当な数値だと思いますよ。学校ではどうもやれば出来る子と思われるようですが、家で見ると学校でも授業の内容はついていけないですし、療育手帳の更新のときに軽度と中度の間と言われてますし、ただ記憶の部分がいいので点数が上がってしまい**ぎりぎり軽度**に入ります」(YAHOO!ブログ、BC CWJ)

⁸ 次の例における「雨」は、aではプロトタイプ・カテゴリーであり、bでは成員間に「Xらしさ」の差がない、必要十分条件に基づくカテゴリーであると思われる。aでは、話題の対象は「雨」カテゴリーの顕著例であるはげしい雨に比べ、だいぶ弱いため、「雨」の周辺例として位置づけられている。一方、bでは、話題の対象が「雨」と「雪」のどちらに属するかが問題となり、その境界が注目され、降ってきたものが水により近いことから「雨」の周辺例として位置づけられていると考えられる。これも、(21)、(22)と同じく、同じカテゴリーでもコンテキストと話者がカテゴリーXのどこに注目しているのかにより、Xの性質が変わる場合であると思われる。

(a) (Bがたたんでいない傘を持って室内に入ってくるのを見て)

A: え? 今雨降ってるの?

B: うん、まだ弱いけど、ぎりぎり雨と言えるかな。(作例)

(b) 雪かと思ったら**ぎりぎり雨**でした (<http://wc2014.2ch.net/test/read.cgi/jasmine/1414512761/>)

(24) さあ、計算機で、自分のおおよその BMI を計算してみましょう！『体重』 ÷ 『身長』 ÷ 『身長』ですよ。さあ、どうでしょうか？（ちなみに、筆者は 25.0なので、**ぎりぎり肥満**で、あまり偉そうなことは言えません。（中略））日本では、BMI25 以上は、肥満とされています。（https://www.rosei.jp/jinjour/article.php?entry_no=55702）

(23) は発達障害の程度に関する内容で、話題の対象である生徒（の障害の数値）は「軽度」と「中度」の境界に近い「軽度」であることがわかる。(24)では、BMI25以上は肥満とされるが、筆者のBMIは25.0であり、まさに「普通体重」と「肥満」の境界線に位置する「肥満」であるため、「ぎりぎり肥満」と表現されている。

例(25)～(27)のような「ぎりぎりセーフ」や「ぎりぎり合格」なども、セーフや合格と判断する基準に基づいて判断し、話題の対象がその基準（境界）に近いということを表す。

(25) 私は元々貧血持ちでこの間内科で採血しましたが貧血はぎりぎりセーフ。もし心配であれば検査お勧めします。（YAHOO!知恵袋、BCCWJ）

(26) （巫女に関するイメージを聞く質問に対して）（中略）髪はロングのストレート（束ねるなら三つ編みなど、地味に）で色は黒。こげ茶色はギリギリセーフ、他の色は問題外です。（省略）（YAHOO!知恵袋、BCCWJ）

(27) 英検の自己採点しました、望月です。勉強しようといいつつほぼノー勉で、四十五点。なんか1次合格するかしないかの境目の点数なんですけど・・・。リスニングの前に三十分も時間余ったんだからちゃんと見直しすればよかったのに。ギリギリ合格か、不合格で判定A。（YAHOO!ブログ、BCCWJ）

(25)は、話者が病院で貧血の検査を受けた経験について述べている。「貧血はぎりぎりセーフ」という表現から、話者のヘモグロビンの数値が貧血と判断する基準の数値に近いが、その基準を超えていて、貧血ではないと言われたということが分かる。ここで「セーフ」か「アウト」かの基準は「貧血と判断するヘモグロビンの数値」であり、検査の結果の数値がその明確な基準の数値より高いと全て「セーフ」、低いと全て「アウト」になるため、そのような観点から、この「セーフ」のカテゴリーは必要十分条件に基づくカテゴリーであると考えられる。(26)では、巫女に関するイメージを問う質問に対して、話者が自分の持っている巫女の髪形と色のイメージについて述べている。話者は巫女の髪の色として黒が理想的であり、話題の対象であるこげ茶色はだめではないが、自分が考えるだめな色との境界に近いということで「ぎりぎり

セーフ」と言っていると思われる。もちろん色彩語に関する多くの先行研究でも指摘しているように、「色」カテゴリーは境界が明確ではなく、より暗い色やより黒らしい黒、黒に近い色などが存在するため、色を基準とするとプロトタイプ・カテゴリーとなる。しかし、ここではある色を「セーフ」と判断するか、「アウト」と判断するかが問題となり、話者の持つ基準により全ての髪色が「セーフ」か「アウト」かに分けられることになると思われる。そのため、「セーフ」と「アウト」の間の境界は明確であり、「セーフ」の成員であれば、全て大丈夫であり、「セーフ」の成員でなければ、全てだめだということから、(26)の「セーフ」のカテゴリーも必要十分条件に基づくカテゴリーであると考えられる。しかし、同じ「セーフ」の成員であっても、「セーフ」と「アウト」の境界から遠ければ遠いほど理想的であると判断されることから、理想的であるかどうかにおいては「セーフ」のカテゴリーの成員間において差が生じると言える。だが、話題の対象が理想的であるかどうかは「偶数」カテゴリーにおいて「一桁の偶数」が他の成員より想起しやすいのと同じく、「セーフ」カテゴリーの成員としてふさわしいかどうかを判断する基準ではない。つまり、話者が話題の対象を「セーフ」カテゴリーの周辺例としてカテゴリー化する際は、その理想例と比較して「セーフ」カテゴリーの成員としてふさわしいかどうかを判断しているというよりは、「セーフ」の成員としての条件、すなわち基準となる数値を越えているかどうか注目し、その条件を満たしていることから「セーフ」カテゴリーの成員であることは確かであるが、「アウト」との境界に近いということで周辺例として位置づけるのであると考えられる。(27)は、「ぎりぎり合格」の例であるが、(27)の話者は英検の自己採点をし、自分の点数が合格するかしないかの境目の点数であり、ぎりぎり合格か、不合格で判定Aであると言っている。ある試験で合格か不合格かの境界は、その基準となる点数で決まっており、境界が明確で、その基準点を越えれば何点でも全て同じ「合格」であるということから、「合格」カテゴリーも必要十分条件に基づくカテゴリーであると考えられる。ただし、「セーフ」のカテゴリーのように、その境界点から遠ければ遠いほど理想的だと判断され、多くの試験の場合、「満点」が決まっており、その満点であれば（または「最高点」であれば）最も理想的だと判断されるため、「合格」カテゴリーも理想例を持つと言える。

すでに簡単に述べたように、ある対象が「セーフ」のカテゴリーにカテゴリー化されると、それが「アウト」のカテゴリーにカテゴリー化されることはない。このように、「セーフ」と「アウト」は両極的反義関係⁹にあるため、カテゴリー「セーフ」

⁹ 國廣(1982: 172)によると、両極的反義関係は両端の間に中間的段階がない場合で、論理的には‘ $\sim A=B$ ’、‘ $A\sim B$ ’という関係にあるが、言語的意味としては、Aの否定はBと全く等しいということはないと述べられている。例としては「出席 \leftrightarrow 欠席」「男 \leftrightarrow 女」

と「アウト」が分かれる部分の境界は両カテゴリーに共有されていると考えられる。したがって、もし話題の対象が「セーフ」のカテゴリーの必要最低限の条件を満たしていれば、その境界を基準として「セーフ」カテゴリーの方の内側に、その条件を満たしていなければ、境界を越えて「アウト」カテゴリーの方の内側に属することになる。

(28)俳優としても有名な衆院東京8区の候補者が公示日に早速ツイートをしてしまい、公職選挙法に抵触するのではとネットで話題になっている。公職選挙法では公示日から選挙日が終了するまでの間、ネット上などでの選挙活動が原則できないというルールがあるが、同氏は公示日の4日ギリギリにツイートしてしまった。同氏がツイートした内容は『杉並8区の皆様。時間ギリギリで滑り込んで申し訳ありませんでした。全力で走ります！お力添えを！』というもので、選挙活動にまつわるものだ。ところがこれをツイートしたのが、2012年12月4日になった瞬間であり、3日23:59:59ならセーフだが、4日になってしまったので**ギリギリアウト**である。(http://www.yukawanet.com/archives/4348228.html)

(28)では公示日である4日になった瞬間選挙活動に関わるツイートをしたことが、公職選挙法に抵触する行為として「アウト」のカテゴリーに位置づけられている。話者はもし話題の対象が「セーフ」になるための必要最低限の条件（選挙活動にまつわるツイートは2012年12月3日23:59:59まで許可される）を満たしていれば、その境界線に近い「セーフ」側の周辺例として位置づけ、満たしていなければ「アウト」の成員として位置づける。(28)では、話題の対象がツイートされたのが4日になった瞬間であるため、条件を満たしておらず、「セーフ」との境界線に近い「アウト」の成員として位置づけているのである。「アウト」カテゴリーは「セーフ」とは反対に、その成員が「セーフ」との境界から遠ければ遠いほど悪い評価を帯びる。この場合、点数が0に近いと「悪い」という評価性を顕著に持つため、「アウト」は顕著例を有する、必要十分条件に基づくカテゴリーであると考えられる。

これまでの分析をまとめ、Xが必要十分条件に基づくカテゴリーである場合の「ギリギリX（である）」のカテゴリー化の様相を図に表すと図2のようになる。Xが必要十分条件に基づくカテゴリーである場合は、プロトタイプ・カテゴリーである場合とは違い、その境界が比較的明確であるため、話題の対象がXに属するか、Xと対立する別のカテゴリーに属するかを決めるXの境界がより注目されると思われる。そこで、話者は話題の対象がXの成員になるための条件（基準）を満たしているか否かを検討し、それに基づいてカテゴリー化を行うが、話題の対象の持つ、時間や数値などの特

「オモテ台ウラ」「イキテイル台シンデイル」が挙げられている。

徴がXと別のカテゴリーの境界となる基準に近ければ近いほどその境界の近いところに周辺例として位置づけられる。(Xが必要十分条件に基づくカテゴリーである場合、Xが典型例・理想例・顕著例を持つことがあるが、話者は話題の対象をそれらと比較して話題の対象がXの成員としてふさわしいかどうかを判断するのではなく、話題の対象の持つ特徴がXの境界を越えているかどうかのみ注目するため、この場合、Xの理想例や顕著例の存在とカテゴリー化とは関係がないと思われる)

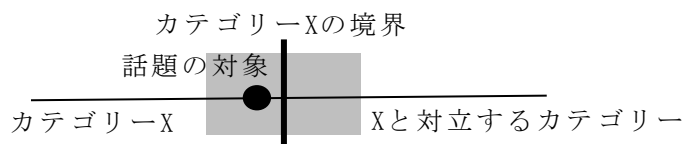


図2 「ぎりぎりX(である)」のカテゴリー化の様相(Xが必要十分条件に基づくカテゴリーである場合)

3.2.3.3 「ぎりぎりのX(である)」との比較

「ぎりぎりX(である)」の持つ特徴は、その形式が類似している「ぎりぎりのX(である)」との比較を通してより明らかになると考えられる。

(29)a. A社はぎりぎり会社である。(A社は「会社」カテゴリーの周辺例である)

b. A社はぎりぎりの会社である。(A社は財政状態などが危ない状況にある会社である)(例(6)を再掲)

(30)a. ぎりぎりビキニ(「ビキニ」カテゴリーの周辺例)

b. ぎりぎりのビキニ(布の部分が非常に狭いビキニ)(例(7)を再掲)

(31)胎盤も石灰化や穴が開いたり機能も悪くなり、羊水もかなり少なくなり、ギリギリの環境のなか、琉菜もよく頑張って37週0日までお腹にいてくれました。

(<http://p-kids.cocolog-nifty.com/blog/2014/02/post-2c5d.html>)

(32)本屋で見つけました。GLOW8月号。即お買い上げ。(中略)よーく見ると40代女性誌!!!知らずに買いました。私、まだ一応ギリギリ30代なので。40代の予行練習しまーす。(中略)

(SWEETSさんのコメント)いいですねまだ30代ですか～戻りたいです!

(筆者の答え)SWEETSさん、そうはいつでもギリギリの30代です(笑)(例(5)を再掲)

3.2.2節でも簡単に述べたように、(29a)(30a)の「ぎりぎりX(である)」はカテゴリー化に関わる表現であり、話題の対象が「会社」「ビキニ」カテゴリーの周辺例であることを表す。一方、(29b)(30b)の「ぎりぎりのX(である)」は、名詞Xの性質を説明しており、その状態が安定していない、危ない状態((30b)においても、ビキニ

の布の部分が非常に狭いことから、ビキニの中の身体部位が見える可能性が高くなり、危ないと感じると思われる）であることを表す。(31)でも、話者は自分のお腹の環境が、「胎盤も石灰化や穴が開いたり機能も悪くなり」「羊水もかなり少なくなり」、赤ちゃんが健康に育てる環境ではない、不安定で危ない状況にあることを「ぎりぎりの環境」という表現で表している。ここで話者は、話題の対象が「環境」カテゴリーの成員であるかどうかを問題にしているわけではなく、その状態がどのような状態であるかに注目し、説明している。このようなことから、「ぎりぎりのX（である）」はカテゴリーの周辺例を明示する表現とは言えない。すでに述べたように、(32)の「ぎりぎり30代」と「ぎりぎりの30代」は両方とも「40代」に近い年齢を指しており、一見同じ意味で用いられているように見える。しかし、厳密には違いがあり、前者は話題の対象が「30代」カテゴリーの成員であるか否かを考え、まだ「40代」にはなっていないことから「30代」カテゴリーの周辺的な成員であるということを表している。一方、後者は年齢が上がることを望ましくないと考えている話者が、自分の年が「30代」の成員の中では「40代」に非常に近く、もうすぐ「30代」ではなくなるという不安定な状態にあるということを表していると考えられる¹⁰。このように、「ぎりぎりX（である）」は話題の対象がカテゴリーXに属するかどうかを問題にし、話題の対象がXの周辺例であることを明示する表現である一方、「ぎりぎりのX（である）」は話題の対象がXの成員であるかどうかは問題にせず、話題の対象の（不安定な）状態が問題となる。

「ぎりぎりX（である）」のXにはどのようなカテゴリー名でも入ることができるわけではなく、(31)の「環境」のようなカテゴリーは「Aはぎりぎり環境である」の形式でカテゴリーの周辺例であることを表すことができない。その理由は、「環境」カテゴリーの場合、それと対立する別のカテゴリーを想定しにくいためであると考えられる。カテゴリーXと対立する別のカテゴリーが存在しなければ、自然にそのカテゴリーには境界も存在せず、境界に近い周辺例であることを表す「ぎりぎりX（である）」を用いることができないのである。このようなことから、「ぎりぎりX（である）」は、Xの境界の存在、または、Xの外側にXと対立する別のカテゴリーの存在が

¹⁰ さらに、(29)と(30)とは違い、(32)において「ぎりぎりX（である）」と「ぎりぎりのX（である）」がほぼ同じ意味を表しているように見えるのは、カテゴリーXの性質が異なることに起因すると考えられる。(32)の「30代」カテゴリーは境界が明確であり、その成員が同じ資格で属している必要十分条件に基づくカテゴリーであり、(29)の「会社」、(30)の「ビキニ」は「30代」に比べるとその境界が明確ではなく、成員の間に性質や状態など様々な面から違いが見られるプロトタイプ・カテゴリーである。Xが必要十分条件に基づくカテゴリーである場合、「ぎりぎりX（である）」が指す「Xの周辺例」と「ぎりぎりのX（である）」が指す「Xの不安定な状態の成員」が両方とも「Xの境界線に近い成員」となり、重なりやすくなるのであると考えられる。

想定できなければならないと言える。「環境」のようにコンテキストがない状況下で明確に対立する別のカテゴリーが存在せず、境界も存在しないカテゴリーには、制度、経済、場面、業界などが挙げられる。

3.2.3.4 「ぎりぎりX(である)」に見られるカテゴリーXの拡張の様相

2.3節で概観したように、野呂(2008)では、「XといえばX」を「カテゴリーの周辺例を浮き立たせる表現である」とし、それにおけるカテゴリー化について分析している。

(33) スイカは野菜といえば野菜だ。(野呂 2008: 225 例(10)b)

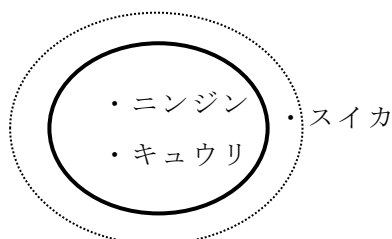


図3 「野菜」カテゴリー(野呂 2008: 225の図1)

野呂(2008)では、(33)において、「草本性」という属性を際立たせることで「野菜」カテゴリーを拡張させ、その結果、スイカを含めることが可能になると述べている(図3)。このようなカテゴリー化の様相は「ぎりぎりX(である)」においても見られるため、この点において両表現は類似していると言える。ただし、Xの拡張はXの中心例から成るXの下位カテゴリーが拡張するのであるため、Xが中心例を持つ、プロトタイプ・カテゴリーである場合でないと現れないと考えられる。したがって、本節では、Xがプロトタイプ・カテゴリーである場合のXの拡張について見ることにする。

(34) 私の昨日の食事。唐揚げ、出し巻き卵、もずく。もずくがギリギリ野菜じゃん! って思ったんですが、海藻なんですね。アハハ。出し巻き卵を大根おろしで食べたから、それがぎりぎり野菜か。(例(9)を再掲)

すでに述べたように、(34)の話者は自分の昨日の食事で「野菜」を摂っているかを確認しており、最終的に大根おろしを「野菜」の周辺例として位置づけている。(34)において、話者は話題の対象(大根おろし)をカテゴリーX(野菜(の摂り方))の典型例(野菜を切ってそのまま、または調理して食べるなど)と比較し、両者が異なっても「野菜(の摂り方)」として一般性の完全なスキーマ的特徴を共有していることに注目している。それに基づき、最初頭の中に思い浮かんだ「野菜(の摂り

方)」の典型例から成る下位カテゴリーをより広く拡張させ、話題の対象「大根おろし」をその拡張されたカテゴリーXの成員としてXの境界に近い内側にカテゴリー化していると考えられる。これを図に表すと、図4のようになる。

最初話者の頭の中に思い浮かんだ「野菜（の摂り方）」カテゴリー
 = 「野菜（の摂り方）」の典型例から成る下位カテゴリー

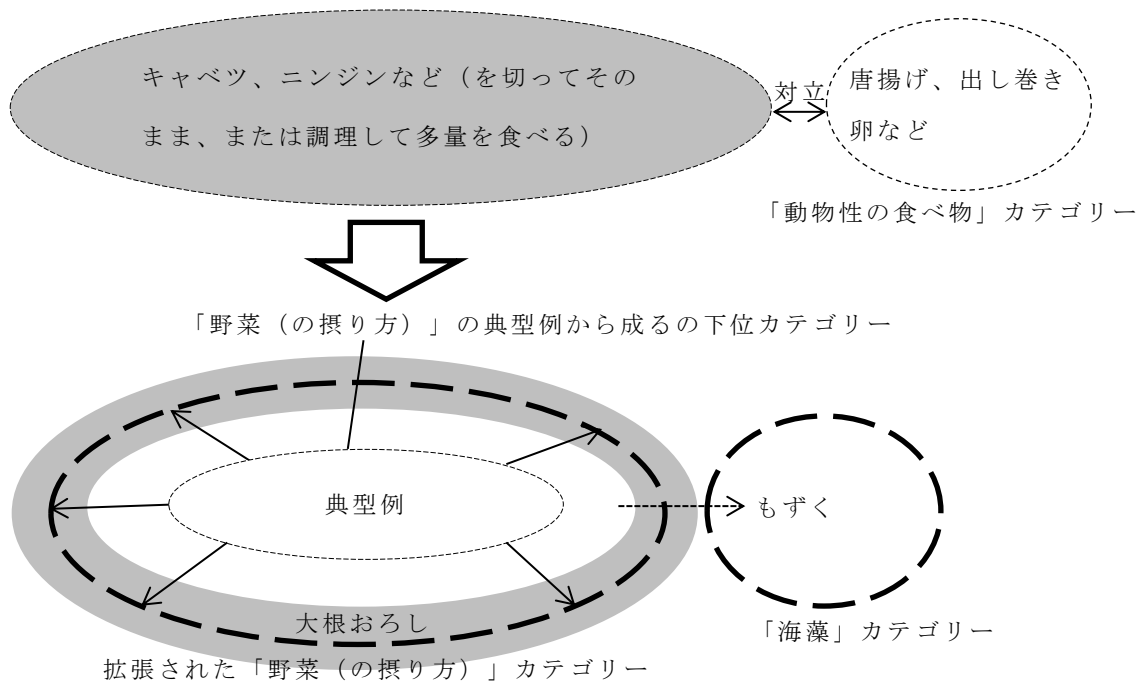


図4 例(34)の「ぎりぎり野菜」に見られるカテゴリーの拡張

「ぎりぎりX（である）」と野呂(2008)の「XといえばX」のカテゴリー化の様相には以上のような類似点もあるが、相違点も存在する。一つ目に、野呂(2008)によると、「XといえばX」では狭いXと広いXが想定され、例(33)のようにXが拡張される場合と、下の(35)のように縮小される場合とがあると述べられている。

(35)ペンギンは鳥といえば鳥だ。(野呂 2008: 226(12)b)

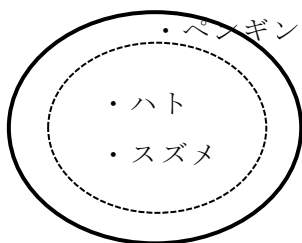


図5 「鳥」カテゴリー（野呂 2008: 226の図2）

(35)において、話者は「飛べる」という属性を満たす成員に限定することで、「鳥」カテゴリーを縮小し、その属性を満たさないペンギンが「鳥」カテゴリーに属するか

否かを問題にし、(35)と言っている(図5)。しかし、「ぎりぎりX(である)」では、まず、話者がXの中心的な成員から成る下位カテゴリーを思い浮かべ、話題の対象がそこには属しないと判断されるが、それとスキーマ的特徴を共有していることに注目して、その下位カテゴリーを拡張させ、話題の対象をその拡張されたXの境界に近い内側に周辺例として位置づけるため、(35)のようにXが縮小される場合はないと思われる。

二つ目に、下の(36)を見ると、39歳のAさんに関して「30代といえば30代である」というと非文になるのに対し、「ぎりぎり30代である」は非文ではない。

- (36) a. *Aさん(39)は30代といえば30代である。
b. Aさん(39)は**ぎりぎり**30代である。(作例)

ここで「30代といえば30代である」が非文となるのは、Aさんが「30代」の成員であることが明白であるためであると考えられる。(36)において、話題の対象である「Aさん」は39歳であることが分かっているため、「30代」カテゴリーの成員であることは明らかである。そのため、話題の対象がカテゴリーXの成員であるかどうかの問題となる「XといえばX」は用いられない。一方、話題の対象がカテゴリーXの境界に近い内側に位置づけられるということに話者が焦点を当てる「ぎりぎりX(である)」は、話題の対象がXの成員であることが明白である場合も用いられる。

3.2.4 まとめ

3.2節では、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」である「ぎりぎりX(である)」に見られるカテゴリー化の様相について考察した。まず、カテゴリーXの種類に基づく分析の結果、次のようなことが分かった。

「ぎりぎりX(である)」に見られるカテゴリー化の様相

- ①Xがプロトタイプ・カテゴリーである場合：話者が話題の対象をXの中心的な成員(典型例・理想例・顕著例・ステレオタイプ)と比較し、それと異なるが、話題の対象がXの一般性が完全であるスキーマ的特徴を持っていることに注目し、話題の対象をXの境界に近い内側に周辺例として位置づける。
- ②Xが必要十分条件に基づくカテゴリーである場合：話者がXと、それと対立する別のカテゴリーの境界に注目し、話題の対象がXの成員としての条件(Xの一般性が完全であるスキーマ的特徴)を満たしていることから、話題の対象をXの境界に近い内側に周辺例として位置づける。

また、「ぎりぎりのX（である）」との比較から、次のような相違点があることが明らかになった。

「ぎりぎりのX（である）」：名詞Xの性質を説明し、その状態が安定していない、危ない状態であることを表す。

「ぎりぎりX（である）」：

- ①話題の対象がカテゴリーXの周辺例であることを表す。
- ②カテゴリーXの境界の存在、または、Xの境界の外側にXと対立する別のカテゴリーの存在が想定できなければ用いられない。

最後に、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」として野呂(2008)に取り上げられた「XといえばX」に見られるカテゴリーの拡張という観点から考察を行った。その結果は次のようにまとめられる。

「ぎりぎりX（である）」と「XといえばX」の共通点：カテゴリーの周辺例を明示する表現であり、話者によるカテゴリーの拡張が見られる。

「ぎりぎりX（である）」と「XといえばX」の相違点：

- ①「XといえばX」にはカテゴリーの拡張が見られる場合と、縮小が見られる場合とがあるが、「ぎりぎりX（である）」にはカテゴリーの縮小は見られない。
- ②「XといえばX」は、話題の対象がXの成員であることが明らかである場合は用いられないが、「ぎりぎりX（である）」はそのような場合でも用いることができる。

「ぎりぎりX（である）」に見られるカテゴリー拡張（Xがプロトタイプ・カテゴリーである場合）：話者が話題の対象をXの中心的な成員（典型例・理想例・顕著例・ステレオタイプ）と比較し、それと異なるが、話題の対象がXの一般性が完全であるスキーマ的特徴を持っていることに注目し、Xの中心的な成員からなるXの下位カテゴリーを拡張させ、話題の対象をその拡張されたカテゴリーXの境界に近い内側に周辺例として位置づける。

3.3 「Xの端くれ」

3.3.1 考察の対象と目的

「端くれ」は、次の例文(37)～(40)のように、話題の対象があるカテゴリーXの周辺の成員であることを明示する表現である。

- (37) コーラー一本で千二百字も書けるなんて、さすが美大を受験しようという人は想像力が豊かである。とこいつつ、私も**物書きのはしくれ**なので、写真のほかに2～3行のスペックしか資料のない聞いたこともないブランドの腕時計について、六百字くらいのデタラメ原稿を書いたことはあるけれど、千二百字となるとなかなか厳しい。（新保信長『笑う入試問題』BCCWJ）
- (38) 薄汚い麦藁帽子を目深に被ったその男は、ひと目見てあきらかに**絵描きの端くれ**ということは窺い知れた。“似顔絵描きます”という看板を傍らに置き、この暑いのに薄手のジャンパーを身につけた彼は、無表情で噴水の飛沫がつくる放物線の向こう側から隆志たちの姿に視線を据えていた。（川西桂司『薄曇りの肖像』BCCWJ）
- (39) 「私はこれでも**実業家の端くれ**だよ。社長ほどにはなれんだろうが、膝頭くらいまでは這い上がりたと思っている。（省略）」（菊地秀行『妖魔淫殿』BCCWJ）
- (40) 身分はひくくても、庄太夫は**さむらいのはしくれ**。文四郎がしまつしてしまうことはできない。（木暮正夫『シャクシャインの戦い』BCCWJ）

(37)では、話者が自分のことを「物書きのはしくれ」と言って、自分を「物書き」カテゴリーの周辺例として位置づけ、へりくだっている。(38)では、話者が「その男」を「絵描きの端くれ」と言い、「絵描き」カテゴリーの周辺例として位置づけ、多少軽蔑しているニュアンスが感じられる。(39)では、話者が自分のことを「実業家の端くれ」と言い、周辺例ではあっても自分を「実業家」カテゴリーの中に位置づけることでやや自慢げに言っている。(40)の話者は「庄太夫」のことを「さむらいのはしくれ」と言い、身分は低くても「さむらい」カテゴリーの成員であることから、「文四郎」（おそらく「さむらい」より身分の低い人）が始末することはできないと認めている。このように、「Xの端くれ」は話者がある観点から判断し、話題の対象をカテゴリーXの端（境界）に近い周辺例として位置づける表現である。「Xの端くれ」におけるカテゴリーXは職業・地位・身分などである場合が多く、その場合、Xの中心にはその職業・地位・身分などにおいて「地位が高い」「経験が豊かである」「実力を備えている」「権力を持つ」などの特徴を持った理想例が位置し、中心ではない周辺には「地位が低い」「経験が浅い」「実力を十分に備えていない」「権力を持っていない」などの特徴を持った成員が位置することが多い。このようなXの中心例と周辺例の持つ評価性により、(37)～(40)のように謙遜、軽蔑、自慢、認定といった様々な表現効果を伴う。

一方、「Xの端くれ」の例には(41)のようなものも存在する。

(41)遺言は、どんな用紙でも、どんな筆記用具を用いてもよく、実印を使う必要もありません。氏名もペンネームでも構いません。公正証書遺言書の作成と違って遺言の証人 2 名を用意する必要もなく、法律的な効力も、公正証書遺言書と何ら変わりはありません。たとえ紙の端くれであっても、そこにほんの数行でも親の意思が示されていれば、遺言の威力により他の兄弟姉妹との相続バトルから解放されることとなります。(遺言書相談室ホームページ <http://yuigon-support.biz/will-1/>)

(41)の「紙の端くれ」は、(37)～(40)における「Xの端くれ」と形式は同じであるが、意味的には大きく異なり、<X(紙)という具体物の端の部分>を指している。この場合は「Xの端くれ」が、話題の対象がカテゴリーXの周辺例であることを示しているわけではないため、考察対象から除外する。

以上のことから、本節では「Xの端くれ」の持つ表現効果を手掛かりにし、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴を明らかにする。

3.3.2 先行研究

本節では、国語辞典における「端くれ」の意味記述を確認し、考察課題を設定する。

『日本国語大辞典 第二版』

はし - くれ 【端一】 [名]

(1)木などの端を切ったもの。きれはし。かたはし。また、ある物のほんの一部分。わずかな量。はし。はしきれ。

* 詞葉新雅 [1792] 「ハシクレ かたはし かたかど」

* 花間鶯 [1887～88] 〈末広鉄腸〉中七「今時の女は〈略〉少し許り本のはしくれでも読むと直きに人を馬鹿にして困るが」

(2)とるに足りない存在であるが、一応はその同じ類に属している者や物事。つまらないもの。すえ。末流。はしきれ。

* 浮世草子・西鶴織留 [1694] 三・二「まことに和哥のはしくれなる俳諧さへ」

* 許六宛去来書簡 - 元禄八年 [1695] 正月二九日「此度申述度候へども、事あまり端くれ故、申残し候」

* 人情本・春色梅美婦禰 [1841～42頃] 二・一二回「此身(おみら)も男の端くれだから」

* 煤煙 [1909] 〈森田草平〉二「あれでも絵を画く人の端くれかと思ふと」

* 秘事法門〔1964〕〈杉浦明平〉二「歴史のはしくれに登場して」

『大辞林 第三版』

はしくれ【端くれ】

- ① 木材などの端を切ったもの。また、もののごくわずかの部分。
- ② とるに足りない者ではなるが、一応その集団に属していること。へりくだって、または多少の誇りを含めて用いられる。「これでもプロの一です」

『デジタル大辞泉』

はし - くれ 【端くれ】

- 1 木などの端を切り落としたもの。切れ端。「木の一」
- 2 取るに足りない存在ではあるが、一応その類に属している者。多く、謙遜しながら自分を表すときに用いる。「芸術家の一」

国語辞典では「端くれ」が2つの意味を持つ多義語として記述されている。1つ目の意味は、例(41)で言及した<具体物の端の部分>という意味であり、2つ目の意味は本研究と関連のある「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての意味である。国語辞典の意味記述はほぼ一貫して<とるに足りない存在であるが、一応その類に属している者や物事>となっており、「へりくだって（謙遜しながら）」や「多少の誇りを含めて」のように、前節に言及した表現効果について述べているものもある。しかし、例(38)の軽蔑、(40)の認定といった表現効果に関しては明確に言及していない。また、このような表現効果は上記のようにカテゴリーの中心例と周辺例の持つ評価性に起因し、表現効果ごとにカテゴリー化の様相も異なると考えられるため、これについて記述する必要があると考えられる。これを踏まえ、次節では「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての「Xの端くれ」の表現効果がどこに起因するのか、どのような条件の下で生じるのかに注目し、その特徴についてより詳細に考察する。

3.3.3 「Xの端くれ」に見られるカテゴリー化の様相

3.3.3.1 カテゴリーXの持つ評価性

3.3.1節で述べたように、「Xの端くれ」におけるカテゴリーXは職業や身分などである場合が多い。我々は職業や身分において「地位が高い」ほど、「経験が豊かである」ほど、「実力を備えている」ほど理想的であるという知識を持っており、そのような特徴を持っている成員はその集団（カテゴリー）の他の成員より際立っている傾向がある。そのため、カテゴリーXの中心にはその職業や身分における理想例が位置

し、中心ではない周辺にはその反対である「地位が低い」「経験が浅い」「実力を十分に備えていない」などの特徴を持った成員が位置することが多いと考えられる¹¹。したがって、「Xの端くれ」のXは理想例を中心とするカテゴリーである場合が多く、話題の対象はそれとは異なる周辺例として位置づけるためマイナス（以下、（-）と表記）評価を帯びることになる。これを図に表すと、図6のようになる。

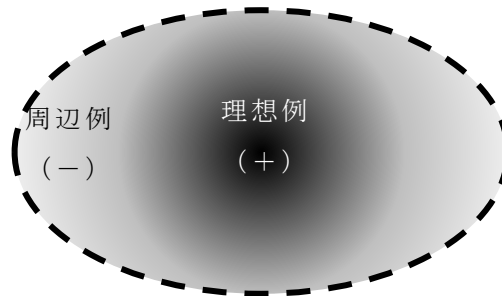


図6 Xが職業や身分である場合のX（内部）の評価性

このように、Xの中心例が理想例である場合、「Xの端くれ」により話題の対象がXの周辺例として位置づけられ、（-）評価性を帯びることによって生じる表現効果は「謙遜」と「軽蔑」であると考えられる。「謙遜」は、話者が自分自身のことや自分の身内のことを低く評価することで、聴者（読者）に対して丁寧な印象を与え、結果的に話者自身に対する聴者（読者）の評価をよくしようとするものである。一方、「軽蔑」は話者以外の物事に対して好ましくないという（-）評価を下すものである。

次に、カテゴリーXの内部における評価性ではなく、X全体の持つ評価性に注目してみると、ある観点からXという職業に就いていたり、Xという身分であることそのものが理想的であると判断される場合がある。その場合は、Xの内部においては「地位が低い」「経験が浅い」「実力を十分に備えていない」などの特徴を持つ周辺例であっても、X以外のカテゴリーの成員に比べると、Xの成員であるだけでプラス（以下、（+）と表記）評価性を持つことになる。これを図に表すと図7のようになる。

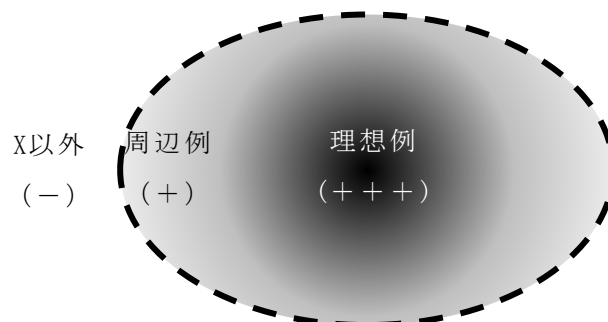


図7 Xが理想的な職業や身分である場合のX（内部）とXの外部の評価性

¹¹ 靱山(2010a: 22)にも、子どもが「大きくなったらプロ野球選手になりたい」と言った場合、イチローや松坂大輔のような理想的あるいは代表的なプロ野球選手を頭に描いていることが多いと指摘されており、「プロ野球選手」のような職業名に対して、我々が理想例を中心とするカテゴリーを思い描く場合があることが分かる。

このように、「Xの端くれ」によりXの周辺例として位置づけられても、Xの成員であることで(+)評価性を帯びる場合に生じる表現効果には「自慢」と「認定」がある。話者が自分自身や自分の身内に対して、Xの周辺例ではあっても、Xの成員であることからそれを好ましいと評価する場合は「自慢」となる。一方、話者が自分自身を含め、全ての物事に対して、Xの周辺例ではあるが、確かにXの成員であることを認める場合、「認定」となる。

以上のことを踏まえ、次節では「謙遜」「軽蔑」「自慢」「認定」の4つの表現効果について例文に基づき、より詳細に述べる。

3.3.3.2 表現効果①「謙遜」

「Xの端くれ」の4つの表現効果の中でも、「謙遜」は、Xに属する話題の対象の「実際の位置」と、「話者による位置づけ」が一致しないという点が特徴的である。というのは、話者が話題の対象（自分自身や自分の身内の人）を「Xの端くれ」と言う際、Xの周辺例として位置づけてはいるが、その話題の対象が実際はXの周辺例ではなく、中心例（理想例）である可能性があるということである。このように「謙遜」は、実際Xの周辺例ではない話題の対象を周辺例として位置づけ低く評価することで、聴者（読者）に対して丁寧な印象を与え、結果的に話者自身に対する聴者（読者）の評価をよくしようとするものであると考えられる。

(42) コーラー一本で千二百字も書けるなんて、さすが美大を受験しようという人は想像力が豊かである。といつつ、私も物書きのはしくれなので、写真のほかに2～3行のスペックしか資料のない聞いたこともないブランドの腕時計について、六百字くらいのデタラメ原稿を書いたことはあるけれど、千二百字となるとなかなか厳しい。（例(37)を再掲）

(43) 私が近ごろの人について最も遺憾に思うのは、とかく自分の長所を恃んで人の短所を軽蔑することである。私は憚りながら儒者の端くれ。人と話す時はいつも相手の知識の程度を推し量って論ずる。むりに相手の知らぬところまで話を引きこまない。（葛洪(著)/本田濟(訳)『抱朴子』BCCWJ)

(42)の話者は、文章を書くことを仕事としており、自分の本を出版している立派な作家であるにもかかわらず、自分のことを「物書きのはしくれ」と言って、自分を「物書き」カテゴリーの周辺例として位置づけ、へりくだっている。(43)の話者である葛洪は晋の道教研究者であり、実際は「儒者」カテゴリーの中心例に近いが、自分のことを「儒者の端くれ」と言い、周辺例として位置づけ、謙遜している。(42)と(43)の「物書き」と「儒者」は「経験が豊かである」「実力を備えている」などの特徴

を持っている理想例を中心とするカテゴリであり、話題の対象である話者自身はまさにその理想例に近い人物である。しかし、話者は自分のことを「物書き」「儒者」カテゴリの周辺例として位置づけ、低く評価することで、丁寧な印象を与えている。

(44)と(45)では、話者が自分の身内と自分が所属している学校に対して「Xの端くれ」と言っている。

(44)父はときどき、庭の芭蕉の株を、真剣の居合抜きで輪切りにしたりしていた。

子供の頃、私は縁先でお人形ごっこなどしながら、父が兄に稽古をつけるのを眺めていた。彼は戦争に敗けたとき、刀を半分にやすりで切ってなた代りにした。彼は軍人の端くれとして、武器の所持をきびしく追及される立場だった。しかし彼は自分の愛刀を誰かに渡すのはいやだったし、美術品として面倒な手続きをふむのもいやだったのであろう。(大庭みな子『大庭みな子全集』BCCWJ)

(45)私は中3で、都内の中高一貫校(進学校の端くれ・・・程度)に通っています。現時点での全国的なレベルは分かりませんが、自分はまだまだです。(例(1)を再掲)

(44)では、話者が自分の父親に対して「彼は軍人の端くれとして」と言っている。ここで、話者の父親が「軍人」カテゴリにおいて地位が高い理想例であったかどうかはわからないが、理想例であった可能性がないわけではなく、実際「軍人」の理想例であってもなくても、話者が自分の家族のことを謙遜して「軍人」カテゴリの周辺例として低く評価して言っている可能性がある。(45)の話者は、自分が通っている学校に対して「進学校の端くれ」と言い、「進学校」カテゴリの周辺例として位置づけている。(45)でも実際話者の学校が、卒業生の多くがいわゆる一流大学に合格し、進学するような理想的な進学校であるかどうかはわからず、単に話者の学校が字義通り「進学校」カテゴリの周辺例である可能性もあり、そのような場合は「軽蔑」の表現効果が生じる。しかし、実際話者の学校が理想的な進学校である可能性もなくはなく、そのような場合は謙遜して言っている丁寧な言い方になる。

(46)おくりびと、良かったですね～。前評判が芳しくなかったので受賞が伝わった瞬間、社内でも一気にお祝いムードが広がりました。この作品には全く関与してませんが業界の端くれにいるものとしてお祝いせずにはられません！って、呑む口実ですが(笑)(YAHOO!ブログ、BCCWJ)

(46)の表現形式を見ると、話者が自分のことを「(映画)業界の端くれ」と言っているわけではなく、「(映画)業界の端くれにいるもの」と言っているため、厳密に

は(46)の「端くれ」は人ではなく、「(映画)業界」の周辺部という抽象的な場所を指していると考えられる。しかし、「(映画)業界の端くれにいるもの」を「(映画)業界にいるものの端くれ」と置き換えることも可能であることから、形式は異なるが、表現全体の意味としては話者が自分のことを「(映画)業界(に携わる人)」の周辺例として低く評価して言っていると考えられる。この例文でも実際話者が「(映画)業界」において「経験が豊かである」「実力を備えている」などの特徴を持っている理想的な人物であるかどうかはわからないが、理想例である可能性も存在するため、「謙遜」の表現効果が生じる。

以上のことから、「Xの端くれ」において話題の対象が話者自身や話者の身内であり、実際には理想例に近い可能性がある場合、わざと低く評価することで聴者(読者)に丁寧な印象を与える「謙遜」の表現効果が生じると言える。これを図に表すと図8のようになる。

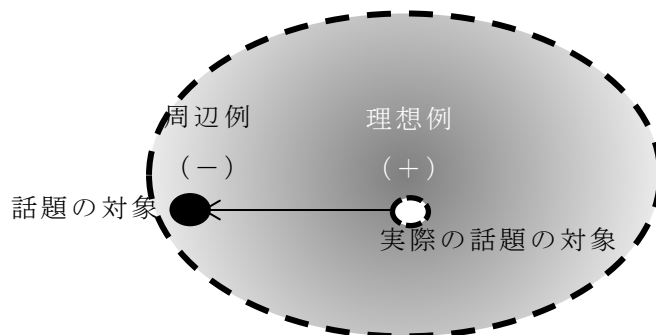


図8 「Xの端くれ」の表現効果①「謙遜」

3.3.3.3 表現効果②「軽蔑」

「Xの端くれ」において、Xの内部の評価性に焦点が当たると、話題の対象が周辺例として位置づけられることで(-)評価性を帯びる。その際、話題の対象が実際に中心例(理想例)に近い場合は「謙遜」の表現効果が生じるが、実際に周辺例に近い場合は「軽蔑」の表現効果が生じると考えられる。

(47) 薄汚い麦藁帽子を目深に被ったその男は、ひと目見てあきらかに絵描きの端くれということは窺い知れた。…“似顔絵描きます”という看板を傍らに置き、この暑いのに薄手のジャンパーを身につけた彼は、無表情で噴水の飛沫がつくる放物線の向こう側から隆志たちの姿に視線を据えていた。(例(38)を再掲)

(48) 寺村左膳にとって、龍馬と中岡がそれぞれ海援隊と陸援隊の頭として歴史を動かす太仕事をしているのを横で見てて、「たかが郷土の端くれのくせに」と腹立たしく思い、一刻も早く目の前から消し去りたいと思っていたのであろう。(http://aotree.seesaa.net/article/427827702.html)

(49) 男はフランスの**諜報員**の**端くれ**だが、あまり忠誠心はなく、仲間の信頼も薄い。
 その男が、アルジェリア側の諜報員を殺すよう命令されるが、人殺しが嫌いな男は、それがなかなか実行できない。 (http://blog2.hix05.com/2017/09/le-petit-soldat.html)

(47)では、話者が話題の対象である「その男」を見て、「絵描きの端くれ」と言い、低く評価している。(48)でも、話者である寺村左膳が、出世した「龍馬」と「中岡」のことを「たかが郷士の端くれのくせに」と言い、武士階級の中でも身分の低い「郷士」カテゴリーにおいても理想的な成員ではない周辺例として位置づけ、軽蔑している。(49)では、話者が映画の主人公である「男」に対して、職業は「諜報員」であるが、その周辺例として位置づけ、忠誠心もなく、仲間の信頼も薄く、命令にも従わないと言っている。(47)～(49)のように、話題の対象がXの周辺例であり(－)評価性を帯び、さらに、話者自身でない場合、「軽蔑」の表現効果が生じやすいと考えられる。

以上のことから、「Xの端くれ」において話題の対象が話者以外の物事であり、それが実際にもXの周辺例に近い場合、ある観点からそれを低く評価し、軽視する「軽蔑」の表現効果が生じると言える。これを図に表すと図9のようになる。

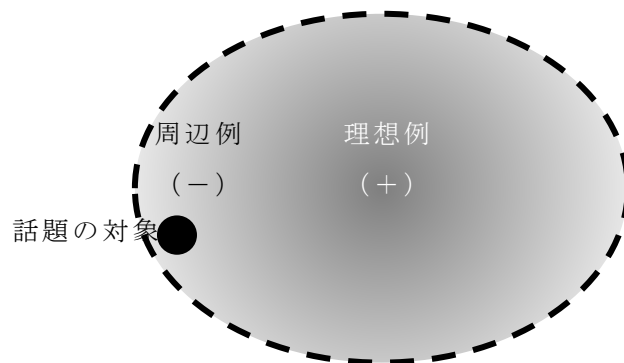


図9 「Xの端くれ」の表現効果②「軽蔑」

3.3.3.4 表現効果③「自慢」

すでに述べたように、話題の対象が「Xの端くれ」によりカテゴリーXの周辺例として位置づけられても、Xの成員であるだけで好ましいと評価される場合がある。その場合、話題の対象がXの成員であることで(+)評価性を帯びると、「自慢」の表現効果が生じる。

(50) 「私はこれでも**実業家**の**端くれ**だよ。社長ほどにはなれんだろうが、膝頭くらいまでは這い上がりたと思っている。(省略)」(例(39)を再掲)

(51) 「あの人たちは自分の意志を述べているわけではないんです。上に立つ人の考えが変われば、百八十度だって転換できるのが役人たるゆえんです」と自分も**公務員の端くれ**だと自称する堀越さんは言い放った。そうかしら、と私は懐疑的だった。役人だって、仕事を離れば一人の市民だろう。(加藤幸子『野鳥の公園奮闘記』BCCWJ)

(52) 部屋を出て、ロビーにおりて行くと、ボーイが、水死体が、流れついたのだという。島の南端の方だと聞いて、小早川は、ホテルを出た。小さな浜になっているところに、人垣が出来ていた。その人垣の中に、立花垂矢の姿があった。近づいて、「早いね」と、声をかけると、「**ジャーナリストの端くれ**ですからね」(西村京太郎『熱海・湯河原殺人事件』BCCWJ)

(50)の話者はある会社の常務であるが、能力の面において社長よりは多少劣り、「実業家」の理想例ではないとしても、他のカテゴリーではなく「実業家」の成員であり、より高いところを目指したいということを述べている。(51)では、「自分も公務員の端くれだと自称する堀越さん」から、「堀越さん」が自分のことを「公務員」カテゴリーの中心例ではないが、周辺例としてその中に入っていると自慢げに言い、公務員であることにに関して自信を持って語っている。(52)でも、話者の「立花垂矢」が、死体が流れ着いた現場に早めに現れた理由として自分が他のカテゴリーではなく「ジャーナリスト」の成員であることを自慢げに挙げている。このような「自慢」の表現効果は(50)～(52)から分かるように、特に話者が自分のことに対して言う場合によりはっきりと表れるが、その点においては「謙遜」と類似しており、単にXの成員であると言っているわけではなく、「Xの端くれ」、つまり、Xの周辺例であるということで、「私はXである」と言うよりは「自慢」の程度が和らげられると考えられる。しかし、話題の対象がXの周辺例ではあるが、X以外のカテゴリーの成員ではなく、Xの成員であることを強調することで、「自慢」の表現効果が生じると思われる。

以上のことから、「Xの端くれ」において話題の対象（話者自身）が周辺例であってもXの成員であることで話者がそれを高く評価している場合、「自慢」の表現効果が生じると言える。これを図に表すと図10のようになる。

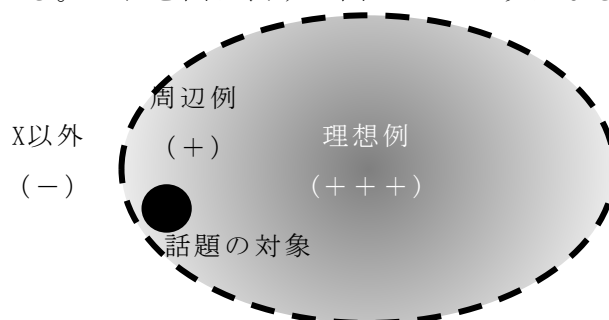


図10 「Xの端くれ」の表現効果③「自慢」

3.3.3.5 表現効果④「認定」

「Xの端くれ」により、話題の対象がXの周辺例として位置づけられるが、Xの成員であることを認められ、(一)ではない評価性を帯びる場合、「認定」の表現効果が生じると考えられる。

(53)身分はひくくても、庄太夫はさむらいのはしくれ。文四郎がしまつしてしまうことはできない。(例(40)を再掲)

(54)富永有隣も、そうである。この男の家は代々御膳部役という、藩主の食事の世話をする小役人だった。家禄はわずか二十七石にすぎないが、士分のはしくれであることはまちがいない。(司馬遼太郎『木曜島の夜会』BCCWJ)

(55)この9月から、いよいよ4年、来年の今頃は、社会人の端くれになろうとしてるんやもんなあ、、、ほんまに早いですわなあ。(YAHOO!ブログ、BCCWJ)

(53)では、「庄太夫」が身分は低い、「さむらい」の成員であるということを確認している。(54)でも、「富永有隣」に対して、家禄は二十七石にすぎないが、「士分」の成員であることは間違いないと認めており、(55)でも、大学の卒業が迫ってきた息子に対して「社会人」カテゴリーの成員としては経験も浅く、実力もまだ備えていないが、それでも(来年の今頃の状況を想定し)「社会人」の成員として認め、時間の速さを感じている。「認定」の表現効果が生じる場合は、このように話題の対象が話者以外の人であり、それに対して(一)ではない評価をしていることが多いが、次のように話者自身(が属している集団)が対象になる場合もある。

(56)「そうかもしれませんが。でも、あたし、初めて父に大きな嘘をつきました。先生と京都に行きたいがために、平然と」驚津は息苦しさを覚えた。個人営業とはいえ、一応は教育者の端くれだ。家庭教師にそこまでモラルは要求されないのかもしれないが、忸怩たるものがある。(花村萬月『二進法の犬』BCCWJ)

(57)病気でもない主人が、私のために犠牲になったんですけれど、このときは、この病気だと宣告された以上に苦しみ、いつそのこと死んでしまいたいと思いました。けれど、私たちはクリスチャンの端くれです。自分で命を絶つことは罪だと教えられていますから、死ぬに死ねません。(村上絢子『もう、うつむかない』BCCWJ)

(56)では、話者が家庭教師である自分のことを「教育者」の周辺例として位置づけているが、「教育者」の成員ではあるため、自分の学生にうそをつかせたことに恥を感じている。(57)では、患者である話者が、自分たちを「クリスチャン」の周辺例と

して位置づけ、それでもその成員ではあることに焦点を当て、死にたくても死ねないと述べている。

以上のことから、「Xの端くれ」において、話題の対象がXの周辺例ではあるが、Xの内部に位置することに焦点を当て、Xの成員であると認められ、それに対して（－）ではない評価性を帯びる場合、「認定」の表現効果が生じると言える。これを図に表すと図11のようになる。

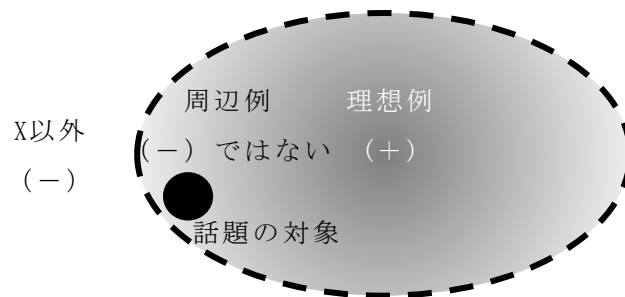


図11 「Xの端くれ」の表現効果④「認定」

3.3.3.6 「Xの端くれ」に見られるカテゴリ-Xの拡張の様相

本節では、「Xの端くれ」に見られるカテゴリ-Xの拡張の様相について述べる。3.2節の「ぎりぎりX（である）」と同じく、「Xの端くれ」においても、話者が話題の対象をXの中心例である理想例と比較し、話題の対象がそれと類似してはいるが、異なる点を持つことから周辺例として位置づけている。したがって、話者はまずカテゴリ-Xの中心例（理想例）からなるXの下位カテゴリを思い浮かべ、その後、話題の対象がXの理想例とは異なると判断し、そのカテゴリを拡張させ、その周辺部に話題の対象を位置づけると考えられる。

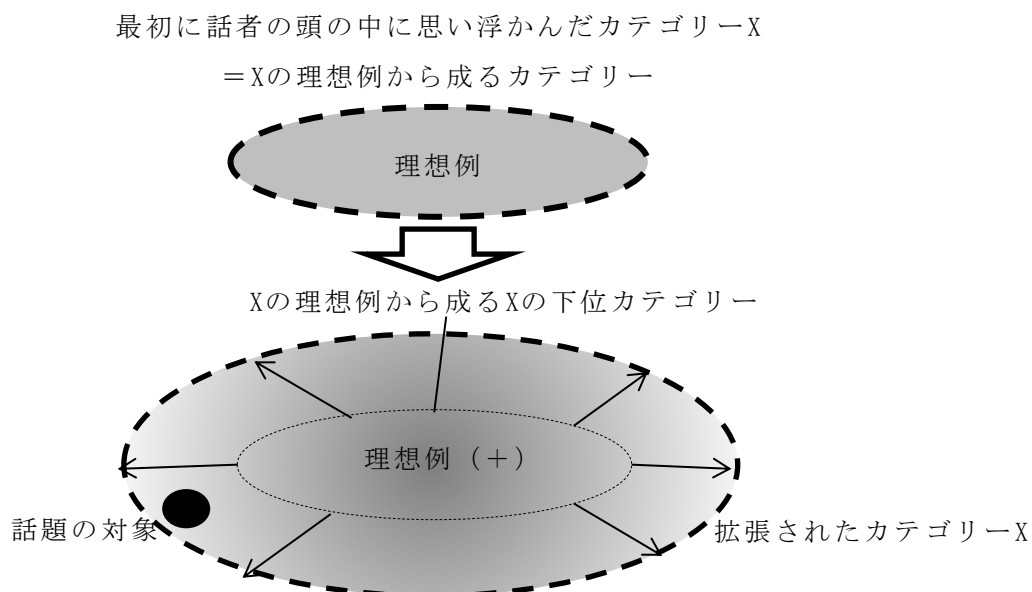


図12 「Xの端くれ」に見られるカテゴリ-Xの拡張

ただし、「Xの端くれ」の表現効果①「謙遜」においては、話題の対象が実際は周辺例ではない可能性があるため、カテゴリーの様相においても他の表現効果と異なると考えられる。例えば、(58)では、まず、話者が「物書き」の理想例から成る「物書き」の下位カテゴリーを思い浮かべ、自分がその成員であるにもかかわらず、わざとそのカテゴリーを拡張させ、その周辺例として自分自身を位置づけることで、(-)評価性を帯びるようになる。しかし、聴者(読者)は話者が実際は「物書き」の理想例である可能性があることに気付き、話題の対象を元の「物書き」の理想例から成る下位カテゴリーに戻し、話題の対象は再び(+)評価を帯びるようになると考えられる。すなわち、話者自身の周辺例としての位置付けと聞き手が知っている実際の位置の食い違いから謙遜の意味が生じると言える。これを図に示すと、図13となる。

(58) コーラー本で千二百字も書けるなんて、さすが美大を受験しようという人は想像力が豊かである。といつつ、私も物書きのはしくれなので、写真のほかに2~3行のスペックしか資料のない聞いたこともないブランドの腕時計について、六百字くらいのデタラメ原稿を書いたことはあるけれど、千二百字となるとなかなか厳しい。(例(37)、(42)を再掲)

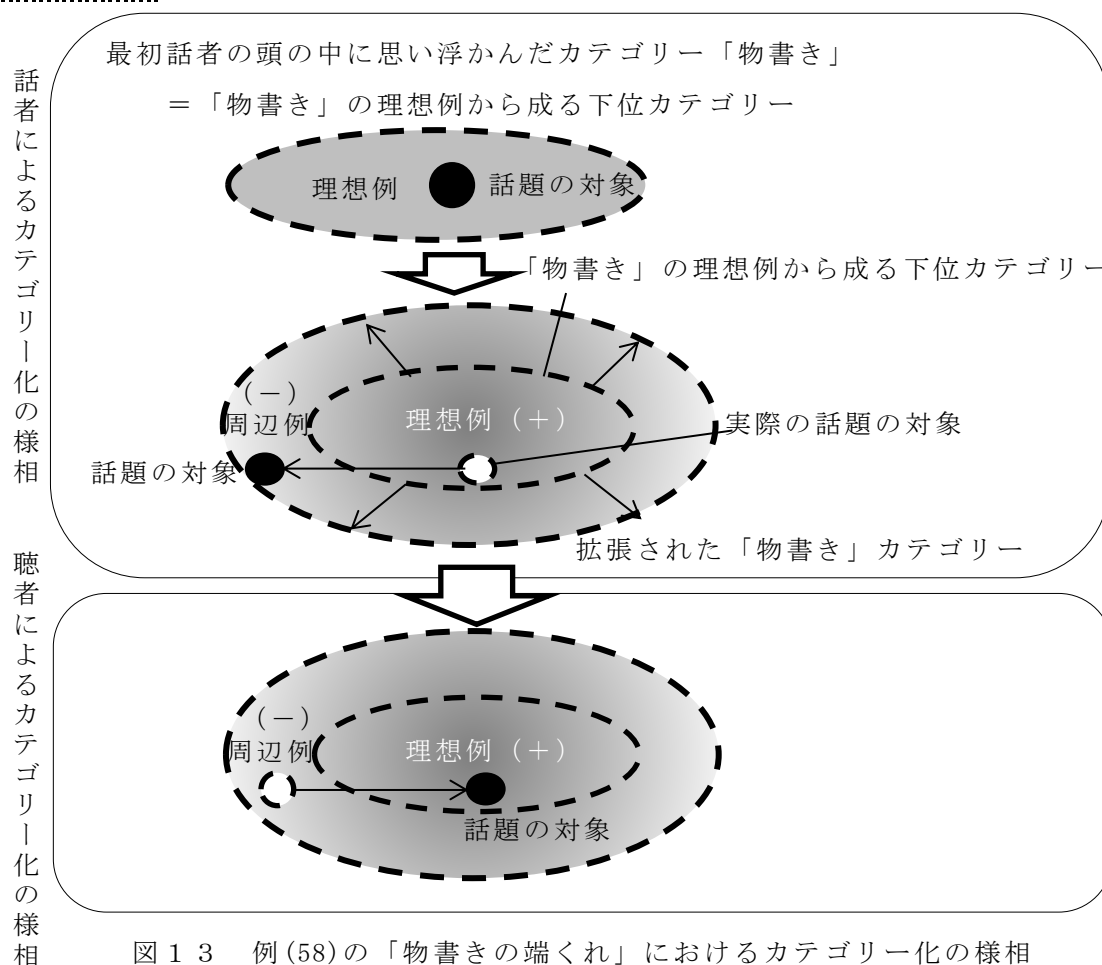


図13 例(58)の「物書きの端くれ」におけるカテゴリー化の様相

3.3.4 まとめ

本節では、実例に基づき、「Xの端くれ」の Kategorie の周辺例を明示する表現としての特徴について考察した。「Xの端くれ」に見られる Kategorie 化の様相をまとめると以下のようなになる。

「Xの端くれ」に見られる Kategorie 化の様相：話者が Kategorie X の中心例（理想例）からなる X の下位 Kategorie を思い浮かべ、話題の対象を X の中心例（理想例）と比較し、話題の対象がそれと異なるが、類似点を持つことから X の下位 Kategorie を拡張させ、その中に周辺例として位置づける。

また、「Xの端くれ」において、 Kategorie X と話題の対象の持つ評価性、話者と話題の対象の関係、X における話題の対象の位置により、4つの表現効果が生じることに注目し、どのような条件の下でどのような表現効果が生じるかを明らかにした。本節の考察から得られた「Xの端くれ」の4つの表現効果の特徴をまとめると次の表1となる。

表1 「Xの端くれ」の4つの表現効果の特徴

	話題の対象の評価性	話者と話題の対象の関係	話題の対象が実際Xの周辺例であるか否か
①謙遜	－	話者（の身内）	周辺例ではない可能性がある
②軽蔑	－	話者以外	周辺例
③自慢	＋	話者（の身内）	周辺例
④認定	－ではない	全て	周辺例

なお、「Xの端くれ」の表現効果①「謙遜」のみ、話題の対象が実際Xの周辺例でない可能性があるため、 Kategorie 化の様相において以下のように他の表現効果と異なる点が見られる。

「Xの端くれ」の表現効果「謙遜」に見られる Kategorie 化の様相：話題の対象が実際Xの中心例である可能性があるため、話者によって想起された Kategorie X の理想例から成る下位 Kategorie が拡張され、話題の対象がその拡張されたXの周辺例として位置づけられた後、聴者によって話題の対象が再びXの理想例から成るXの下位 Kategorie に戻され、（＋）評価を取り戻すことで「謙遜」の表現効果が生じる。

3.4 「ぎりぎりX(である)」と「Xの端くれ」の比較

3.4.1 考察の背景と目的

3.2節と3.3節で見てきたように、「ぎりぎりX(である)」と「Xの端くれ」は同じく話題の対象がカテゴリーの境界に近い周辺例であることを明示する表現であり、次の(59)のように置き換えても意味が大きくずれない場合がある¹²。

(59)私は中3で、都内の中高一貫校 (進学校の端くれ／ぎりぎり進学校・・・程度)に通っています。現時点での全国的なレベルは分かっていませんが、自分はまだまだです。 (例(1)、(45)を再掲)

例(59)において、話者は自分の学校に対して「進学校の端くれ」と言い、「進学校」カテゴリーの理想例とは異なる、周辺的な成員であることを明示しているが、これを「ぎりぎり進学校」に置き換えても、その意味は大きく変わらないと思われる。しかし、実際両表現は例(60)のように、置き換えられない場合が多く、同じくカテゴリーの周辺例を明示する表現であっても、その意味にはいくつかの相違点があることが予測される。

(60)コーラー一本で千二百字も書けるなんて、さすが美大を受験しようという人は想像力が豊かである。といいつつ、私も物書きのはしくれ／*ぎりぎり物書きなので、写真のほかに2～3行のスペックしか資料のない聞いたこともないブランドの腕時計について、六百字くらいのデータ原稿を書いたことはあるけれど、千二百字となるとなかなか厳しい。 (例(37)、(42)、(58)を再掲)

本節では、前節の考察に基づき、両表現の共通点と相違点を明らかにし、「カテ

¹² 下の例文を見ると、話者は自分が1988年生まれで「昭和(世代)」の最後の年に生まれたということを「ギリギリ」と「はしくれ」を用いて表現し、自分のことを「昭和(世代)」の境界に近い周辺例として位置付けている。この例文における「端くれ」は「Xの端くれ」の形式ではない点、話題の対象(自分自身)がカテゴリー化された「昭和の女」が職業・身分などではなく、年齢・時間と関わっている点、話題の対象を「昭和の女」カテゴリーの理想例と比較しているとは思えない点から、「端くれ」の周辺的な用法であると考えられる。しかし、同じ文脈でほぼ同じ意味で「ぎりぎり」と「端くれ」が用いられていることから、両語の意味が近いということがわかる。

(例)年齢を言うと、よくわからへん期待を込めたような目で聞かれる言葉がある。え!?!もしかして平成生まれ!?! いいえ、ギリギリ…最後の昭和世代の女です。これまたよくわからへん申し訳なさを感じる。やけど、はしくれでも私は昭和の女。ギリギリ昭和でよかったわ。と、思わせてくれる唄がある。(https://okmusic.jp/news/245883)

リーの周辺例を明示する表現」としての両語の位置づけを明確にする。

3.4.2 先行研究

「ぎりぎり」と「端くれ」を類義語として取り上げている先行研究は管見の限り見当たらず、国語辞典の意味記述及び例文を見ても、両語の共通点は目立たないと思われる。

『大辞林 第三版』

ぎりぎり【限り限り】

(名・形動) 許される範囲いっぱい、それ以上余地のない・こと(さま)。限界。限度。極限。副詞的にも用いられる。「-のところ」「時間ぎれまでもう-だった」「時間-にできあがる」「譲歩できるのは-そこまでだ」「-で間に合う」

はしくれ【端くれ】

- ①木材などの端を切ったもの。また、もののごくわずかの部分。
- ②とるに足りない者ではあるが、一応その集団に属していること。へりくだって、または多少の誇りを含めて用いられる。「これでもプロの-です」

『デジタル大辞泉』

ぎり - ぎり 【▽限り▽限り】

[名・形動] 限度いっぱい、それ以上余地がないこと。また、そのさま。副詞的にも用いる。「しめきり-に間に合う」「経済的に-な(の)状態で生活する」「-許容できる線」

はし - くれ 【端くれ】

- 1 木などの端を切り落としたもの。切れ端。「木の-」
- 2 取るに足りない存在ではあるが、一応その類に属している者。多く、謙遜しながら自分を表すときに用いる。「芸術家の-」

しかし、(59)のように、両語が「カテゴリーの周辺例を明示する用法」で用いられた場合、互いに置き換えても意味のずれが少ない場合があることから、3.4節では、両表現を類義表現であると考え、類義表現分析を通して両表現の共通点と相違点を明らかにすることとする。

3.4.3 分析

3.4.3.1 両表現の共通点：カテゴリー化の様相

すでに確認したように、次の例における「進学校の端くれ」は「ぎりぎり進学校」に置き換えることができ、意味のずれもほとんど感じられない。

(61)私の中3で、都内の中高一貫校（進学校の端くれ／ぎりぎり進学校・・・程度）に通っています。現時点での全国的なレベルは分かりませんが、自分はまだまだです。（例(1)、(45)、(59)を再掲）

(61)の話者は自分の学校のことを「進学校の端くれ」と言うことで、「進学校」カテゴリーの周辺的な成員であると明示している。話者は話題の対象を「進学校」カテゴリーの理想例（いわゆる一流大学へ合格した卒業生が多い高校）と比較し、それと類似してはいる（「一流大学への進学を目指す生徒が多い」など、「進学校」としての一般性がほぼ完全な特徴は備わっている）が、異なる点もある（「実際一流大学への合格者はそれほど多くない」など）ことから、「進学校」カテゴリーの周辺例として位置づけていると考えられる。3.2節で分析したように、「ぎりぎりX（である）」も、話題の対象をカテゴリーXの理想例と比較し、それと異なることからXの周辺例として位置づける用法を持つため、(61)において「進学校の端くれ」を「ぎりぎり進学校」に置き換えることができるのであると思われる。さらに、「ぎりぎりX（である）」と「Xの端くれ」では、カテゴリーXの拡張が見られるという共通点もある。(61)の場合、話者はまず「進学校」カテゴリーの中心例（理想例）からなる下位カテゴリーを思い浮かべ、その後、話題の対象がXの理想例とは異なると判断し、その下位カテゴリーを拡張させ、その周辺部に話題の対象を位置づけていると考えられる。

このようなことから、「ぎりぎりX（である）」と「Xの端くれ」には次のような共通点があると言える。

両表現の共通点：話者がカテゴリーXの理想例から成る下位カテゴリーを思い浮かべ、話題の対象をXの理想例と比較し、それと異なることから、Xの下位カテゴリーを拡張させ、話題の対象をその拡張されたカテゴリーに周辺例として位置づける。

3.4.3.2 両表現の相違点①：焦点の場所

前節で「ぎりぎりX（である）」と「Xの端くれ」の共通点を明らかにしたが、「話題の対象をカテゴリーXの理想例と比較し、それと異なることから、Xの周辺例として位置付ける」場合でも、両表現を置き換えられない場合がある。

(62) 前回、「ドラム缶じゃない、ギリギリ人間／＊人間の端くれだ。」を書かせていただきました。覚えてくださってる方いらっしゃるかしら。前回、ドラム缶体型を抜け出すべく、70kgから62kgまで痩せましたがストレスで過食を繰り返し現在69kg… (例(3a)、(11)を再掲)

(62)では、話者が話題の対象（自分自身）を「人間」カテゴリーの理想例（スマートな体型の人間）と比較し、それと異なることから「人間」カテゴリーの周辺例として位置付けているが、この場合は「ぎりぎり人間だ」を「人間の端くれだ」に置き換えると非文となる。(62)の「ぎりぎり人間」の場合は、話題の対象の体型に注目し、理想例であるスマートな体型の人間と比較して、話題の対象がそれと異なり、むしろ「ドラム缶」に似ているということで「ドラム缶」との境界に近い「人間」カテゴリーの周辺例として位置付けている。つまり、「ぎりぎり人間」では、話題の対象が「人間であるか、それともドラム缶であるか」ということに焦点が置かれていると言える。しかし、(62)の「ぎりぎり人間」を「人間の端くれ」に置き換えると、話題の対象が「人間であるか、ドラム缶であるか」ではなく、「(人間ではあるが)立派な人間であるか否か」に焦点が置かれ、意味がずれるため、文脈に合わなくなる。このような違いは、次の(63)においても現れる。

(63) それより今日は何だかバタバタでお客様にご迷惑を掛けてしまい申し訳ありませんでした(汗)言葉の通りツユだくいや、汗ダクでした。先日も常連様に「タオルかそか?」とか言われちゃって。ま、とても綺麗な奥様ですから甘えてもよかったのです～が、流石に人間の端くれ／＊ぎりぎり人間なので丁重にお断りしましたとき。(http://moqlen.jp/blog/page/172)

(63)の話者は、汗だらけの自分にタオルを貸そうとするお客さんに丁重に断っているが、それは自分が「人間の端くれ」であるためだと言っている。ここで話者は自分が「(人間ではあるが)立派な人間であるか否か」に焦点を当て、理想的な立派な人間とは異なるが、人間ではある(きれいなお客さんに甘えないで丁重に断るという最低限のモラルを持っている)ことに注目し、話題の対象である自分を「人間」カテゴリーの周辺例として位置付けていると考えられる。(63)の「人間の端くれ」を「ぎりぎり人間」に置き換えることはできないが、これは(62)でも言及したように、「ぎりぎり人間」の場合、「人間であるか、それとも人間以外のカテゴリーの成員であるか」に焦点が置かれ、意味がずれるためであると思われる。このようなことから、カテゴリーの周辺例を明示する表現としての「ぎりぎりX(である)」と「Xの端くれ」の意

味には次のような相違点があるといえることができる。

「ぎりぎりX（である）」：話題の対象がカテゴリーXの成員であるか、それともXと対立する別のカテゴリーの成員であるかに焦点が置かれる。

「Xの端くれ」：話題の対象がカテゴリーXの成員であることは認めた上で、Xの理想的な成員であるか否かに焦点が置かれる。

3.4.3.3 両表現の相違点②：話題の対象と比較されるXの中心例

次に、「Xの端くれ」において話題の対象と比較される「理想例」とはどのようなものであるかについてさらに考察する。3.2節で、「ぎりぎりX（である）」において話題の対象と比較されるのはカテゴリーXの典型例・理想例・顕著例・ステレオタイプであるということを確認した。それに対し、3.3節で「Xの端くれ」においては話題の対象をXの理想例と比較すると述べたが、上記の「ぎりぎり人間」と「人間の端くれ」の例を見ると、話題の対象と比較されるのは同じく「人間」カテゴリーの理想例であるが、それぞれの理想例の性質は異なる。(62)の「ドラム缶ではない。ぎりぎり人間だ」において比較される理想例は「スマートな体型の人間」であるのに対し、(63)の「流石に人間の端くれなので」では「モラルを持っている立派な人間」であると考えられる。さらに、もし(62)のようなコンテクストがないと仮定した場合、「ぎりぎり人間」と「人間の端くれ」を比較すると、比較される理想例は「立派な人間」になると思われ、「Xの端くれ」において話題の対象と比較される理想例はカテゴリーXの理想例の中でも、「立派である」という特徴を持っていると考えられる。これを踏まえ、「ぎりぎりX（である）」において話題の対象が理想例ではなく、典型例・顕著例・ステレオタイプと比較される例文を取り上げ、考察する。

(64)衣桁を製作、お納めしました。「衣桁」そう、それは着物などを掛けるための家具。いや家具ではない、いえ多分ギリギリ家具／??家具の端くれ。(例(2)、(8)を再掲)

(64)は話者が話題の対象である衣桁を「家具」カテゴリーの典型例（テーブル、タンスなど）と比較し、それと異なることから「家具」カテゴリーの周辺例として位置付けている。この場合、「ぎりぎり家具」を「家具の端くれ」に置き換えると容認度が大きく下がる。これは、一つ目に、「Xの端くれ」において話題の対象と比較されるのはXの典型例ではなく、理想例であるためであると考えられる。しかし、(65)を見ると、「ぎりぎりミュージシャン」の場合は、話題の対象（自分自身）を「ミュー

ジシャン」の典型例（音楽に関連することに重点を置いて活動するミュージシャン）と比較しているが、これを「ミュージシャンの端くれ」に置き換えても多少容認度は下がるが、置き換えられないわけではない。

(65)今年も毎年恒例の旅に出る（8/31～9/4）。タイトルは『本州の果て大間崎、本マグロを釣り上げる！の旅』。音楽やれっつーの。と言う声も聞こえてきそうだが、今年は盛岡でのライブも含まれているのだ！**ぎりぎりミュージシャン**／？**ミュージシャン**の**端くれ**である。（<https://arikenblog.exblog.jp/m2011-08-01/>）

(65)において「ぎりぎりミュージシャン」を「ミュージシャンの端くれ」に置き換えると、話題の対象を「ミュージシャン」の理想例（音楽に関連することに集中し、人気があったり高く評価されているミュージシャン）と比較し、それと異なると判断して周辺例として位置付けることで、謙遜の表現効果が生じると思われる。このように、「ぎりぎりX（である）」において話題の対象と比較されるXの成員が理想例でなくても、「Xの端くれ」に置き換えた場合に理想例が想定できれば置き換えられるが、(64)の「家具」の場合は様々な家具の種類の中で他のものより「理想的な家具」、特に「立派な・優れている家具」が想定できないため、「家具の端くれ」は容認度が低くなると考えられる。

(64)の「家具の端くれ」が容認度が低い二つ目の理由として考えられるのは、3.3節で述べたように、「Xの端くれ」がカテゴリーXの周辺例を明示する用法で用いられる場合、カテゴリーXは人間（の職業・身分・所属先など）であるのが普通であるということである。しかし、(66)(77)の「山」も「家具」と同様に、Xが人間（の職業・身分・所属先など）ではないが、「山の端くれ」と言うことができる。

(66)確かに**ぎりぎり山**／**山の端くれ**と呼べそうなものはいくつか見えるものの、簡単に言ってしまうえば**里山と田んぼ**である。（<http://kaa44.la.coocan.jp/2009nennsaisyuuki04.htm> カブトムシ採集記のページ）

(67)この山頂からは左手に越前市内（武生市内）から右手は南越前町（南条町）まで見渡せる。これだけ素晴らしい俯瞰が見られるのだから、標高235mでも大したもんだ。「山、高さをもって尊からず！海、深きをもって尊からず！」とはよく言ったものだと感心。

そりゃ、日本の屋根の北アルプスの高い山々に苦勞して登ると感動も大きいのは確か。でも、このような低い山でも、「**山の端くれ**／？**ぎりぎり山**」ながらに、楽しい山登りができるのだ。（<http://chaocnx.seesaa.net/article/454284542>）

html?seesaa_related=related_article)

(66)では、話者の目の前に見えるのは里山と田んぼだけで、それらは「山」の顕著例（高い山）に比べると明らかに低いため、「ぎりぎり山と呼べそうなもの」と言っ
て「山」の周辺例として位置付けられている。これを「山の端くれと呼べそうなもの」
に置き換えても意味は大きくずれない。また、(67)では、話題の対象が標高235メー
トルであることから、北アルプスの高い山々のような山と比べると低い山であるが、
それでも山であることが確かであり、楽しい山登りができ、素晴らしい景色が見られ
ると言っている。同じ「もの」であるにもかかわらず、(64)の「家具の端くれ」は容
認度が低く、(66)(67)の「山の端くれ」は容認できるのはなぜだろうか。この理由も
「話題の対象と比較されるXの中心例」に関係していると思われる。(66)と(67)にお
いて、話題の対象である「低い山」と比較されるのは、「高い山」であるため、「高
い」という特徴を顕著に有している成員であることから顕著例とも言える。しかし、
我々は普段「高い山」を見て、その壮大な姿を素晴らしいと感じ、「高い山」に対し
て(+)評価を加え「立派な山」と考えることがある。そのため、「高い山」を「山」
カテゴリーの理想例であると考えやすく、「山の端くれ」という表現も可能になると
考えられる。(67)では、「山の端くれ」を「ぎりぎり山」に置き換えると容認度が下
がるが、これは、(67)のコンテキスト上、話題の対象が「周辺例ではあっても「山」
である」ことに焦点が置かれているため、前節で述べたように、山以外の別のカテゴ
リーの存在が意識される「ぎりぎり山」に置き換えると、焦点がずれて容認度が下
がるのであると考えられる。なお、次の(68)の場合は、話題の対象である（人間の体温
としての） 37.7° を「熱」カテゴリーの顕著例（人間の体温として高い温度）と比較
している。「熱」は人間に関することではあるが、「熱の端くれ」と言えないのは
「理想的な熱・立派な熱・優れている熱」が想定できないためであると思われる。

(68)Q： 37.7° は微熱？

A：僕の基準では38度からが熱だという判定にしています。37度ならギリギリ熱
／*熱の端くれでしょうね。微熱は37度丁度とかだと思います。（例(14)を
再掲）

次は、話題の対象と比較されるXの中心例がステレオタイプである例を見る。

(69)A：ハロウィン 月間継続中 #ハロウィン #手作りおやつ #おぼけ大福 #かぼち
ゃプリン #そろそろかぼちゃに飽きてきたー

B：すごーいかぼちゃプリンも気になるけど、おぼけ大福がめっちゃ気になる

A: ぎりぎりおばけ／おばけの端くれに見えるかな (笑) 中身はかぼちゃとあんこ。求肥でおばけっぽく包んでみたよ (例(16)を再掲)

(70) 吸血鬼は最強の種族であるが故、弱点も多々ある。また「鬼」の端くれ／？ぎりぎり鬼でもあり共通した弱点もある。日光に弱い、炒った豆、流れる水が苦手… (https://twstat.org/0009_TOMY/)

(69)では、「ぎりぎりX (である)」と「Xの端くれ」を互いに置き換えることができ、(74)では容認度が多少落ちるが、非文にはならない。(69)では話者が自分が作ったおばけ大福を「よりおばけらしい形をしているおばけ」と比較しており、(70)では吸血鬼を「より鬼らしい鬼」と比較している。3.2.3.1節でも言及したように、「おばけ」や「鬼」は架空の存在であるため、それらの持つ、十分な根拠なしに広く信じられている様々な特徴を、実際どれくらいの「おばけ」や「鬼」が持っているかを問題にすることができない(靱山 2016: 第5節参照)。したがって、(69)と(70)において、話題の対象が「おばけ」「鬼」カテゴリーの周辺例であると判断する基準である「おばけ」と「鬼」の特徴も「おばけ」と「鬼」のステレオタイプが有する特徴ということになる。しかし、このような架空の存在の中でも、我々が立派であると思う成員や、より「おばけらしい」「鬼らしい」と思う成員があると思われる。(69)と(70)において「おばけの端くれ」「鬼の端くれ」が言えるのは、話題の対象を「立派なおばけ・鬼／よりおばけ・鬼らしいおばけ・鬼」と比較し、それらとは多少異なるが、「おばけ」「鬼」の成員ではあると考えているためであると思われる。(70)において「鬼の端くれ」を「ぎりぎり鬼」に置き換えると容認度が多少下がるが、これは、(70)で「立派な鬼ではないが、鬼の成員である」ということに焦点が置かれており、「吸血鬼は鬼であるか、それとも別のカテゴリーの成員であるか」が問題になっているわけではないためである。なお、次の(71)では、話者が話題の対象である少女(式神)が明らかに「鬼」の成員であることを知っていながら、自分(他の「鬼」より力が強く、優れた能力を持っている「鬼」の理想例)に比べると力が弱く、周辺的な成員であるという意味で「鬼の端くれ」と言っていると考えられる。このように、話題の対象がカテゴリーXの成員であることが明白であり、Xの成員であるかどうかは全く問題にならない場合は、「Xの端くれ」を「ぎりぎりX (である)」に置き換えることができない。

(71) 『はあ…私は火琉羅、ある人の式です』

自己紹介を始める少女。

「そう、あなたの後ろに今回の黒幕がいるの…」

そう言いさらに言葉を続ける。

「それはそうと自己紹介がまだだったわね♪…私は佐鬼、前世では鬼神『前鬼』
と言われて恐れられてたわ。貴女も「鬼」の端くれ／*ぎりぎり「鬼」なら聞いた事くら
いはあるでしょう?」

その言葉を聞き一瞬にして顔を恐怖に染める少女。

『ま、まさか…四百年前、都を一人で壊滅寸前まで追い込んだと言われる…』

(<http://www016.upp.so-net.ne.jp/phy-o/itadaki/akinosora/toukousi-14.htm>)

以上の考察を踏まえ、話題の対象と比較されるXの中心例に関する両表現の相違点をまとめると、次のようになる。

「ぎりぎりX(である)」：話題の対象と比較されるXの中心例には、「典型例」
「理想例」「顕著例」「ステレオタイプ」がある。

「Xの端くれ」：話題の対象と比較されるXの中心例は「理想例」のみであり、その
中でも特に「立派な成員・優れている成員」である。

さらに、本節の考察から「Xの端くれ」におけるカテゴリーXが次のような特徴を持っていることが分かった。

「Xの端くれ」：カテゴリーXは「人間(の職業・身分・所属先など)」である場合
が多いが、Xの中心例として「立派な成員・優れている成員」が
想定できる場合、Xが「人間(の職業・身分・所属先など)」以外の
ものでも言える。

3.4.3.4 両表現の相違点③：カテゴリーXの性質

3.2節において、「ぎりぎりX(である)」はカテゴリーXが「プロトタイプ・カテゴリー」であるか、それとも「必要十分条件に基づくカテゴリー」であるかにより、カテゴリー化の様子が異なることを見た。(72)(73)の「30代」カテゴリーを見ると、カテゴリーの境界が30歳から39歳までであって明確であり、30歳から39歳までの成員が同じ資格で「30代」カテゴリーに所属しているため、「30代」カテゴリーは「必要十分条件に基づくカテゴリー」と言える。

(72)本屋で見つけました。GLOW8月号。即お買い上げ。(中略)よーく見ると40代
女性誌!!!知らずに買いました。私、まだ一応「ぎりぎり30代」/?「30代」の端くれな
ので。40代の予行練習しまーす。(例(5)、(32)を再掲)

(73)親は20代か、ぎりぎり「30代」/*「30代」の端くれぐらいだったことになりま

す。それでマイホーム購入となりましたが、私が年中の時に転勤になりました。
(例(18)を再掲)

この場合、(72)のような39歳のほうも、(73)のような30歳のほうも同じく「30代」の境界に近い周辺例であるため、「ぎりぎり30代」が用いられるが、これを「30代の端くれ」に置き換えると容認度が大きく下がる。その理由は、「30代」カテゴリは必要十分条件に基づくカテゴリであるため、「他の成員より理想的な成員・立派な成員・優れた成員」が存在しないためであると考えられる。ただし、年齢の場合、大人になると「若ければ若いほどいい」と思う人が多いため、年齢が若いほど理想的だと考えやすくなる。その影響から、「30代」の成員の中で最も若い30歳が理想例であると考えれば、それと最も離れている39歳を指している(72)の「30代の端くれ」のほうが、30歳を指している(73)より多少容認度が上がると考えられる。

なお、境界が明確で、ある基準点を超えれば全て同じ資格となる「セーフ」「合格」などのカテゴリにおいても、その基準点を少しだけ超えた周辺例であるという意味で「ぎりぎりX(である)」がよく用いられるが、「Xの端くれ」に置き換えることはできない。

(74)私は元々貧血持ちでこの間内科で採血しましたが貧血はぎりぎりセーフ／＊セーフの端くれ。もし心配であれば検査お勧めします。(例(25)を再掲)

(75)英検の自己採点しました、望月です。勉強しようといいつつほぼノー勉で、四十五点。なんか1次合格するかしないかの境目の点数なんですけど……。リスニングの前に三十分も時間余ったんだからちゃんと見直しすればよかったのに。ぎりぎり合格／＊合格の端くれか、不合格で判定A。(例(27)を再掲)

ただし、(76)のように、「合格の端くれ」が言える場合もある¹³。

(76)法学検定試験の結果が返ってきました。合格しました。ちゃんと合格証書をいただけで、ホッとしました。右上に「excellent」と表示してあるのですが、(中略)成績はこんな感じでした。excellent合格の端くれ(+2点)です。(https://ameblo.jp/be-a-lawyer-mom/entry-12343803101.html)

(76)では、話者が法学検定試験で63点を取り、61点から与えられる「excellent合

¹³ 検索エンジンYAHOO! JAPANにおいて「合格の端くれ」で検索すると、(76)の例のみ検索された。

格」となったことで、話者が自分（の成績）を「excellent合格の端くれ」と言い、周辺例として位置付けていると考えられる。この場合、「合格」が「合格者」に近い意味で用いられ、話者が自分自身のことをへりくだって言っていると思われ、カテゴリXが人間に関係することであると解釈できるため、「合格の端くれ」という表現が容認できるようになると考えられる。また、(76)の場合、100点が「excellent合格」の理想例と想定できるということも、「合格の端くれ」が容認できるもう一つの理由であると考えられる。実際、(77)のように自分自身のことを「合格者の端くれ」と言い、謙遜して言っている例もある。

(77)憲法学者には司法試験合格者でなくてもなれます。ただ、権威がある一流どころだと、司法試験合格者の憲法学者は多いです。もっとも、今回参考人として呼ばれた長谷部恭男早大教授は、憲法学会の権威であり、司法試験合格者の多くでさえも足元にも及ばない知性の持ち主です。民主党の参考人、小林節慶大名誉教授も慶大法学部を主席で卒業した強者です。司法試験合格しているか否かなんてどうでもいいレベルの賢者ですよ。私も司法試験合格者の端くれですが、先生方の足元にも及ばないのは言わずもがなです。(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q13146846128?__ysp=4oCd5ZCI5qC86ICF44Gu56uv44GP44KM4oCd)

以上の考察を踏まえ、カテゴリXの性質における両表現の違いをまとめる。

「ぎりぎりX（である）」：カテゴリXが「プロトタイプ・カテゴリ」である場合と、「必要十分条件に基づくカテゴリ」である場合の両方に用いられる。

「Xの端くれ」：カテゴリXが「必要十分条件に基づくカテゴリ」である場合、Xの成員が全て同じ資格でXの所属しているため、用いられにくい。ただし、Xの成員の中に「理想的な成員・立派な成員・優れている成員」が想定できる場合や、Xが「人間（の職業・身分・所属先など）」であると解釈でき、話者が自分自身のことを謙遜して言う場合は容認できることがある。

3.4.3.5 両表現の相違点④：表現効果

3.3節において、「Xの端くれ」の持つ4つの表現効果（謙遜、軽蔑、自慢、認定）を確認したが、本節では「ぎりぎりX（である）」もそれと同じ表現効果を持つかについて考察する。

- (78) コーラー一本で千二百字も書けるなんて、さすが美大を受験しようという人は想像力が豊かである。といつつ、私も物書きのはしくれ／??ぎりぎり物書きなので、写真のほかに2～3行のスペックしか資料のない聞いたこともないブランドの腕時計について、六百字くらいのデタラメ原稿を書いたことはあるけれど、千二百字となるとなかなか厳しい。（例(37)、(42)、(58)、(60)を再掲）
- (79) それより今日は何だかバタバタでおお客様にご迷惑を掛けてしまい申し訳ありませんでした(汗)言葉の通りツユだくいや、汗ダクでした。先日も常連様に「タオルかそか?」とか言われちゃって。ま、とても綺麗な奥様ですから甘えてもよかったです～が、流石に人間の端くれ／*ぎりぎり人間なので丁重にお断りしましたとき。（例(63)を再掲）
- (80) 私は中3で、都内の中高一貫校（進学校の端くれ／ぎりぎり進学校・・・程度）に通っています。現時点での全国的なレベルは分かりませんが、自分はまだまだです。（例(1)、(45)、(59)、(61)を再掲）

(78)～(80)は、話者が自分自身（の学校）のことを「Xの端くれ」と言い、Xの理想例と異なる周辺例として位置付け、謙遜の表現効果が見られる例文である。(78)の話者は実際作家を職業として活動しているため、「物書き」の理想例に近い可能性があるが、そのような自分自身をわざと「物書き」の周辺例として位置付け、謙遜の表現効果を出していると考えられる。この(78)の「物書きの端くれ」を「ぎりぎり物書き」に置き換えると、容認度が大きく下がる。すでに述べたように、「ぎりぎりX（である）」は話題の対象が「Xの成員であるか、それともX以外のカテゴリーの成員であるか」に焦点が当たるため、(78)のように実際「物書き」の中心例に近い可能性があり、完全に「物書き」の成員である話題の対象（話者）には用いられにくいと思われる。なお、(79)の話者も明らかに「人間」であり、この例文において「人間」と「人間」以外のカテゴリーを対比しているわけでもないため、「ぎりぎり人間」に置き換えることができない。一方、(80)の場合は、「進学校の端くれ」を「ぎりぎり進学校」に置き換えることができる。(80)では、話者が自分が通っている学校を「進学校」カテゴリーの周辺例であると言っているが、この例文の場合、話者が自分の学校のことをへりくだって言っている可能性もあるが、実際「進学校」の周辺例である可能性も排除できず、(78)と(79)に比べると話題の対象が実際周辺例である可能性が十分にある。なお、すでに確認したように、「ぎりぎりX（である）」は「Xの端くれ」とは違い、Xが時間や数字に関わるカテゴリーである場合にもよく用いられる。「進学校であるか否か」は一流大学に合格した卒業生数や偏差値などの数値が判断の基準になるため、「ぎりぎり進学校」は自然に用いられる表現である。このような理由から、(80)の

「ぎりぎり進学校」は(78)の「ぎりぎり物書き」、(79)の「ぎりぎり人間」に比べ、容認度が高くなると考えられる。ただし、次の(81)のような場合は、話者の実際の成績は合格の基準よりはるかに高いが、謙遜して基準点に近い周辺例であるかのように言っている可能性がある。

(81)A：田中君、大学に合格したんだって？おめでとう！

B：ありがとう。と言っても、**ぎりぎり合格**なんだけどね。（作例）

しかし、(81)において謙遜の表現効果が生じるのは話者が事実を反することを言っている場合であり、聴者は実際話題の対象が周辺例であるかどうか判断できない。

「Xの端くれ」は(79)のように、聴者（読者）が話題の対象がXの周辺例ではないことを明確に分かっている場合にも用いられるという点で、「ぎりぎりX（である）」とは異なる。

以上のことから、「ぎりぎりX（である）」には、「Xの端くれ」に比べ、話題の対象のXにおける位置の食い違いから生じる謙遜の表現効果が顕著には現れない（聴者（読者）にも事実を反するということがわかっている場合のみ現れる）と考えられる。

次に、「Xの端くれ」の持つ軽蔑の表現効果について考えてみる。軽蔑の場合、話題の対象が実際Xの理想例とかけ離れている周辺例であることから（一）の評価性が加わるが、「ぎりぎりX（である）」もこのような表現効果を持つ場合があると思われる。

(82)豪華バスに乗って宿へ。宿でランク分けされているらしい。俺たちは鉄路休養所という安そうなところ。**ぎりぎりホテル**と呼べるレベル（←早口言葉みたい）。

T氏も窓際で寒い思いをしていたらしく、部屋に入るなり暖房のチェック。スイッチ入らない。（<http://akiyamatoshihiro.no.coocan.jp/shhs3.htm>）

(83)「世界に冠たる獣医学部」って、はあ…？太学設置審でぎりぎり合格したくせに偉そうに太言壮語するんじゃないよ！（https://blogs.yahoo.co.jp/ennkuubutu_0413/40753539.html?__yssp=4oCd44G044KK44G044KK5ZCI5qC844GX44Gf44GP44Gb44Gr4oCd）¹⁴

(82)では、話者が中国旅行で泊まることになった宿を「ホテル」カテゴリーの理想

¹⁴ (83)の「ぎりぎり合格した」は「ぎりぎりX（である）」の形式ではないが、3.2節で述べたように、「合格する」をカテゴリーXであると考えれば、話題の対象が合格基準に近い周辺例であるという意味で、「ぎりぎり合格」と同じ事態を表しており、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」と言えると考えられる。

例と比較し、それと異なり、安そうで暖房のスイッチも入らないことから「ホテル」の周辺例として位置付けている。(83)の話者は、実は話題の対象が大学設置審議会で合格基準に近い、低い評価を得ているにもかかわらず、「世界に冠たる獣医学部」と言っていることから、「ぎりぎり合格したくせに」と言い、軽蔑していると思われる。このようなことから、「ぎりぎりX(である)」も軽蔑の表現効果を持つ場合があると言える。

さらに、「ぎりぎりX(である)」が「Xの端くれ」の持つ自慢の表現効果を持つかについて見てみる。

(84)「私はこれでも実業家の端くれ／??ぎりぎり実業家だよ。社長ほどにはなれんだろうが、膝頭くらいまでは這い上がりたと思っている。(省略)」(例(39)、(50)を再掲)

(85)部屋を出て、ロビーにおりて行くと、ボーイが、水死体が、流れついたのだという。島の南端の方だと聞いて、小早川は、ホテルを出た。小さな浜になっているところに、人垣が出来ていた。その人垣の中に、立花重矢の姿があった。近づいて、「早いね」と、声をかけると、「ジャーナリストの端くれ／*ぎりぎりジャーナリストですからね」(例(52)を再掲)

(84)では、ある会社の専務である話者が自分のことを「実業家」の周辺例として位置付けながらも、「実業家」の成員であることを誇らしく述べている。(85)でも、話者が周辺例ではあるが、「ジャーナリスト」の一員であることを自信を持って言っている。このように、自慢の表現効果を持つ「Xの端くれ」を「ぎりぎりX(である)」に置き換えると、容認度が大きく下がる。これは、「ぎりぎりX(である)」の場合、話題の対象が「Xの成員であるか否か」に焦点が置かれ、「あと少しでXの成員ではなくなる可能性がある」という不安なニュアンスが感じられるためであると思われる。したがって、「ぎりぎりX(である)」は自慢の表現効果を持たないと言える。

最後に、「ぎりぎりX(である)」が「Xの端くれ」のような認定の表現効果を持つかについて確認する。

(86)「そうかもしれませんが。でも、あたし、初めて父に大きな嘘をつきました。先生と京都に行きたいがために、平然と」鷺津は息苦しさを覚えた。個人営業とはいえ、一応は教育者の端くれ／??ぎりぎり教育者だ。家庭教師にそこまでモラルは要求されないのかもしれないが、忸怩たるものがある。(例(56)を再掲)

(87)病気でもない主人が、私のために犠牲になったんですけれど、このときは、この病気だと宣告された以上に苦しみ、いっそのこと死んでしまいたいと思いまし

た。けれど、私たちは「クリスチャン」の端くれ／*ぎりぎり「クリスチャン」です。自分で命を絶つことは罪だと教えられていますから、死ぬに死ねません。（例(57)を再掲）

(88) 富永有隣も、そうである。この男の家は代々御膳部役という、藩主の食事の世話をする小役人だった。家禄はわずか二十七石にすぎないが、「士分」のはしくれ／??ぎりぎり「士分」であることはまちがいない。（例(54)を再掲）

(86)では、話者が家庭教師である自分のことを「教育者」の周辺例として位置付けている。(87)では、話者が自分を含めた複数の人（(87)において話者の話を聞いている聴者）が「クリスチャン」の理想例とは異なるかもしれないが、その一員であることは確かであると強く主張している。(88)では、話者が話題の対象である富永有隣の身分を「士分」の周辺例として位置付けている。自慢の場合と同じく、認定の表現効果も話題の対象が他ではなく、Xの成員であることを認めるというものであるため、「ぎりぎりX（である）」に置き換えると容認度が大きく下がると考えられる。

以上を踏まえ、両表現に表れる表現効果に関する以上の考察をまとめると、次のようになる。

「Xの端くれ」：「謙遜・軽蔑・自慢・認定」の表現効果を持つ。

「ぎりぎりX（である）」：「Xの端くれ」の持つ表現効果の中で、「ぎりぎりX（である）」にも顕著に表れるのは「軽蔑」のみである。

3.4.4 まとめ

本節では「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての「ぎりぎりX（である）」と「Xの端くれ」を類義表現と見なし、両表現の共通点と相違点について考察した。考察の結果は以下の通りである。

両表現の共通点：話者がカテゴリーXの理想例から成る下位カテゴリーを思い浮かべ、話題の対象をXの理想例と比較し、それと異なることから、Xの下位カテゴリーを拡張させ、話題の対象をその拡張されたカテゴリーに周辺例として位置づける。

両表現の相違点①焦点の場所

「ぎりぎりX（である）」：話題の対象がカテゴリーXの成員であるか、それともXと対立する別のカテゴリーの成員であるかに焦点が置かれる。

「Xの端くれ」：話題の対象がカテゴリーXの成員であることは認めた上で、Xの理想的な成員であるか否かに焦点が置かれる。

両表現の相違点②Xの中心例

「ぎりぎりX（である）」：話題の対象と比較されるXの中心例には、「典型例」「理想例」「顕著例」「ステレオタイプ」がある。

「Xの端くれ」：話題の対象と比較されるXの中心例は「理想例」のみであり、その中でも特に「立派な成員・優れている成員」である。

両表現の相違点③Xの性質

「ぎりぎりX（である）」：カテゴリーXが「プロトタイプ・カテゴリー」である場合と、「必要十分条件に基づくカテゴリー」である場合の両方に用いられる。

「Xの端くれ」：カテゴリーXが「必要十分条件に基づくカテゴリー」である場合、Xの成員が全て同じ資格でXに所属しているため、用いられにくい。ただし、Xの成員の中に「理想的な成員・立派な成員・優れている成員」が想定できる場合や、Xが「人間（の職業・身分・所属先など）」であると解釈でき、話者が自分自身のことを謙遜して言う場合は容認できることがある。さらに、カテゴリーXは「人間（の職業・身分・所属先など）」である場合が多いが、Xの中心例として「立派な成員・優れている成員」が想定できる場合、Xが「人間（の職業・身分・所属先など）」以外のものでも言える。

両表現の相違点④表現効果

「ぎりぎりX（である）」：「Xの端くれ」の持つ表現効果の中で、「ぎりぎりX（である）」にも顕著に表れるのは「軽蔑」のみである。

「Xの端くれ」：「謙遜・軽蔑・自慢・認定」の表現効果を持つ。

3.5 第三章のまとめ

第三章では、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」の中、話題の対象があるカテゴリーXの境界に近いことを表す「ぎりぎりX（である）」と「Xの端くれ」について考察した。「ぎりぎりX（である）」と「Xの端くれ」の「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴をまとめる。

「ぎりぎりX（である）」は、「境界に近い」ということが非常に重要であり、カテゴリーの境界及び、成員間に「Xらしさ」の差があるかどうかにより、カテゴリー化の様相が異なるため、①Xがプロトタイプ・カテゴリーである場合と、②Xが必要十分条件に基づくカテゴリーである場合に分けて考察した。①の場合は、カテゴリーの

境界があいまいであり、成員間に「Xらしさ」の差も大きいため、話題の対象がXの成員であるかどうか重要な問題となり、最もXらしいと話者が判断する中心例（典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ）に照らし、Xの成員であるかどうか判断され、それと異なることから周辺例としてXの境界に近いところに位置づけられる。②の場合は、境界が明確で、成員間に「Xらしさ」の差がなく、Xの中心例が存在しないのが特徴である。そのため、カテゴリーの際はXに属するための条件を満たしていれば、Xの成員として位置づけられる。ほとんどは時間・数値などに関わるカテゴリーであり、その時間・数値などが基準（境界）となり、その基準に近ければ「ぎりぎりX（である）」が用いられる。

「Xの端くれ」は話者の評価が強く感じられる表現であり、「Xの端くれ」を用いることから生じる表現効果によって異なるカテゴリー化の様相が見られる。①謙遜はXの中心例が（+）の評価性を持つことに焦点が当てられ、話者が中心例である可能性があるにもかかわらず、自分自身を周辺例として位置づけることで、わざと（+）評価を避ける。このような話者自身の周辺例としての位置付けと聴者（読者）が知っている実際の位置の食い違いから謙遜の意味が生じると言える。②軽蔑はXの周辺例が（-）評価性を持つということに焦点が当てられ、話者が自分以外の人を悪く評価する際に用いられる。③自慢はXの周辺例であってもXの成員であることに焦点が当てられ、④認定は話題の対象がXの周辺例に位置づけられることに（-）ではない評価が持たされ、Xの成員であることを認める意味となる。「Xの端くれ」におけるXは職業・身分である場合が多く、中心に行くほど（+）評価が強くなり、中心例は理想例であり、理想例と異なることから話題の対象が周辺例としてカテゴリー化される。

「ぎりぎりX（である）」（Xがプロトタイプ・カテゴリーである場合）と「Xの端くれ」は、話題の対象をXの中心例と比較し、それと異なることから周辺例としてカテゴリー化するという点と、Xの中心例から成る下位カテゴリーを拡張し、その拡張したXの中に周辺例として位置づけるという点において共通点が見られる。一方、「ぎりぎりX（である）」の話者の焦点は「話題の対象がXの成員であるか否か」にあり、その境界の向こうに別のカテゴリーの存在が含意され、「Xの端くれ」の話者の焦点は「話題の対象がXの理想例であるか否か」にあり、話題の対象がXの成員であることは明確であるという点において異なる。

第四章 「比喩」用法を持つ表現の分析

4.1 はじめに

第四章では、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」の中で「まるでX（である）」と「もはやX（である）」を取り上げ、考察する。両表現は、次の例(1)のように、「比喩」用法を持つという共通点があり、「比喩」用法で用いられる際は互いに置き換えられる場合がある。

- (1) フォルステルが顎で助手席を示した。「こっちへ来い」スコットは抵抗する気力を失い、もはや／まるで操り人形だった。（中島渉『サザンクロス流れて』BC CWJ）

本節では、両表現に見られる「比喩」用法における「カテゴリー化の様相」に注目し、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての「まるでX（である）」と「もはやX（である）」の特徴を明らかにし、両表現がどのような相違点を持ち、どのように位置づけられるかについて考察する。

4.2 「まるでX（である）」

4.2.1 考察の対象と目的

「まるで」には、例(2)のように、「比喩」用法、「完全否定」用法、そして「強意」用法があると考えられる。

- (2)a. (夕食)「おいしい?」「うん、まるでレストランの味だね」(飛田・浅田 2003の例(2)③)
b. 漢字がまるで読めない。(『大辞林 第三版』の例)
c. 背負ってみて驚いたが、まるで軽いのである。(水谷 1995: 100の例#1)

(2b)の「完全否定」用法では、「まるで」が否定形式を伴い、否定の程度を強め、(2c)の「強意」用法でも「まるで」は被修飾部の意味を強める役割を果たしているため、本研究の考察対象である「カテゴリーの周辺例を明示する表現」ではない。一方、(2a)の「比喩」用法では、話題の対象(夕食の料理)が別のカテゴリー(レストランの味)の成員と何らかの点で非常に類似していることを表し、話題の対象を元のカテ

ゴリーではない、別のカテゴリーの周辺例としてカテゴリー化し直すというカテゴリー化の様相が見られる。4.2節では、「まるで」の「比喩」用法に見られる話者のカテゴリー化の様相について考察し、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての「まるで」の特徴を明らかにすることを目的とする。

なお、本節では、「比喩」用法で用いられた「まるで」の中で、話者によるカテゴリー化の様子が最も観察しやすいと考えられる「まるで+カテゴリー名X（+カテゴリー化に関わる表現）」（以下、「まるでX（である）」）の形式を考察対象とし、分析を行う¹⁵。しかし、「まるでX（である）」形式でも、下の例(3)のように、「完全否定」用法(3a)や「強意」用法(3b)で用いられる場合もある。

- (3)a. しかし、自分が幸せになりたいということを受け入れない限りは幸福になることは**まるで**不可能である。(http://www.neol.jp/culture/65707/)
- b. ところが、事実は**まるで**反対だった。(小池 2003: 400の「強意」の例(18))
- (4) 遭難真冬に軽装で登るなんて**まるで**バカだよ。(飛田・浅田 2003の例(1)⑤)

(3)のような場合は、話者が話題の対象を「不可能」「反対」カテゴリーの成員との類似性に基づき、周辺例としてカテゴリー化しているというよりは、話題の対象を「不可能」「反対」カテゴリーの成員そのものであると位置づけていると考えられ、「比喩」用法に見られるカテゴリー化とは異なる様相が見られる。しかし、(4)のように、「比喩」用法であるか、それとも「強意」用法であるか明確な区別ができない場合もあり、「まるで」の3つの用法は明確に区別できるものではなく、連続的であると考えられる。したがって、4.2.2節では「まるで」の用法に関する先行研究を概観し、それを踏まえて4.2.3節では「まるで」の3つの用法の連続性が見られる例文も取り上げ、各用法におけるカテゴリー化の様相の相違点を確認する。

¹⁵ 3.2節の「ぎりぎり」と同じく、「まるで」の「比喩」用法においても下の例文のように、「まるで」の後ろにカテゴリー名（名詞）ではなく、動詞や形容詞（を含む表現）が後続する場合がある。そのような場合でも、広い意味で話者によるカテゴリー化が行われると考えるが、分析の便宜上、分析対象からは省く。

(例) グリーンランドの西岸で最後の買いものとしてエスキモー犬二十匹を積みこんだ七人の探検船ヨア号は、長い航海と越冬のための荷物を満載し、甲板にもすきまなく積み上げて、まるで大きな荷車が海上に浮いたような格好だった。(本多勝一『アムンセンとスコット—南極点への到達に賭ける』BCCWJ)

(例) イシカワは、「もしも離婚した場合は」とつけ加えてから言った。「**まるで**あなたが悪いみたいに、人がじろじろ見ますよ」(ジェーン・コンドン(著)/石井清子(訳)『半歩さがって』BCCWJ)

4.2.2 先行研究

「まるで」の意味・用法に関して記述している先行研究には、辞書類をはじめ、様々なものがあるが、「まるで」に見られる「カテゴリー化」の様相に注目して考察している先行研究は管見の限り見当たらない。

以下、先行研究の記述を検討する。

『日本国語大辞典 第二版』

まる - で 【丸一】〔副〕（「まる（丸）【一】〔二〕（3）」から）

(1) まさしくその状態に相当したり、類似したりするさまを表わす語。ちょうど。

さながら。あたかも。

* 歌謡・落葉集〔1704〕四・三国玉屋踊「三国玉屋の新兵衛を見たか、三国一のやさ男、まるでまるで繻子の鬢付刷毛長に釣鬢釣鬢、なぜに小鶴は出て待たぬぞ」

* 浮世草子・当世芝居気質〔1777〕三・二「かづらを取れば天窓（てんま）は丸（マル）で茶瓶」

* 怪談牡丹燈籠〔1884〕〈三遊亭円朝〉一五「恰（マル）で河岸で鮪でもこなす様に切て仕舞ひました」

* 多情多恨〔1896〕〈尾崎紅葉〉前・二「君の社会的の目から見たら宛然（マルデ）子供だらう。君の言ふ所は世間の行ふ所なのだらう」

* 火の柱〔1904〕〈木下尚江〉二四・五「神様が嫁さんだなんて、全然（マルデ）怪物だの」

* 銀河鉄道の夜〔1927頃か〕〈宮沢賢治〉九「あすこの岸のずうっと向うにまるでけむりのやうな小さな青い火が見える」

(2) 完全にその状態であることを強めていう語。まったく。

* 交易問答〔1869〕〈加藤弘之〉上「併丸（マル）で初から交易をしなければ、諸色が始終下直なりに居すわって居るから」

* 当世書生气質〔1885～86〕〈坪内逍遙〉八「全然（マル）で感覚がなくなります」

* 二人女房〔1891～92〕〈尾崎紅葉〉上・五「お前の娘時代とは、全然（マルデ）了簡が別だといふ事さ」

* 吾輩は猫である〔1905～06〕〈夏目漱石〉一〇「寒月さんは丸で御存じないんでせう」

『大辞林 第三版』

まるで【丸で】（副）

- ①下に否定的な意味の語を伴って否定の意を強める。まるきり。全然。「漢字が一読めない」「一違う」
- ②どのような点から見てもほとんど同じであるさま。ちょうど。さながら。「一嵐のようだ」「一子供だ」

『デジタル大辞泉』

まる - で 【丸で】 [副]

- 1 違いがわからないほどあるものやある状態に類似しているさま。あたかも。さながら。「この惨状は一地獄だ」「一夢のよう」
- 2 (下に否定的な意味の語を伴って)まさしくその状態であるさま。すっかり。まったく。「一だめだ」「兄弟だが一違う」

まず、辞書類における記述を見ると、ほとんどの辞書において「比喩」用法ともう1つの用法の2つの意味・用法のみが記述されている。『日本国語大辞典 第二版』では「比喩」用法と「強意」用法の意味が記述されているように見えるが、実際「強意」用法の例文はほとんどが否定表現を伴っており、「完全否定」用法とも捉えられる。その他の辞書では「比喩」用法と「完全否定」用法の意味が記述されているが、全ての辞書で取り上げられている「比喩」用法の記述において、話者によるカテゴリー化は言及されていない。

「まるで」の意味・用法間の関係について述べている先行研究には、水谷(1995)がある。水谷(1995)では、「まるで」の陳述拘束に注目して「否定」「比況」の他に「強意」の意味があることを指摘し、3つの用法を認めている。特に、「まるで」は「比況」の意味で「よう」と呼応することが多いが、「ない」と呼応して「否定」の意味で用いられることもあり、何も呼応せず「強意」の意味で用いられる(5)のような例もあることを実例の統計を通して主張している。

(5)背負ってみて驚いたが、**まるで**軽いのである。(例(1c)を再掲)

特に、この「強意」が「まるで」の原義であり、ここから否定・比況それぞれの意味・用法が派生したと述べられており、「まるで」の意味・用法全体の関係について言及していることが特徴である。この指摘を踏まえ、本研究でも「まるで」の3つの用法が連続的に存在すると考え、考察を進める。

次に、小池(2003)では、「まるで」とその他の「比況(比喩)」のモダリティ副詞の意味を「比況」と「非比況」に分け、その使われ方と呼応形式の変遷とパターンについて述べ、「まるで」の「非比況」に「強意」と「全否定」があることに言及して

いる。しかし、水谷(1995)と小池(2003)では、「まるで」と呼応する形式に焦点が当てられており、話者によるカテゴリー化の様相には言及していない。したがって、次節では「まるで」の「比喩」用法を中心に話者によるカテゴリー化の様相における各用法の相違点についてより詳細な分析を行う。

「まるで」の「強意」の意味・用法に関しては、中村(1977: 143-144)においても簡単な記述がある。その記述では、比喩の指標「よう」を除いた場合の比喩表現の形式の種類の一つとして「強意」があり、「まるで」はこの「強意」の表現として分類されている。しかし、中村(1977)では、「まるで」に「比喩」の意味と「強意」の意味があると述べているわけではなく、あくまでも「比喩」表現の分類（〔類似〕ゾウのように太い足、〔同一〕ゾウ（と、も）同じ太い足、〔比較〕ゾウに（も）近い太い足、〔混同〕ゾウ（か）と（も）思う太い足、〔連想〕ゾウを考えさせる太い足、〔強意〕太い足はまるでゾウだ、〔限定〕太い足はいわばゾウだ）を目的に、いくつかの「比喩」表現を「強意」の表現としてまとめているだけである。「このような強意の語を添えるのは、事実としては違うことを認めた上で、修辭意識の働いた結果だ、と考えられる場合が多いので、これらも比喩の指標の役を果たす可能性がある（中村1977: 144）」と述べていることから、「強意」と「比喩」を異なる意味として認めているわけではないことが窺えるが、これは同時に両意味・用法の関連性を示唆していると考えられ、参考にしたい。さらに、中村(1977)では、「比喩が何を何にたとえるかを見ていくと、あるカテゴリーから他のあるカテゴリーへの移行が認められる」と述べ、比喩表現とカテゴリーの転換に関しても言及している。しかし、実際は「物体」「人間」「動物」「抽象物」など、個別のカテゴリー間の移行というよりは、異なる認知領域間の移行について述べていると考えられる。例えば、炊飯器を「ご飯たきの名人」と言うような物体から人間への転換、「〇〇毛布はネコもごぞんじ」のような動物の擬人化、「春の暖かさに手を通す」（衣料品）のような抽象体の物体化などの例が挙げられ、分析されている。そのため、本研究では、事例に基づき、より具体的で個別的なカテゴリー間の移行、すなわち、話題の対象が話者によって本来属しているカテゴリーから別のカテゴリーへカテゴリー化される様相に注目し、より深く考察したい。

最後に、小矢野(1995、1997)では、それぞれ主に「否定」表現と呼応する程度副詞としての「まるで」と、「比況（比喩）」を表すモダリティ副詞としての「まるで」に関して考察が行われている。そこでは、「まるで」の全否定のエネルギーがそのまま全肯定のエネルギーとして最大極限值であることに転換すると述べ、このような転換は「比況（比喩）」の用法を媒介にしていると考えられると述べている。本研究でもこれを踏まえ、「まるで」の「強意」用法と「完全否定」及び「比喩（比況）」用法との関係について考察したい。なお、小矢野(1997)において、「まるで」は異種

または同種のモノやコトやサマの「典型例」を「例示」すると述べられているが、この「典型例」は本研究で援用している「典型例」とは異なる意味で用いられているように思われる。

- (6)a. (夕食)「おいしい?」「うん、まるでレストランの味だね」(例(2a)を再掲)
b. あいつはいつもわがままばかり言って、まるで子供だ。(作例)

例えば、(6a)では、「レストランの味」カテゴリーの理想例(おいしいレストランの味)を例示し、(6b)では「子供」カテゴリーのステレオタイプ(よくわがままを言う一部の子供)を例示していると考えられ、例示されるのはあるカテゴリーの典型例だけではなく、様々であると考えられる。そのため、百科事典的意味観の観点から「まるで」によって例示されるカテゴリーの成員がどのようなものかを見ることで、「まるで」の「比喩」用法に見られる「話者のカテゴリー化」に関するより精緻な記述を試みたい。

すでに述べたように、本節の考察対象は「まるで」の「比喩」用法の例文においても「話者のカテゴリー化」が最も明確に現れる「まるでX(である)」の形式である。従来の研究において、このような形式は「比喩」用法の例として取り上げられる場合が多かった。しかし、「まるで」の呼応形式に注目し、「強意」の意味・用法について言及している水谷(1995)と小池(2003)では、「まるで」が「強意」の意味で用いられる場合、それぞれ「(例(6)のように)呼応形式の拘束が見えない(水谷 1995: 100)」、「(例(7)のように)ゼロ形式¹⁶または名詞+ダと呼応する(小池 2003: 400)」と記述している。

- (7)背負ってみて驚いたが、**まるで**軽いのである。(例(2c)、(5)を再掲)

- (8)a. 万里子だと直感したが、声が記憶にある彼女と**まるで**違う¹⁷。(小池 2003: 400の例(17))

¹⁶ 小池(2003)における「ゼロ形式」とは、考察対象の副詞と共起している動詞、助動詞、形容動詞(ナ形容詞)などの形式の中で、「比況の助動詞(ヨウ、ミタイ、ゴト)」以外の、用言の活用形が共起している場合を指す(小池 2003: 394-395)。

¹⁷ 「まるで違う」という形式における「まるで」に関しては、先行研究により「完全否定」と「強意」のどちらに分類するかに違いが見られる。小池(2003)では「強意」に分類しているが、水谷(1995)、飛田・浅田(2003)、朴(2016)では「完全否定」に分類している。小矢野(1995)では、全体的に「まるで」が主に否定表現と呼応し、程度副詞として用いられることについて述べられており、「完全否定」と「強意」を区別していないように思われる。しかし、その中でも「まるで違う」に関しては、「違う」を異同関係概念を含む単語とし、否定を表す他の表現と区別して取り扱っており、「他の程度副詞+違う」に比べ、「まるで違う」は相違性が極限的に大きいことを表すことを指摘しているため、「強意」に近い解釈をしていると考えられる。

b. ところが、事実は**まるで**反対だった。（例(3b)を再掲）

前節で述べたように、本研究では同じ「まるでX（である）」形式でも全ての用法で用いられると考えるが、「話者のカテゴリー化」が最も明確に見られる「比喻」用法の「まるでX（である）」の形式を対象にし、考察を行うことにする。

4.2.3 「まるでX（である）」に見られるカテゴリー化の様相

4.2.3.1 カテゴリーの周辺例を明示する「まるでX（である）」

(9)床の上に巨大なガス火が据えつけてあって、その上に、これまた巨大な鍋が置いてある。**まるで**五右衛門風呂である。（樋口容視子『住んでみたサウジアラビア』BCCWJ）

(9)の話者は、話題の対象である「巨大な鍋」を見て、その大きさや形などが「五右衛門風呂」カテゴリーの成員と類似していることから、「まるで五右衛門風呂である」と言っていると考えられる。ここで、話題の対象が実際「五右衛門風呂」である場合は、「まるで五右衛門風呂である」と言えないことから、話題の対象は「五右衛門風呂」の成員ではなく、別のカテゴリー（「鍋」）の成員であることが分かる。しかし、話者は話題の対象の巨大さや形などから、それと似ている「五右衛門風呂」を取り上げ、その成員と同一視し、「五右衛門風呂」カテゴリーにカテゴリー化していると考えられる。このような「話者によるカテゴリー化」は中村(1977)で言及された「カテゴリー間の移行」であると思われる。さらに、「まるで」の「カテゴリー化」における話題の対象の位置について考えてみると、話題の対象は実際「鍋」の成員ではあるが、その巨大さから「鍋」カテゴリーの中心例ではなく周辺例であると思われる。また、「カテゴリー化」しても実際「五右衛門風呂」の成員ではないことから、「五右衛門風呂」の中心例と異なる点が多いため、周辺例として位置づけられると考えられる。このようなことから、「比喻」用法で用いられた「まるでX（である）」は「カテゴリーの周辺例を明示する表現」であると言える。これを図に表すと、次の図1のようになる。

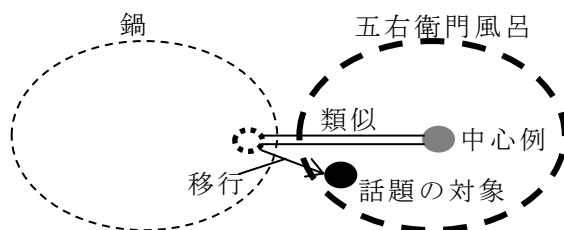


図1 例(9)の「まるで五右衛門風呂である」

4.2.3.2 「まるでX(である)」に見られる3つの用法の連続性

(10) 「自殺の夢か」「毎晩、同じ夢ばかりみるのよ。気味が悪いったらありゃしない」「まるで怪談だな」(小林久三『首のない女優』BCCWJ)

(10)の話者は、話題の対象「自殺の夢の話」が持つ「怖い」という属性が、別のカテゴリー「怪談」の中心例が持つ最も際立つ属性と類似していることから、話題の対象をカテゴリー化している。ここで、「自殺の夢の話」カテゴリーと、カテゴリー化される「怪談」カテゴリーとの間には、どちらのカテゴリーにおいても一般性の程度(あるカテゴリーのどれだけの成員に当てはまるかという程度)がほぼ完全な属性である「怖い話」という顕著な共通点がある。そのため、話題の対象を別のカテゴリーのものにたとえて言う「比喩」の典型的な例ではなく、小矢野(1997)で指摘されている「全否定から全肯定への転換」、及び水谷(1995)と小池(2003)における「強意」用法にも近いところがあると思われる。しかし、(10)の「自殺の夢の話」は実際起きていることであり、虚構性を持つ「怪談」とは異なる点があるため、本来「怪談」カテゴリーの成員ではないという点では「比喩」用法と見なすことができる。「まるで怪談だな」の「怪談」を、「自殺の夢」を成員として含む「悪夢」に置き換え、「まるで悪夢だな」にすると非文になることから、(10)の話題の対象は「悪夢」カテゴリーの成員であり、「怪談」カテゴリーの成員ではないということが確認できる。

(11) (遭難)真冬に軽装で登るなんてまるでバカだよ。(例(4)を再掲)

(11)の話者による「カテゴリー化」の様相を見てみると、話者が「真冬に軽装で山に登った人」が「バカ」の中心例(知能が低く、愚かな人)と類似していることから「普通の人」カテゴリーから「バカ」カテゴリーへとカテゴリー化していると考えられる。このように考えると「比喩」用法の例と見なすこともできるが、(11)は飛田・浅田(2003)において「完全否定(後ろに打消しや否定の表現を伴って、打消しを誇張する様子を表す)」の例として取り上げられ、「表現自体は肯定でも内容が否定的な事柄を誇張する場合もある」と説明されている例である。しかし、否定形式を伴っているわけではないため、典型的な「完全否定」用法であるとは言えないと考えられる。朴(2016)では「完全否定を表す副詞」の一つとして「まるで」を取り上げ、「まるで」が「完全否定」を表す場合に共起する述語のタイプとして、動詞の否定形式や形容詞相当の否定形式(～(が/の)ない)、語彙的否定形式があると述べている。その中で、語彙的否定形式には「欠如・消滅」系(まるで無縁ではありませんか)、「不一致」系(まるで違う)、「負の評価」系(まるで下手)、「気にしない系(まるで平気

だった) があると指摘しているが、「バカ」のような語には言及していない。また、(11)は話題の対象が「バカ」カテゴリーの成員であることを強めて言う「強意」用法の例と見なすこともできると考えられ、「まるで」の3つの用法の連続性が窺える例であるとする。これは、「バカ」が他のカテゴリーよりも、ある話題の対象が「バカ」の成員であるかどうかを客観的に判断できない点、否定的な意味合いを持っている語である点によるものであると思われる。というのは、「バカ」が持つ否定的な意味合いに焦点を合わせると、飛田・浅田(2003)のように「完全否定」用法と見なすことができ、話題の対象の元のカテゴリーが「バカではない普通の人」であれば「比喻」用法と見なし、元のカテゴリーが「バカ」であれば「強意」用法と見なすことができるためである。(11)のような例から、「まるで」の3つの用法は明確に区別できるものではなく、連続的に存在していると言える。

4.2.3.3 カテゴリーXの特徴

4.2.3.1節において、「比喻」用法の「まるでX(である)」は話者が話題の対象を別のカテゴリーXに周辺例として位置付ける表現であることを確認したが、話者はどうして話題の対象をXの周辺例としてカテゴリー化するのだろうか。その答えは「まるでX(である)」のXに入るカテゴリーの特徴から得ることができると考えられる。

(12) (夕食) 「おいしい?」 「うん、まるで レストランの味 だね」 (例(2a)、(6a)を再掲)

(13) しかし、連れていったというものの、山登りとなると、私はまるでみんなについていけず、逆に子供たちから励まされて、ついていくのがやっとだった。「オーイ、遅いぞー、ガンバレー」と、子供からまるで 友達扱い であった。

(斎藤茂太『いま家族しか子供を守れない』BCCWJ)

(14) 昨年末からのビットコインの値動きは、まるで「ジェットコースター」だ。2.3.0万円超で天井を打ったビットコインは乱高下している。 (週刊エコノミスト 2018年02月06日号)

(12)～(14)を見ると、話者は話題の対象の「おいしさ」「ぞんざいな言い方や態度」「乱高下しているさま」に注目している。そして、そのような性質を持っている物事の中で最も分かりやすく想起しやすいのは、(12)～(14)のカテゴリーXとして取り上げられている「レストランの味」「友達扱い」「ジェットコースター」である。すなわち、話者はカテゴリーXを「参照点」として用いて、話題の対象の持つある性質をより分かりやすく聴者に伝えようとしていると考えられる。

(15)就活が早期に始まっていることなんて、「就活 開始 実態」でググれば出てくることなのに。それとも、皆は自分がいる環境に対して、何も疑いもせず、自分から情報を取りに行くことをしない人達なのだろうか？だとしたら、文部科学省の教育は**まるで失敗**だ。「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」なんてキャッチフレーズは意味を成していない。(https://www.facebook.com/1989kitakita/posts/1689062644736642)

(16)先日、ちょっとした不注意でバックした際、後部バンパーを傷めてしまった。(中略)ディーラー曰く、修理費は約4万5千円ですが、これは自費で払った方がお得ですよ。と。聴いてみると、現在の保険料は、年間6万円程だが、一度保険を使うと以後2年間は年間保険料が10万円超えになる、よって2年間で8万円の出費増になる、よって自費で払った方がお得であるとの趣旨。しかし、一度保険を使ったら、保険料が4万円も上がるなんて納得いかない。これじゃ何のための保険か分からないではないか。**まるで詐欺**だ。(https://smcb.jp/diaries/7433606)

(15)と(16)を見ると、話者は「文部科学省の教育方針が成果を出していないこと」と「保険料を払ってきたのにそれに頼ることができず、保険料の定め方に納得がいかないこと」に注目し、話題の対象を「失敗」「詐欺」カテゴリーにカテゴリー化している。しかし、(15)と(16)において、話題の対象を「失敗」「詐欺」にカテゴリー化したのは、一部の現象に基づき、話者が個人的な意見を誇張して言ったものであり、実際に文部科学省の教育方針が失敗し、自動車保険制度が詐欺と判明したわけではない。つまり、話者は話題の対象の問題点を聴者に強く認識させるために、「成果を出していないこと」「期待を裏切ること、納得がいかないこと」の最も顕著な事例として「失敗」「詐欺」カテゴリーを用いて、そこに話題の対象を周辺例としてカテゴリー化したのであると考えられる。

以上の考察から、「まるで」の「比喻」用法において選ばれるカテゴリーXは、単に話題の対象と類似しているカテゴリーではなく、話者が注目している話題の対象の性質が聴者に最も分かりやすく、強く認識できるカテゴリー、すなわち、話者が注目している性質を持つ物事から成るカテゴリーの中で最もその性質が顕著であり際立つ顕著例であると言える。

4.2.3.4 カテゴリーXの中心例の特徴

本節では、「比喻」用法で用いられた「まるでX(である)」において、話者が話題の対象をカテゴリーXのどのような成員と比較し、カテゴリー化を行うかについて

考察する。4.2.3.1節では、次の(17)を取り上げ、話者が話題の対象である「巨大な鍋」を「五右衛門風呂」カテゴリーの中心例と類似していることからそこに周辺例としてカテゴリー化することを述べた。

(17)床の上に巨大なガス火が据えつけてあって、その上に、これまた巨大な鍋が置いてある。**まるで**五右衛門風呂である。(例(9)を再掲)

ここで、話題の対象と比較される「五右衛門風呂」カテゴリーの中心例は、一般的な鍋より大きい、人が入れる大きさの五右衛門風呂、つまり、典型例であると考えられる。

(18)(夕食)「おいしい?」「うん、**まるで**レストランの味だね」(例(2a)、(6a)、(12)を再掲)

(19)(遭難)真冬に軽装で登るなんて**まるで**バカだよ。(例(4)、(11)を再掲)

(20)しかし、連れていったというものの、山登りとなると、私はまるでみんなについていけず、逆に子供たちから励まされて、ついていくのがやっとだった。「オーイ、遅いぞー、ガンバレー」と、子供から**まるで**友達扱いであった。(例(13)を再掲)

さらに、(18)では、話者が話題の対象を「レストランの味」の理想例(おいしいレストランの料理の味)と比較し、(19)では話題の対象を「バカ」の顕著例(愚かである程度が顕著である人)と比較して、類似していることからカテゴリー化していると考えられる。(20)を見ると、話者が「自分に対する子供の態度」が「友達扱い」のステレオタイプ(「友達はぞんざいに扱うものだ」という考え/ガンバレーという励ましも含まれている)と比較し、類似していることからカテゴリー化していると思われる。

以上のことから、「比喩」用法で用いられた「まるでX(である)」において、話者が話題の対象と比較しているカテゴリーXの中心例には典型例、理想例、顕著例、ステレオタイプがあると言える。前節で分かったカテゴリーXの性質と、本節で分かったXの中心例の性質を反映し、「比喩」用法で用いられた「まるでX(である)」に見られる「カテゴリー化」の様相を図に表すと図2のようになる。

カテゴリーXを顕著例として持つ上位カテゴリー

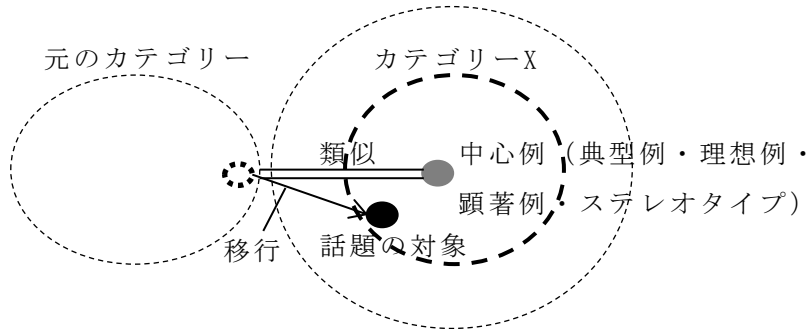


図2 「比喩」用法の「まるでX(である)」に見られるカテゴリー化

4.2.3.5 「まるでX(である)」に見られるカテゴリーXの拡張の様相

第三章で考察した「ぎりぎりX(である)」と「Xの端くれ」と同じく、「比喩」用法の「まるでX(である)」においても、野呂(2008)に指摘されていたカテゴリーの拡張が見られると考えられる。ここでは、前節でも取り上げた「まるで五右衛門風呂である」の例を用いて考察する。

(21)床の上に巨大なガス火が据えつけてあって、その上に、これまた巨大な鍋が置いてある。まるで五右衛門風呂である。(例(9)、(17)を再掲)

(21)において、話者は話題の対象の「巨大な鍋」を見て、その大きさや形などが似ている「五右衛門風呂」カテゴリーの典型例(人が入れる大きさの五右衛門風呂)を思い出すと思われる。それから、話題の対象が「五右衛門風呂」の典型例と類似しているが、実際は「鍋」であることから、「五右衛門風呂」の典型例からなる「五右衛門風呂」の下位カテゴリーを拡張させ、その中に周辺例として位置付けると考えられる。これを図に表すと図3になる。

「巨大な鍋」と似ているもののカテゴリー

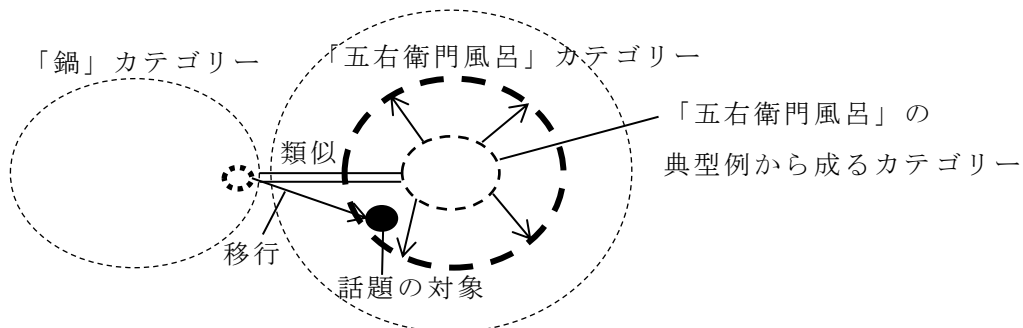


図3 例(21)に見られるカテゴリー化

以上の考察を踏まえ、「比喩」用法で用いられた「まるでX(である)」に見られるカテゴリー化の様相を表した図2を図4のように修正・補完する。

カテゴリXを顕著例として持つ上位カテゴリ

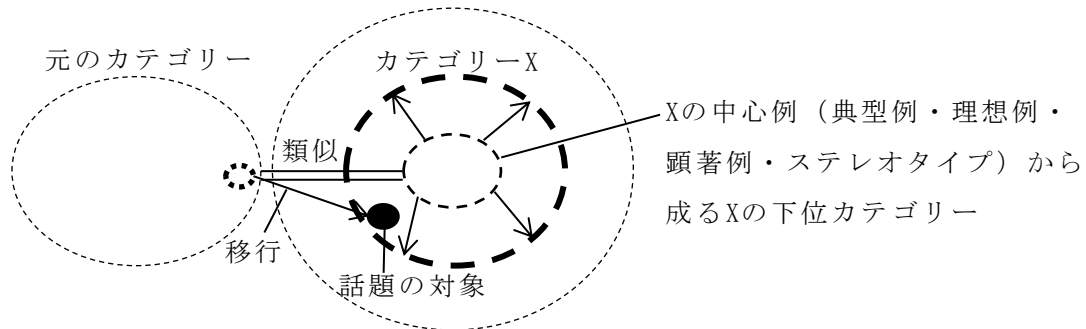


図4 「比喩」用法の「まるでX(である)」に見られるカテゴリ化

4.2.4 まとめ

4.2節では、「比喩」用法で用いられた「まるでX(である)」を対象とし、「話者によるカテゴリ化」の様相に注目して「カテゴリの周辺例を明示する表現」としての特徴について考察した。その結果を以下にまとめる。

「比喩」用法の「まるでX(である)」：

- ①話者が話題の対象のある性質に注目し、その性質をより顕著に持っているカテゴリXを想起し、その中心例(典型例・理想例・顕著例・ステレオタイプ)と話題の対象を比較し、両者が非常に類似しているが、実際は別のカテゴリの成員であることから、話題の対象をXの周辺例としてカテゴリ化する表現である。
- ②カテゴリ化の際、まず話者はカテゴリXの中心例から成る下位カテゴリを想起し、それと話題の対象を比較して、類似してはいるが、相違点も持つことから、Xの中心例から成る下位カテゴリを拡張させ、その拡張されたカテゴリXの中に話題の対象を周辺例としてカテゴリ化する。

なお、考察により、「まるで」の3つの用法に関して次のことが分かった。

「まるで」の「比喩」用法、「完全否定」用法、「強意」用法は、明確に区別できるものではなく、連続的に存在する。

4.3 「もはやX(である)」

4.3.1 考察の対象と目的

「もはや」は、次の(22a)のような「比喩」用法を持つと考えられるが、従来の研

究では(22b)のような「時間」に関わる用法のみが注目されてきた。

(22)a. フォルステルが顎で助手席を示した。「こっちへ来い」スコットは抵抗する気力を失い、**もはや**操り人形だった。(例(1)を再掲)

b. **もはや**手遅れだ。(『大辞林 第二版』の例)

(22a)では、話題の対象である「スコット」がフォルステルの指示に抵抗せず従う姿が、「操り人形」と似ていることから、「スコット」を「操り人形」にたとえて言っている。このようなことから、「もはや」は「比喩」用法を持つと言える。また、このような「もはや」の「比喩」用法には、4.2節にて考察した「まるで」の「比喩」用法と同じく、「話者によるカテゴリー化」が見られると考えられる。本節では、「もはや」の「比喩」用法における「話者によるカテゴリー化」の様相に注目し、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴を明らかにすることを目的とする。

なお、「まるで」と同じく、本節においても、「もはや」の「比喩」用法の中でも、「話者によるカテゴリー化」の様相が最も観察しやすい「もはや+カテゴリー名X(+カテゴリー化に関わる表現)」(以下、「もはやX(である)」)の形式を対象とし、分析を行う。しかし、(22b)に見られるように、同じ「もはやX(である)」の形式でも、「時間的」用法で用いられる場合があり、注意が必要である。さらに、(23)のように、「比喩」用法と「時間的」用法のどちらも捉えられる例が存在することから、本節では、「もはや」の「比喩」用法と「時間的」用法が明確に区別できるものではなく、連続的に存在すると考え、考察を進める。

(23)四十歳にして過去ばかりなつかしみ、現在と未来に目が向かないとしたら、年は若くても心は**もはや**老後である。(樋口恵子『私の老い構え』BCCWJ)

4.3.2 先行研究

本節では、国語辞典をはじめ、「もはや」の意味・用法に関して記述している先行研究を概観する。

『日本国語大辞典 第二版』

も - はや 【最早】〔副〕

(1)現時点において、継続してきた事柄に区切りをつけたり、すでにある状態になっていることを認めたりする気持を表わす語。現在に至っては。もう。すでに。

「もはやこれまで」

*謡曲・葵上〔1435頃〕「これは言語道断のこと葵の上のおん物の怪、もはやよくござあらうずると存じたれば、以っての外にごぞ候ふほどに」

*虎明本狂言・薬水〔室町末～近世初〕「いづくまでもゆかうと思ふたが、もはやくたびれた、まだとをひかな」

*三体詩素隠抄〔1622〕三・四「耿処士は長安に留りて、官につかへて、もはや江湖へは帰るまじきとみへたぞ」

*交易問答〔1869〕〈加藤弘之〉上「衣服は十分ゆへ、最早、不用なれど」

(2)ある事態が実現しようとしているさま。早くも。まさに。「もはや日も暮れようとしている」

『大辞林 第三版』

もはや【最早】（副）

①今となっては。もう。「一手遅れだ」「一これまで」

②早くも。すでに。「あれから一五年もたった」

『デジタル大辞泉』

も - はや 【▽最早】 [副]

1 ある事態が実現しようとしているさま。早くも。まさに。「一今年も暮れようとしている」

2 ある事態が変えられないところまで進んでいるさま。今となっては。もう。「一如何ともしがたい」「一これまで」

柴田武他編(2008)『講談社 類語辞典』

【最早】

そのことが過ぎてしまって今となってはどうしようもない様子。「～戦後ではない」「～これまでと覚悟を決める」

前節で述べたように、ほとんどの先行研究では「もはや」の「時間的」意味・用法のみが記述されている。まず、国語辞典を見ると、「もはや」の意味として2つの意味を認め、記述しても、両方とも「時間」に関わる意味であり、「比喩」用法に関する記述は見当たらない。飛田・浅田(2003)においても、「（「もはや」は）現時点では間に合わない様子を表す」と記述され、「もはや」と「すでに」を比較し、その意

義を記述している井出(1996)でも、「時間的」用法のみに注目して考察している。井出(1996)では、「もはや」の意義として「①「すでに」と同様に、ある事態の出現する以前にもう一つの事態が出現することを表している。②ある事態が出現すると、もう一つの事態が出現することが確定的であることを表している。」と記述し、下の(24)のような例を挙げている。

(24)意義①：私は思い切ってテツさんの窓のほうへ歩いて行った。発車が間近いのである。列車は四百五十里の行程を前にしていきりたち、プラットフォームは色めき渡った。私の胸には、もはや他人の身の上まで思いやるような、そんな余裕がなかったので、テツさんを慰めるのに「災難」という無責任な言葉を使ったりした。(井出 1996: 23の例26)

意義②：十一月にはいると、もはや御坂の寒気、堪えがたくなった。(井出 1996: 26の例36)

グループ・ジャマシイ編(1998: 600-601)では、本節の分析対象の形式である「もはやX(である)」に近い、「もはや…だ」を取り上げ、次のように記述している。

もはや…だ

- (1) 少し前までは車を持つことが庶民の夢だったが、もはや一家に車二台の時代だ。
- (2) 資金繰りに走り回ったがついに不渡り手形を出してしまった。もはや会社もこれまでだ。
- (3) 地球の自然環境の悪化はもはや無視できないところまで来ている。
- (4) 保守か革新かという論点はもはや時代遅れだ。

これまでの経過を述べて区切りをつけたり、現状はもうここまで来ている、こうなっているということを表す。

しかし、国語辞典と同じく、グループ・ジャマシイ編(1998)においても、「もはや」の「時間的」用法の例のみ取り上げられ、説明している。

「もはや」に関する先行研究において、「比喩」用法に関する記述があるのは中村(1977)のみである。しかし、中村(1977)においても「比喩表現の形式」として他の表現と共に(25)のような例文を挙げるにとどまり、具体的な意味・用法については述べていない。

(25)太い足は**もはや**ゾウだ(中村 1977: 144の例58)

(26) 曲そのものは多種多様だが、**もはや**このアルバムはそれ自体が生命を持っているかのように一曲一曲が有機的に結びついてしまっている。(恩藏茂『ビートルズ日本盤よ、永遠に—60年代の日本ポップス文化とビートルズ』BCCWJ)

実際(26)のように、「もはや」が「のように」と共に用いられ、明らかに「比喩」用法で用いられる事例も存在するが、先行研究ではこの意味・用法についてほとんど言及していない。次節では、このような「もはや」の「比喩」用法に注目し、「話者によるカテゴリー化」の様相について考察する中で、「もはや」の2つの用法の連続性についても述べる。

4.3.3 「もはやX(である)」に見られるカテゴリー化の様相

4.3.3.1 カテゴリーの周辺例を明示する「もはやX(である)」

本節では、「比喩」用法で用いられる「もはやX(である)」が「カテゴリーの周辺例を明示する表現」であることを主張する。

(27) フォルステルが顎で助手席を示した。「こっちへ来い」スコットは抵抗する気力を失い、**もはや**操り人形だった。(例(1)、(22a)を再掲)

4.3.1節で述べたように、(27)の話者は、話題の対象「スコット」の抵抗する気力を失い、他人の言葉に従う今の状態が、「操り人形」の中心例が持つ最も際立つ属性と類似していることから、「人間」カテゴリーから「操り人形」カテゴリーにカテゴリー化していると考えられる。しかし、「スコット」は実際「人間」カテゴリーの成員であり、「操り人形」には絶対にならないため、話者により「操り人形」カテゴリーにカテゴリー化されても、その周辺例として位置付けられると思われる。このような「もはや」の「比喩」用法における「話者によるカテゴリー化」は、「まるで」と同じく、中村(1977)で言及された「カテゴリー間の移行」と見なすことができると考える。「比喩」用法の「もはやX(である)」における「カテゴリー化」の様相を図に表すと、図5のようになる。

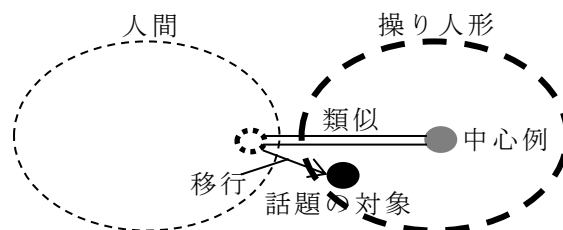


図5 例(27)の「もはや操り人形だった」

4.3.3.2 「もはやX(である)」に見られる2つの用法の連続性

「まるで」の3つの用法が連続的に存在しているのと同じく、「もはや」においても、「比喩」用法と「時間的」用法は明確に区別できるものではなく、連続的に存在すると考えられる。

(28) 四十歳にして過去ばかりなつかしみ、現在と未来に目が向かないとしたら、年は若くても心はもはや老後である。(例(23)を再掲)

(28)の話者は、話題の対象である「四十歳にして過去ばかり懐かしむ心」が、「老後(の心)」と類似していることから、「老後(の心)」カテゴリーに周辺例として位置付けていると考えられる。この場合、話題の対象とカテゴリーXの間の類似性に基づき、カテゴリー化しているため、「比喩」用法の例と見なすことができる。しかし、「老後」はそれ自体が「時間的意味合い」を持っている語であるため、実際の年は若くても、心だけどんどん老け込み、すでに「老後(の心)」になっているという意味で捉えることもできると考えられる。そのような場合は、「現時点において、継続してきた事柄に区切りをつけたり、すでにある状態になっていることを認めたりする気持を表わす(『日本国語大辞典 第二版』)」という意味で読み取ることとなり、「時間的」用法と見なすことができる。

以下、カテゴリーXが時間的な意味合いを持っていない場合を取り上げ、「比喩」用法と「時間的」用法の連続性について考えてみる。

(29) このロボットはもはや人間です。あなたの言葉が分かるだけでなく、心も理解します。(榎山洋介『日本語研究のための認知言語学』p. 45、研究社)

(29)の「ロボット」は実際には「人間」にはなれないため、「比喩」用法の典型例に近いと考えられる。しかし、「ロボット」の開発は「人間」をモデルとする場合が多く、「人間」により近い「ロボット」を作ろうとしたり、「人間」の代わりに様々なことをやってくれる「ロボット」を作ったりすることから、「ロボット」開発の究極的な目標は「人間(カテゴリーへの所属)」であると言うことができる。そう考えると、(29)は「ロボット」が「人間」に近づいていくプロセスにおいて、話題の対象である「このロボット」は「人間」カテゴリーにカテゴリー化できる基準点を過ぎていると話者が判断し、カテゴリー化していることから、「もはや」の基本的な意味である「そのことが過ぎてしまって今となってはどうしようもない様子(柴田他編 2008)」(時間的用法)との関連が見られる。

以上の考察から、「もはや」の「比喩」用法と「時間的」用法は明確に区別できる

ものではなく、連続的に存在すると言える。

4.3.3.3 カテゴリーXの特徴

前節で述べたように、「比喩」用法の「もはやX（である）」におけるカテゴリーXは、「あるプロセスにおける究極的な目標点・終着点」と考えられる。

(30)ん？昼間は風無かったのに段々と風が強くなってるなあと思ったら急に強風に変わり（中略）W家テントも風煽られこんな状態！子ども達が怖がり車に避難させます。どうする？車囲んでBBQ？車宿泊？天気予報を確認 強風波浪注意報！（中略）テントが飛ばないようにゴロゴロ笑いながら片付け～強風の中でも記念撮影！強風？いや暴風！もはや台風だよ！（<http://terunama12.hatenablog.com/entry/2017/11/10/強風のお台場海浜庭園オートキャンプ場>）

(30)の話者は、話題の対象である「風」がだんだん強くなり、キャンプを諦めて帰らざるを得ないほどの強風になった様子について述べている。そこで、現在感じている「風」の強さが、「台風（の時の風の強さ）」と類似していることから、「もはや台風だ」と言い、「台風」カテゴリーにカテゴリー化していると考えられる。話者の「強風？いや暴風！もはや台風だよ！」という表現から分かるように、「台風」は「風」の中で最も強い、究極的な終着点であると考えられ、現在感じている「風」の強さを強調して言いたい場合は、「もはや強風だ」と言うより、「もはや台風だ」と言ったほうがより効果的であると思われる。

(31)20歳って約6年前だけど、もうほとんどどんな人間だったか覚えてない。多分自分なりにはしっかり大人のつもりだったような気もするけど、やっぱり20歳って、まだまだ若いし、もはや子供だよ！とすら思う。（<https://ameblo.jp/toukimusume/entry-11902177688.html>）

(31)では、話者が「20歳」を「子供」カテゴリーにカテゴリー化している。この例文において「子供」は「若い、幼い」という時間的な意味合いを持つが、普通「時間」は一方向に流れるため、「時間」を一つのプロセスとみた場合、究極的な終着点は年を取っていく老年のほうである。しかし、(31)の話者は、「若さ」に焦点を置いているため、「若さ」という性質を最も顕著に持っている究極的な終着点は「子供」となると考えられる。このようなことから、「もはやX（である）」におけるカテゴリーXは、その場で話者が焦点を置いている話題の対象の性質において最も顕著である物事・究極的な目標点・終着点であると言える。

「もはや」の「比喩」用法におけるカテゴリーXが「究極的な目標点・終着点」である理由は、前述したように、「もはや」の「時間的」用法の影響であると考えられる。国語辞典をはじめとする先行研究において「もはや」の「時間的」意味・用法のみ記述している研究がほとんどだったことから分かるように、「もはや」の意味・用法においては「時間的」意味・用法が「比喩」用法より基本的であると思われ、「比喩」用法においても「時間的」用法の一部が引きつがれているのである。

4.3.3.4 カテゴリーXの中心例の特徴

本節では、「まるで」と同様に、「もはや」においても、話者によって話題の対象と比較されるのはカテゴリー化されるカテゴリーの「典型例」だけではないことを見る。

(32) このロボットは **もはや** 人間 です。あなたの言葉が分かるだけでなく、心も理解します。(例(29)を再掲)

(33) わたしの大好きなお友だちの ちさりん！ かわいい でしょ～。ほんとモデルさん みたい！ **もはや** モデル だもんね！ (<https://www.dclog.jp/en/6592184/511496465>)

(34) 日本は **もはや** アフリカ だ。暑くて頭いてえ。もう我慢出来ない早く冬にならないかな？ (https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1168557831?__ysp=4oCd44KC44Gv44KE44Ki44OV44Oq44Kr44Gg4oCd)

(35) 四十歳にして過去ばかりなつかしみ、現在と未来に目が向かない したら、年は若くても心は **もはや** 老後 である。(例(23)、(28)を再掲)

(32)では、話者が言葉と心を理解する「ロボット」を、「人間」の典型例と類似していることから、「人間」カテゴリーにカテゴリー化している。(33)では、話者の友達(の外見)が「モデル」の理想例(モデルの中で外見がかわいいモデル)の属性と類似していることから、「モデル」カテゴリーにカテゴリー化している。(34)の話者は、日本(の夏の暑さ)が「アフリカ(の気候)」の顕著例(アフリカ大陸で気温が極めて高い地域(の暑さ))が持つ際立つ属性を持っていることから、「アフリカ」カテゴリーにカテゴリー化している。なお、(35)の話者は、過去のことだけ考えている人の心が、「老後」カテゴリーのステレオタイプ(老後になると、過去ばかり懐かしみ、現在と未来に目が向かない)と似ていることから「老後」カテゴリーにカテゴリー化していると考えられる。

以上のことから、「もはや」の「比喩」用法においても、カテゴリー化されるカテゴリーの中心例には「典型例・理想例・顕著例・ステレオタイプ」があり、話題の対

象と比較されることがわかる。

4.3.3.5 「もはやX(である)」に見られるカテゴリ-Xの拡張の様相

「比喩」用法の「もはやX(である)」においても、「比喩」用法の「まるでX(である)」と同じく、カテゴリの拡張が見られると考えられる。次の(36)に基づき、「比喩」用法の「もはやX(である)」に見られるカテゴリ-Xの拡張の様相について考えてみよう。

(36) フォルステルが顎で助手席を示した。「こっちへ来い」スコットは抵抗する気力を失い、**もはや操り人形**だった。(例(1)、(22a)、(27)を再掲)

(36)の話者は話題の対象である「スコット」がフォルステルの指示に抵抗できず、従っている様子を見て、「操り人形」の典型例を思い出し、「スコット(の現在の様子)」をそれと比較していると考えられる。その後、両者は類似してはいるが、「スコット」は実際「人間」であり、「操り人形」ではないことから、「操り人形」の典型例から成る下位カテゴリを拡張させ、「スコット」をその拡張された「操り人形」カテゴリの周辺例として位置づけていると思われる。これを図に表すと、図6のようになる。

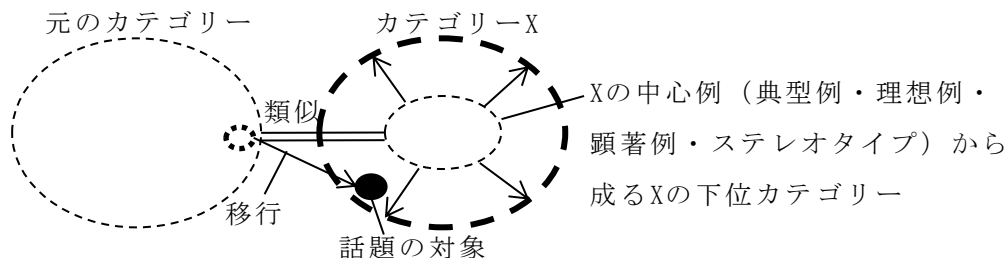


図6 「比喩」用法の「もはやX(である)」に見られるカテゴリ化

4.3.4 まとめ

4.3節では、「もはや」に従来注目されてこなかった「比喩」用法があることを確認し、「比喩」用法の「もはやX(である)」を対象とし、「話者によるカテゴリ化」の様相について考察した。以下に考察の結果をまとめる。

「比喩」用法の「もはやX(である)」:

- ①話者が話題の対象のある性質に注目し、その性質を最も顕著に持つ(究極的な目標点・終着点である)カテゴリ-Xを想起し、その中心例(典型例・理

想例・顕著例・ステレオタイプ) と話題の対象を比較し、両者が非常に類似しているが、実際は別のカテゴリーの成員であることから、話題の対象をXの周辺例としてカテゴリー化する表現である。

②カテゴリー化の際、まず話者はカテゴリーXの中心例から成る下位カテゴリーを想起し、それと話題の対象を比較して、類似してはいるが、相違点も持つことから、Xの中心例から成る下位カテゴリーを拡張させ、その拡張されたカテゴリーXの中に話題の対象を周辺例としてカテゴリー化する。

なお、考察により、「もはや」の2つの用法に関して次のことが分かった。

「もはや」の「時間的」用法と「比喩」用法は、明確に区別できるものではなく、連続的に存在する。

4.4 「まるでX(である)」と「もはやX(である)」の比較

4.4.1 考察の背景と目的

4.2節と4.3節にて見てきたように、「まるで」と「もはや」の「比喩」用法は、その特徴が非常に類似しており、例(37)のように互いに置き替えても意味のずれがほとんど感じられない場合がある。

(37) フォルステルの指が安全装置を外した。スコットの足が竦んだ。まるで／もはや蛇に睨まれた蛙だ。フォルステルの冷たい双眸は蛇の晒眼を連相槲させた。「お前に聞きたいことがある」フォルステルが顎で助手席を示した。「こっちへ来い」スコットは抵抗する気力を失い、もはや／まるで操り人形だった。恐怖が彼を支配した。素直に従って助手席に座った。(中島渉『サザンクロス流れて』BCCWJ)

(37)の話者は、話題の対象である「スコット(の様子)」が別のカテゴリー「蛇に睨まれた蛙」「操り人形」と似ていることから、話題の対象をそのカテゴリーの成員として新たに「カテゴリー化」していると考えられる。元々そのカテゴリーの成員ではないものを別のカテゴリーへとカテゴリー化し直したという点において、両表現は共通点を持ち、類義表現であると言える。しかし、同じく「比喩」用法で用いられ話者によるカテゴリー化の様相が表れていても、(38)(39)のように、両表現を互いに置き換えると容認度が下がる場合も存在する。

(38) TAIKIさんも純白のタキシードを身に着けて、まるで／??もはや王子様… (http://granmanie.co.jp/blog/2017/05/31/10719/)

(39) 博士学位も取得したことだし、君ももはや／*まるでこの分野の立派な専門家だと言えるな。(作例)

このようなことから、本節では従来注目されてこなかった「まるで」と「もはや」の「話者によるカテゴリー化」の様相に注目して考察を行い、両語の「比喩」用法における共通点と相違点を明らかにすることを狙いとする。

なお、考察の対象は4.2節と4.3節と同じく、両語が「比喩」用法で用いられている例文の中で、「話者によるカテゴリー化」の様相が最も観察しやすい「まるでX(である)」と「もはやX(である)」の形式とする。

4.4.2 先行研究

「まるで」と「もはや」の意味・用法に関して記述している先行研究には、辞書類をはじめ、様々なものがあるが、両語を類義語として取り扱っている先行研究や「話者のカテゴリー化」に注目して考察している研究は管見の限り見当たらない。両語を類義語として取り扱っている先行研究がないのは、4.3.2節で確認したように、「もはや」が「比喩」用法を持つということを記述している研究がほとんどないことに起因すると考えられる。

まず、「まるで」と「もはや」の国語辞典における意味記述を概観する。

『大辞林 第三版』

まるで【丸で】 (副)

①下に否定的な意味の語を伴って否定の意を強める。まるきり。全然。「漢字が一読めない」「一違う」

②どのような点から見てもほとんど同じであるさま。ちょうど。さながら。「一嵐のようだ」「一子供だ」

もはや【最早】 (副)

①今となっては。もう。「一手遅れだ」「一これまで」

②早くも。すでに。「あれから一五年もたった」

『デジタル大辞泉』

まる - で【丸で】 [副]

- 1 違いがわからないほどあるものやある状態に類似しているさま。あたかも。さながら。「この惨状は一地獄だ」「一夢のよう」
- 2 (下に否定的な意味の語を伴って) まさしくその状態であるさま。すっかり。まったく。「一だめだ」「兄弟だが一違う」

も - はや 【▽最早】 [副]

- 1 ある事態が実現しようとしているさま。早くも。まさに。「一今年も暮れようとしている」
- 2 ある事態が変えられないところまで進んでいるさま。今となつては。もう。「一如何ともしがたい」「一これまで」

『大辞林 第二版』と『デジタル大辞泉』では、両方とも「まるで」と「もはや」に2つずつの意味があるとし、記述している。しかし、上記したように、「もはや」に「比喩」用法があるということが記述されておらず、「時間」に関わる意味のみ記述されている。そのため、国語辞典の意味記述を見る限り、両語が「比喩」用法で用いられる際、互いに置き換えても意味のずれがほとんど感じられない類義語であることはわかりにくい。

「まるで」と「もはや」が同じく「比喩」用法を持つということを記述しているのは、中村(1977: 143-144)のみである。中村(1977)において、「まるで」と「もはや」は「比喩」の意味を表す「強意」の表現として取り上げられている。中村(1977: 144)では、「太い足はまるでゾウだ」「太い足はもはやゾウだ」などの例文を挙げ、「このような強意の語を添えるのは、事実としては違うことを認めた上で、修辞意識の働いた結果だ、と考えられる場合が多いので、これらも比喩の指標の役を果たす可能性がある」と述べている。つまり、ここでは「強意」の表現である「まるで」と「もはや」が「比喩」用法で用いられることがあると指摘している。本研究においても、中村(1977)の指摘に倣い、両表現が「比喩」用法を持つと主張し、「比喩」用法で用いられる際、互いに置き換えられる場合と置き換えられない場合を取り上げ、両表現の「比喩」用法における共通点と相違点を明らかにする。しかし、中村(1977)では、あくまでも「まるで」「もはや」などのいくつかの「強意」の表現を並べ、それらが「比喩」の指標の役を果たす可能性があると言及することにとどまり、「まるで」と「もはや」を類義語として取り扱い、具体的にその意味・用法を比較・分析しているわけではない。したがって、4.4節では、「比喩」用法で用いられた「まるでX(である)」と「もはやX(である)」に関する4.2節と4.3節の考察を基に、「話者によるカテゴリー化」の様相に注目して「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴について比較・分析する。

4.4.3 分析

4.2節と4.3節の考察結果からも分かるように、「比喩」用法で用いられた「まるでX(である)」と「もはやX(である)」の共通点は、①話題の対象をカテゴリーXの中心例と比較し、それと類似してはいるが、相違点も持っている(話題の対象が実際Xの成員ではない)ことから、Xの周辺例として位置付ける点、②話題の対象と比較されるカテゴリーXの中心例には典型例・理想例・顕著例・ステレオタイプがある点、③カテゴリーXの拡張が見られる点が挙げられる。

4.4.3.1 両表現の共通点①：カテゴリー化の様相

(44)「自殺の夢か」「毎晩、同じ夢ばかりみるのよ。気味が悪いったらありゃしない」「まるで／もはや怪談だな」(例(10)を再掲)

(45)フォルステルが顎で助手席を示した。「こっちへ来い」スコットは抵抗する気力を失い、もはや／まるで操り人形だった。(例(1)、(22a)、(27)、(36)を再掲)

(44)は話者が話題の対象である「自殺の夢の話」を「怪談」カテゴリーの典型例と比較し、それと類似していることから「怪談」カテゴリーの成員としてカテゴリー化している。(45)でも、話者は「スコット」が他人の指示に抵抗できずに従う姿を見て、「操り人形」カテゴリーの典型例と類似していることから、そこにカテゴリー化している。なお、(44)の「自殺の夢の話」は実際の経験談であるため、虚構性のある「怪談」の典型例とは異なり、(45)の「スコット」も実際人間であるため、「操り人形」とは異なることから、両方とも「怪談」「操り人形」の周辺例として位置付けられると考えられる。

両表現の共通点①：話題の対象をカテゴリーXの中心例と比較し、それと類似してはいるが、相違点も持っている(話題の対象が実際Xの成員ではない)ことから、Xの周辺例として位置付ける。

4.4.3.2 両表現の共通点②：話題の対象と比較されるXの中心例

次に、両表現において、カテゴリーXの中心例として話題の対象と比較されるのは典型例だけでなく、理想例・顕著例・ステレオタイプも在りうるということを見る。

(46)(夕食)「おいしい?」「うん、まるでレストランの味だね」(例(2a)、(6a)、(12)、(18)を再掲)

(47) ハワードは最後尾のバイクのハンドルの上に落下した。バイクに乗っていたやつは、ほかの男たちに比べるとコーヒー&チキン・スープの自動販売機ほども図体のある男で、ハワードにとっては、**まるで**モンスターだった。灰色のあごひげ、まゆ毛はヤマアラシ並みで、うす気味悪い流し目は、すっかり狂っちまった変質者のそれだった。(E・ウェイナー(著)/平尾圭吾(訳)『ハワード・ザ・ダック―暗黒魔王の陰謀』BCCWJ)

(48) あいつはいつもわがままばかり言って、まるで子供だ。(例(6b)を再掲)

(49) わたしの大好きなお友だちのちさりん！かわいいでしょ～。ほんとモデルさんみたい！もはやモデルだもんね！(例(33)を再掲)

(50) 日本はもはやアフリカだ。暑くて頭いてえ。もう我慢出来ない早く冬にならないかな？(例(34)を再掲)

(51) 四十歳にして過去ばかりなつかしみ、現在と未来に目が向かないとしたら、年は若くても心は**もはや**老後である。(例(23)、(28)、(35)を再掲)

(46)(47)(48)では、話者が話題の対象をそれぞれ「レストランの味」カテゴリーの理想例(おいしいレストランの料理)、「モンスター」カテゴリーの顕著例(体の大きさや外見の怖さの程度が顕著であるモンスター)、「子供」カテゴリーのステレオタイプ(わがままばかり言う子供)と比較している。また、(49)(50)(51)では、話題の対象が「モデル」カテゴリーの理想例(外見がかわいいモデル)、「アフリカ(の気候)」の顕著例(アフリカ大陸で気温が極めて高い地域(の暑さ))、「老後」カテゴリーのステレオタイプ(老後になると、過去ばかり懐かしみ、現在と未来に目が向かない)と比較されている。このようなことから、「比喩」用法の「まるでX(である)」と「もはやX(である)」において、話者が話題の対象と比較するのは典型例・理想例・顕著例・ステレオタイプであることがわかる。

両表現の共通点②：話題の対象と比較されるカテゴリーXの中心例に典型例・理想例・顕著例・ステレオタイプがある。

4.4.3.3 両表現の共通点③：カテゴリーXの拡張

(52) 床の上に巨大なガス火が据えつけてあって、その上に、これまた巨大な鍋が置いてある。**まるで**五右衛門風呂である。(例(9)、(17)、(21)を再掲)

4.2.3.5節で確認したように、(52)では、話者が話題の対象の「巨大な鍋」を見て、その大きさが似ている「五右衛門風呂」カテゴリーの典型例(人が入れる大きさの五

右衛門風呂)を想起していると思われる。それから、話題の対象が「五右衛門風呂」の典型例と類似しているが、実際は「鍋」であることから、「五右衛門風呂」の典型例からなる「五右衛門風呂」の下位カテゴリーを拡張させ、その中に周辺例として位置付けると考えられる。

(53) フォルステルが顎で助手席を示した。「こっちへ来い」スコットは抵抗する気力を失い、もはや操り人形だった。(例(1)、(22a)、(27)、(36)、(45)を再掲)

また、(53)においても、話者は話題の対象である「スコット」がフォルステルの指示に抵抗できず、従っている様子を見て、「操り人形」の典型例を想起し、「スコット(の現在の様子)」をそれと比較していると考えられる。その後、両者は類似してはいるが、「スコット」は実際は「人間」であり、「操り人形」ではないことから、「操り人形」の典型例から成る下位カテゴリーを拡張させ、「スコット」をその拡張された「操り人形」カテゴリーの周辺例として位置づけていると思われる。したがって、「比喩」用法の「まるでX(である)」と「もはやX(である)」には、同じく「カテゴリーXの拡張」が見られるという共通点があると言える。

両表現の共通点③：カテゴリーXの中心例から成る下位カテゴリーからの拡張が見られる。

4.4.3.4 両表現の相違点①：カテゴリーXの特徴

本節と次節では、「まるでX(である)」と「もはやX(である)」の相違点について考察する。まず、両表現における「カテゴリーXの特徴」について見てみる。

(54)a. TAIKIさんも純白のタキシードを身に着けて、まるで／??もはや王子様…(例(38)を再掲)

b. 立ち位置導く岸くん、他人に気を遣える紳士、もはや王子様だわ(個人ブログ)

(54a)では、話題の対象である「TAIKIさんのタキシード姿」が「王子様(の姿)」カテゴリーの理想例(立派な服装を身に着けた王子様)と似ていることから、話者がそれを「王子様(の姿)」カテゴリーにカテゴリー化している。ここで、話者が「王子様(の姿)」カテゴリーを取り上げ、話題の対象をそこにカテゴリー化するのは、4.2.3.3節で述べたように、「王子様(の姿)」カテゴリーが「服装が立派であること」の中で最も分かりやすくて想起しやすい参照点であるためである。一方、(54a)

で「まるで」を「もはや」に置き換えると容認度が下がる。しかし、(54b)のように、もし話者が「理想的な男性の目標地点」を「王子様」であると考えており、話題の対象の他人に気を遣うという属性が普通のレベルや「紳士」のレベルを乗り越えて「王子様」カテゴリーにカテゴリー化できるレベルに達していると判断する場合は「もはや」を用いることができる。このようなことから、「まるでX(である)」におけるカテゴリーXは「話題の対象において話者が注目しているある性質を持っている物事の中で、最も分かりやすくて想起しやすいもの」であると言える。なお、「もはやX(である)」におけるカテゴリーXは、「話題の対象において話者が注目しているある性質を持っている物事の中で、究極的な目標点・終着点となるもの(その性質を最も多く有するもの)」であると考えられる。しかし、「最も分かりやすくて想起しやすいもの」と「究極的な目標点・終着点となるもの(その性質を最も多く有するもの)」が重なる場合が多いため、両表現が置き換えられることも多いと考えられる。

「まるでX(である)」：カテゴリーXは「話題の対象において話者が注目しているある性質を持っている物事の中で、最も分かりやすくて想起しやすいもの」である。

「もはやX(である)」：カテゴリーXは、「話題の対象において話者が注目しているある性質を持っている物事の中で、究極的な目標点・終着点となるもの(その性質を最も多く有するもの)」である。

4.4.3.5 両表現の相違点②：焦点の場所

次に、「まるでX(である)」と「もはやX(である)」において話者が焦点を置いている場所について見る。

(55) ピンクのパンツにピンクの野菜たちに、ピンクのソースにつて全面ピンク推し！！中にはチキンも入ってるけど、見た目はとにかくデッカいマカロンみたくってまるで／??もはやお菓子だなんて笑っちゃったw (<https://3473a.jp/article/1443> 個人ブログ)

(56) ん？昼間は風無かったのに段々と風が強くなってるなあと思ったら急に強風に変わり (中略) W家テントも風煽られこんな状態！子ども達が怖がり車に避難させます。どうする？車囲んでBBQ？車宿泊？天気予報を確認 強風波浪注意報！ (中略) テントが飛ばないようにゴロゴロ笑いながら片付け～強風の中でも記念撮影！強風？いや暴風！もはや／？まるで台風だよ！ (例(30)を再掲)

(57) 四十歳にして過去ばかりなつかしみ、現在と未来に目が向かないとしたら、年は若くても心はもはや／？まるで老後である。(例(23)、(28)、(35)、(51)を再

掲)

(55)では、話者が目の前のピンク色のハンバーガーを見て、「まるでお菓子だ」と言っている。ここで、「見た目はとにかくデッカいマカロンみたくなって」という表現からも分かるように、話者は話題の対象の見た目に焦点を置いて、見た目の類似性に基づき、「ピンク色のハンバーガー」を「お菓子」カテゴリーにカテゴリー化している。この例文において「まるで」を「もはや」に置き換えると容認度が下がる。その理由としては、話者が話題の対象とカテゴリーXの間の類似性にのみ焦点を置いており、Xが話題の対象の究極的な目標点・終着点であるかどうかには焦点が置かれていない（ピンク色のハンバーガーの究極的な目標点・終着点がお菓子であると考えているわけではない）ためであると考えられる。

一方、(56)と(57)では、「もはや」を「まるで」に置き換えると多少意味がずれる。(56)の話者は、話題の対象である「風」の強さが、「台風（の時の風の強さ）」と類似していることから、「もはや台風だ」と言い、「台風」カテゴリーにカテゴリー化している。話者の「強風？いや暴風！もはや台風だよ！」という表現から分かるように、「台風」は「風」の中で最も強い、究極的な終着点であると考えられ、話者は話題の対象の強さを「風→強風→暴風→台風」と段階的に強調して言っている。ここで「もはや」を「まるで」に置き換えると、そのような段階的な強さよりも、話題の対象と「台風」の類似性にのみ焦点が置かれ、段階的に強さを強調して言っているこの文脈では、「もはや」のほうが容認度が高い。(57)は、4.3.3.2節でも述べたように、「もはや」の「時間的」用法と「比喩」用法の連続性が見られる例である。(57)の「老後」カテゴリーは、人間の人生の時間軸において究極的な終着点であり、「時間的」な意味合いが含まれているため、「時間的」用法でよく用いられる「もはや」に換わり、「まるで」を用いると容認度が多少下がる。ここで「もはや」を「まるで」に置き換えると「時間的な意味合い」が薄くなり、「過去ばかり懐かしむ心」と「老後」の間の類似性にのみ焦点が当てられ、意味がずれる。

「まるでX（である）」：話題の対象とカテゴリーXの間の類似性にのみ焦点が置かれる。

「もはやX（である）」：話題の対象のある性質が段階的に強くなると、究極的にカテゴリーXにカテゴリー化できるということに焦点が置かれる。

4.4.3.6 両表現の相違点③：話題の対象の実際の位置

「まるでX（である）」と「もはやX（である）」は、話題の対象の実際の位置にお

いて違いが見られる場合がある。より具体的に言うと、実際に話題の対象がカテゴリーXの成員に近い場合、「もはや」は用いることができるが、「まるで」は用いられないと考えられる。

(58) 博士学位も取得したことだし、君ももはや/*まるでこの分野の立派な専門家
だと言えるな。 (例(39)を再掲)

(58)では、一生懸命研究を続け、博士学位を取得した話題の対象を、目上の人である話者が「この分野の立派な専門家」カテゴリーにカテゴリー化している。このような場合、「もはや」を「まるで」に置き換えることができない。(58)では、下の図7のように、二重のカテゴリーが想定でき、それは「この分野の専門家」カテゴリーと「この分野の立派な専門家」カテゴリーの理想例から成る下位カテゴリーである「この分野の立派な専門家」カテゴリーである。

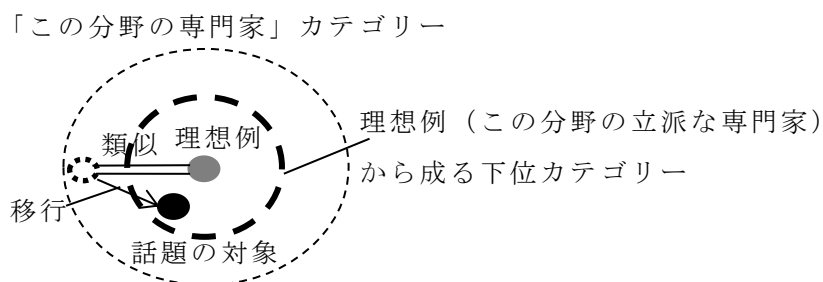


図7 例(58)の「もはやこの分野の立派な専門家だ」

(58)の話者は、話題の対象がこれまで研究を続けてきて、すでに「この分野の専門家」としての道を歩んできたことを知っている。そこで、話題の対象がついに博士学位を取得し、「この分野の立派な専門家」の理想例と比較するとそれとは多少異なるとしても、それとかなり近いため、「この分野の専門家」カテゴリーの周辺例から、「この分野の立派な専門家」の周辺例としてカテゴリー化していると思われる。しかし、(58)において「もはや」を「まるで」に置き換えると、話題の対象が実際は「この分野の専門家」の成員ではないが、その理想例と類似していることに基づき、「この分野の専門家」の外側から内側へカテゴリー化されるというニュアンスとなり、事実と異なることから非文になると考えられる。

(59)今回は、10周年を記念して、ブライアン・ウィリアムズ氏が講演をしてくださいました。有名な画家であるウィリアムズ氏が、地球の環境問題について、こんなにも勉強されていたのかと知って驚かされました。まるで/もはや専門家です。(http://kumamori.org/news/category/%E3%81%8F%E3%81%BE%E3%82%82%E3%8

ここで、「まるでX（である）」が用いられている(59)と比べてみよう。(59)において、話題の対象は実際には「画家」であり、「地球の環境問題の専門家」ではないが、地球の環境問題について深く勉強し、「専門家」並みの知識を持っていることから、「専門家」の周辺例としてカテゴリー化されている(図8)。このように、話題の対象が実際にカテゴリーXの成員ではない場合は「まるでX（である）」も「もはやX（である）」も用いることができるが、(58)のように、話題の対象が実際にXの成員と非常に近い(例えば、Xを中心例として持つXの上位カテゴリーの成員である)場合は「まるでX（である）」を用いることができない。

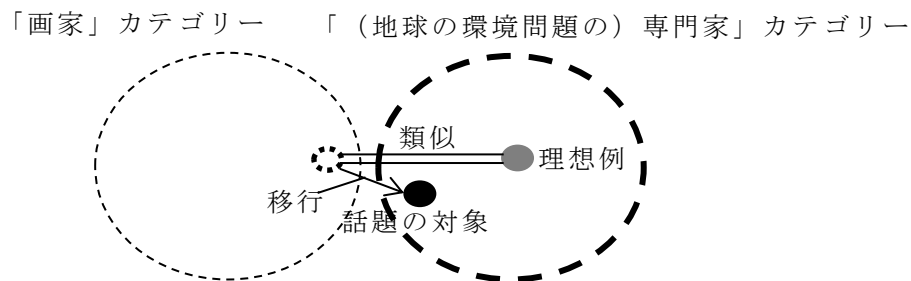


図8 例(59)の「まるで専門家です」

「まるでX（である）」：話題の対象が実際にカテゴリーXの成員と非常に近い場合は用いられない。

「もはやX（である）」：話題の対象が実際にカテゴリーXの成員と非常に近い場合でも用いることができる。

4.4.3.7 両表現の相違点④：否定形式の有無

最後に、「比喩」用法の「まるでX（である）」と「もはやX（である）」において違いが見られるのは「否定形式の有無」である。「もはやX（である）」の場合、否定形式は「もはやX（ではない）」となり、これまで見てきた「比喩」用法の「もはやX（である）」の意味とは逆に、カテゴリーXの成員であった話題の対象が、Xの成員ではなくなることを表す。例えば、次の(60)や(61)のような例が見られ、元々Xの成員であったが、何らかの理由でXの成員ではなくなることを表し、さらに別のカテゴリーYの成員になることを表すこともある。

(60)おれたちが子供のころに教えられた価値観はみんな粉々にされている。もはや
 / * まるで人間じゃないんだ—ロボットさ。たとえ人を殺したって、満足はえら
 れない。この前の戦争でおれたちは心がはずむようなことがまったくなくなって

しまった。感応しなくなっている、反応するだけだ。(ヘンリー・ミラー(著)/吉行淳之介(訳)『愛と笑いの夜』BCCWJ)

(61) トランプ米大統領は、これに先立つ9月19日に国連で演説し、米国や同盟国を守るには、「北朝鮮を完全に破壊する以外の選択肢はなくなる」と最終警告を発した。しかし、金正恩朝鮮労働党委員長は9月22日、この警告を一蹴し、逆に「史上最高の超強硬措置で反撃する」と脅している。北朝鮮の李外相によると、それは水爆を搭載した中長距離弾道ミサイルの火星12号か14号を日本上空経由で太平洋に打ち込み、「最大級の水爆実験」を強行することらしい。もはや／＊まるで核実験ではなく核攻撃だ。(週刊エコノミスト2017年12月05日号)

(60)では、話者が今日心がはずむことがなくなり、感応しなくなって、反応するだけの人々の姿に対して、元々「人間」カテゴリーの成員であるが、そのような面においては「人間」カテゴリーの典型例(何らかの刺激により心がはずんだり、感応する人間)とは異なり、「人間」カテゴリーの成員とは言えない(むしろ「ロボット」カテゴリーにカテゴリー化すべきだ)という意味で「もはや人間じゃない」と言っている。(61)の話者は北朝鮮がアメリカにミサイルを打つと言ったことに対し、これはこれまで行ってきた「核実験」の典型例とは異なり、「核実験」カテゴリーではなく、「核攻撃」カテゴリーにカテゴリー化すべきだと言っている。このように、「もはやX(である)」の否定形式である「もはやX(ではない)」は、Xの成員である話題の対象がカテゴリーXの中心例と異なるため、Xの成員とは言えない(別のカテゴリーの成員にカテゴリー化すべきだ)ということを表すと言える。

一方、「比喩」用法の「まるでX(である)」の場合は、「まるでX(ではない)」の形式の例文が見当たらず、「もはやX(である)」のように反対の意味で対応する否定形式を持たないと考えられる。「まるで」が否定形式を伴う場合は、4.2節の冒頭で確認したように「完全否定」用法になる。すでに4.2.1節で述べたように、「まるでX(である)」の形式で、Xが否定の意味を持っている場合は、次の例(22)のように「完全否定」用法(62a)や「強意」用法(62b)となる。

- (62)a. しかし、自分が幸せになりたいということを受け入れない限りは幸福になることは**まるで**不可能である。(例(3a)を再掲)
- b. ところが、事実は**まるで**反対だった。(例(3b)を再掲)

(62)の場合、話者が話題の対象を「不可能」「反対」カテゴリーの成員との類似性にに基づき、周辺例としてカテゴリー化しているというよりは、話題の対象を「不可能」「反対」カテゴリーの成員そのものとして位置づけていると考えられ、「比喩」用法

に見られるカテゴリー化とは異なる様相が見られる。一方、「比喩」用法の「もはやX（である）」が意味的に対応する否定形式を持つのは、4.3.3.2節で確認したように、「もはや」の「比喩」用法と「時間的」用法が連続的であり、より基本的な「時間的」用法の「変化」の意味要素が「比喩」用法にも受け継がれるためであると思われる。より具体的に言うと、「比喩」用法の「もはやX（である）」は「前は別のカテゴリーだった話題の対象を、Xの中心例との類似性に基づき、今は（これからは）カテゴリーXの成員としてカテゴリー化する」という意味を表し、「変化」が重要な意味要素として含まれている。そこで、「もはやX（ではない）」という否定形式をとることにより、「変化」という重要な意味要素はそのまま含んでいながら、反対に「前はカテゴリーXの成員であった話題の対象を、Xの中心例との相違性に基づき、今は（これからは）別のカテゴリーの成員としてカテゴリー化する」という意味を表すことができると考えられる。

「まるでX（である）」：意味的に対応する否定形式を持たない。

「もはやX（である）」：「もはやX（ではない）」の形式で、「比喩」用法の「もはやX（である）」と反対の意味（カテゴリーXの成員である話題の対象が、Xの中心例とは異なることから、Xの成員ではなくなる）を表す。

4.4.4 まとめ

4.4節では、「比喩」用法の「まるでX（である）」と「もはやX（である）」の共通点と相違点について考察した。その結果は次のようにまとめられる。

両表現の共通点—カテゴリー化の様相：カテゴリーXの中心例から成る下位カテゴリーを想起し、話題の対象をそのXの中心例（典型例・理想例・顕著例・ステレオタイプ）と比較し、それと類似してはいるが、相違点も持っている（話題の対象が実際Xの成員ではない）ことから、Xの下位カテゴリーを拡張させ、その周辺例として位置付ける。

両表現の相違点①カテゴリーXの特徴

「まるでX（である）」：カテゴリーXは「話題の対象において話者が注目しているある性質を持っている物事の中で、最も分かりやすく想起しやすいもの」である。

「もはやX（である）」：カテゴリーXは、「話題の対象において話者が注目して

いるある性質を持っている物事の中で、究極的な目標点・終着点となるもの（その性質を最も多く有するもの）」である。

両表現の相違点②焦点の場所

「まるでX（である）」：話題の対象とカテゴリーXの間の類似性にのみ焦点が置かれる。

「もはやX（である）」：話題の対象のある性質が段階的に強くなると、究極的にカテゴリーXにカテゴリー化できるということに焦点が置かれる。

両表現の相違点③話題の対象の実際の位置

「まるでX（である）」：話題の対象が実際にカテゴリーXの成員と非常に近い場合は用いられない。

「もはやX（である）」：話題の対象が実際にカテゴリーXの成員と非常に近い場合でも用いることができる。

両表現の相違点④否定形式の有無

「まるでX（である）」：意味的に対応する否定形式を持たない。

「もはやX（である）」：「もはやX（ではない）」の形式で、「比喩」用法の「もはやX（である）」と反対の意味（カテゴリーXの成員である話題の対象が、Xの中心例とは異なることから、Xの成員ではなくなる）を表す。

4.5 第四章のまとめ

第四章では、「比喩」用法が見られる表現である「まるでX（である）」と「もはやX（である）」を対象に考察を行った。「まるでX（である）」と同じく、「もはやX（である）」にも「比喩」用法があるにもかかわらず、従来その用法については十分な記述がされてこなかった。両表現が「比喩」用法で用いられる際、カテゴリー化の様相が見られるため、本章では両語の「比喩」用法に焦点を当て、カテゴリー化の様相について分析した。両方ともXの成員ではない話題の対象を、Xの成員と類似しているためXにカテゴリー化し、その中心例（典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ）と異なることからXの周辺例として位置づけ、Xの中心例から成る下位カテゴリーを拡張し、その拡張されたカテゴリーにカテゴリー化するという点で共通点が見られる。しかし、「まるでX（である）」のXは話題の対象の持つある性質が顕著に現れるカテゴリーであり、「もはやX（である）」のXはあるプロセスにおける究極的な目標点・終着点である点、「まるでX（である）」は話題の対象とXの類似性にのみ話者の

焦点が当てられるが、「もはやX（である）」は話題の対象の持つある性質が段階的に強くなると、究極的にXにカテゴリー化されるということに話者の焦点が当てられるという点において違いが見られる。また、「もはやX（である）」は話題の対象の本来のカテゴリーがXとある程度類似していても用いられるという点、否定形式にしてもカテゴリー化に関わる意味を持つという点において、「まるでX（である）」と異なる。

第五章 「カテゴリー化」に関わる「と言う（言える）」

を含む表現の分析

5.1 はじめに

第五章では、「カテゴリー化」に関わる「と言う（言える）」を含む表現である「Xと言えなくもない」と「Xとも言える」を対象に、「カテゴリー化の様相」に注目して考察を行う。両表現は、(1)に見られるように、「カテゴリー化」に関わる「と言う（言える）」を含んでいるという共通点があり、互いに置き換えても意味のずれがほとんど感じられない場合がある。

(1)Niwaは2012年設立のNiwa社（サンフランシスコ）が2年にわたり農業の専門家と共同開発した水耕栽培システムで、屋内に設置し、温度や湿度、光、水やりなどをセンサーとコントローラーで制御する。日本でも植物工場を経済産業省や農林水産省が後押ししているが、Niwaは個人向け植物工場と言えなくもない／とも言える。新鮮な無農薬野菜を自宅で繰り返し収穫できるというのが売りだ。（<http://wired.jp/2014/07/13/niwa/>）

このようなことから、本節では、「Xと言えなくもない」と「Xとも言える」を対象に、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴について考察し、両表現の共通点と相違点を明らかにすることを目的とする。

5.2 「Xと言えなくもない」

5.2.1 考察の対象と目的

「Xと言えなくもない」は、(2)のように、本来Xの成員ではない話題の対象を、何らかの理由でカテゴリーXの周辺例としてカテゴリー化することができるという意味を表す表現である。

(2)宇都宮市内から砂田街道を上三川方面へ、横川中学校の先左手「讃岐うどん太一」餅えび天うどん1,050円をずずずずつつつ。（中略）早速下から麺を引きずり出すと、うむ、讃岐うどんにしてはかなり太め、讃岐のしゅつとしなやかな麺というよりは、少しゴツゴツした武蔵野に代表される関東系のうどんに近い

ような気もします。歯を立てると、やはり食感はややもちっとしてて、やはり関東風といえなくもありませんが、くっと伸びるコシは確かに讃岐風、精白された麦の風味も讃岐系ですね。(http://tabelog.com/tochigi/A0901/A090101/9009274/dtlrvwlst/5771025/)

(2)では、讃岐うどんの店で、話題の対象である「餅えび天うどん」を食べた話者が、麺の太さやゴツゴツした感じ、ややもちっとする食感などから「関東風（うどん）」カテゴリの成員としてカテゴリ化することもできるが、コシや風味は確かに讃岐系であると言っている。「関東系のうどんに近いような気もします」という部分からも分かるように、話者は話題の対象を「関東風（うどん）」カテゴリにカテゴリ化することができると考えてはいるが、あくまでも周辺例として位置づけているように思われる。このようなことから、5.2節では、「Xと言えなくもない」を「カテゴリの周辺例を明示する表現」と見なし、その特徴を明らかにし、「カテゴリの周辺例を明示する表現」としてどのように位置づけられるかについて考察する。

なお、本節の分析対象は、(2)のような「名詞（カテゴリ名）＋と言えなくもない」の形式とするが、実際は次の例文のように「と言えなくもない」がナ形容詞の語幹や形容詞（節）、動詞（節）に後接する場合も少なくない。

(3)また、公式ブログを担当しているソリ千葉くん曰く「豪華と言えなくもない賞品」も用意されているとのこと。その内容は結果発表と同時に明らかとなる予定なので、楽しみにしておきましょう。(http://www.inside-games.jp/article/2013/10/06/70963.html)

(4)夫は浮気をやめたが、彼女の顔にしみこんでしまった暗さはもうとれなかった。宗教にのめりこみ、周りの者に地獄からの逃走を説くその熱心さには、二人の子供も手をやきついには見はなしてしまったのだろう。全財産を寄付しろというような宗教ではなかったのが幸いだと言えなくもないんだ、あの人には好きなようにやらせておくしかないとあきらめているのだが、誰に対してでもうわごとのように教義を説き続けるのには本当のところ家族全員が苦しめられている。(清水義範『短篇ベストコレクション—現代の小説』BCCWJ)

(5)精神医学的に言えば、物事が完璧でないと気のすまぬ脅迫傾向と、あるいはらんかん性の執拗性とを併せ持っていたと言えなくもない。(武田専『精神分析と仏教』BCCWJ)

本研究では、(3)～(5)に見られるような形式も広い意味で話題の対象をカテゴリ

X（四角で囲まれた部分）の周辺例として位置づけていると考えるが、考察の便宜上、カテゴリー化の様相がより観察しやすい「名詞（句）（カテゴリー名）＋と言えなくもない」の形式を考察の対象とする。

5.2.2 先行研究

5.2.2.1 「カテゴリー化」に関わる「と言う（言える）」に関する先行研究

「Xと言えなくもない」における「と言う（言える）」は、おそらく「話題の対象をカテゴリーXにカテゴリー化する（ことができる）」という意味であると考えられる。本節では、「カテゴリー化」に関わる「と言う（言える）」を含む「Xと言えなくもない」に関する考察に先立ち、「カテゴリー化」に関わる「と言う（言える）」について、先行研究の意味記述に基づき、概観する。

まず、辞書の意味記述から見てみる。『大辞林 第三版』には、「カテゴリー化」に関わる「と言う（言える）」に関する記述として、「㊦「言う㊧ ㊨」の、実際に話したり書いたりするという具体的な動作性の弱まった用法。」の「㊨（「…だと言う」「…と言う」の形で）ある人・物の資格・性格などを…であるとして認定し、そう表現するという意を表す。「彼は真の天才だと一・うことができよう」「あの人は名人と一・われるだけあって年をとっても腕は確かだ」という記述がある。この記述の例文から、話題の対象「彼」「あの人」を「真の天才」「名人」カテゴリーにカテゴリー化するという意味で「言う」が用いられているため、「カテゴリー化」に関わる「言う」の意味記述であると考えられる。また、『基本動詞ハンドブック』における「言う」の意味記述には、「11. 属性を認める 人が物事を別の属性を持つものと捉え、それにふさわしいことばで表現する」という記述がある。意味記述と共に載っている「彼こそを天才と言うべきだ」「これを奇跡と言わないで何と言えよいいのか」「今度デビューした新人は、10年に一度の逸材と言ってよい」のような例文から、話題の対象「彼」「これ」「今度デビューした新人」をそれぞれ「天才」「奇跡」「10年に一度の逸材」カテゴリーにカテゴリー化していると考えられ、この意味記述も「カテゴリー化」に関わる意味記述であると言える。これらの意味記述から、「カテゴリー化」に関わる「言う」の意味は「人が物事（の資格・性格など）を別の属性を持つものと捉え（認め）、それにふさわしいことばで表現する」であると言える。ここで、「それにふさわしいことば」が「カテゴリー名」に当たると考えられる。

さらに、「と言う（言える）」に関しては数多い先行研究が存在する¹⁸が、その中で、「カテゴリー化」に関わる「と言う（言える）」の意味・用法について記述して

¹⁸ 発話行動を表す動詞「イウ・ハナス・ノベル・シャベル・カタル」の意味を分析している北邨他(1978)では、「カテゴリー化」に関わる「言う」に関する記述はないが、「イ

いるものに靱山(1997)がある。靱山(1997)では、下の(6)における「いう(いえる)」の意味・用法が先行研究で扱われていないことを指摘し、この「言う」の意味を〈ある事柄が〉〈(ある観点から見て)ある意味を持っていると〉〈(話し手・聞き手が)〉〈見なす〉と記述している。

(6)ともかく博報堂に入社したことは、この後のわたしの人生を決めるうえで、運命的な出来事だったといえる。(靱山 1997: 32の例16)

(6)では、「博報堂に入社したこと」といった〈ある事柄〉が、(ある観点から見て)「その後のわたしの人生を決めるうえで、運命的な出来事だった」という〈ある意味を持っている〉と〈見なす〉という意味を表すと述べているが、これは、広く考えれば、話題の対象である「ある事柄」を「ある意味を持っている」というカテゴリーにカテゴリー化するという意味になると考えられる。また、この意味は、〈人間が〉〈言葉を〉〈発する〉という「言う」のプロトタイプの意味から換喩に基づき成り立っていると述べ、〈ある事柄が〉〈(ある観点から見て)ある意味を持っていると〉〈(話し手・聞き手が)〉〈見なす〉ということが、〈人間が〉〈言葉を〉〈発する〉ということに先行することから、時間的に後のことを表す表現で、先行することも表しているとしている。これを踏まえ、本節では、「カテゴリー化」に関わる「と言う(言える)」が「人が物事(の資格・性格など)を別の属性を持つものと捉え(認め)、それにふさわしいことばで表現する」という意味と、〈ある事柄が〉〈(ある観点から見て)ある意味を持っていると〉〈(話し手・聞き手が)〉〈見なす〉という意味の両方の意味で用いられると考える。また、本節の考察対象である「Xと言えなくもない」と次節の考察対象である「Xとも言える」では、「と言う(言える)」という言葉で、その行為に先行する話者のカテゴリー化の判断を表していると考え、考察を行う。

5.2.2.2 「Xと言えなくもない」に関する先行研究

本節では、「Xと言えなくもない」について考察、記述している先行研究を概観する。

グループ・ジャマシイ編(1998)『教師と学習者のための日本語文型辞典』

【といえなくもない】

(1) A: 最近、彼はまじめに仕事をしていますか。

ウ」が「自分の感情や価値判断を「表明」する動作」であるという記述がある。話者が話題の対象に対する自分の「カテゴリー化」に関する判断を述べる際に「と言う(言える)」を用いると考えられるため、この記述も参考にしたいと考える。

B: まあ、前よりはましだと言えなくもないですが。

(2) A: 山田君のゴルフはプロ並みだね。

B: うーん。まあ、そう言えなくもないけど…。

(3) この会社に入った当初は、仕事のあまりのきつさにどうなることかと思っただが、今では慣れてきたと言えなくもない。少なくとも、前ほどは疲れなくなっただ。

「といえる」ほど断定的ではなく、やや消極的に肯定する言い方。後に逆接的な内容が続いたり、それを暗示したりすることが多い。

グループ・ジャマシイ編(1998)の記述は「といえなくもない」を「といえる」と比較し、その相違点に言及している点で、本節の分析においても参考にしたいと考える。なお、「後に逆説的な内容が続いたり、それを暗示したりすることが多い」という記述に注目し、逆説的な内容が後続するか否かによって話題の対象に対する話者の考え方が異なることについて述べる。一方、グループ・ジャマシイ編(1998)の問題点として、本節の分析対象のように、「といえなくもない」の前に名詞が生じ、カテゴリー化に関わる用例は取り上げていないという点が挙げられる。このようなことを踏まえ、5.2.3節では、「Xと言えなくもない」について、カテゴリー化と話者の考え方に注目し、分析を行う。

パリハワダナ(2013)では、「なくもない」を含めた二重否定表現の使い分けについて考察し、二重否定諸形式の基本的な意味として、「外部否定(包み込む役を果たす語順上後接する否定形式)が内部否定(内部に包み込まれている否定形式)の主張(の一部)を否定している」「内部否定の表す否定的主張の全称性が否定され、その結果として部分否定の解釈が成立する」と述べている。

(7)だが、それが事件の発端だったと言えなくもない。(パリハワダナ(2013)の例(7))

特に、例(7)を取り上げ、述語の出来事の外部否定形式を省いた「言えない」ではその度合いや確率がゼロであることが主張されると述べている。そこで、「言えない」+「ない」のように、その内部否定形式を単に外部否定形式で包み込めば、「言えなくない」のように否定的主張が否定で打ち消された、「言える可能性がある」と言った肯定的意味が成立する。しかし、「言えなくない」と、とりたて助詞「も」の共起により、「言える可能性もある」という風に、「言える」の成立・存続などの確立、あるいは状態の度合いがわずかであることが強調され、確率・度合いはゼロではないが、非常に少ないことが表現されると指摘している。

さらに、パリハワダナ(2013)では、どのような時に二重否定表現が用いられるかについて分析し、①先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合(例(8))、②生起・可能性・存在などが皆無でないことを主張したい場合(例(9))、③断定・直接的な言い方を避けたい場合(例(10))、④譲歩を表す場合(例(11))、⑤和らげ・配慮を表す場合(例(12))、⑥全称的表現を否定する場合(例(13))、⑦肯定的な意味を表す場合(例(14))があるとしている。

(8)時代からいってまぜ御飯のほうが当然といえるのだが、彼女らはまだ純粹の米の弁当を持ってこられる家庭の生徒が多かったからである。もっとも例外もなくはなかった。(パリハワダナ(2013)の例(22))

(9)また、そうした展覧会の代表的作品が美術雑誌に転載されることもなくはないが、印刷がわるくて、原画の色感がよくわからない。(パリハワダナ(2013)の例(29))

(10)だが、それが事件の発端だったと言えなくもない。(パリハワダナ(2013)の例(7))

(11)「この質問をされたら、私は同意しないことはないだろう。」(パリハワダナ(2013)の例(37))

(12)「やっぱり、おすしだね」。そう口にしたくなる気持ちも分からなくはない。(パリハワダナ(2013)の例(42))

(13)「ついて来るがいい、逃げようたってもうどうにもならないんだ、おとなしく署までついて来るがいい」加藤は、そうなることを全然予期しないでもなかった。(パリハワダナ(2013)の例(43))

(14)僕にできて、若手にできないことはない。(パリハワダナ(2013)の例(48))

その中で、「～なくもない」は、①先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合、②生起・可能性・存在などが皆無でないことを主張したい場合、③断定・直接的な言い方を避けたい場合、④譲歩を表す場合、⑤和らげ・配慮を表す場合に用いられると述べられている。本節の分析対象である「Xと言えなくもない」について考えてみると、①の用法では(15)のような例が考えられる。②の用法では、皆無でないことにより表現される生起・可能性・存在の極小性をさらに強調するために、条件形「～ば」が用いられることがあると述べられており(パリハワダナ 2013: 51)、(16)のような例がこれに当たると考えられる。③の用法においては、上記の例(10)を挙げ、「「～なくは／もない」もこの用法で頻繁に用いられるが、その場合「言えなくもない」「考えられなくもない」のような言語活動・思考動詞の可能形や捉え方に関わる「言える」「似ている」などの非意志動詞を述語とする(パリハワダナ 2013: 5

2) 」と述べられている。④の用法については、内部否定形式の述語動詞として意志動詞が表れると記述されている（パリハワダナ 2013: 53）が、「言える」は意志動詞ではないため、「Xと言えなくもない」が④の用法で用いられることはないと考えられる。最後に、⑤の用法の場合、「二重否定表現が和らげ・配慮を表現するために用いられる場合の一つとして、相手の主張を否定したり、それに反論したりする用法が挙げられる（パリハワダナ 2013: 53）」と記述され、これは(17)のような場合を指すと考えられる。

(15) 「自分もそれが嘘だとは知らずに相手に伝えたわけだから、それは嘘と言えないよね」「でも、結果的に相手はだまされたんだから、嘘と言えなくもないんじゃない？」（作例）

(16) 多分、市長も来ない台風に油断したのか、自分の立場を忘れ、一宮古人として宮古の習慣に従ったもののように推察できる。同情的に言えば、彼もオトーリ文化の被害者と言えなくもない。但し、ナイチャーの私から言えば、オトーリは酒の飲み方として他に誇れるほど立派な文化とも思えない。（http://1120kura.at.webry.info/201407/article_12.html）

(17) 確かにいい映画と言えなくもないわね。でも、どんな娯楽も基本的には一過性のものだし、またそうあるべきだわ。始まりも終わりもなく、ただ観客を魅了したまま手放そうとしない映画なんて、それがどんなに素晴らしく思えたとしても、害にしかならない。（<http://matome.naver.jp/odai/2138562480594999201/2138590447167024203>）

したがって、「Xと言えなくもない」は、①先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合、②生起・可能性・存在などが皆無でないことを主張したい場合、③断定・直接的な言い方を避けたい場合、⑤和らげ・配慮を表す場合に用いられると思われる。これを踏まえ、次節ではパリハワダナ(2013)の二重否定表現の用法の分類に基づき、各用法別に「Xと言えなくもない」がどのように用いられるか、また、用法別にどのようなカテゴリー化の様相が見られるかについて考察する。

5.2.3 「Xと言えなくもない」に見られるカテゴリー化の様相

5.2.3.1 先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合

(18) 「自分もそれが嘘だとは知らずに相手に伝えたわけだから、それは嘘と言えないよね」「でも、結果的に相手はだまされたんだから、嘘と言えなくもないんじゃない

やない？」（例(15)を再掲）

(19) (質問) AKB総選挙で上位にランクされたメンバーには賞品、賞金が出るのでしょうか？いちおう一位のメンバーにはトロフィーが渡されたようですが、他には得るものがあるのでしょうか？メンバーが金銭的なことにガツガツしてるとは思いませんが、全く還元がないとすれば総選挙によるCD売り上げの儲けは秋元氏とか運営者たちが独占してるのですか？これには少し違和感を持ちます。（省略）

(答) 次のシングルの歌唱権とメディアの優先出場権が賞品といえなくもないです。特に総選挙のシングルはここ最近レコード大賞にノミネートされる確率が高いので絶大な威力があります。（中略）直接的な賞金は無いにせよ、結構特典満載です。（http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q12130649907）

(20) Ray Charlesの名唱で知られるアルバムタイトルトラックのYou Don't Know Me。彼女自身もRayがブルースを歌うお手本だと書いているし、この曲をタイトルトラックにしたのだから自信があったのだろう。しかし、意地悪な見方をすれば深み・奥行きが不足していて、失敗と言えなくもない。（https://percy1965.atwebry.info/201505/article_3.html）

(21) ルシファーは、墮天使、サタン、悪魔と呼ばれているが、本来天使たちの中で最も美しい大天使であったと言うから、天使といえれば天使と言えなくもない。

（作例）

(18)では、先行する「それは嘘と言えない」という発話に対し、それを否定する「嘘と言えなくもない」が続き、話題の対象を「嘘」カテゴリーの成員としてカテゴリー化している。しかし、(18)の話題の対象の「嘘」は、「嘘を言った人がそれが嘘だということを知らずに相手に伝えた」ことから、「嘘」カテゴリーの典型例とは異なるため、話者は話題の対象を「嘘」カテゴリーの周辺例として位置づけていると考えられる。(19)では、質問に含意されている「賞品がないのではないか」ということに対し、話者がそれを否定し、「次のシングルの歌唱権とメディアの優先出場権が賞品と言えなくもない」と言っている。(19)の話者は、「直接的な賞金はないにせよ」という表現からわかるように、賞金が「賞品」の理想例であると考えており、「次のシングルの歌唱権とメディアの優先出場権」がそれとことなることから、「Xと言えなくもない」を用いて話題の対象を「賞品」カテゴリーの周辺例として位置づけている。(20)の話者は、先行する話者と見なされる彼女が、自分のアルバムのタイトルトラックに自信を持っていたことを否定し、深み・奥行きが不足していたことから、「失敗」カテゴリーの成員としてカテゴリー化できると考えている。しかし、それは「意地悪な見方をすれば」の話であり、「失敗」の顕著例（より程度が深刻で明らかな失敗）とは異なることから、周辺例として位置づけていると考えられる。(21)の話

者は、話題の対象「ルシファー」が「墮天使、サタン、悪魔」と呼ばれていることから生じる「天使ではない」という含意を否定し、本来大天使だったことから、「天使」の周辺例として位置づけることもできると考えている。ここで、「天使」は架空の存在であるため、話題の対象と比較される「天使」カテゴリーの中心例は「天使」のステレオタイプであると考えられる。

この用法では、先行する発話やそれにより生じる含意は、「話題の対象はカテゴリーXの成員ではない」となり、話者はそれを否定し、「話題の対象はXの成員である」ということを示すことになるため、この用法に見られるカテゴリー化の様相は次の図1のようになる。

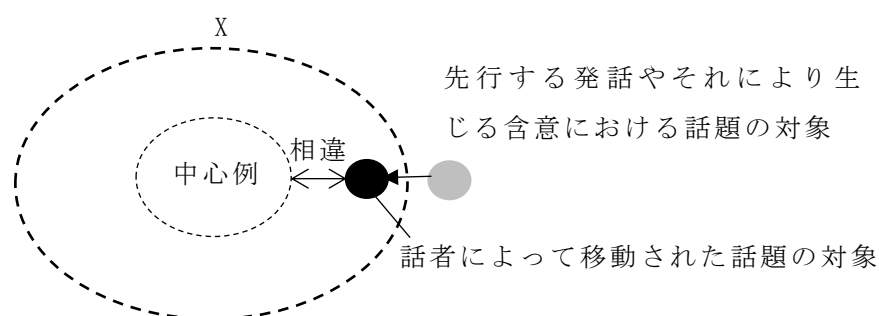


図1 先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合

5.2.3.2 生起・可能性・存在などが皆無でないことを主張したい場合

(22) ここ連日、宮古では、先の台風8号の最中、市長が幹部職員たちと庁舎内で飲酒していたとしてマスコミ報道はじめ野党の追及など騒がしい。（中略）普段から、部落でも、イベントの始まりや終わりに、宮古特有のオトーリと名付けられた飲み会がある。何回もこの席に参加したから、その様子は承知している。多分、市長も来ない台風に油断したのか、自分の立場を忘れ、一宮古人として宮古の習慣に従ったもののように推察できる。同情的に言えば、彼もオトーリ文化の被害者と言えなくもない。但し、ナイチャーの私から言えば、オトーリは酒の飲み方として他に誇れるほど立派な文化とも思えない。（http://1120kura.at.webry.info/201407/article_12.html）

(23) 宇都宮市内から砂田街道を上三川方面へ、横川中学校の先左手「讃岐うどん太一」餅えび天うどん1,050円をずずずつつっつ。（中略）早速下から麺を引きずり出すと、うむ、讃岐うどんにしてはかなり太め、讃岐のしゅっとしなやかな麺というよりは、少しゴツゴツした武蔵野に代表される関東系のうどんに近いような気がします。歯を立てると、やはり食感はややもちっとしてて、やはり関東風といえなくもありませんが、くっと伸びるコシは確かに讃岐風、精白された

麦の風味も讃岐系ですね。(例(2)を再掲)

(22)の話者は、話題の対象「彼(市長)」が、自分の責務をきちんと果たしていないことから、「オトリー文化の被害者」カテゴリーの典型的な成員ではない可能性が高い(すでに「職務怠慢者」(のようなカテゴリーの成員)として非難されている)が、そのカテゴリーの成員である可能性が皆無ではないため、周辺例として位置づけられていると考えられる。(23)では、話者が讃岐うどん屋に行って「餅えび天うどん」を食べ、それが確かに「讃岐うどん」の成員ではあるが、「関東風(うどん)」カテゴリーの成員とも類似していることから、「関東風(うどん)」の周辺例として位置づけられる可能性も皆無ではないことを示している。この用法では、話者が別のカテゴリーの成員である話題の対象を、カテゴリーXの成員と類似する点があることに基づき、Xの成員である可能性も皆無ではないと考え、Xにカテゴリー化するが、Xの中心例とは異なることから、周辺例として位置づけられると思われる。

話題の対象と比較されるXの中心例には、典型例だけでなく、(24)～(26)に見られるように、理想例・顕著例・ステレオタイプもある。

(24)一方の広島はといえば、天王山の巨人戦に負け越し、優勝の望みはほぼなくなった。あとは2位を守るだけ。タイガースには追うものの強みがある。残り試合では、タイガースが11なのに対して広島は13と2つ多い。直接対決は2つあるが、ともに大半は下位チームとの対戦だ。下位チームとの相性で言えば、広島に分がある。タイガースが中日、DeNA、ヤクルトとの対戦で勝ち越しているのは10。これに対して広島は17もあるからだ。それもタイガースは中日と五分、DeNAには9、ヤクルト1とDeNAだけをカモにしている。広島は中日から5、DeNAからは6、ヤクルトにも6と3チームをカモにしているのが強みだ。こうしてみると、残り試合数、相性から**広島有利**といえなくもない。ところが、広島にも不利なところがあるのだ。(http://www.plus-blog.sportsnavi.com/yamaryu/article/55)

(25)そして、島嶼化の淘汰圧は、脳サイズにこそ強く表れることも明らかになった。脳は体重の二%を占めるだけなのに、全代謝エネルギーの二十%も消費する浪費器官だ。不都合さえなければ、食資源の貧弱な島でエネルギーを節約するのに、脳を縮小させることこそ適応的である。実は日本でも、弱い**島嶼化の例**といえなくもない人骨が見つかっている。(河合信和『朝日総研リポートAIR21』2005年5月号、BCCWJ)

(26)「コミックボンボン」の連載では後付設定によって生じた前作との矛盾が丁寧に補完されており、インパクト星で製造されたからくりロボットと言う設定にな

っている。(地球外で作られたので「**宇宙人**」**と言えなくもない**) (<https://dic.pixiv.net/a/%E3%82%B4%E3%82%A8%E3%83%A2%E3%83%B3%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%91%E3%82%AF%E3%83%88>)

(24)では、話者が根拠を挙げて、タイガースより広島が有利であることから、現在の状況でどちらが有利なのかを判断すると、「広島有利」カテゴリーの成員となる可能性があるが、広島にも不利なところがあり、理想的な状況ではないと言っている。このことから、(24)の話題の対象は「広島有利」カテゴリーの理想例と比較され、それと異なることから、周辺例として位置づけられたと思われる。(25)の話者は、話題の対象である「人骨」が、「島嶼化の例」カテゴリーの顕著例(島嶼化が強く表れた人骨)と異なることから、周辺例として位置づけている。(26)では、「ゴエモンインパクト」というキャラクターがインパクト星で製造されたからくりロボットであり、地球外で作られたことでは「宇宙人」カテゴリーの成員である可能性があるため、「宇宙人」カテゴリーにカテゴリー化できるが、「宇宙人」のステレオタイプ(ロボットではなく、生き物であるなど)と異なることから、周辺例として位置づけていると考えられる。

以上の分析を図に示すと、図2のようになる。

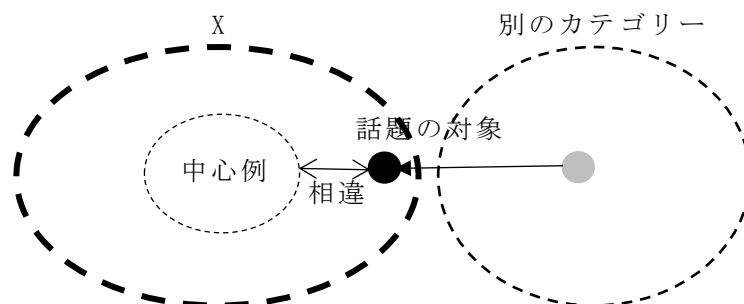


図2 生起・可能性・存在などが皆無でないことを主張したい場合

5.2.3.3 断定・直接的な言い方を避けたい場合

(27)Niwaは2012年設立のNiwa社(サンフランシスコ)が2年にわたり農業の専門家と共同開発した水耕栽培システムで、屋内に設置し、温度や湿度、光、水やりなどをセンサーとコントローラーで制御する。日本でも植物工場を経済産業省や農林水産省が後押ししているが、Niwaは**個人向け植物工場****と言えなくもない**。新鮮な無農薬野菜を自宅で繰り返し収穫できるというのが売りだ。(例(1)を再掲)

(28)突然「ピロシキ」のことが気になった。寒さのせいだろうか? パン屋さんやコンビニでたまに見かけるので**一番身近なロシア料理****と言えなくもない**が、ロシ

ア料理店の本格的なピロシキを味わったことって意外にないかも。ということで、探してみました。(http://allabout.co.jp/matome/c1000000004993/)

- (29)いまは**変革にぴったりの状況**と**いえなくもない**。飢え、窮乏、屈辱、疲労、無力感など、平時ならば貧しい人びとだけが実感する苦しみを、戦禍と追放と占領の時代にあって、多くの人間が味わっている。いうならばフランスは国をあげて貧困のなかに投げこまれ、真理と接触するという貴重な機会を得たのだ。このせつかくの機会をむだにする手はない。(富原真弓『シモーヌ・ヴェイユ』BCCWJ)
- (30)彼女は見た目こそかわいい女の子だが、バンジージャンプを楽しむなど、内面だけ見ればまさに**男**と**いえなくもない**。(作例)

(27)の話者は、話題の対象である「Niwa」が、自宅で温度や湿度などを制御し、水耕栽培ができるシステムであることから、「個人向け植物工場」カテゴリの典型例と類似しており、その中心的な成員であると考えているが、「Xと言えなくもない」を用いて、まるで話題の対象をXの周辺例として位置づけているように見せかけ、断定・直接的な言い方を避けていると考えられる。(28)においても、話者は「ピロシキ」がパン屋さんやコンビニでたまに見かけるものであるため、「一番身近なロシア料理」カテゴリの中心的な成員(「身近な」という属性が顕著であるロシア料理(顕著例))であると考えているが、(27)と同様、その周辺例として位置づけることで、断定・直接的な言い方を避けている。(29)では、話者が「いま」を「変革にぴったりの状況」の理想例(変革するのに理想的な状況)であると考えているが、断言を避けるためにわざと周辺例として位置づけていると考えられる。(30)の話者は、「彼女の性格」がバンジージャンプを楽しむなど、大胆であることから、「男(の性格)」カテゴリのステレオタイプ(大胆なことを楽しむ男)であると考えているが、わざと周辺例としてカテゴリ化していると考えられる。この用法では、話者は実際話題の対象をXの中心的な成員(典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ)であると考えていながらも、「Xと言えなくもない」を用いてそれをXの周辺例として位置づけ、断定・直接的な言い方を避けようとするのであると考えられる。

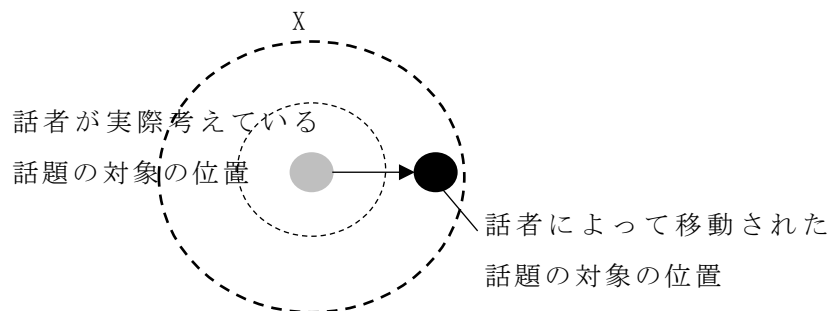


図3 断定・直接的な言い方を避けたい場合

5.2.3.4 和らげ・配慮を表す場合

(31) 確かに「いい映画」と言えなくもないわね。でも、どんな娯楽も基本的には一過性のものだし、またそうあるべきだわ。始まりも終わりもなく、ただ観客を魅了したまま手放そうとしない映画なんて、それがどんなに素晴らしく思えたとしても、害にしかならない。（例(17)を再掲）

(32) 「運用難による積み立て不足は二千七百億円あまりに達し、このままでは基金の存続が危うくなる。また、現役世代との公平感を保つためにも今のうちに手をつける必要があった」（同基金総務部）解散よりは「マシ」と言えなくもないが、もともと同基金は他の基金に比べて保険料も受給額も高く、今回の変更で、平均的な加入者は月額5万円近く受給額が減る。（週刊ポスト2003年5月2日号、BCCWJ）

(31)の話者は、話題の対象を「いい映画」と言った相手の判断に対して、いい映画ではない理由を挙げ、否定している。しかし、相手を配慮し、「確かにいい映画と言えなくもない」と言って話題の対象を「いい映画」の周辺例として位置づけることで、自分の否定的な見解を和らげていると考えられる。(32)の話者も、同基金総務部の発言に対して、否定的に思っているが、基金の解散という最悪の事態に比べると、「マシ（な事態）」カテゴリーに周辺例として位置づけることはできると言い、自分の否定的な判断を和らげている¹⁹。この用法では、話者が相手の主張を否定したり、それに反論したりする際、対人的な衝突を避けた二重否定表現が使われているわけである（パリハワダナ 2013: 53）。話者は話題の対象をXの成員だと考えていないが、Xの成員であると考え相手の意見を尊重し、配慮するためにXの周辺例として位置づけていると考えられる。

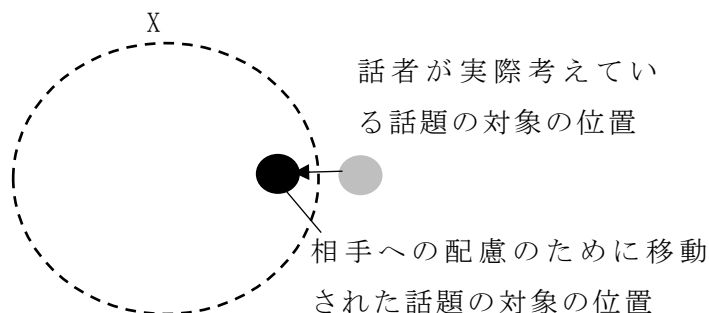


図4 和らげ・配慮を表す場合

¹⁹ (32)の「マシ」は「ましな」のように形容動詞として用いられることが多く、典型的な名詞ではない。しかし、『大辞林 第三版』にも「まし【増し】□（名・形動）〔多く仮名書きとする〕他と比べて少しはまさっている・こと（さま）。「こんなものでもないよりーだ」と名詞でもあることが書かれており、実際(32)のように名詞として用いられることもあるため、ここでは名詞として取り扱う。

5.2.3.5 「Xと言えなくもない」に見られるカテゴリXの拡張の様相

「Xと言えなくもない」のカテゴリ化の様相を見ると、ここでも（一部の用法において²⁰）カテゴリXの拡張が見られる。「Xと言えなくもない」の4つの用法の中で、話題の対象をXの中心例（典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ）と比較し、それと異なることからXの周辺例として位置づける用法（①先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合、②生起・可能性・存在などが皆無でないことを主張したい場合）は、話者が話題の対象とXの中心例との間に何らかの共通点があることに注目し、Xの中心例から成るXの下位カテゴリをより広く拡張させることで、話題の対象をその拡張されたカテゴリXの成員としてXの（境界に近い）内側に位置づけてカテゴリ化すると考えられる。これを図に表すと図5のようになる。

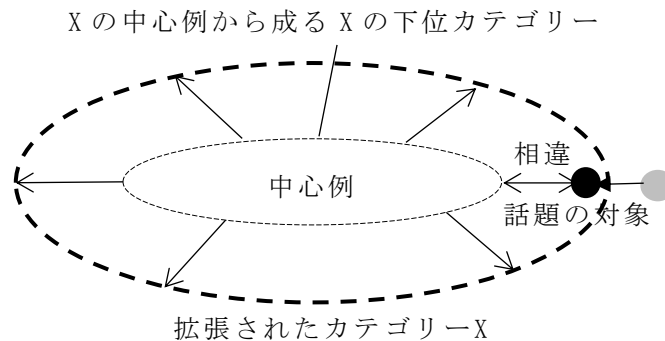


図5 「Xと言えなくもない」の用法①②に見られるカテゴリXの拡張

また、③断定・直接的な言い方を避けたい場合においても、話者は話題の対象がXの中心例に近いと考えているが、断定・直接的な言い方を避けるために、Xの中心例から成るXの下位カテゴリを拡張させ、その拡張されたXの周辺例として位置づけると考えられるため、カテゴリXの拡張が見られると考えられる。（図6）

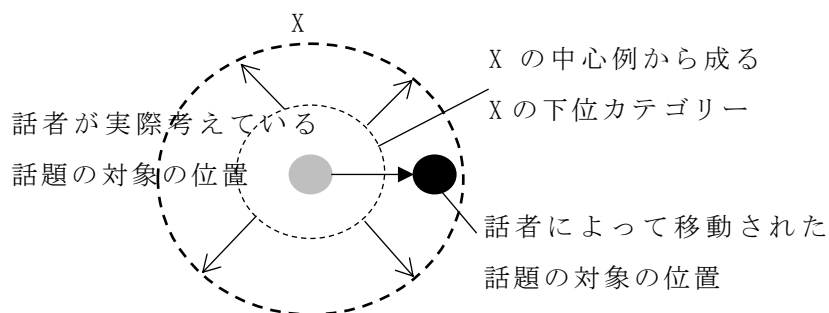


図6 断定・直接的な言い方を避けたい場合のXの拡張

²⁰ 「④和らげ・配慮を表す場合」は、話者が和田に対象を中心例と比較しないため、Xの中心例から成るXの下位カテゴリの拡張が見られない。

(33)宇都宮市内から砂田街道を上三川方面へ、横川中学校の先左手「讃岐うどん太一」餅えび天うどん1,050円をずずずずつつつ。(中略)早速下から麺を引きずり出すと、うむ、讃岐うどんにしてはかなり太め、讃岐のしゅつとしなやかな麺というよりは、少しゴツゴツした武蔵野に代表される関東系のうどんに近いような気がします。歯を立てると、やはり食感はややもちとしてて、やはり「**関東風**」といえなくもありませんが、くっと伸びるコシは確かに讃岐風、精白された麦の風味も讃岐系ですね。(例(2)(23)を再掲)

用法③に見られるカテゴリーXの拡張を具体的に見ると、例(33)の話者は話題の対象である「餅えび天うどん」が「讃岐うどん」の成員であることを知っているが、話題の対象が「関東風(うどん)」カテゴリーの典型例と類似していることから、「関東風(うどん)」の典型例から成る下位カテゴリーを拡張させ、その拡張された「関東風(うどん)」カテゴリーに周辺例として位置づけていると考えられる。これを図に表すと図7になる。

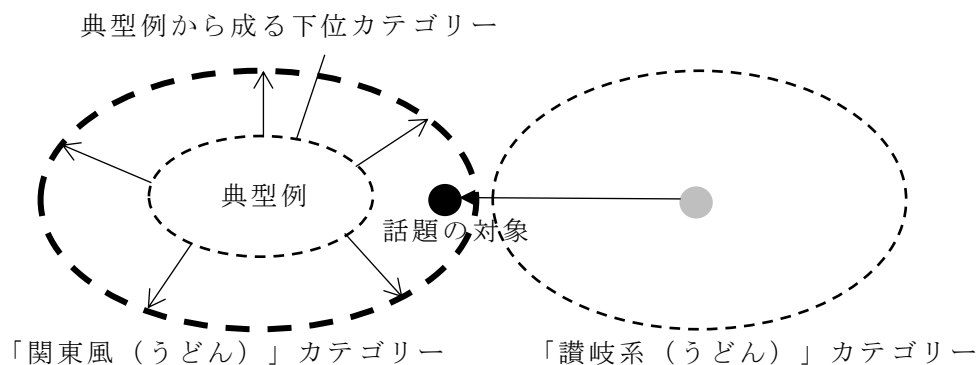


図7 例(33)に見られるカテゴリー化の様相

5.2.4 まとめ

本節では、先行研究を踏まえ、「Xと言えなくもない」を「先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合」「生起・可能性・存在などが皆無でないことを主張したい場合」「断定・直接的な言い方を避けたい場合」「和らげ・配慮を表す場合」の4つの用法に分け、それぞれの用法に見られるカテゴリー化の様相について考察した。その結果、次のようなことが分かった。

「Xと言えなくもない」のカテゴリー化の様相：

- ①先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合：先行する発話やそれにより生じる含意は「話題の対象はXの成員ではない」ことを表すが、話者はそれを否定し、話題の対象をXの成員としてカテゴリー化する。しかし、話題の

対象がXの中心例（典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ）とは異なるため、話者はそれを周辺例として位置づける。

②生起・可能性・存在などが皆無でないことを主張したい場合：話者が別のカテゴリーの成員である話題の対象を、カテゴリーXの成員と類似する点があることに基づき、Xの成員である可能性も皆無ではないことから、Xにカテゴリー化するが、Xの中心例（典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ）とは異なるため、周辺例として位置づける。

③断定・直接的な言い方を避けたい場合：話者は実際話題の対象をXの中心的な成員（典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ）であると考えていながらも、「Xと言えなくもない」を用いてそれをXの周辺例として位置づける。

④和らげ・配慮を表す場合：話者は話題の対象をXの成員だと考えていないが、Xの成員であると考え相手の意見を尊重し、Xの周辺例として位置づける。

さらに、「Xと言えなくもない」においても、野呂(2008)で指摘された「カテゴリーの拡張」が見られることを確認した。

「Xと言えなくもない」の用法①、②、③に見られるカテゴリーXの拡張：

話者が話題の対象とXの中心例との間に何らかの共通点があることに注目し、Xの中心例から成るXの下位カテゴリーをより広く拡張させることで、話題の対象をその拡張されたカテゴリーXの成員としてXの（境界に近い）内側に周辺例としてカテゴリー化する。

5.3 「Xとも言える」

5.3.1 考察の対象と目的

現代日本語における「Xとも言える」は、(34)のように、話題の対象が本来はカテゴリーXの成員ではないが、ある観点から見るとXの周辺例としてカテゴリー化することもできるということを表す表現である。

(34)三月二十三日、応接掛からペリー宛に書簡が渡された。箱館（函館）を開港するという内容である。ただし、その日は来年七月（旧暦）以降とするとある。すべてを従来どおり長崎で行うという前言にたいし、これは応接掛の譲歩であり、緊張に対する打開策とも言える。（加藤祐三『黒船異変—ペリーの挑戦』BCCWJ）

(34)の話者は、話題の対象である「箱館（函館）を開港すること」を、「応接掛の

譲歩」カテゴリーの成員であると述べ、同時に「緊張に対する打開策」カテゴリーの成員としてカテゴリー化することもできると考えているように思われる。本節では、このような「Xとも言える」を対象にし、この表現に見られる話者のカテゴリー化の様相を明らかにする。

本節の考察対象は、話者によるカテゴリー化の様相が確認しやすい「名詞（カテゴリー名）＋とも言える」の形式に限るが、前節でみた表現と同じく、「Xとも言える」のXの部分に(35)～(37)のように名詞節や形容詞・形容動詞（節）、動詞（節）が来ることもある。

(35)とにかく一例外もありましょうが一若い人は進歩的で、年をとった人は保守的になるという傾向があることは確かでしょう。このことから、より“若い”プロテスタント（新教）が進歩的で、より“年をとっている”カトリック（旧教）が保守的であるとも言えるのでしようが、どうもそれだけではないようです。もっと深い理由が、それぞれの神学的な立場にあるようです。（ホセ・ヨンパルト『カトリックとプロテスタント—どのように違うか』BCCWJ）

(36)しかも、それに、右のようなタブーが生まれて、それを無視したり、型を外したりすることが、無知だとか礼を失すとかいって社会的非難の対象にされるということになれば、誰しも、あえてみずから危険を犯して新しい表現を試みようとはせず、「型通り」を守るという無難な道を選ぶことになるのは、当然だとも言える。結婚式の宣誓のような、まさに形式的な言葉なら、それでもよいだろう。（阪倉篤義『言葉遣い』BCCWJ）

(37)公共事業は国が策定するとの従来の考え方を脱し、公的機関の硬直性と財政難を乗り越え民間の活力を積極的に活用して社会資本の整備を促進する時代に入ったとも言える。（森宗久『鉄鋼』BCCWJ）

本節では、(35)～(37)に見られるような形式も広い意味で話題の対象をカテゴリーX（四角で囲まれた部分）の周辺例として位置づけていると考えるが、考察の便宜上、カテゴリー化の様相がより観察しやすい「名詞（句）（カテゴリー名）＋とも言える」の形式を考察の対象とする。

5.3.2 先行研究

森山(2000)では、文末表現としての「とも言える」の意味・用法について考察しているが、「文末以外の箇所でも単語に後続する「とも言える」」に関しても言及している（森山 2000： 62-63）。文末以外の箇所でも単語に後続する「とも言える」は、例えば、

「練習と言えるものは」では、客観的、一般的カテゴリーとしての「練習」に入るかどうかを問題とすることになっているとし、これは逆に言えば、「と言える」によって典型的な「練習」というカテゴリーに無条件で入るものではないということを表すのであると述べ、「Xと言える」という表現がカテゴリー化に関わる表現、特に、カテゴリーの周辺例を明示する表現であることを指摘している。さらに、「ぜいたくとも言える入浴法」という例を取り上げ、「Xとも言える」にも触れているが、この例における「と言える」は、単に「ぜいたくな入浴法」という表現に比べると、「ぜいたく」というカテゴリーに入れてよいかどうかをいったんは問題にした表現となっていると述べている。特に、この例は、「も」が付加され「とも言える」という形式になっており、属性記述として他の表現もありうるという意味であり、「といっても過言ではない」といった言い換えもできると指摘している。このような考察をまとめ、森山(2000: 63)では、文末以外の箇所で単語に後続する「と言える」は、その語の使用に当たって客観的にそのカテゴリーに入るかどうかを問題にするメタ的表現として位置づけることができ、これは裏を返せば、「と言える」が出現する文脈は、妥当性が問題になる文脈であるということでもあると述べている。本研究では、これを踏まえ、「Xとも言える」がカテゴリーの周辺例を明示する表現としてどのようなカテゴリー化の様相を見せるかに焦点を当て、その用法を明らかにする。特に、森山(2000)における「「とも言える」は属性記述として他の表現もありうるという意味を持つ」という記述について考察し、より精緻な記述を試みる。さらに、森山(2000)において類義表現として指摘された「Xと言える」「Xといっても過言ではない」との比較を通して、「Xと言える」の特徴をより明確にする。

5.3.3 「Xとも言える」に見られるカテゴリー化の様相

「Xとも言える」には、大きく4つの用法が存在すると考えられる。一つ目は、話者が話題の対象をXの成員であると考えているが、それを和らげる用法、二つ目は、話者が話題の対象とXの成員の類似性に基づき、話題の対象をXにたとえて分かりやすく言う用法、三つめは、話者が別のカテゴリーの成員である話題の対象に対して、考え方を変えたり、言い換えるとXの成員としてカテゴリー化することができるということを表す用法、四つ目は、話者が話題の対象のある性質を誇張してXの成員としてカテゴリー化する用法である。本節では、「Xとも言える」が用いられる4つの用法において、どのようなカテゴリー化の様相が見られるかに注目して順に考察する。

5.3.3.1 和らげ

(38)いま残されている当時のレコード、記録によると、事前検閲のない唯一の放送といえる野球、相撲の実況中継でさえ、アナウンサーの語り口はおどろくほど文章体だった。その典型とも言えるのが和田信賢で、日頃から幸田露伴、森鷗外などの作品を読んで放送に使えるような文章をメモしておいたという。和田は相撲の実況中継の中でもそれらの名文句をいたるところにちりばめ、美文調の高揚した口調で茶の間の聴取者を酔わせた。それは文章体というより文語体の魅力を存分に生かした語り口だった。(水原明人『江戸語・東京語・標準語』BCCWJ)

(39)人気グループ嵐のメンバー松本潤さん。歌手活動やバラエティーでの活動のほかにもデビューまもない頃から多数のドラマにも出演されています。今回はそんな松本潤さんの出演した数あるドラマの中から代表作とも言える5作品ご案内します。(http://topicks.jp/4865)

(38)の話者は、話題の対象である「和田信賢アナウンサー」が相撲の実況中継の中でも名文句を用いるなど、「文章体の実況中継の典型(例)」であると考えているが、そのような自分の考えを和らげるために「その典型とも言える」と言っていると思われる。(39)の話者も、話題の対象である「松本潤さんのドラマ5作品」を「代表作」カテゴリーの理想例であると考えているが、「代表作とも言える」と言うことで、それらを「代表作」カテゴリーの周辺例としてカテゴリー化し、自分の考えを和らげている。(38)と(39)の話者が話題の対象を「(文章体の実況中継の)典型」カテゴリーと「代表作」カテゴリーの中心例に近い成員であると考えていることは、わざわざそのカテゴリーの成員として「和田信賢アナウンサー」と「松本潤さんのドラマ5作品」を選んでいることからわかる。というのは、話者が実際話題の対象をカテゴリーXの中心例に近い成員であると考えていなければ、紹介することもなかったはずであり、そのカテゴリーの中心例であると考えているからこそわざわざこれらを選んで紹介していると思われるためである。すなわち、「Xとも言える」は、話者が実際は話題の対象をカテゴリーXの中心例に近いと考えているが、わざとXの周辺例として位置づけて、自分の考えを強く主張せず、和らげる場合に用いられると考えられる。ここで、「Xとも言える」が話者の考えを和らげる機能を持つのは、森山(2000)の指摘のとおり、「も」が付加されることで、他の表現もありうるという意味、すなわち、話題の対象をカテゴリーXではなく、別のカテゴリーの成員として位置づけることもできるという意味を表すためであると思われる。

(40)室町時代を分水嶺として女性の地位は降下の一途をたどり、江戸時代の二百数

十年の間に、その従属的な地位は決定的になったとされて、近世は女の顔の見えない時代と、しばしば言われてきた。(中略) 近世を通じて女性の社会活動は極度に制約された**異常とも言える時代**であった。また、それを当然とする秩序と秩序意識が長く全体を掩っていたことは否めない事実である。(福田光子『女と男の時空』BCCWJ)

(41) それにしても、ほとんどベッドの中という日々ののに、毛染め剤がほしいとは！母のことを知り抜いているつもりの私も脱帽でした。おしゃれは、相手に対する**エチケット**とも言えるのでないでしょうか。人の世話が必要になったら、私も母のようにせいっぱいおしゃれをして、世話をしてくれる人が心地よいようにしたいと思っています。(林玉子『プラス思考の生き生き向老学』BCCWJ)

このように話者が自分の考えを和らげる「Xとも言える」は、特に(40)のようにカテゴリXが否定的な意味を持つ場合や、(41)のように話者が自分の意見を主張する場合によく用いられる。(40)では、話者が話題の対象である「近世時代」を、女性の社会活動が極度に制約されていたことから、「異常」カテゴリの中心的な成員(正常ではない程度がはなはだしい顕著例)であると考えているが、自分の考えを和らげるため、「異常とも言える」と言っている²¹。(41)でも、話者は「おしゃれ」を「エチケット」カテゴリの中心的な成員であると考えているが、そのような自分の主張を和らげるために「Xとも言える」を用いていると考えられる。(41)の話者は「おしゃれ」を「エチケット」の中心例であると考えているが、これは「エチケット」の成員全般に関して、十分な根拠なしに「おしゃれをする」という特徴を有すると信じられているが、実際にそのような特徴を有するのは「エチケット」の成員の一部であると考えられるため、ステレオタイプに当たると思われる。以上の分析を図に示すと、図8のようになる。

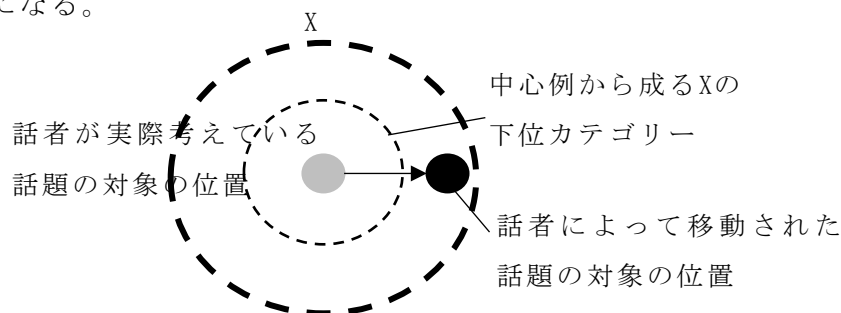


図8 話者が自分の考えを和らげる用法

²¹ (40)の「異常」は「異常な」のように形容動詞として用いられることが多く、典型的な名詞とは言い難い。しかし、『デジタル大辞泉』に「い-じょう [-ジャウ】【異常】[名・形動] 普通と違っていること。正常でないこと。また、そのさま。「この夏は異常に暑かった」「異常な執着心」「害虫の異常発生」⇔正常。」と名詞でもあることが書かれており、実際(40)のように名詞として用いられることもあるため、ここでは名詞として扱う。

5.3.3.2 比喩

(42)なぜ、そんなに美術学校が多いのかというと、やはりそれもベトナム戦争の影響なのだそうである。死の危険が常に伴う戦場への**切符**とも言える徴兵制を免れるために、また反体制の運動を展開するために、若者たちは大学や教育機関へとその逃げ道を見出したのである。彼らの多くが選んだのが美術学校だった。(伊東順二『現在美術』BCCWJ)

(43)有名な長白山は中国と北朝鮮との辺境にある。故郷の人々の中心、長白山はふるさとのシンボルであり、また延辺の**宝**とも言える。(井澤宣子『日本語教師が見た中国』BCCWJ)

(44)いつの時代も、素敵なおプロポーズは女性の憧れ。世の中の女性が今、求めているのは、“願望を叶えてくれる、自分だけのキラキラ**王子様**”とも言える。(https://movie.walkerplus.com/news/article/22455/)

(45)記事はまず、日本人は「なぜ温泉を好むのだろうか」とし、日本には数多くの温泉があり、温泉宿も数多いと指摘し、日本人は温泉を**宗教**とも言えるほど「崇拜」していると伝えている。日本人は温泉に限らず、入浴を好む民族といえる。(http://news.livedoor.com/article/detail/11000273/)

(46)「音楽は生まれるものではなく、生み出すもの」生前彼がよく口にしていた言葉でした。一切の妥協を許さず、ひたすら厳しく音楽に向き合ってきた音楽は、いわば彼の心の琴線からのメッセージだったように思います。彼の**子供**とも言える彼の音楽は多くの人に愛され心を揺るがせてきました。(https://news.ameba.jp/entry/20121129-603)

(42)の話者は、話題の対象である「徴兵制」について、死の危険が常に伴う戦場へ招くものであることから「切符」という表現にたとえて言っている。ここで話者は、実際には「切符」ではなく、「国家・社会の制度」の一つである「徴兵制」を、「切符」カテゴリーの成員との類似性に基づき、その周辺例として位置づけることで、より分かりやすく説明していると考えられる。(43)では、「長白山」が延辺に住んでいる朝鮮族にとって、特別で大切な存在であることから、「宝」カテゴリーの成員と類似しているため、「宝」カテゴリーの成員として位置づけている。しかし、これはあくまでも類似性による比喩であり、実際には「長白山」が「宝」の成員ではないことから、周辺例として位置づけていると考えられる。(44)では、話題の対象「世の中の女性が今求めている男性」が「(自分だけのキラキラ)王子様」と言い、話題の対象は実際には「王子様」カテゴリーの成員ではないはずであるが、「王子様」カテゴリーの理想例(自分だけを愛し、願望を叶えてくれる王子様)と類似していると仮定し、

周辺例としてカテゴリー化していると考えられる。(45)の話者は、日本人にとって「温泉」は崇拜に見えるほど大事にされ、好まれる対象であることから、「宗教」カテゴリーの顕著例（多くの人に非常に大事に崇拜され、好まれる対象）と類似していると考え、その周辺例としてカテゴリー化している。(46)では、話題の対象である「彼の音楽」が彼が一切妥協せずひたすら厳しく音楽に向き合って生み出したということから、実際には「子供」ではないが、「子供」カテゴリーのステレオタイプ（厳しく努力して生み出された子供）と類似しているため、その周辺例としてカテゴリー化されていると考えられる。

このようなことから、「Xとも言える」は話題の対象が実際にはカテゴリーXの成員であるわけではなく、異なる認知領域における別のカテゴリーに属しているが、Xの中心例（典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ）と類似していることから、Xに移動させ、その周辺例として位置づけることで、話題の対象についてより分かりやすく説明したり、強調する場合に用いられると言える。これを図に表すと図2のようになる。（図9において、中央の直線は話題の対象が実際属するカテゴリーとたとえられるカテゴリーXは異なる認知領域に存在するということを表す）

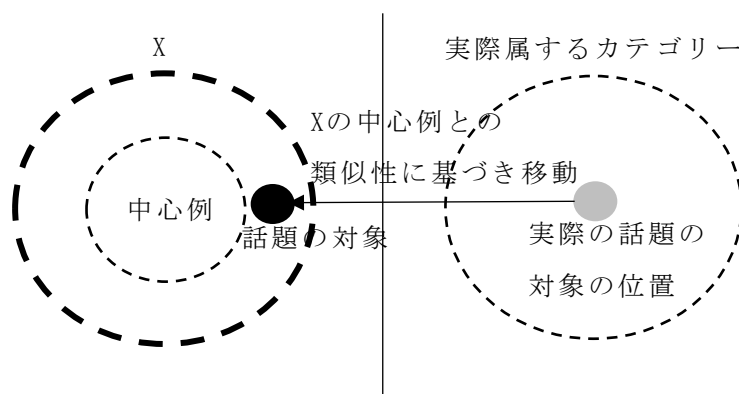


図9 話者が話題の対象をXにたとえる用法

5.3.3.3 言い換え

(47) 儉約家とも言えるけど……。ケチな男性を見極める3つのポイント

2016年06月12日 06時58分 提供：マイナビウーマン (<http://news.ameba.jp/20160612-101/>)

(48) もはや正解とも言える勘違い8選

間違いとは言い切れない！むしろ正解！それで…良い！

(問) 次の英文を過去の文にきなさい。I Live in Tokyo.

(答) I live in edo. (<http://corobuzz.com/archives/71021>)

(49) 三月二十三日、応接掛からペリー宛に書簡が渡された。箱館（函館）を開港す

るという内容である。ただし、その日は来年七月（旧暦）以降とするとある。すべてを従来どおり長崎で行うという前言にたいし、これは応接掛の譲歩であり、緊張に対する打開策とも言える。（例(34)を再掲）

(47)の話者は不特定の男性に対して「儉約家とも言える」と言い、その男性を「儉約家」の категорияに位置づけることもできるが、別の観点から見ると他の categoria（後続する「ケチ（な男性）」の categoria）に位置づけられる可能性もあることを表している。話題の対象は「儉約家」 categoriaの 成員として一般性が完全である属性（お金をあまり使わない）を持ってはいるが、その中心例（お金を無駄に使わず、必要なことに使う人、理想例）と異なるため、「儉約家」 categoriaの 周辺例として categoria化されていると考えられる。(48)の話題の対象「勘違い8選」は問題で求めている正しい答えではないという点では「不正解」 categoriaの 成員である。しかし、別の観点から見ると「正解」 categoriaの 成員として一般性が完全な属性（正しい答え）を持っていると判断することもできることから、「正解」 categoriaの 中心例（決まっている正しい答えそのもの、典型例）とは異なるが、その周辺例として位置づけられていると考えられる。(49)では、話者が話題の対象である「箱館（函館）を開港すること」を、「応接掛の譲歩」であると考えているが、これは言い換えると「緊張に対する打開策」として位置づけることもできるということが示されている。(49)でも、話題の対象を別の観点から見ると、「緊張に対する打開策」の 成員として一般性が完全な属性（緊張を解くために用いるもの）は持っているが、「緊張に対する打開策」の 中心例（緊張を解くための策ということが明白に示されたもの、顕著例）とは異なることから、周辺例として categoria化していると考えられる。

このようなことから、「Xとも言える」は、話者が別の categoriaの（中心例に近い） 成員である話題の対象に対して、別の観点から見ると categoriaXの 周辺例として categoria化することも可能であると考えられる場合に用いられることが分かる。以上のことを踏まえ、話者が別の categoriaの 成員である話題の対象を別の観点から見て Xの 周辺例として言い換える用法の「Xとも言える」に見られる categoria化の様相を図に表すと図10のようになる。

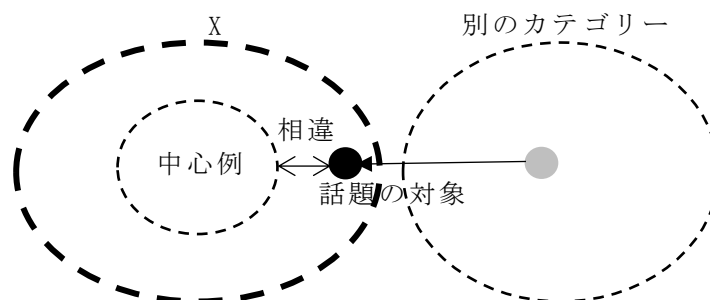


図10 別の観点から見て言い換える用法

前節でみた話題の対象をXにたとえて言う用法と異なるのは、別の観点から見て言い換える用法は、話題の対象が属していた別のカテゴリーとカテゴリーXとの間に考え方や言い方を変えると言い換えができるほどの密接な関係があるということである。例えば、(47)の「ケチ」と「儉約家」、(48)の「勘違い」（ここで、テストにおける「勘違い」は「正解」ではないため、「不正解」とも考えられる）と「正解」、(49)の「応接掛の譲歩」と「緊張に対する打開策」のように、類義関係や反義関係などの関係があることがわかる。一方、「比喩」の場合は話題の対象が属していた別のカテゴリーとカテゴリーXが異なる認知領域に属しており、類義関係や反義関係などの関係はない。

5.3.3.4 誇張

(50) 中国で**史上最悪**とも言える**乱闘**が勃発！カンフーキックも飛び出して殴る蹴るの大惨事

爆買いに象徴されるように急速な発展を遂げている中国サッカー。しかし、中身はあまり変わっていないようだ。というのも、そう思わずにはいられない衝撃的な乱闘が、2016年5月11日に行われた同国のカップ戦で勃発した。 (<http://rocketnews24.com/2016/05/13/747860/>)

(51) 曹操の「矯詔」に端を発する董卓追討の連合軍が果たした歴史的な役割は、その時点における地方勢力には、特定された「共同の敵」が、実は存在していない事実を確認したことであった。その意味で洛陽から董卓が、さっさと長安に遷都する挙に出たのは賢明である。中原のど真ん中に位置する洛陽から、いわば西の**西の辺境**とも言える長安に移ることで董卓は、彼もまた地方に割拠する群雄の一人に過ぎないことを天下に示した。しかも彼が皇帝を傀儡に使う天下に号令する大それた野心を持たず、その器量をも備えていなかったことで「共同の敵」は姿を消したのである。（安能務『中華帝国志』BCCWJ）

(50)の話者は、話題の対象である中国サッカーで起こった乱闘が、「カンフーキックも飛び出して殴るけるの大惨事」「衝撃的な」と表現するほどひどいものであったことから、「乱闘」カテゴリーの中でも特にひどい成員（顕著例）から成る「史上最悪（の乱闘）」カテゴリーを想起し、その周辺例として²²位置づけていると思われる。

²² (50)(51)の話者が、話題の対象がXの中心例であることを直接的に示す「史上最悪の」「西の辺境である」のような表現ではなく、「史上最悪とも言える」「西の辺境とも言える」が用いられていることから、話者は話題の対象をXの中心例ではなく、周辺例として位置づけていると考えられる。

(51)の話者は、「中元のだ真ん中に位置する洛陽」に比べ、話題の対象である「長安」は、そこに移った董卓を地方の群雄の一人に過ぎないと感じさせるほど、西のほうに離れていることから、「西の地域」カテゴリーの中でも最も遠く離れている成員（顕著例）から成る「西の辺境」カテゴリーを想起し、「長安」をその周辺例として位置づけている。このように、話者は話題の対象の持つある特徴に注目し、その特徴の程度が極めて高いカテゴリーXを想起し、話題の対象をXの周辺例として位置づけることで、話題の対象の持つ特徴の程度性が著しいことを誇張していると考えられる²³。

カテゴリー化の様相において、前節でみてきた「Xとも言える」の「和らげ」「比喻」「言い換え」用法とこの「誇張」用法が異なるのは、話題の対象がある特徴を持っているということを誇張するために、話者が話題の対象をその特徴を持つ物事のカテゴリーの中心例（顕著例）から成るカテゴリーXの内部に移動させ、その周辺例として位置づけるということである。これを図に表すと、図11となる。（図11において、灰色は話題の特徴の持つある特徴の程度性を表す。カテゴリーの中心に行くほどその特徴の程度が強くなる）

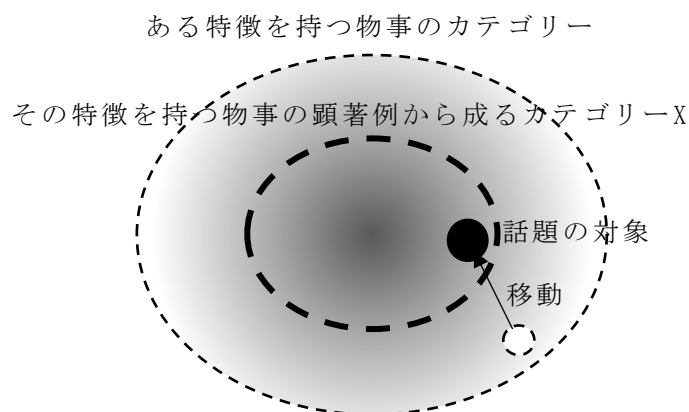


図11 話題の対象のある特徴を誇張する用法

²³ 話題の対象のある特徴を誇張するために用いられる「Xとも言える」の例には、下の例のように、Xが「絶対的」や「劇的」のような形容動詞の語幹である場合もある。このような場合、話者の誇張の意図がより明確に現れると思われるが、本研究ではXが名詞のカテゴリー名である例文を考察対象とするため、本文には取り上げないことにする。

(例)まだ、ものの考え方、見方が多分に主観的で、客観性が十分育っていない十一、二才までの子どもは、他人からの評価をストレートに受け取ってしまう。特に先生、指導者、親など、自分が偉いと思っている人、愛してもらいたいと思っている人の言葉、態度、評価は、**絶対的**とも言えるほどの力を持っている。（吉田きみ子『絵に見る子どものサイン』BCCWJ）

5.3.3.5 「Xとも言える」に見られるカテゴリーXの拡張の様相

「Xとも言える」においても、カテゴリーXの拡張が見られる。ただし、前節の「Xと言えなくもない」と同じく、用法によりカテゴリー化の様相が異なるため、Xの中心例が関わっている用法①、②、③に関して、それぞれのカテゴリーの拡張の様相を考えることにする。まず、①和らげの用法において、話者は話題の対象がXの中心例に近いと考えているが、自分の考えを和らげるために、Xの中心例（典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ）から成るXの下位カテゴリーを拡張させ、その拡張されたXの周辺例として話題の対象を位置づけるため、カテゴリーXの拡張が見られると考えられる。（図12）

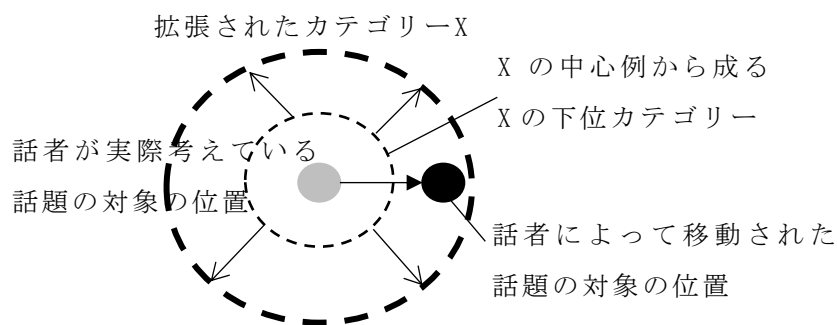


図12 用法①和らげに見られるカテゴリーの拡張

「Xとも言える」の用法②比喩と用法③言い換えにおいては、話者が話題の対象に接し、Xの中心例（典型例・顕著例・理想例（②比喩の場合はステレオタイプも含む））から成るXの下位カテゴリーを思い浮かべ、話題の対象とXの中心例を比較し、両者の間に相違点もあるが、何らかの共通点があることに注目し、Xの中心例から成るXの下位カテゴリーをより広く拡張させることで、話題の対象をその拡張されたカテゴリーXの成員としてXの（境界に近い）内側に位置づけてカテゴリー化すると考えられる。これを図に表すと図13のようになる。

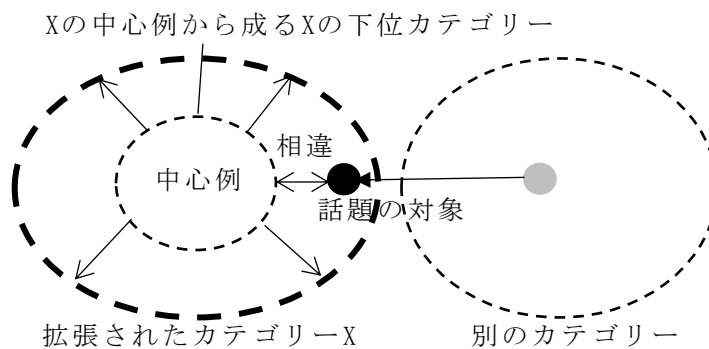


図13 用法②と③に見られるカテゴリーの拡張

5.3.3.6 「Xとも言える」と「Xと言える」「Xと言っても過言ではない」の比較

本節では、森山(2000)の文末以外の箇所でも単語に後続する「と言える」に関する記述において、「とも言える」と「といっても過言ではない」に言及していることを踏まえ、これら3つの表現を比較し、「Xとも言える」の特徴をより明確にする。5.3.2節で触れたように、森山(2000: 63)では、「ぜいたくとも言える入浴法」という例を取り上げ、この例における「と言える」は、単に「ぜいたくな入浴法」という表現に比べると、「ぜいたく」というカテゴリーに入れてよいかどうかをいったんは問題にした表現となっていると述べている。さらに、この例は、「も」が付加され「とも言える」という形式になっており、属性記述として他の表現もありうるという意味であり、「といっても過言ではない」といった言い換えもできると指摘している。本節では、このような森山(2000)の指摘を踏まえ、実例に基づき、さらに考察を行う。

「Xとも言える」「Xと言える」「Xと言っても過言ではない」は、次の(16)のように、互いに置き換えても意味のずれが大きく感じられない場合があり、類義表現であると言える。

(52) 毎回半ば**趣味**とも言える／と言える／と言っても過言ではない 機材探求の旅！！今回、私がTC Electronic「Powercore Firewire」のヘビーユーザー&実機のハードウェアも所有しているという事もあり、ずっと気になっていた「Tube-Tech CL-1B For Powercore」の実力を計ってみようと思います。 (<http://www.miroc.co.jp/report/%E5%8D%8A%E3%81%B0%E8%B6%A3%E5%91%B3%E3%81%A8%E3%82%82%E8%A8%80%E3%81%88%E3%82%8B%E6%A9%9F%E6%9D%90%E6%8E%A2%E6%B1%82%E3%81%AE%E6%97%85%EF%BC%81%EF%BC%81%E3%80%8Ctube-tech-cl-1b-for-powercore%E3%80-2/>)

しかし、(52)を見ると、森山(2000)の指摘のとおり、「趣味と言える」に比べ、「趣味とも言える」のほうは「趣味」以外に他のカテゴリーにも話題の対象をカテゴリー化することができるという意味があるように思われる。さらに、次の(53)を見ると、森山(2000)の記述とは違い、「とも言える」を「といっても過言ではない」に置き換えることができず、3つの表現には何らかの相違点があることが予測される。したがって、以下では「Xとも言える」「Xと言える」「Xと言っても過言ではない」が置き換えられない実例を取り上げ、3つの表現の相違点に注目して考察する。

(53) 薛俊著の『日本考略』には『日本地理図』が一枚付いている。その描き方は上南・下北・左東・右西になっていて、現在の地図の描き方と正反対である。この地図にある日本国土の構成はだいたい**正確**とも言える／*とも言える／??と言っ

も過言ではない。²⁴ (武安隆『中国人の日本研究史』BCCWJ)

(53)の話者は、話題の対象である「日本地理図」にある日本国土の構成がだいたい「正確」であることを「Xと言える」を用いて表している。この場合、「Xと言える」は、森山(2000)の指摘のように「話し手が自分で構成した主張に対して客観的妥当性を付与する」と考えられ、「Xとも言える」と「Xと言っても過言ではない」はこのような意味では用いられないと考えられる。「Xとも言える」と「Xと言っても過言ではない」がカテゴリー「正確」と共起している(54)と(55)を見てみる。

(54)「ビフテキあたりは正統派の死語だろう。ただ、「ビーフステーキ」の短縮語と言えなくはない。「ステーキ」よりも**正確とも言える**。(http://1311racco.blog75.fc2.com/blog-entry-689.html?sp)

(55)これは、2018年3月21日から28日までの、わたくしのメインのアメブロのアクセス数(Googleアナリティクス)の推移です。この数値は、水増し!?!?していると言われているアメブロが提供したアクセス数の数字ではありません。Googleが提供している**世界一“正確”**と言っても過言ではないくらい精度の高いアクセス数での数字です。それが、この程度の低調な数字なのです。(https://www.iinesalon.com/ameba-2/)

(54)では、「ビフテキ」という表現について、死語ではあるが、「ステーキ」と比べると、より「正確」な表現であるということが述べられている。ここで、「正確と言える」と「正確とも言える」を比較してみると、(54)の「正確とも言える」は、話題の対象が「実は正確ではない」ということを前提としており、そのような前提の上で、「しかし、「ステーキ」と比べると、より正確であるということが出来る」と言い換えていると考えられる。それに比べ、「正確と言える」は、話題の対象を「正確」カテゴリーの成員としてカテゴリー化することができるという事実に注目し、ただ単にそれを述べている表現であると考えられる。(55)では、話者が「Googleが提供する精度の高いアクセス数」を、「世界一正確」カテゴリーの成員として位置づけていると考えられる。(55)におけるカテゴリーXは「正確」ではなく、「世界一正確」であるため、(53)(54)とは異なるが、「Xと言っても過言ではない」は、(55)の「世界一正確」のように、カテゴリーXが「過言」、すなわち「言い過ぎ」「大げさ過ぎ

²⁴ (53)におけるカテゴリー「正確」は名詞が後続する際は「正確な時刻」となり、典型的な名詞ではないが、「正確を期する」のように、名詞として用いられる場合もあり、「Xと言える」と「Xとも言える」「Xと言っても過言ではない」との意味の違いがよく現れている例文であるため、本文に取り上げる。

る言い方」である可能性がある場合に用いられるという点から、「Xとも言える」「Xと言える」とは異なるということが(55)からわかる。

(56) **儉約家**とも言える／??と言える／*と言っても過言ではないけど……。ケチな男性を見極める3つのポイント

2016年06月12日 06時58分 提供：マイナビウーマン（例(47)を再掲）

(56)では、話者が「ケチな男性」カテゴリーの成員である話題の対象を、考え方や言い方を変えると、「儉約家」カテゴリーにカテゴリー化することもできるということを「儉約家とも言える」と表現している。このような場合、「Xと言える」に置き換えると容認度が大きく下がり、「Xと言っても過言ではない」には置き換えられない。その理由は、「Xとも言える」に比べ、「Xと言える」と「Xと言っても過言ではない」が、話者が話題の対象をカテゴリーXにより積極的にカテゴリー化する表現であるためであると考えられる。(56)の「儉約家とも言える」では、話者が話題の対象を「ケチな男性」カテゴリーの成員であると考えているが、考え方や言い方を変えると「儉約家」カテゴリーの周辺例として位置づけることも不可能ではないと考えるように思われる。一方、これを「儉約家と言える」「儉約家と言っても過言ではない」に置き換えると、話者が確信を持って話題の対象を積極的に「儉約家」カテゴリーの中心例に近い成員としてカテゴリー化しようとするニュアンスとなり、この文脈と合わなくなる。「Xと言える」と「Xと言っても過言ではない」が、話者が話題の対象をカテゴリーXにより積極的にカテゴリー化する表現であり、「Xとも言える」とは異なるということは、下の(57)を見ても分かる。

(57) こうした状況において次々とエアライナーキットを新発売するミニクラフトは、それだけでもファンにはありがたい存在だ。ましてや味があるモデルができあがるとなれば、太歓迎、太感謝。いくら箱絵が陳腐だろうと、第一印象はガックリだろうと、最後がよければそれでよし。まさしくエアライナーモデル界の**救世主**と言っても過言ではない／と言える／??とも言えるだろう。 (Jun Inui『飛行機プラモカタログ』BCCWJ)

(57)の話者は、「次々とエアライナーキットを新発売するミニクラフト」を、「(エアライナーモデル界の)救世主」カテゴリーの成員としてカテゴリー化している。「まさしく」という表現からも分かるように、(57)では話者が話題の対象をカテゴリーXに積極的にカテゴリー化しており、このような場合は「Xと言っても過言ではない」を「Xと言える」に置き換えることはできるが、「Xとも言える」に置き換える

ことは難しい。

以上の考察から、「Xとも言える」「Xと言える」「Xと言っても過言ではない」の特徴は次のようにまとめることができる。

「Xとも言える」： 1) 話題の対象をカテゴリーXだけでなく、他のカテゴリーにカテゴリー化することもできるということを表す。

2) 話題の対象が元々はカテゴリーXの成員ではないということ
を前提とし、考え方や言い方を変えるとXの周辺例として位置
づけることもできるということを表す。

「Xと言える」： 1) 話題の対象をカテゴリーXの成員としてカテゴリー化する
ことができるという事実に注目し、ただ単にそれを述べる。

2) 話者が確信を持って話題の対象をカテゴリーXの中心例に近
い成員として積極的にカテゴリー化する際に用いられる。

「Xと言っても過言ではない」： 1) カテゴリーXが「過言」である可能性がある場
合に用いられる。

2) 話者が確信を持って話題の対象をカテゴリーX
の中心例に近い成員として積極的にカテゴリー化
する際に用いられる。

5.3.4 まとめ

本節では、「Xとも言える」を対象に、話者が話題の対象をカテゴリーXの周辺例としてどのように位置づけるかに注目し、考察を行った。その結果を下にまとめる。

「Xとも言える」に見られるカテゴリー化の様相

①和らげ：本来Xの成員ではない話題の対象に対し、話者はそれがカテゴリーXの中心例（典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ）に近いと考えているが、自分の考えを和らげるためにわざとXの周辺例として位置づける。

②比喩：実際カテゴリーXの成員ではない話題の対象が、Xの中心例（典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ）と類似していることから、Xの内部に移動させるが、実際にはXの成員ではないため、その周辺例として位置づける。

③言い換え：話者が別のカテゴリーの（中心例に近い）成員である話題の対象に対して、別の観点から見るとカテゴリーXの成員としての一般性

が完全な特徴を持っていると見ることができ、Xの中心例（典型例・顕著例・理想例）とは異なることから、周辺例としてカテゴリー化する。

- ④誇張：話題の対象がある特徴を持っているということを誇張するために、話者が話題の対象をその特徴を持つ物事のカテゴリーの中心例（顕著例）から成るカテゴリーXの内部に移動させ、その周辺例として位置づける。

さらに、「Xとも言える」のカテゴリー化の様相においても、カテゴリーXの中心例から成る下位カテゴリーの拡張が見られるということがわかった。

「Xとも言える」の用法①、②、③に見られるカテゴリーの拡張：

用法①和らげ：話者は話題の対象がXの中心例（典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ）に近いと考えているが、自分の考えを和らげるために、Xの中心例から成るXの下位カテゴリーを拡張させ、その拡張されたXの周辺例として話題の対象を位置づける。

用法②比喩、③言い換え：話者が話題の対象に接し、Xの中心例（典型例・顕著例・理想例（②比喩の場合はステレオタイプも含む））から成るXの下位カテゴリーを思い浮かべ、話題の対象とXの中心例を比較し、両者の間に相違点もあるが、何らかの共通点があることに注目し、Xの中心例から成るXの下位カテゴリーをより広く拡張させることで、話題の対象をその拡張されたカテゴリーXの周辺例としてXの（境界に近い）内側に位置づけてカテゴリー化する。

最後に、森山(2000)において「Xとも言える」の類義表現として取り上げられた「Xと言える」と「Xと言っても過言ではない」との比較分析を通して、3つの表現の違いが明らかになり、「Xとも言える」には次のような特徴があることがわかった。

- 「Xとも言える」：1) 話題の対象をカテゴリーXだけでなく、他のカテゴリーにカテゴリー化することもできるということを表す。
2) 話題の対象が元々はカテゴリーXの成員ではないということを前提とし、考え方や言い方を変えるとXの周辺例として位置づけることもできるということを表す。

5.4 「Xと言えなくもない」と「Xとも言える」の比較

5.4.1 考察の背景と目的

5.2節と5.3節で分析した「Xと言えなくもない」と「Xとも言える」は、両方ともカテゴリーの周辺例を明示する表現であり、(58)に見られるように、互いに置き換えても意味のずれがあまり感じられない類義表現と言える。しかし、その形式が異なることから、両表現には何らかの意味上の相違点があることが予測され、(59)のように互いに置き換えられない場合もある。

(58)Niwaは2012年設立のNiwa社（サンフランシスコ）が2年にわたり農業の専門家と共同開発した水耕栽培システムで、屋内に設置し、温度や湿度、光、水やりなどをセンサーとコントローラーで制御する。日本でも植物工場を経済産業省や農林水産省が後押ししているが、Niwaは個人向け植物工場と言えなくもない／とも言える。新鮮な無農薬野菜を自宅で繰り返し収穫できるというのが売りだ。（例(1)、(27)を再掲）

(59)人気グループ嵐のメンバー松本潤さん。歌手活動やバラエティーでの活動のほかにもデビューまもない頃から多数のドラマにも出演されています。今回はそんな松本潤さんの出演した数あるドラマの中から代表作とも言える／*と言えなくもない5作品ご案内します。（例(39)を再掲）

本節では、「Xと言えなくもない」と「Xとも言える」を対象とし、両表現におけるカテゴリー化の様相がどのように異なるかに注目し、両表現の共通点と相違点を明らかにする。

なお、前節でも言及したように、本節においても、カテゴリー化の様相がより観察しやすい「名詞（句）（カテゴリー名）＋と言えなくもない／とも言える」の形式を考察の対象とする。

5.4.2 先行研究

「Xと言えなくもない」と「Xとも言える」を直接比較分析している先行研究は管見の限り見当たらない。そのため、ここでは、各々の先行研究における記述を概観し、考察における課題を確認する。

5.2.2.2節で確認したように、パリハワダナ(2013)では、「なくもない」を含めた二重否定表現の使い分けについて考察している。そこで、どのような時に二重否定表現が用いられるかについて分析し、①先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合、②生起・可能性・存在などが皆無でないことを主張したい場合、③断定・直

接的な言い方を避けたい場合、④譲歩を表す場合、⑤和らげ・配慮を表す場合、⑥全稱的表現を否定する場合、⑦肯定的な意味を表す場合があるとしている。5.2節では、「Xと言えなくもない」がこの中で①先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合、②生起・可能性・存在などが皆無でないことを主張したい場合、③断定・直接的な言い方を避けたい場合、⑤和らげ・配慮を表す場合に用いられることに基づき、各々の場合におけるカテゴリー化の様相について考察した。5.3節では、「Xとも言える」が①自分の考えを和らげる場合、②話題の対象をカテゴリーXにたとえて言う場合、③話題の対象を別の観点から見てカテゴリーXの成員として言い換える場合、④話題の対象のある特徴を誇張して言う場合に用いられることから、それぞれの場合におけるカテゴリー化の様相を明らかにした。これに基づき、本節では、両表現がどのような場合に互いに置き換えられ、どのような場合に置き換えられないかに焦点を合わせ、両表現の特徴を明らかにしたい。

次に、5.2.2.2節で見たように、グループ・ジャマシイ編(1998)では、「といえなくもない」について、例文と共に「「といえる」ほど断定的ではなく、やや消極的に肯定する言い方。後に逆接的な内容が続いたり、それを暗示したりすることが多い」と記述している。また、5.2.3.2節で確認した森山(2000)では、「文末以外の箇所ですべて単語に後続する「と言える」」に関して簡単に言及している。例えば、「練習と言えるものは」においては、客観的、一般的カテゴリーとしての「練習」に入るかどうかを問題とすることになっているとし、これは逆に言えば、「と言える」によって典型的な「練習」というカテゴリーに無条件で入るものではないということを表すのでありと述べ、「Xと言える」という表現がカテゴリー化に関わる表現、特に、カテゴリーの周辺例を明示する表現であることを指摘している。さらに、「とも言える」形式に対し、属性記述として他の表現もありうるという意味であると指摘している。これを踏まえ、次節では、「Xと言えなくもない」と「Xとも言える」を比較分析した上に、「Xと言える」とも比較することで、先行研究の指摘を確認すると共に、3つの表現の相違点をより明確にしたいと考える。

5.4.3 分析

5.4.3.1 両表現の共通点①：カテゴリー化の様相

(60)宇都宮市内から砂田街道を上三川方面へ、横川中学校の先左手「讃岐うどん太一」餅えび天うどん1,050円をずずずずつつつ。(中略)早速下から麺を引きずり出すと、うむ、讃岐うどんにしてはかなり太め、讃岐のしゅつとしなやかな麺というよりは、少しゴツゴツした武蔵野に代表される関東系のうどんに近い

ような気もします。歯を立てると、やはり食感はややもちとしてて、やはり関東風といえなくもありません／とも言えますが、くっと伸びるコシは確かに讃岐風、精白された麦の風味も讃岐系ですね。（例(2)、(23)、(33)を再掲）

(61) 儉約家とも言える／といえなくもないけど……。ケチな男性を見極める3つのポイント

2016年06月12日 06時58分 提供：マイナビウーマン（例(47)、(56)を再掲）

(60)は「Xといえなくもない」の「生起・可能性・存在などが皆無でないことを主張したい場合」の例であるが、この場合、「関東風といえなくもありません」を「関東風とも言えます」に置き換えても意味のずれがほとんど感じられない。また、(61)は「Xとも言える」の「別の観点から見て言い換える用法」の例であるが、この場合も「儉約家とも言える」を「儉約家といえなくもない」に置き換えることができる。「Xといえなくもない」の場合は、生起・可能性・存在などが皆無でないことを主張するために用いられており、例えば、(60)では話題の対象である「餅えび天うどん」が「関東風（うどん）」であると判断する可能性が皆無ではないことを表すのに焦点が置かれると考えられる。これを「関東風とも言えます」に置き換えると、麺の太さや食感の観点から考えると、「関東風（うどん）」と言い換えることができるということに焦点が置かれるため、全く同じであるとは言えない。しかし、「Xといえなくもない」の「生起・可能性・存在などが皆無でないことを主張したい場合」と「Xとも言える」の「別の観点から見て言い換える用法」は互いに置き換えられることから、両者は何らかの共通点を持つと言える。その共通点は「Xといえなくもない」の「生起・可能性・存在などが皆無でないことを主張したい場合」と「Xとも言える」の「別の観点から見て言い換える用法」のカテゴリー化の様相にあり、両方とも図14のように、話者が別のカテゴリーの中心的成員に近い話題の対象を、カテゴリーXの中心例と類似していることからXの内部に移動させるが、元々はXとは別の成員であることから、Xの周辺例としてカテゴリー化する際用いる表現であるという共通点がある。

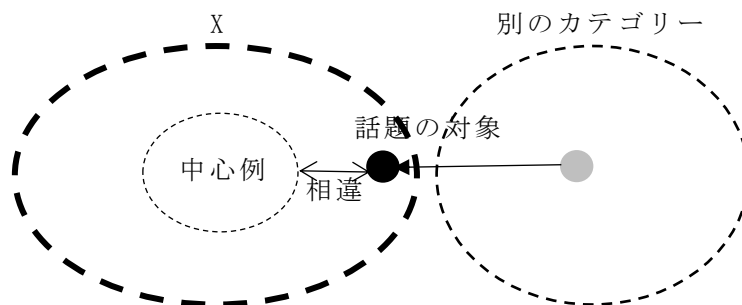


図14

5.4.3.2 両表現の共通点②：用法

(62) Niwaは2012年設立のNiwa社（サンフランシスコ）が2年にわたり農業の専門家と共同開発した水耕栽培システムで、屋内に設置し、温度や湿度、光、水やりなどをセンサーとコントローラーで制御する。日本でも植物工場を経済産業省や農林水産省が後押ししているが、Niwaは個人向け植物工場と言えなくもない／とも言える。新鮮な無農薬野菜を自宅で繰り返し収穫できるというのが売りだ。（例(1)、(27)、(58)を再掲）

(62)は、「Xと言えなくもない」の「断定・直接的な言い方を避けたい場合」の例であるが、この場合、「個人向け植物工場と言えなくもない」を「個人向け植物工場とも言える」に置き換えても意味のずれがあまり感じられない。これは、「Xと言えなくもない」と同じく、「Xとも言える」も「自分の考えを和らげる場合」に用いられることがあるためであると考えられる。断定・直接的な言い方を避けたい場合や自分の考えを和らげる場合、話者は、下の図15に表れているように、実際話題の対象をカテゴリーXの中心例に近い成員であると考えているにもかかわらず、わざとそれをXの周辺例としてカテゴリー化して表現すると思われる。そのため、「Xと言えなくもない」の「断定・直接的な言い方を避けたい場合」と「Xとも言える」の「自分の考えを和らげる用法」は、用いられる理由だけでなく、カテゴリー化の様相も類似していると考えられる。

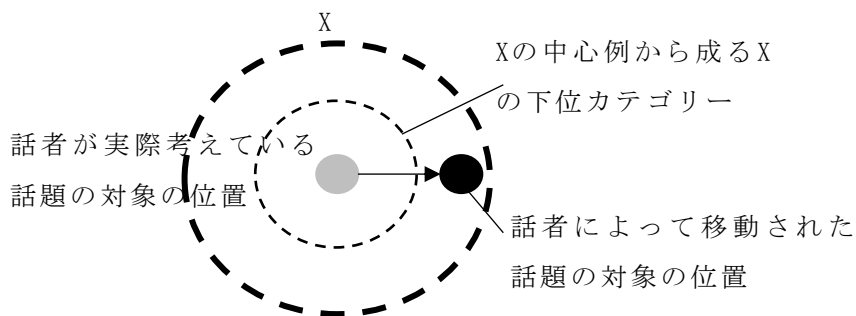


図15

(63) 「自分もそれが嘘だとは知らずに相手に伝えたわけだから、それは嘘と言えないよね」「でも、結果的に相手はだまされたんだから、嘘と言えなくもない／とも言えるんじゃない？」（例(15)、(18)を再掲）

(63)は「Xと言えなくもない」の「先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合」の例であるが、このような場合、「嘘と言えなくもない」を「嘘とも言える」に置き換えることができる。(63)の話者は、相手の「それは嘘と言えない」という意

見を、相手とは異なる理由を挙げながら否定している。これは相手の観点とは別の観点から考えて、言い換えたとも言えるため、「嘘とも言える」に置き換えると、「Xとも言える」の「別の観点から見て言い換える用法」に当てはまると考えられる。さらに、「Xと言えなくもない」の「先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合」と「Xとも言える」の「別の観点から見て言い換える用法」の 카테고리化の様相を見ると、同じであるわけではないが、共通点が見られる。図16は「Xと言えなくもない」の「先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合」の図であるが、この場合は、カテゴリーXの成員ではない、先行する発話やそれにより生じる含意における話題の対象を、話者がXの周辺例としてカテゴリー化する様相が見られる。図17は「Xとも言える」の「別の観点から見て言い換える場合」の 카테고리化の様相であるが、別のカテゴリーの中心例に近い成員である話題の対象を、話者がXに周辺例としてカテゴリー化している。このようなことから、両者は話者がカテゴリーXの成員ではない話題の対象を、Xの周辺例としてカテゴリー化するという共通点を持つと言える。

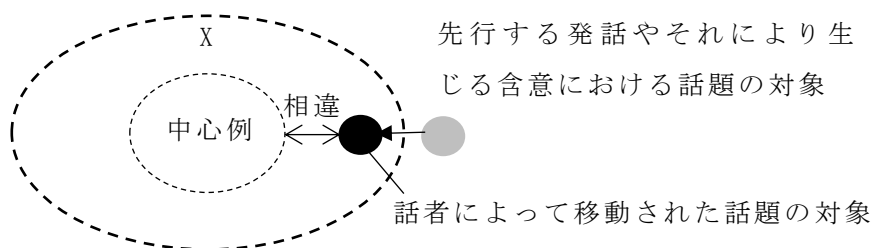


図16 「Xと言えなくもない」の「先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合」の 카테고리化の様相

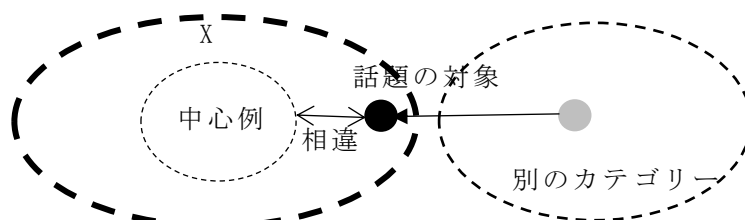


図17 「Xとも言える」の「言い換え」用法 (図14を再掲)

以上を踏まえ、「Xと言えなくもない」と「Xとも言える」の共通点をまとめると、次のようになる。

両表現の共通点①カテゴリー化の様相：

- 1) 「Xと言えなくもない」の「生起・可能性・存在などが皆無でないことを主張したい場合」と「Xとも言える」の「別の観点から見て言い換える用法」は、話者が別のカテゴリーの中心的成員に近い話題の対象を、カテゴリーX

の周辺例としてカテゴリー化する点において類似している。

- 2) 「Xと言えなくもない」の「断定・直接的な言い方を避けたい場合」と「Xとも言える」の「自分の考えを和らげる用法」は、実際には話題の対象をカテゴリーXの中心例に近い成員であると考えているにもかかわらず、わざとそれをXの周辺例としてカテゴリー化する点において類似している。
- 3) 「Xと言えなくもない」の「先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合」と「Xとも言える」の「別の観点から見て言い換える用法」は、話者がカテゴリーXの成員ではない話題の対象を、Xの周辺例としてカテゴリー化する点において類似している。

両表現の共通点②用法：

- 1) 「Xと言えなくもない」の「断定・直接的な言い方を避けたい場合」と「Xとも言える」の「自分の考えを和らげる用法」は、断定・直接的な言い方を避けることと自分の考えを和らげることとの間の類似性により、置き換えられる場合がある。
- 2) 「Xと言えなくもない」の「先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合」と「Xとも言える」の「別の観点から見て言い換える用法」は、相手の意見を否定することが、相手の観点とは別の観点から考えて言い換えることになる場合があることから、置き換えられる場合がある。

5.4.3.3 両表現の相違点：用法と話者の態度

(64) なぜ、そんなに美術学校が多いのかというと、やはりそれもベトナム戦争の影響なのだそうである。死の危険が常に伴う戦場への切符とも言える／*と言えなくもない徴兵制を免れるために、また反体制の運動を展開するために、若者たちは大学や教育機関へとその逃げ道を見出したのである。彼らの多くが選んだのが美術学校だった。（例(42)を再掲）

(65) 中国で史上最悪とも言える／*と言えなくもない乱闘が勃発！カンフーキックも飛び出して殴る蹴るの大惨事
爆買いに象徴されるように急速な発展を遂げている中国サッカー。しかし、中身はあまり変わっていないようだ。というのも、そう思わずにはいられない衝撃的な乱闘が、2016年5月11日に行われた同国のカップ戦で勃発した。（例(50)を再掲）

(64)は「Xとも言える」の「話題の対象をXにたとえる場合」の例であり、(65)は「Xとも言える」の「話題の対象のある特徴を誇張する場合」の例であるが、このよ

うな場合は、両方とも「Xと言えなくもない」に置き換えることができない。(64)と(65)を見ると、話者が話題の対象をXにたとえて言う場合も、話題の対象のある特徴を誇張してXと言う場合も、「Xとも言える」を用いて話題の対象をXの周辺例としてカテゴリー化してはいるが、話者は自分の考えを相手に伝えるために、話題の対象を積極的にXの成員としてカテゴリー化していると思われる。しかし、ここで「Xとも言える」を「Xと言えなくもない」に置き換えると、話題の対象をXにたとえたり、Xであると誇張して言おうとする話者の積極的な態度がかなり弱まってしまい、わざわざ比喻や誇張を用いる意味がなくなり、非文となると考えられる。「Xと言えなくもない」が生起・可能性・存在などが皆無でないことを表したり、断定・直接的な言い方を避けたり、和らげ・配慮を表す場合に用いられることから、この表現は話者の消極的な態度を表す表現であると考えられる。このようなことから、「話題の対象をXにたとえる場合」と「話題の対象のある特徴を誇張する場合」には、「Xとも言える」のみ用いられることから、話者の態度は「Xとも言える」より「Xと言えなくもない」のほうがより消極的であることが言える。

両表現の相違点①用法：「Xとも言える」が「話題の対象をXにたとえる用法」と「話題の対象のある特徴を誇張する用法」で用いられる場合、「Xと言えなくもない」に置き換えられない。

両表現の相違点②話者の態度：「Xとも言える」より「Xと言えなくもない」のほうがより消極的である。

5.4.3.4 「Xと言えなくもない」「Xとも言える」と「Xと言える」との比較

本節では、先行研究の指摘を踏まえ、前節で比較分析した「Xと言えなくもない」と「Xとも言える」を「Xと言える」と比較し、3つの表現の相違点を明らかにすることで、「Xと言えなくもない」と「Xとも言える」の特徴をより明確にする。5.4.2節で概観したように、グループ・ジャマシイ編(1998)では、「といえなくもない」について、「「といえる」ほど断定的ではなく、やや消極的に肯定する言い方。後に逆接的な内容が続いたり、それを暗示したりすることが多い」と記述している。また、森山(2000)では、「文末以外の箇所単語に後続する「と言える」」がカテゴリーの周辺例を明示する表現であることを指摘し、「とも言える」形式には属性記述として他の表現もありうるという意味であると述べている。以下では、先行研究の指摘を確認すると共に、3つの表現の相違点についてより詳細に検討する。

(66) 宇都宮市内から砂田街道を上三川方面へ、横川中学校の先左手「讃岐うどん太一」餅えび天うどん1,050円をずずずずつつつ。(中略)早速下から麺を引き

ずり出すと、うむ、讃岐うどんにしてはかなり太め、讃岐のしゅつとしなやかな麺というよりは、少しゴツゴツした武蔵野に代表される関東系のうどんに近いような気がします。歯を立てると、やはり食感はややもちっとしてて、やはり**関東風**といえなくもありません／とも言えます／*とも言えますが、くっと伸びるコシは確かに讃岐風、精白された麦の風味も讃岐系ですね。（例(2)、(23)、(33)、(60)を再掲）

すでに確認したように、(66)において、「Xと言えなくもない」を「Xとも言える」に置き換えることはできるが、「Xとも言える」に置き換えることはできない。このことから、3つの表現に見られるカテゴリー化において、グループ・ジャマシイ編(1998)の指摘のとおり、「Xとも言える」に比べ、「Xと言えなくもない」と「Xとも言える」はやや消極的であるということが確認できる。より具体的にみると、(66)では、話者が話題の対象を「関東風（うどん）」カテゴリーの成員としてカテゴリー化すべきか、「讃岐風」カテゴリーの成員としてカテゴリー化すべきかに悩み、麺の性質からは「関東風」の成員としてカテゴリー化できるということを一度認めている。しかし、その後すぐ「讃岐風」カテゴリーの成員であると言っており、「関東風」カテゴリーへのカテゴリー化が変更のできる、弱くて消極的な判断であったことが窺える。「Xとも言える」は森山(2000)の指摘のように、話題の対象をカテゴリーXの周辺例としてカテゴリー化しながらも、それとは違う別のカテゴリーにカテゴリー化する可能性もあるということを含意するため、「Xとも言える」に比べ、多少消極的な態度が現れると考えられる。一方、「Xとも言える」は、話者が話題の対象をXにより積極的にカテゴリー化しており、「Xと言えなくもない」と「Xとも言える」に比べ、話題の対象がカテゴリーXの中心的な成員により近いということを表すと思われる。そのため、(66)のように話者が話題の対象を一度Xにカテゴリー化し、その後すぐ別のカテゴリーへカテゴリー化する場合は「Xとも言える」に置き換えることができないと考えられる。

(67)千九百八十八年（昭和六十三）一月に、日本医師会の生命倫理懇談会は「脳死および臓器移植についての最終報告」を発表した。近年続いている脳死と臓器移植をめぐっての論議の行方に大きな影響を与える一つの**公的な意見**と言える／??
と言えなくもない／とも言える。（波平恵美子『病と死の文化』BCCWJ）

(67)では、「Xとも言える」を「Xとも言える」に置き換えることはできるが、「Xと言えなくもない」に置き換えると不自然に感じられる。ここで話者は、話題の対象が日本医師会の生命倫理懇談会が発表した最終報告であることから、それを「公的な意見」カテゴリーの周辺例というよりは、中心例に非常に近いものであると考

えているが、「公的な意見である」と断言するよりは自分の判断を多少和らげるために「Xと言える」を用いていると考えられる。この場合、「Xと言えなくもない」に置き換えると不自然になるのは、この表現は話者が話題の対象を「公的な意見」であると言うことができるかどうかにより焦点を当て、消極的に「公的な意見」と言うことができるか判断する表現であるためであると思われる。一方、(67)の「Xと言える」を「Xとも言える」に置き換えることはでき、その場合は「脳死および臓器移植についての最終報告」を「(一つの)公的な意見」と言い換えることになり、自然に感じられるのであると思われる。この場合、「Xと言えなくもない」と同じく消極的な判断を表す「Xとも言える」の方が自然に感じられるのは、前節ですでに確認したように、話者の態度において「Xと言えなくもない」より「Xとも言える」のほうが多少積極的であるためであると考えられるからである。

(68) 人気グループ嵐のメンバー松本潤さん。歌手活動やバラエティーでの活動のほかにもデビューまもない頃から多数のドラマにも出演されています。今回はそんな松本潤さんの出演した数あるドラマの中から**代表作**とも言える／*と言えなくもない／と言える 5 作品ご案内します。(例(39)、(59)を再掲)

(68)では、「Xとも言える」を「Xと言える」に置き換えることはできるが、「Xと言えなくもない」に置き換えることができない。まず、「Xと言える」に置き換えられるのは、(68)の話者が実際には話題の対象を「代表作」カテゴリーの中心例に近い成員であると考えているが、「Xとも言える」を用いて自分の意見を和らげており、積極的に話題の対象をXの中心例に近い成員としてカテゴリー化する「Xと言える」に置き換えても意味のずれが少ないためであると考えられる。一方、(68)の「Xとも言える」を「Xと言えなくもない」に置き換えられないのは、(67)と同じく、「Xと言えなくもない」の話者の態度が「Xとも言える」に比べ、より消極的であるためであると思われる。(68)では、話題の対象が「代表作」であるからこそ紹介しているわけであり、話題の対象が「代表作」の成員であるかどうかは問題となっているわけではない。しかし、「代表作と言えなくもない」に置き換えると、「Xと言える」と「Xとも言える」に比べ、話題の対象が「代表作」の成員であるかどうかにより焦点が当てられ、非文となると考えられる。

(69) 薛俊著の『日本考略』には『日本地理図』が一枚付いている。その描き方は上南・下北・左東・右西になっていて、現在の地図の描き方と正反対である。この地図にある日本国土の構成はだいたい**正確**とも言える／?と言えなくもない／*とも言える)。(例(53)を再掲)

(69)の「Xと言える」は、「Xと言えなくもない」に置き換えると容認度が多少落ちるが、「Xとも言える」には置き換えられない。(69)の話者は、話題の対象である「日本地理図」にある日本国土の構成がだいたい「正確」であることを「Xと言える」を用いて表している。この場合、「Xと言える」は、森山(2000)の指摘のとおり、「文末に用いられ、話し手が自分で構成した主張に対して客観的妥当性を付与する」と考えられるが、「Xとも言える」に置き換えると、「正確」のほかにも異なる表現があり得るというニュアンスになり、非文となると考えられる。一方、「Xと言えなくもない」に置き換えると、「Xと言える」より容認度は落ちるが、話者の消極的な判断を表し、非文にはならないと思われる。

以上の考察の結果をまとめると、以下のようになる。

「Xと言えなくもない」と「Xとも言える」と「Xと言える」の相違点：

- 1) 話者の積極性の程度：「Xと言えなくもない」<「Xとも言える」<「Xと言える」
- 2) 「Xとも言える」と「Xと言える」が話者自身の考えを和らげるために用いられる際、話者は、話題の対象がカテゴリーXの中心例に近い成員であると考えているが、「Xと言えなくもない」に置き換えると、話題の対象がXの成員であるかどうかには焦点が当てられ、意味が大きくずれる。
- 3) 「Xとも言える」はXとは別のカテゴリーの存在を含意する。

5.4.4 まとめ

本節では、カテゴリーの周辺例を明示する類義表現としての「Xと言えなくもない」と「Xとも言える」を対象とし、比較分析を通して共通点と相違点を明らかにした。その結果を以下にまとめる。

両表現の共通点①カテゴリー化の様相：

- 1) 「Xと言えなくもない」の「生起・可能性・存在などが皆無でないことを主張したい場合」と「Xとも言える」の「別の観点から見て言い換える用法」は、話者が別のカテゴリーの中心的成員に近い話題の対象を、カテゴリーXの周辺例としてカテゴリー化する点において類似している。
- 2) 「Xと言えなくもない」の「断定・直接的な言い方を避けたい場合」と「Xとも言える」の「自分の考えを和らげる用法」は、実際には話題の対象をカテゴリーXの中心例に近い成員であると考えているにもかかわらず、わざと

それをXの周辺例としてカテゴリー化する点において類似している。

- 3) 「Xと言えなくもない」の「先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合」と「Xとも言える」の「別の観点から見て言い換える用法」は、話者がカテゴリーXの成員ではない話題の対象を、Xの周辺例としてカテゴリー化する点において類似している。

両表現の共通点 ②用法：

- 1) 「Xと言えなくもない」の「断定・直接的な言い方を避けたい場合」と「Xとも言える」の「自分の考えを和らげる用法」は、断定・直接的な言い方を避けることと自分の考えを和らげることとの間の類似性により、置き換えられる場合がある。
- 2) 「Xと言えなくもない」の「先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合」と「Xとも言える」の「別の観点から見て言い換える用法」は、相手の意見を否定することが、相手の観点とは別の観点から考えて言い換えることになる場合があることから、置き換えられる場合がある。

両表現の相違点：

- 1) 用法：「Xとも言える」が「話題の対象をXにたとえる用法」と「話題の対象のある特徴を誇張する用法」で用いられる場合、「Xと言えなくもない」に置き換えられない。
- 2) 話者の態度：「Xとも言える」より「Xと言えなくもない」のほうがより消極的である。
- 3) 話者の焦点：「Xとも言える」が話者自身の考えを和らげるために用いられる際、話者は、話題の対象がカテゴリーXの中心例に近い成員であると考えているが、「Xと言えなくもない」に置き換えると、話題の対象がXの成員であるかどうかに関心が当てられ、意味が大きくなる。
- 4) X以外のカテゴリーの存在：「Xとも言える」はXとは別のカテゴリーの存在を含意する。

5.5 第五章のまとめ

第五章では「カテゴリー化」に関わる「と言う（言える）」を含む表現である「Xと言えなくもない」と「Xとも言える」を対象に、「カテゴリー化の様相」に注目し考察を行った。「Xと言えなくもない」と「Xとも言える」の「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴をまとめる。

「Xと言えなくもない」は「Xとも言える」に比べて、話者の態度がやや消極的な表現である。考察においては、「Xと言えなくもない」が用いられる4つの場合におけるカテゴリー化の様相について考察した。①先行する発話やそれにより生じる含意を否定する場合は、話題の対象がXの成員ではないという相手の意見を否定し、話題の対象をXの周辺例として位置づける。②生起・可能性・存在が皆無でないことを主張する場合は、別のカテゴリーの成員である話題の対象をXの周辺例として位置づけ、Xである可能性があることを示す。③断定・直接的な言い方を回避する場合は、話者自身は話題の対象をXの中心例に近い成員であると考えているが、自分の意見を和らげるため、周辺例として位置づける。④和らげ・配慮を表す場合は相手と異なる意見を持っていても、相手の意見を配慮し、Xの成員ではないと考えている話題の対象をXの周辺例として位置づける。①と②の場合はXの中心例（典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ）と比較し、それと異なることから、Xの中心例から成る下位カテゴリーを拡張させ、話題の対象を周辺例として位置づける。③の場合では話題の対象が中心例と類似していると考えているが、自分の意見を和らげるため、Xの下位カテゴリーを拡張させ、その周辺例としてカテゴリー化する。④は話題の対象をXの中心例と比較しないため、Xの拡張も見られない。

「Xとも言える」もそれが用いられる理由によって4つに分けて分析を行った。①和らげは「Xと言えなくもない」の③と類似しており、話題の対象がXの中心例に近いと考えていながら、自分の意見を和らげ、周辺例として位置づける。②比喩は別の認知領域の別のカテゴリーの成員である話題の対象が、Xの成員と類似していることから、Xに周辺例としてカテゴリー化する。③言い換えは、別のカテゴリーの成員である話題の対象を異なる観点から見ると、Xにカテゴリー化することができることから、周辺例としてカテゴリー化する。④誇張は、Xが話題の対象の持つ特徴を顕著に持っているカテゴリーであり、その特徴を強調するために話題の対象をXの周辺例として位置づける。「Xとも言える」においても、②と③においてXの拡張が見られるが、②は話題の対象と比較されるXの中心例が典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプであるが、③は典型例・顕著例・理想例であるという点が異なる。また、①は話者が自分の意見を和らげるためにXの中心例から成る下位カテゴリーを拡張させ、その拡張されたXの周辺例として位置づけるため、Xの拡張が見られるが、④はXの中心例と比較せず、Xの拡張も見られない。

「Xと言えなくもない」と「Xとも言える」は、カテゴリー化の様相やそれぞれの用法上に共通点が多く見られるが、「Xとも言える」が「話題の対象をXにたとえる用法」と「話題の対象のある特徴を誇張する用法」で用いられる場合は、「Xと言えなくもない」に置き換えられず、「Xとも言える」はXとは別のカテゴリーの存在を含意するという点において、違いも見られる。

第六章 「再カテゴリー化」が見られる表現の分析

6.1 はじめに

本章では、「Xというのもおこがましい(Y)」と「Xとは名ばかり(のY)／名ばかり(の)X」を対象に、「カテゴリー化の様相」に注目して実例を分析することで、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴を明らかにする。「Xというのもおこがましい(Y)」と「Xとは名ばかり(のY)／名ばかり(の)X」は、話者がすでにXの成員としてカテゴリー化されている話題の対象を、Xから外したり、Xとは別のカテゴリーYに再カテゴリー化する表現であると考えられる。例えば、下の(1)の話者は、話題の対象である「フタが金属製で、ビンの底も平らであるワイン」が「ワイン」カテゴリーの成員ではないと考え、「混ぜもののお酒」カテゴリーに再カテゴリー化していると考えられる。

- (1) 日本で買う安物のワインの中にはフタもコルクではなく金属製、ビンの底も平らというものがありますが、あれはワインというのもおこがましい／とは名ばかりの混ぜもののお酒と思った方がいいでしょう。(竹内均(編)『頭にやさしい雑学読本』BCCWJ)

さらに、(1)では「ワインというのもおこがましい」を「ワインとは名ばかりの」に置き換えても意味が大きくずれないことから、両表現は類義表現であると思われる。本章では、「再カテゴリー化」が見られる両表現の「カテゴリー化の様相」に注目して、各々の特徴について考察し、両表現の共通点と相違点を明らかにすることを目的とする。

6.2 「Xというのもおこがましい(Y)」

6.2.1 考察の対象と目的

「Xというのもおこがましい(Y)」は、次の例(2)に見られるように、話者が話題の対象をカテゴリーXの周辺的な成員として位置づけ、さらにXではなく、別のカテゴリーYの成員として再カテゴリー化する表現である。

- (2) 日本で買う安物のワインの中にはフタもコルクではなく金属製、ビンの底も平らというものがありますが、あれはワインというのもおこがましい混ぜものの

お酒と思った方がいいでしょう。(例(1)を再掲)

(2)の話者は話題の対象である「フタも金属製でビンの底も平らという安物のワイン」を、「ワイン」という名前を持っていることから「ワイン」カテゴリーの周辺例として位置づけてはいるが、実は「ワイン」の成員ではなく、「混ぜもののお酒」カテゴリーの成員として位置づけるべきであると考えていると思われる。本節では、このように話者による再カテゴリー化が見られる「Xというのもおこがましい(Y)」を対象に、カテゴリーの周辺例を明示する表現としての特徴とその再カテゴリー化の様相について考察する。

なお、本節の考察形式は、話者によるカテゴリー化の様相が確認しやすい「名詞(カテゴリー名) + いうのもおこがましい(+名詞(カテゴリー名))」の形式に限定するが、Xの部分には名詞だけでなく、(3)(4)のように動詞(節)などが来ることもある。

(3)2015年9月20日、ニュージーランドの児童文学者ドロシー・バトラー(Dorothy Butler)氏が、90年の生涯を閉じた。(中略)日本では1984年に邦訳され、翌85年、国際交流基金の援助により、バトラー氏の初来日を実現。(中略)当誌『南半球評論』の創刊号は、その講演録で始まる。当時のことを知らない私が追悼文を書くというのもおこがましいのだが、バトラー氏の信念に共感する者として、筆を執らせていただく。(大作道子(2015)「追悼 ドロシー・バトラー氏」『南半球評論』31、p.5)

(4)私はまだフリーランスで全然稼げていないので「フリーランスです」**というのもおこがましい**のですが、背中を押してもらったようで、感謝しています。これからフリーランスを目指す人から、フリーランスで稼いでいる人までお勧めできる本です。(https://www.amazon.co.jp/gp/customer-reviews/R1TMCA9SM3H8R6/ref=cm_cr_arp_d_viewpnt?ie=UTF8&ASIN=4534055579#R1TMCA9SM3H8R6)

本節では、(3)(4)に見られるような形式も広い意味で話題の対象をカテゴリーX(四角で囲まれた部分)の周辺例として位置づけていると考えるが、考察の便宜上、カテゴリー化の様相がより観察しやすい「名詞(カテゴリー名) + いうのもおこがましい(+名詞(カテゴリー名))」の形式を考察の対象とする。

6.2.2 先行研究

「X というのもおこがましい (Y) 」を対象に分析を行っている先行研究は管見の限り見当たらない。したがって、本節では「X というのもおこがましい (Y) 」の意味を成す主要成分である「おこがましい」に関する辞書の記述を概観し、考察における課題を確認する。

『日本国語大辞典 第二版』

おこ - がまし・い [をこ..] 【痴一・烏滸一】 [形口] ㊦をこがまし [形シク]

(「がましい」は接尾語)

(1) ばかばかしくて、笑いを誘うようなさま。ばかげている。みっともない。いい物笑いになりそうだ。

* 落窪物語 [10C後] — 「形うちふくれて、いとをこがましと、少将つくづくとかいばみ臥したり」

* 源氏物語 [1001～14頃] 総角「ことに恥づかしげなる人はうちまじらねど、おのおの思ふらむが人笑へにおこがましきこと」

* 十六夜日記 [1279～82頃] 「いつつの子どもの歌、残るなく書続けぬるも、且つはいとをこがましけれど」

* 徒然草 [1331頃] 二三四「ありのままに言はんはをこがましとにや、心まどはすやうに返事 (かへりこと) したる、よからぬ事なり」

* 読本・昔話稲妻表紙 [1806] 五・一七「『軍師などとはおこがましや』といひて笑つつ」

(2) さしでがましい。なまいきである。思い上がっている。しゃくにさわる。

* 浄瑠璃・神霊矢口渡 [1770] — 「扱は此義興をなき者にせん為に、佞人 (ねいじん) 共の計ひよな。ハアおこがましや片腹いたや」

* 読本・南総里見八犬伝 [1814～42] 八・八五回「烏許 (ヲコ) がましく候へども、某 (それがし) が父落鮎岩水員種 (おちあゆがんすいかずたね) と喚れしもの、則豊島の家臣也」

* 歌舞伎・青砥稿花紅彩画 (白浪五人男) [1862] 三幕「天に替って窮民を救ふといふもおこがましいが」

* 西国立志編 [1870～71] 〈中村正直訳〉五・三五「彼れの新進の測量者妄 (みだ) りに察地学を唱ふるとや、嗚呼 (ヲコ) がましきことなり」

* 幼学読本 [1887] 〈西邨貞〉五「汝の遅足を以て、我れの早足と競争せんと曰ふは、をこがましくも亦片腹痛きことなり」

補注 自分自身のことについて、他人から「ばかばかしい」「なまいきだ」と思われそうだと意識する場合と、他人の行為、状態などについて批評する場合とがある。(2)の「さしでがましい」の意味が生じたのは、近世以後か。

『デジタル大辞泉』

おこ - がまし・い [をこ -] 【▽痴がましい／×鳥×澁がましい】 [形] [文] を
こがま・し [シク]

- 1 身の程をわきまえない。差し出がましい。なまいきだ。「先輩をさしおいて一・いのですが…」
- 2 いかにもばかばかしい。ばかげている。
「世俗のそらごとを、ねんごろに信じたるも一・しく」〈徒然・七三〉
[派生] おこがましげ [形動] おこがましさ [名]

『大辞林 第三版』

おこがまし・い【痴がましい・鳥澁がましい】(形) [補説] [2] が原義

- 1 分不相応である。さしでがましい。出過ぎたことだ。「自分のことは棚にあげて、そんなことを言うとは一・い」「一・くも口出しする」
- 2 いかにもばかげている。全くばかばかしい。

国語辞典の意味記述を見ると、「ばかばかしい」という意味と「差し出がましい」という意味の二つに分けられ、記述されている。本節で考察する「おこがましい」の意味は「差し出がましい」のほうであると思われるが、次の例(5)における「おこがましい」の意味を十分説明できているとは言えない。というのは、話題の対象を「ワイン」と呼ぶことを「分不相応である」「さしでがましい」「出過ぎたことだ」「ばかげている」ことであるというのは無理があるためである。「おこがましい」のこのような用法は「Xというのもおこがましい(Y)」という形式でのみ現れるものであり、この表現形式を定着した一つの表現と見なしてその意味を考えるのが妥当であると考えられる。

(5) 日本で買う安物のワインの中にはフタもコルクではなく金属製、ビンの底も平らというものがありますが、あれはワインというのもおこがましい混ぜもののお酒と思った方がいいでしょう。(例(1)、(2)を再掲)

ただし、『日本国語大辞典 第二版』の補注における「自分自身のことについて、他人から「ばかばかしい」「なまいきだ」と思われそうだと意識する場合と、他人の

行為、状態などについて批評する場合とがある」という特徴は、「Xというのもおこがましい(Y)」の形式においても受け継がれていると考えられる。(6)は前者に当たり、(7)は後者に当たる。しかし、(8)のように、話題の対象が話者自身のことでも、他人のことでもない物事である場合もあり、さらに、(9)のように、話題の対象が他人に関連する物事である点では(7)と同じであるが、それに対してマイナス(以下、(－)と表記する)ではなく、プラス(以下、(＋)と表記する)評価をする場合もある。特に(9)の場合、話題の対象に対する評価性が(＋)であり、他の例文(6)(7)(8)における話題の対象に対する評価性が(－)であるのと異なることがわかる。このようなことから、カテゴリー化の様相にも違いがあると考えられ、本節の考察では、話題の対象に対する評価性が(－)であるか、(＋)であるかにより、分けて考察することにする。

(6) 昨年書いた自分のエッセーが「鹿追文藝(ぶんげい)」四十号に載った。載ったというと鷹揚(おうよう)な気もする。載せていただいたと言うべきか。これから自分の**作品**(**というのもおこがましい**)が、世に残ることになる。 (<http://tokachi.hokkaido-np.co.jp/essey/20180502.html>)

(7) 僕がいつものように通学路を歩いていると、前の方で鏡を片手にニヤニヤとしながら歩いている男がいた。いや、**男**というのもおこがましい。あんな奴は不審者で十分だ。この不審者っ！ (<https://www.nextperiod.net/entry/2018/08/14/223609>)

(8) 溪流は崖にぶつかり、**滝**と言うもおこがましい垂直な流れになった。²⁵ (貫井徳郎『別冊文藝春秋』2001年Spring(第235号)BCCWJ)

(9) 「**お友達クリエイター**の(**というのもおこがましい**、**ずっとお名前と作品は見ていた大先輩クリエイターの!**) 小太刀御禄さん(省略)」²⁶ (<https://www.facebook.com/Shizuka.illustrater/posts/245560732227426>)

以上を踏まえ、次節では、「Xというのもおこがましい(Y)」に見られるカテゴリー化の様相に注目して考察を行い、カテゴリーの周辺例を明示する表現としての特徴

²⁵ (8)では、問題となる表現が考察対象である「Xというのもおこがましい(Y)」の形式とは違い、「滝と言うもおこがましい」となっているが、両表現が実際表す意味にほとんどずれがないことから、本稿ではこれらを同一のものとして取り扱う。

²⁶ (9)では、問題となる表現が分析対象である「XというのもおこがましいY」の形式とは多少異なり、「X」と「というのもおこがましい」と「Y」の間に助詞や修飾節などの成分が入っているが、その修飾節がないと仮定しても、問題となる表現の表す意味は変わらないことから、本稿ではこのような表現も考察対象に入れて考察する。

を明らかにする。

6.2.3 「Xというのもおこがましい(Y)」に見られるカテゴリー化の様相

6.2.3.1 「Xというのもおこがましい」

(10)「ボンジュール、オーレリア」オーレリアが蚊の鳴くような声で答えた。「ボンジュール」ジェイミーは片言と言うのもおこがましいくらいの、ひどいフランス語で言った。「わたし、あなた、あえて、とても、うれし」たちまちオーレリアは戸惑った顔になり、エレナが言った。「残念だけど、彼女、フランス語はだめなの、あなたと同じね、ジェイミー。彼女、ポルトガル人なのよ」(リチャード・カーティス(著)/石川順子(訳)『ラブ・アクチュアリー』BCCWJ)

(11)味は、とっても美味しかったのだ。自分の好きな味付けをして、自分だけが食べる食事だから。他の人が食べたら、へんてこな仕上がりだと思いますwだって、自分のため以外に料理した事ないしね。いや、料理と言うのも烏滸がましいかも。(Yahoo!ブログ、BCCWJ)

(12)ジャンボや青木がインタビューに答えて「疲れがピークだ」とか「体がガタガタだ」というコメントをよく聞きますが、スポーツというのもおこがましい程度の運動量のゴルフで、しかも私たちよりはるかに少ない打数で回り、一日たった18ホールしかラウンドしないプロが、なぜそんなに疲れるのか、私にはよくわかりません。彼らはいったい、どういう疲れ方をするのでしょうか。碁とか将棋でもしたように、頭と精神が疲れるものなののでしょうか。(https://www.golfdigest.co.jp/digest/column/wsaka/lib/0022.asp)

(13)僕がいつものように通学路を歩いていると、前の方で鏡を片手にニヤニヤとしながら歩いている男がいた。いや、男というのもおこがましい。あんな奴は不審者で十分だ。この不審者っ！(例(7)を再掲)

(10)の話者は、話題の対象であるジェイミーのひどいフランス語を、「片言」カテゴリーの典型例と比べ、それよりひどいと判断し、「片言」の周辺例として位置づけていると考えられる。(11)の話者は「他の人が食べたら、へんてこな仕上がりだと思います」と言っていることから分かるように、自分が自分のために作った料理を「料理」カテゴリーの理想例と比較し、それとは異なることから、「料理」カテゴリーの周辺例として位置づけている。(12)では、話者が話題の対象であるゴルフに対し、「スポーツ」の顕著例(運動量が多いスポーツ)と異なり、運動量が少ないことから、「スポーツ」カテゴリーの周辺例としてカテゴリー化している。(13)の話者は、自分

の前の方から鏡を片手にニヤニヤとしながら歩いている男を見て、「男」カテゴリーのステレオタイプ（鏡を片手にしてニヤニヤとしながら歩かない男）と比較し、それと異なることから、「男」カテゴリーの周辺例として位置づけていると考えられる。

ここで、話題の対象が自分自身のことであるか、他人の行為、態度などであるか、それともそのどちらでもない物事であるかを見てみると、(11)は話者自身のことであり、(10)と(13)は他人のこと、(12)はそのどちらでもない物事である。このような話題の対象の性質により、「Xというのもおこがましい」が用いられる理由が異なると思われ、(11)では他人の評価を意識し、へりくだって言うために用いられており、(10)(12)(13)では他人に関連することや自分とも他人とも関係ない物事に対し、話者の批評を表すために用いられていると考えられる。また、評価性の観点から考えると、全ての場合において、話者は話題の対象に対し、カテゴリーXの中心例に比べて明らかによくないという否定的な評価をしていると言える。

以上のことから、「Xというのもおこがましい」は、話者が話題の対象をカテゴリーXの中心例（典型例・理想例・顕著例・ステレオタイプ）と比較し、両者が異なる（話題の対象のほうがよくないという評価が加わる）ことからXの周辺例として位置づける表現であると言える。これを図に表すと図1となる。

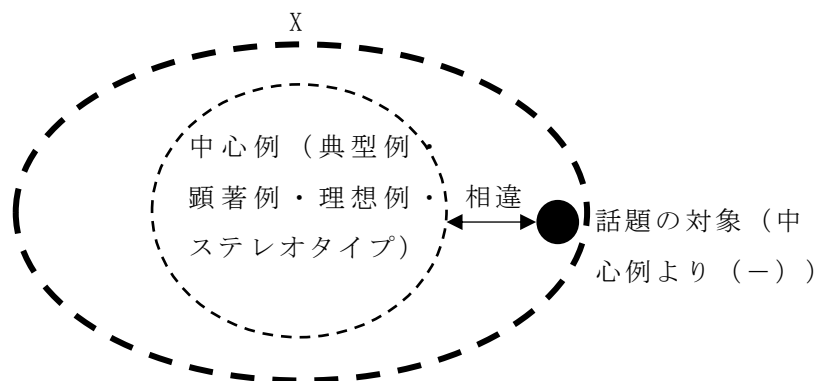


図1 「Xというのもおこがましい」に見られるカテゴリー化の様相

6.2.3.2 「XというのもおこがましいY」²⁷

²⁷ 下の2つの例文のように、「XというのもおこがましいY」形式の例文の中には、単に話題の対象がYの位置に表れているものがある（「XというのもおこがましいX」形式の例文は全てこれに当たる）。このような場合は話者による再カテゴリー化は見られないため、「XというのもおこがましいY」の例文ではなく、「Xというのもおこがましい」の例文として取り扱うべきであると考えられるため、6.2.3.2節の考察対象から外した。

(例)木曜日のお弁当というのもおこがましいお弁当

2012年07月05日 究極の手抜き弁当。*買ったおかず1 *買ったおかず2 *買ったサラダ *ミニトマト +ご飯 手抜きです。(http://blog.goo.ne.jp/fukafukafuton51/e/de1cfc3a9261bd49a1ab3306461d4a1f)

- (14) 日本で買う安物のワインの中にはフタもコルクではなく金属製、ビンの底も平らというものがありますが、あれは「ワイン」というのもおこがましい混ぜもののお酒と思った方がいいでしょう。（例(1)、(2)、(5)を再掲）
- (15) 一応都心に位置した一獅子市、地代も結構な値段だろうから一軒家を建てられる山田家がプチブルジョアだったことは想像に難くないが、それでも家屋と塀の間は1.5メートル程の「庭」というのもおこがましいスペースである。（<https://ncode.syosetu.com/n0952bd/2/>）
- (16) 溪流は崖にぶつかり、「滝」と言うもおこがましい垂直な流れになった。（例(8)を再掲）
- (17) 「アドバイス」というのもおこがましい体験談なのですが、どうしてオムツでないとうちできないのかを子どもを観察して試行錯誤するしかありませんよね。どの子どもにでも当てはまるような「これだ！」という方法があったら親はラクなんですけど、こればかりはしょうがないです。（<https://soudan.iko-yo.net/qa527227.html>）

(14)で、話題の対象はすでに「ワイン」カテゴリーにカテゴリー化されているものである。しかし、話者はそれを「ワイン」の典型例（フタがコルクであり、ビンの底も上げ底になっているワイン）と比較し、両者が異なることから話題の対象を「ワイン」の周辺例として位置づけながら、それよりも「混ぜもののお酒」カテゴリーの成員としてカテゴリー化すべきであると考え、そこに注目し再カテゴリー化していると考えられる。(15)の話者は、山田家の庭が「庭」カテゴリーの理想例（広い庭）と異なることから、「庭」カテゴリーの周辺例として位置づけながら、それが「(ただのスペース)カテゴリーの成員としてよりふさわしいということに注目し、再カテゴリー化していると思われる。(16)を見ると、話者は「(目の前の)溪流」が「滝」カテゴリーの顕著例（ある程度の幅、落差、水量を持つ滝）と異なることから、「滝」というより、「垂直な流れ」カテゴリーの成員と言うべきであると考え、再カテゴリー化している。また、(17)の話者は、自分のアドバイスに対し、「アドバイス」カテゴリーのステレオタイプ²⁸（自分の経験に基づいていないアドバイス）と比較し、自分

(例) ネットの知人で三遊亭らん丈さん<http://www.ranjo.jp/>という噺家の方がいらっしゃいます。真打です。実は、「知人」というのもおこがましい間柄なのですが、本職のらん丈さんならどんな感想をもたれるのだろうと思いました。（https://blogs.yahoo.co.jp/snowkids1965/9570050.html?__ysp=4oCd55%2B15Lq644Go44GE44GG44Gu44KC44GK44GT44GM44G%2B44GX44GE4oCd）

²⁸ (17)では、話者が自分の経験したことをアドバイスとして述べていることから、自分

のアドバイスがそれと異なることから、「アドバイス」の周辺例でありながら、「体験談」カテゴリーの成員によりふさわしいと考え、再カテゴリー化していると考えられる。なお、話題の対象のタイプを見ると、(15)と(17)は話者自身とも他人とも関係ないものであり、(15)は他人所有のもの、(17)は話者自身の話が対象となっていることがわかる。

「XというのもおこがましいY」形式では、XとYという2つのカテゴリーが登場するが、カテゴリーXとYの関係を見ると、XとYは互いに全く関係のないカテゴリーではなく、必ず何らかの共通点（同じ認知領域に属するなど）を有しているカテゴリーであると考えられる。なお、XとYの関係は、互いに一部のみ重なっているか、それともXがYに含まれているかにより2つのタイプに分けられる。(14)と(17)のXとYはカテゴリーの一部が重なっているように思われる。というのは、(14)のX「ワイン」は典型的に何も混ぜていないブドウ酒を指すが、中には炭酸ガスを注入したスパークリングワインのようなものもあり、X「ワイン」でありながらY「混ぜもののお酒」でもあるものも存在し、(17)のX「アドバイス」と「体験談」も同じく、「アドバイス」でありながら「体験談」であるものも存在するためである。一方、(15)と(16)ではX（(15)では「庭」、(16)では「滝」）がY（(15)では「スペース」、(16)では「垂直な流れ」）に含まれる下位カテゴリーである。しかし、どのような場合でも、話者の頭の中においては話題の対象をXよりは、別のカテゴリーYに再カテゴリー化すべきであると考えているため、話者はXとYの関係がどのタイプなのかに関係なく、Xの周辺例として位置づけながら、Yの成員によりふさわしいことに注目し、話題の対象を再カテゴリー化していると考えられる。

以上を踏まえ、「XというのもおこがましいY」に見られる再カテゴリー化の様相を図に示すと図2のようになる。話題の対象が再カテゴリー化される別のカテゴリーYはXと一部重なっているか、それともXを含むカテゴリーである。YがXと一部重なっている場合は、話題の対象はXとYが重なっている部分にXの周辺例として再カテゴリー化される（上の黒い丸）。また、YがXを含んでいる場合、話題の対象はYの中のXの周辺例として再カテゴリー化される（下の黒い丸）。

の話は「アドバイス」カテゴリーの成員に相応しくないと考えていると考えられる。しかし、実際「アドバイス」カテゴリーの成員の中には「自分が経験したことに基づいたアドバイス」も数多く存在すると思われ、話者は「自分が経験したことに基づいていない」という特徴を「アドバイス」の成員の特徴であると考えていると思われる。つまり、「アドバイス」の一部の成員のみ有する特徴を十分な根拠なしに「アドバイス」の成員全般が有している特徴として信じていることになるため、「自分が経験したことに基づいていないアドバイス」は「アドバイス」のステレオタイプであると考えられる。

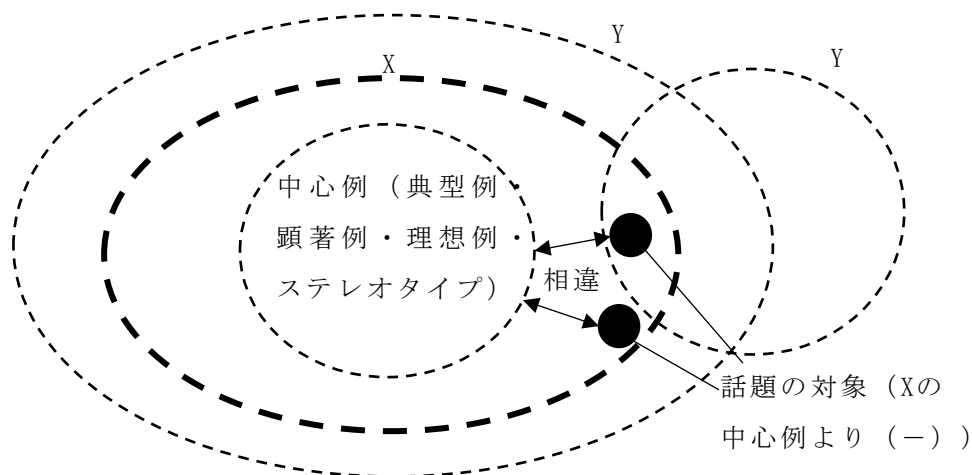


図2 「XというもおこがましいY」に見られるカテゴリー化の様相

6.2.3.3 「Xというもおこがましい(Y)」の評価性が異なる場合

(10)～(17)の例文はカテゴリーXよりYの方の評価性が相対的に(－)に近い場合だったが、下の(18)(19)のように、Yの評価性が相対的に(＋)に近い場合もあり、カテゴリーXとYに伴う相対的な評価性が反対である。

(18)本日は敬老の日です。私が子供の頃に比べて今の60代、70代の方は本当に若々しく、『敬老』というもおこがましいですが。(https://ilterno.com/2018/09/17/1783/)

(19)安室はカッチョイイ!!!もう、スペシャル格好いいっす!こんなに唄えて踊れるアイドル(アイドルというもおこがましいが)の登場はおそらく日本歌謡史上でも類を見ない快挙でしょう。(決して太げさでなく)(https://www.fujitv.co.jp/TKMC/VOL11/comeback.html 1995.12.27掲載)

(20)「お友達クリエイター」の(というもおこがましい、ずっとお名前と作品は見ていた大先輩クリエイターの!)小太刀御禄さん(省略)(例(9)を再掲)

(18)(19)は「Xというもおこがましい」形式の例文であり、(20)は「XというもおこがましいY」形式の例文である。(18)の話者は今の若々しい60代、70代の方に対して、「敬老(すべき対象)」カテゴリーの顕著例と異なることから、その周辺例として位置づけていると考えられる。すでに述べたように、この場合はカテゴリーXの中心例に近いほどよくない評価性を持つため、他人と関連することである話題の対象を、話者がXにカテゴリー化することは望ましくないこととなる。したがって、話者は話題の対象をXの周辺例として位置づけることで(－)評価性を弱めていると考えられる。(19)の話者は、話題の対象である安室(奈美恵)氏を高く評価しており、

「アイドル」カテゴリーにカテゴリー化してはいるが、そのステレオタイプ（「歌や踊りの実力が優れていないアイドル」など）と比較し、それとは異なることからその周辺例として位置づけていると考えられる。(20)では、話者が話題の対象である小太刀御禄さんについて、自分が前からお名前と作品を見ていた有名なクリエイターであることから「お友達クリエイター」の典型例（「クリエイターとして大体同じ時期から活動している」「活動による業績が同じぐらいである」といった特徴を持つ成員）とは異なると考え、「お友達クリエイター」の周辺例として位置づけてはいるが、むしろ「大先輩クリエイター」カテゴリーの成員としてふさわしいということに注目して再カテゴリー化していると思われる。このように、「XというのもおこがましいY」形式においても、Xの中心例に近いほど（-）評価性が強くなるため、できるだけXの周辺部に近い周辺例として位置づけたい、さらにその上に、別の（+）評価性を持つカテゴリー（Xとある程度の共通点を持つ）に位置づけたいという話者の気持ちが現れていると考えられる。

このように、話題の対象が他人に関わることである場合、カテゴリーXが（-）評価性を持っていて話者が話題の対象をXにカテゴリー化することが話題の対象にとって失礼である可能性があることがあり、そのような場合、話者は話題の対象をXの周辺例として位置づけ、さらに（+）評価性を持つ別のカテゴリーYにカテゴリー化することでそれを回避しようとしていると考えられる。これを図に示すと図3となる。

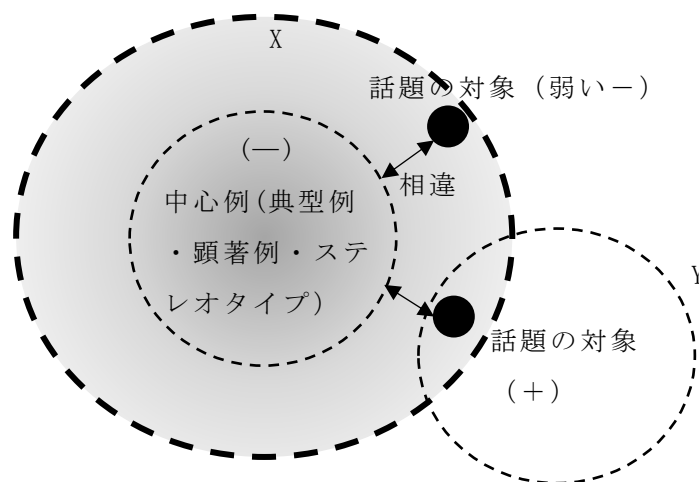


図3 「Xというのもおこがましい(Y)」の評価性が異なる場合

6.2.3.4 「Xというのもおこがましい(Y)」に見られるカテゴリーXの縮小の様相

「Xというのもおこがましい(Y)」のカテゴリー化の様相では、カテゴリーXの縮小が見られる。3.2.3.4節でも確認したように、野呂(2008)では、「XといえばX」を「カテゴリーの周辺例を浮き立たせる表現である」とし、それにおけるカテゴリー化について分析している。そこでは、「XといえばX」のカテゴリー化には(21)のように

カテゴリーXが拡張される場合と、(22)のように縮小される場合とがあると指摘している。

(21) スイカは野菜といえば野菜だ。(野呂 2008: 225 例(10)b)

(22) ペンギンは鳥といえば鳥だ。(野呂 2008: 226(12)b)

特に、本節の考察対象である「Xというもおこがましい(Y)」にもみられるカテゴリーの縮小が現れる(22)に対して、野呂(2008)は、話者が「飛べる」という属性を満たす成員に限定することで、「鳥」カテゴリーを縮小し、その属性を満たさないペンギンが「鳥」カテゴリーに属するか否かを問題にし、(22)と言っていると述べている(図4)。

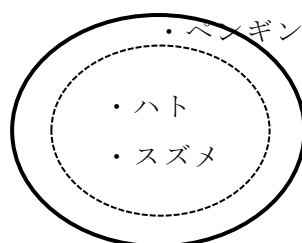


図4 「鳥」カテゴリー(野呂 2008: 226の図2)

これを踏まえ、「Xというもおこがましい(Y)」に見られるXの縮小の様相について考えてみる。

(23) 日本で買う安物のワインの中にはフタもコルクではなく金属製、ビンの底も平らというのがありますが、あれはワインというもおこがましい混ぜもののお酒と思った方がいいでしょう。(例(1)、(2)、(5)、(14)を再掲)

(23)の話者は、話題の対象である「フタもコルクではなく金属製、ビンの底も平らであるワイン」を目の前にし、それを成員として含む「ワイン」カテゴリーをいったん形成するが、話者は「フタがコルクであり、ビンの底も上げ底になっている典型的なワイン」こそが「ワイン」カテゴリーの成員であると考え、「ワイン」カテゴリーを「ワイン」の典型例から成る下位カテゴリーに縮小させ、話題の対象を「ワイン」カテゴリーから排除しようとしていると考えられる。つまり、(23)の「ワインというもおこがましい混ぜもののお酒」におけるカテゴリーX「ワイン」は、話者によって縮小された「ワイン」カテゴリーの典型例から成る下位カテゴリーであると言える。さらに、話者は話題の対象をその縮小されたXの外側に位置づけると同時に、別のカテゴリーY「混ぜもののお酒」の中心例の持つ特徴を話題の対象が持っていることに

注目し、Yの内側に再カテゴリー化していると考えられる。これを図式化すると、次の図5となる。

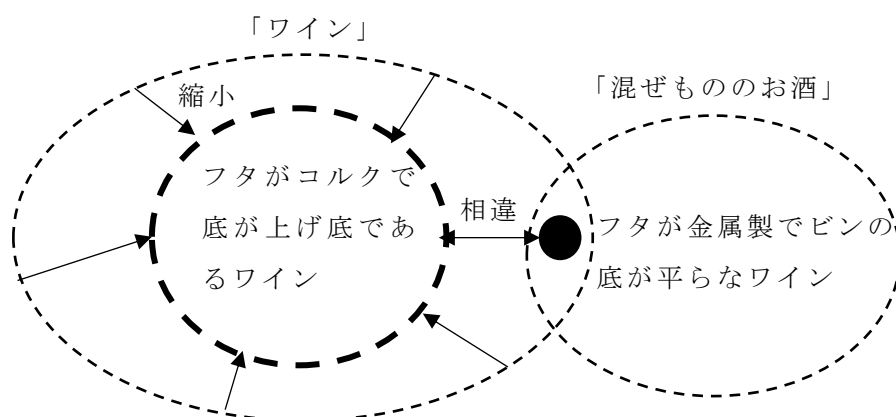


図5 「ワインというもおこがましい混ぜもののお酒」に見られるXの縮小とカテゴリー化の様相

6.2.4 まとめ

本節では、「Xというもおこがましい (Y)」を対象に、そのカテゴリー化の様相及び「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴について考察した。その結果、次のようなことが明らかになった。

- ① 「Xというもおこがましい」：話者が話題の対象をXの中心例（典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ）と比較し、それと異なることからXの周辺例（中心例より相対的に（-）評価性を持つ）としてカテゴリー化する。
- ② 「XというもおこがましいY」：話者が話題の対象をXの中心例（典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ）と比較し、それと異なることからXの周辺例（中心例より相対的に（-）評価性を持つ）として位置づけながら、それが別のカテゴリーYの成員（より強い（-）評価性を持つ）としてよりふさわしいと考え、それに注目し、Yの成員として再カテゴリー化する。
- ③ 「Xというもおこがましい (Y)」の評価性が異なる場合：話者が他人に関わることである話題の対象をXの中心例（典型例・顕著例・ステレオタイプ、（-）評価性を持つ）と比較し、それと異なることからXの周辺例（（-）評価性が弱い）として位置づけながら、それが別のカテゴリーYの成員（（+）評価性を持つ）としてよりふさわしいと考え、それに注目し、Yの成員として再カテゴリー化する。
- ④ カテゴリーXの縮小：カテゴリー化の際、最初話者の頭の中では話題の対象を含めたカテゴリーXが存在していたが、それがXの中心例から成る下位カテゴリ

一に縮小され、それと異なる話題の対象はXから排除され（別のカテゴリーYの成員として再カテゴリー化され）る。

6.3 「Xとは名ばかり（のY）／名ばかり（の）X」

6.3.1 考察の対象と目的

「Xとは名ばかり（のY）／名ばかり（の）X」は、次の例(24)に見られるように、話者が話題の対象をカテゴリーXの周辺的な成員として位置づけ、さらにXではなく、別のカテゴリーYの成員として再カテゴリー化する表現であると考えられる。

(24) ええ、僕は彼らの発見物なんですよ。二人とも路上観察の仲間なんだけど、僕は仲間うちでも一人だけ年が一世代上だったし、ぼんやりしていたこともあって、もともと「ボケ老人」と言われていたんです。「長老」とも言われてるけど、その実、「**長老とは名ばかりのボケ老人**」ってね（笑）。（赤瀬川原平『老人力』BCCWJ）

(24)の話者は話題の対象である「僕」が、仲間から「ボケ老人」とも「長老」とも呼ばれているが、実は「長老」カテゴリーの周辺例であり、さらに、「長老」よりも「ボケ老人」カテゴリーの成員として位置づけるべきであると考えていると思われる。本節では、このように話者による再カテゴリー化が見られる「Xとは名ばかり（のY）／名ばかり（の）X」を対象に、カテゴリーの周辺例を明示する表現としての特徴とその再カテゴリー化の様相について考察する。

なお、本節の考察形式も、話者によるカテゴリー化の様相が確認しやすいよう、「Xとは名ばかり（のY）／名ばかり（の）X」におけるXとYが名詞（カテゴリー名）である形式とする。しかし、前節と同様、Xの部分に(25)(26)のように動詞（節）などが来ることもある。

(25) 当院では、薬剤師の常駐が月曜から金曜までの日勤帯に限られるため、1日8時間としても週にわずか40時間でしかありません。しかし、集中治療病棟に休みはなく、1日24時間、週に168時間稼動しています。つまり、**薬剤師が常駐している**とは名ばかりで、常駐している時間は全体の4分の1にも満たないのです。 (<http://medical.radionikkei.jp/medical/Jshp/final/pdf/110418.pdf#search=%27E2%80%9D%E3%81%84%E3%82%8B%E3%81%A8%E3%81%AF%E5%90%8D%E3%81%B0%E3%81%8B%E3%82%8A%E2%80%9D%27>)

(26)皆さまこんばんは、**立秋を過ぎた**とは**名ばかりの**まだまだ暑い日々が続いております。(https://fmmatsumoto.jp/yugure20180809)

本節では、(25)(26)に見られるような形式も広い意味で話題の対象をカテゴリーX(四角で囲まれた部分)の周辺例として位置づけていると考えるが、考察の便宜上、カテゴリー化の様相がより観察しやすい、XとYが名詞(カテゴリー名)である形式を考察の対象とする。

6.3.2 先行研究

前節の「Xというものもおこがましい(Y)」と同じく、「Xとは名ばかり(のY) / 名ばかり(の)X」もこの表現そのものを対象にした先行研究は管見の限り見当たらない。したがって、本節では「Xとは名ばかり(のY) / 名ばかり(の)X」における主要成分である「名ばかり」に関する辞書の記述を概観し、考察における課題を確認する。

『日本国語大辞典』

な ばかり

実体が伴わないで、名前だけ。また、かたちばかり。形式だけ。

- *菟玖波集〔1356〕雑・四「ふるき庵はただ苔の下 名ばかりにむかしの人はとどまりて〈救済〉」
- *曾我物語〔南北朝頃〕七・千草の花見し事「なばかりはさかでも色のふかみ草花さくならばいかでみてまし」
- *政談〔1727頃〕三「古へ公家の代には、役儀を官と言、坐席を位と雖も、今は皆名計りに成て」
- *明暗〔1916〕〈夏目漱石〉三八「叔父の家で名(ナ)ばかりの晩飯を食ったのも」

『大辞林 第三版』

なばかり【名ばかり】

名前だけで、実質が伴わないこと。形ばかり。「一の役職」「一の夫婦」

『デジタル大辞泉』

な - ばかり【名[▽]許り】

名目に内容がともなわないこと。形式は整っているが実質がともなわないこと。

「公園とは一の小さな空き地」「一管理職」

辞書における「名ばかり」の意味を見ると、「名前・名目だけ。実体・実質・内容が伴わないこと。形ばかり。形式だけ」と記述されている。これをまとめると、「Xとは名ばかり（の）Y／名ばかり（の）X」は「Xという名を持っているだけで、実質が伴わない」ことを表すと言える。この説明は下の(27)の「**勉強会**とは名ばかりの碁を楽しむ会」の場合は、うまく説明できるように思われる。というのは、話題の対象である集まりのことを当該の会のみんなが「勉強会」という名前で呼んではいるが、それは名前だけで、実質的には勉強するという行為が伴っておらず、気軽に囲碁を楽しむことができる会であると思われるためである。

(27)しかし鳥鷺鳥鷺会とつけたこの同好会は、毎月三回、日曜日に決まった旅館を借りて、西田先生を中心に、**勉強会**とは名ばかりの碁を楽しむ会を開いておりました。私が二カ月に一度（一月に一度もあり）ふらりと現われましても、日曜日にその旅館へ行けばよいことになっておりまして「事前に電話で打ち合わせた後乗り込む」等との面倒なことは一切せず、本当に気が向いたらふらりでありました。（関根直久『囲碁凸凹お稽古話一好きな方法で楽々上達一』BCCWJ）

しかし、次の(28)を見ると、その名前を付けて呼ぶ人が1～2人に限られ、「長老」カテゴリーの成員として相応しい実質を話題の対象がある程度伴っている場合もある。そのため、実例に基づいて、辞書における「名前だけで、実質が伴わないこと」という記述についてより深く考察する必要があると考えられる。

(28)ええ、僕は彼らの発見物なんですよ。二人とも路上観察の仲間なんだけど、僕は仲間うちでも一人だけ年が一代上だったし、ぼんやりしていたこともあって、もともと「ボケ老人」と言われていたんです。「長老」とも言われてるけど、その実、「**長老**とは名ばかりのボケ老人」ってね（笑）。（例(24)を再掲）

また、(27)の「勉強会」は話題の集まりの名称であるが、話し手はそれを否定し、実際「碁を楽しむ会」という名称に換えて呼んでいる。一方、(28)では話し手を「長老」や「ボケ老人」と呼んだのは仲間の二人であるが、ここで「長老」という名称を否定し、「ボケ老人」という名称に代えて話し手を呼んでいるのはその仲間の二人であるとも、話し手自身であるとも解釈できる。このように、「Xとは名ばかり（の）」には「Y」という別のカテゴリーが後続する 경우가多く、このYは、誰かがすでにXと

呼んでいる物事を話し手が何らかの理由で改めてカテゴリー化していることを明示するものであり、このような特徴についても言及する必要があると考える。本節では、「Xとは名ばかり（のY）」を「カテゴリーの周辺例を明示する表現」として分析し、話者によるカテゴリー化の様相に焦点を置いて考察する。

6.3.3 「Xとは名ばかり（のY）／名ばかり（の）X」に見られるカテゴリー化の様相

6.3.3.1 「Xとは名ばかり／名ばかり（の）X」

(29) まあ、今んとこ我社も会社とは名ばかりで、此処の事務所も此の篠山さん、つまりアイちゃんの家の間借りの状態なんで、新婚そうそうのアイちゃん達に窮屈な思いばかりさせてしまい、責任者の私としても全くすまないとは思っているんだけどねえ。（栄治『占領時代』BCCWJ）

(30) AIM予備校の講師陣は、特に優れた学力と受験指導経験を有するのは当然のこと、教え方や人間性も含め、試験・面接によって厳しく選別された精鋭揃いですが、個別指導塾では「プロ」とは名ばかりの、指導力が十分ではない講師が多く存在しますが、そのような講師はAIMでは一切採用せず、さらに採用後も指導力・人間性・生徒さん達からの評価などにより厳しく選別を続けます。（<http://aim-school.com/system>）²⁹

(31) いつものようにボートを陸上げし、お店もバッチリと台風対策。したのに、あれは本当に台風だったのか？？台風とは名ばかりで、かなり拍子抜けしたのですが、午前中飛行機が欠航して、フェリーが二日欠航してたので、台風っっちゃ台風なんでしょう。ってわけで、今回も無事に通り過ぎていきました。（<http://div-e-estivant.com/blog/page/5/>）

(32) 天使とは名ばかりの、人間をいたずらに混乱させるいじわるな天使にエマ・トンプソン。（<https://womanlife.co.jp/topics/k-6538>）

まず、(29)～(32)は「Xとは名ばかり」の例文である。(29)の話者は、話題の対象である「我社」について、事務所が篠山さん（アイちゃん）の家の間借りの状態であることを挙げ、「会社」の典型例（誰かの家の間借りではなく、別途の事務室を持つ

²⁹ 例(30)と(32)は「Xとは名ばかり」ではなく、「Xとは名ばかりのY」の形式であるように見えるが、Yの部分にある「指導力が十分ではない講師」と「人間をいたずらに混乱させるいじわるな天使」は、Xとは別のカテゴリーであるYを示すのではなく、話題の対象であると考えられるため、これらの例文は「Xとは名ばかり」の例文として取り扱う。

ている会社)と異なることから、「会社」カテゴリーの周辺例として位置づけていると考えられる。(30)では、話題の対象「指導力が十分ではない講師」について、「プロ(講師)」の理想例(指導力が優れている講師)と異なることから、「プロ(講師)」カテゴリーの周辺例としてカテゴリー化している。(31)の話者は、話題の対象である今回の台風が、飛行機やフェリーが欠航するほどの強さではあったが、「台風」の顕著例(暴風や大雨が激しい台風)に比べると弱かったということから、「台風」カテゴリーの周辺例として位置づけていると考えられる。(32)は、ある映画に登場する「天使」の説明である。話題の対象は人間をいたずらに混乱させるいじわるな天使であるが、話者はこのような天使について「天使とは名ばかりの天使」だと言い、「天使」カテゴリーの周辺例であると考えている。このようなことから、話者は「天使」の中心例は少なくとも「人間をいたずらに混乱させるいじわるな天使」ではないと考えていると思われるが、「天使」は架空の存在であるため、「天使」カテゴリーの成員の中でどれぐらいの成員にこのような性質が当てはまるかということの問題にすることができず、十分な根拠なしに「天使」の成員がそのような特徴を持っていると信じられていることになる³⁰。したがって、(32)の話者は話題の対象を「天使」のステレオタイプと比較し、それと異なることから「天使」の周辺例としてカテゴリー化していると思われる。

(33)夜の中学校をのぞいてみる。寄宿生たちは、それぞれ家からジャガイモやトウモロコシを一袋だけ背負ってきて、空腹になると草を採ってきて火をおこし、それらを煮て食べる。**名ばかりの**ベッドは板にトウモロコシの茎と干草を敷いただけのものである。動物以下の生活だ。(馬建(著)/上田クミ(訳)『レッドダスト』BCCWJ)

(34)薬局におけるリスクマネジメントとは、患者の安全を確保することであり、そのためには患者データ、情報を考慮したうえでの服薬管理が必要であると、研修の場で言い続けてきた。安全管理とは、その患者に照らし合わせて処方せんで計画された薬物療法を進めてもよいかどうか、薬の専門家として評価することだと。
(中略)

自分たちは薬剤師だ、薬の専門家だと言われながら、患者とのかかわりが希薄なまま、薬を正確に取り揃えることを調剤の主眼にしてきたのではないか、“名

³⁰ 靱山(2016: 第5節)では、「鬼」や「お化け」などの架空の存在について、十分な根拠なしに信じられている特徴、すなわち、ステレオタイプが有する特徴と見なせるものがあり、それがその架空の存在の成員のうちどれぐらいに当てはまるかを問うことができないことが指摘されている。

ばかり「**専門家**」ではなかったか、という反省に基づくものだ。(https://blog.goo.ne.jp/suke03_tam24/e/8c7517d6b13da4edb44febb34114ceed)

(35) 「**名ばかり** **EU離脱**」拒否＝英首相は方針撤回を－ジョンソン前外相

【ロンドン時事】メイ英政権の欧州連合（EU）離脱方針に抗議して辞任したジョンソン前外相は18日の下院で「**名ばかりの** **離脱**は受け入れられない」と述べ、メイ首相に対し、親EU路線を撤回し、強硬姿勢に戻るよう求めた。（省略）
(2018/07/19-06:29) (https://www.jiji.com/jc/article?k=2018071900184&g=int)

(36) 近隣とうまくやっていきたいとおもっても、相手はそう思っていない。相互互助の概念は、日本人だけで、**名ばかり** **日本人**はそう思いません。「うるさいわね～」 「布団なんか干さないでよ、こっちにほこりが入るじゃ無いの・・・」・・・。こういうレベルですね。(https://realestate.yahoo.co.jp/knowledge/chiebukuro/detail/13103383608)

(33)～(36)は「名ばかり (の) X」の例文である。(33)ではある中学校の寄宿生が寝るベッドが「板にトウモロコシの茎と干草を敷いただけのもの」であり、「ベッド」カテゴリーの典型例（マットレスがあるベッド）と異なることから、「ベッド」カテゴリーの周辺例として位置づけている。(34)の話者は、自分たち薬剤師に対して、「(薬の) 専門家」カテゴリーの理想例（患者と深く関わり、患者一人一人の安全管理に努める薬剤師）と異なるのではないかと反省し、「(薬の) 専門家」カテゴリーの周辺例としてカテゴリー化していると考えられる。(35)では、話者であるイギリスのジョンソン前外相がメイ首相の親EU路線に対し、「離脱」カテゴリーの顕著例（徹底的な離脱）とは異なることから、「離脱」カテゴリーの周辺例であると明示し、非難している。(36)は、隣人とのトラブルで悩んでいる人へのアドバイスで、話者は近隣とうまくやっていきたいと思っていない人、相互互助の概念を持っていない人に対し、「日本人」カテゴリーのステレオタイプ（相互互助の概念を持っている日本人）と異なることから、「名ばかり日本人」と言い、「日本人」カテゴリーの周辺例としてカテゴリー化していると考えられる。

以上のことから、「Xとは名ばかり／名ばかり (の) X」は、話者が話題の対象をXの典型例・理想例・顕著例・ステレオタイプと比較し、それと異なることからXの周辺例として位置づける表現であると言える。さらに、話者は話題の対象がXという名称を持っているだけで、Xの中心例の持つ特徴を持っていない、周辺例に過ぎないことから、話題の対象を高く評価していないと考えられる。図6は以上のことを図式化したものである。

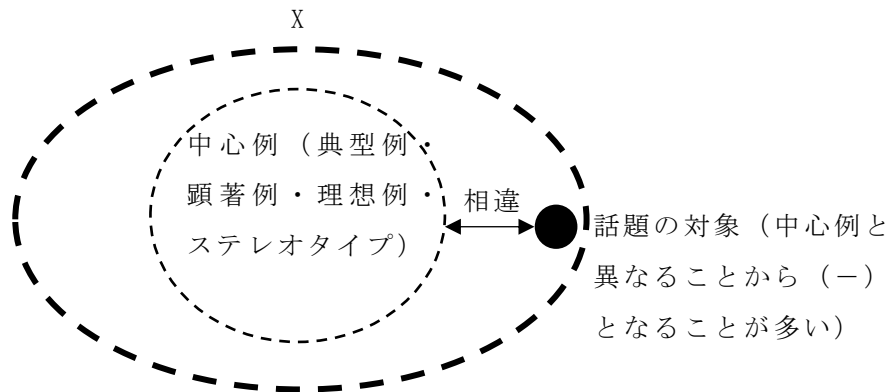


図6 「Xとは名ばかり／名ばかり (の) X」に見られるカテゴリー化の様相

6.3.3.2 「Xとは名ばかりのY」

(37) 大分県豊後大野市三重町中津留に有る稲積水中鍾乳洞周辺に滝が有るとの事で訪問してみました。(中略)最初に現れるのが慈愛の滝です。そこそこの落差が有る良い滝です。(中略)鍾乳洞の内部にも「滝」の案内が有ります。案内板では2滝ですが、3つの滝が有りました・・・? **滝とは名ばかりの水も流れていない鍾乳石(滝状石灰華?)**でした。(http://ponpoko.at.webry.info/201502/article_1.html)

(38) ええ、僕は彼らの発見物なんですよ。二人とも路上観察の仲間なんだけど、僕は仲間うちでも一人だけ年が一代上だったし、ぼんやりしていたこともあって、もともと「ボケ老人」と言われていたんです。「長老」とも言われてるけど、その実、「**長老とは名ばかりのボケ老人**」ってね(笑)。(例(24)、(28)を再掲)

(39) 大軍同士がぶつかり合う会戦は稀となり、**戦争とは名ばかりの局地戦規模の紛争が散発するだけの情勢**を憂え、嘆きながら、それでも足掻く者達は国を興し戦い続けた。(http://oblivionfile.blog.fc2.com/blog-category-0.html)

(40) 「SM作家 団鬼六」その字面に恐れをなして、父のもとを初めて訪問する編集者は皆、緊張の面持ちでやってくる。しかし、いつも帰り際には、「いや～、もっと怖い先生かと思っていました」と満面の笑みで別れの挨拶をするのである。すると父も決まって、「そう、**鬼とは名ばかりのチャーミングな紳士**やろ?」と常套句を言ってカラカラと笑うのだった。(http://rittorsha.jp/column/2018/01/post-3.html)

(37)では、話者が滝があるという案内を見て鍾乳洞の中に入ってみたところ、話題

の対象である「滝」が「滝」カテゴリーの典型例（水が垂直方向に流れている滝）とは異なり、水ではなく石が滝のように垂直方向に下がった形状をしていることから「滝」カテゴリーではなく、「鍾乳石」カテゴリーの成員だったと言っている。(38)で、「僕」（話題の対象）の仲間たち（話者）は「僕」が、「年が一代上である（年老いている）」「ぼんやりしている」という属性を持っていることから、「ボケ老人」にカテゴリー化し、同じく「年が一代上である（年老いている）」という属性を持つ、プラスの評価性を帯びる「長老」とも呼んでいた。しかし、実際は「僕」が「長老」カテゴリーの理想例が持つ「学徳があり、経験豊かで指導的立場にある」という属性は持っていないことから、「長老」ではなく「ボケ老人」にカテゴリー化すべきであると判断していると考えられる。(39)では、話題の対象が局地戦規模の戦いであり、「戦争」カテゴリーの顕著例（大軍同士がぶつかり合う会戦）と異なることから、話者はそれを「戦争」ではなく「紛争」カテゴリーに再カテゴリー化していると考えられる。(40)の話者は自分のペンネームが「団鬼六」であることで、緊張してやってくる編集者たちに対し、自分自身は「鬼」カテゴリーのステレオタイプ（恐い鬼）とは異なる、「チャーミングな紳士」カテゴリーの成員であると言い、再カテゴリー化している。

ここで、カテゴリーXとYの関係について考えてみると、例(37)～(40)におけるXとYは全て何らかの共通点を持つ、一部重なるカテゴリーであると考えられる。(37)の「滝」と「鍾乳石」は「垂直方向に下がった形状をしている」という共通点を、(38)の「長老」と「ボケ老人」は「年老いている」という共通点を、(39)の「戦争」と「紛争」は「人間の間の争い」という共通点を持っている。(40)の場合、「鬼」と「紳士」は際立つ共通点を持たないように見えるが、「ある男性が持つある特徴に注目し、その人を特徴づけて呼ぶ際に用いられる」というきわめて抽象的な共通点があると言える。

以上の考察から、「Xとは名ばかりのY」は、話者が話題の対象をXの典型例・理想例・顕著例・ステレオタイプと比較し、それとの相違点に注目し、カテゴリーXではなく、Xと何らかの共通点を持つカテゴリーYの成員として再カテゴリー化する表現であると考えられる。ただし、話題の対象がXという名称を持っていることから、完全にXの成員ではなくなるのではなく、Xの周辺例として位置づけられながら、話者の「話題の対象がYの成員としてよりふさわしいという判断」のほうに焦点が当てられると思われる。また、評価性の面から見ると、前節でも言及したように、話者は話題の対象がXという名称を持っているだけで、Xの中心例の持つ特徴を持っておらず、相対的にXより評価性が（－）に近い、別のカテゴリーYの成員であると考えていることから、話題の対象を高く評価していない場合が多いと考えられる。しかし、(40)のように、コンテキストからXのほうがYより（－）に近い評価性を持っているように思わ

れる場合もないわけではない。しかし、上述したように、「Xとは名ばかりのY」は、話題の対象がXという名称を持っていながら、それにふさわしい（中心例が持つ）特徴を持たず、Yによりふさわしいと話者が判断する場合に用いられる表現であり、まずこの点に焦点が当てられる。そのため、(40)のように、話者が話題の対象（自分自身）に対して、X（「鬼」）と呼ばれてはいるが、実際はXよりY（「チャーミングな紳士」）にふさわしいということに注目している場合は、Yのほうが明らかにXより（－）評価性を帯びていない場合でも「Xとは名ばかりのY」を用いることができると考えられる。

以上の分析を図にすると、図7のようになる。

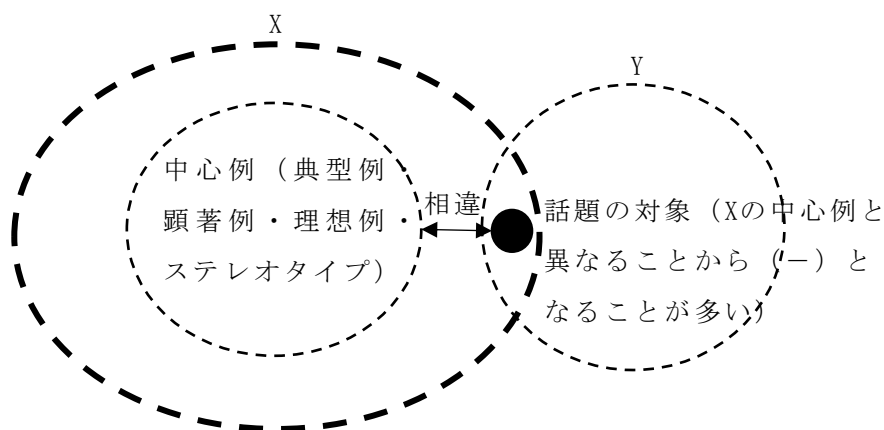


図7 「Xとは名ばかりのY」に見られるカテゴリー化の様相

6.3.3.3 「Xとは名ばかり（のY）／名ばかり（の）X」に見られるカテゴリーXの縮小の様相

「Xというのもおこがましい（Y）」と同じく、「Xとは名ばかり（のY）／名ばかり（の）X」においても、カテゴリーXの縮小が見られる。「Xとは名ばかり（のY）／名ばかり（の）X」の話者は、話題の対象がすでに属されていたカテゴリーXをXの中心例（典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ）から成るXの下位カテゴリーに縮小させ、話題の対象をその外側に位置づけ（かつXと一部の共通点を有する別のカテゴリーYの内側に再カテゴリー化す）ると考えられる。例えば、下の例(41)を見ると、話者は話題の対象が「予科練」所属ではあるが、「予科練」の典型例がするような特攻などはできず、雑用ばかりやっていたことから、「雑用係」カテゴリーの成員として再カテゴリー化している。話者は話題の対象を「予科練」カテゴリーと「雑用係」カテゴリーの共通する部分に位置づけ、「予科練」カテゴリーを「予科練」の典型例から成る下位カテゴリーに縮小させることで、結果的に話題の対象が「予科練」ではなく、「雑用係」の成員である点にのみ焦点を合わせていると考えられる。

(41)あらゆるつてを頼って出会うことのできた甲飛出身の自衛隊佐伯基地の将官はこう語った。「終戦直後には荒木虎美のようなホラを吹くよたれんどもが、ぎょうさんおった。特攻帰りを吹聴するが、特攻はもとより、**予科練**とは名ばかりの雑用係です」飛べる飛行機がいくらかも残っていなかったころ、それでも海軍は少年たちの憧れである「予科練」を金看板に志願兵を募った。（日高恒太朗『不時着』BCCWJ）

以上のことをまとめると、図8のようになる。

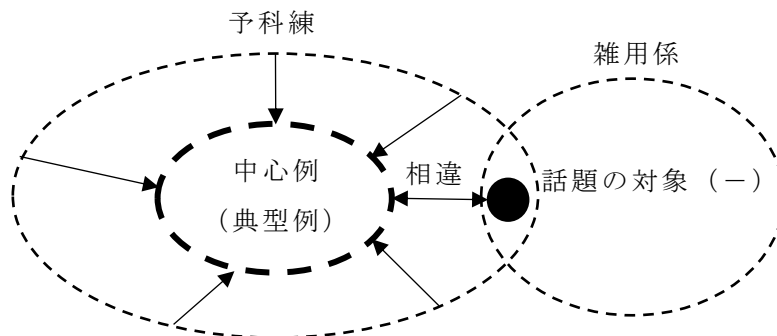


図8 「予科練とは名ばかりの雑用係」に見られるカテゴリーの縮小の様相

6.3.4 まとめ

本節では、「Xとは名ばかり（のY）／名ばかり（の）X」を対象に、カテゴリーの周辺例を明示する表現としての特徴と、カテゴリー化の様相について考察した。その結果、次のようなことが明らかになった。

- ① 「Xとは名ばかり／名ばかり（の）X」：話者が話題の対象をXの典型例・理想例・顕著例・ステレオタイプと比較し、それと異なることからXの周辺例として位置づける。
- ② 「Xとは名ばかりのY」：話者が話題の対象をXの典型例・理想例・顕著例・ステレオタイプと比較し、それとの相違点に注目し、Xの周辺例として位置づけながら、Xと何らかの共通点を持つカテゴリーYの成員として再カテゴリー化する。
- ③ 「Xとは名ばかり（のY）／名ばかり（の）X」における話題の対象の評価性：話者は話題の対象がXという名称を持っているだけで、Xの中心例の持つ特徴を持っていない、周辺例に過ぎないと考えていることから、話題の対象を高く評価していない場合が多い（が、そうでない場合もないわけではない）。
- ④ カテゴリーXの縮小：話者は、話題の対象がすでに属していたカテゴリーXをXの

中心例（典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ）から成るXの下位カテゴリーに縮小させ、話題の対象をその外側に位置づけ（、Xと一部の共通点を有する別のカテゴリーYの内側に再カテゴリー化する）る。

6.4 「Xというのもおこがましい（Y）」と「Xとは名ばかり（のY）／名ばかり（の）X」の比較

6.4.1 考察の対象と目的

6.2節と6.3節で考察したように、「Xというのもおこがましい（Y）」と「Xとは名ばかり（のY）／名ばかり（の）X」は、次の例(42)(43)に見られるように、話者が話題の対象をカテゴリーXの周辺的な成員として位置づけ、さらにXではなく、別のカテゴリーYの成員として再カテゴリー化する表現であり、互いに置き換えても意味のずれがほとんど感じられない場合がある。

(42) 日本で買う安物のワインの中にはフタもコルクではなく金属製、ビンの底も平らというものがありますが、あれはワインというのもおこがましい／とは名ばかりの混ぜもののお酒と思った方がいいでしょう。（例(1)、(2)、(5)、(14)、(23)を再掲）

(43) ええ、僕は彼らの発見物なんですよ。二人とも路上観察の仲間なんだけど、僕は仲間うちでも一人だけ年が一世代上だったし、ぼんやりしていたこともあって、もともと「ボケ老人」と言われていたんです。「長老」とも言われてるけど、その実、「長老とは名ばかりの／というのもおこがましいボケ老人」ってね（笑）。（例(24)、(28)、(38)を再掲）

しかし、(44)(45)のように、これらの2つの表現は互いに置き換えられない場合もあり、その意味に何らかの違いがあると考えられる。

(44) 「お友達クリエイターの（というのもおこがましい／*とは名ばかりの、ずっとお名前と作品は見ていた太先輩クリエイターの！）小太刀御禄さん（省略）（例(9)、(20)を再掲）

(45) 一方で、実地検査とは名ばかりの／*というのもおこがましい観光旅行も行われている。（中略）五日間の日程で検査と思われる時間は九時間あまり。（西川伸一『この国の政治を変える会計検査院の潜在力』BCCWJ）

したがって、本節では、「Xというのもおこがましい（Y）」と「Xとは名ばかり

（のY）／名ばかり（の）X」を対象に、類義表現分析を通して両者の共通点と相違点を明らかにする。特に、この2つの表現は、すでに前節で確認したように、同じく「カテゴリーの周辺例を明示する表現」であると同時に、話者が話題の対象をカテゴリーXから別のカテゴリーYに再カテゴリー化する表現であり、カテゴリーXの縮小が見られるという点も共通している。そのため、本節では両表現に見られる「話者による物事の（再）カテゴリー化の様相」に注目し、考察を行うことにする。

なお、本節の考察形式も、前節と同じく、話者によるカテゴリー化の様相が確認しやすいよう、「Xというのもおこがましい（Y）」と「Xとは名ばかり（のY）／名ばかり（の）X」におけるXとYが名詞（カテゴリー名）の形式とする。

6.4.2 先行研究

前節でも述べたように、「Xというのもおこがましい（Y）」と「Xとは名ばかり（のY）／名ばかり（の）X」の形式を対象としている先行研究は管見の限り見当たらない。したがって、本節では、両表現における主要成分である「おこがましい」と「名ばかり」に関する辞書の記述を概観し、考察における課題を確認する。（「おこがましい」の2つの意味のうち、「Xというのもおこがましい（Y）」の意味に関係しないと考えられる「ばかげている」という意味の記述は省略する）

『日本国語大辞典』

おこ - がまし・い [をこ・] 【痴一・烏滸一】 [形口] ㊦をこがま・し [形シク]
（「がましい」は接尾語）

(2) さしでがましい。なまいきである。思い上がっている。しゃくにさわる。

補注 自分自身のことについて、他人から「ばかばかしい」「なまいきだ」と思われそうだと意識する場合と、他人の行為、状態などについて批評する場合とがある。(2)の「さしでがましい」の意味が生じたのは、近世以後か。

な ばかり

実体が伴わないで、名前だけ。また、かたちばかり。形式だけ。

『デジタル大辞泉』

おこ - がまし・い [をこ -] 【▽痴がましい／×烏×滸がましい】 [形] [文] をこがま・し [シク]

1 身の程をわきまえない。差し出がましい。なまいきだ。「先輩をさしおいて一・いのですが…」

[派生] おこがましげ [形動] おこがましさ [名]

な - ばかり 【名▽許り】

名目に内容がともなわないこと。形式は整っているが実質がともなわないこと。

「公園とは一の小さな空き地」「一管理職」

『大辞林 第三版』

おこがまし・い【痴がましい・烏滸がましい】(形)〔補説〕〔2〕が原義

1 分不相応である。さしでがましい。出過ぎたことだ。「自分のことは棚にあげて、そんなことを言うとは一・い」「一・くも口出しする」

なばかり【名ばかり】

名前だけで、実質が伴わないこと。形ばかり。「一の役職」「一の夫婦」

国語辞典の意味記述を見ると、「おこがましい」と「名ばかり」の意味は「差し出がましい」「名前だけで実質が伴わない」と、一見類義語には見えず、両語を類義語として取り扱っている先行研究も存在しない。しかし、例(42)(43)に見られるように、「Xというのもおこがましい(Y)」と「Xとは名ばかり(のY)／名ばかり(の)X」の形式となると、互いに置き換えても意味のずれがほとんど感じられない類義表現となる場合があるため、このような形式で分析を行い、両表現の相違点を明らかにする必要があると考えられる。

6.4.3 分析

6.4.3.1 両表現の共通点：カテゴリー化の様相

6.2節と6.3節の分析により、「Xというのもおこがましい」と「Xとは名ばかり」、
「XというのもおこがましいY」と「Xとは名ばかりのY」に見られるカテゴリー化の様相は類似していると考えられる。そのため、(46)～(49)のように互いに置き換えても意味のずれがほとんど感じられない場合がある。

(46) リフォームというのもおこがましい／とは名ばかりのドア一枚の交換ですが、
明るい空間に生まれ変わるものですね。ドア一枚でも、使い易くなると、生活
がぐっと変わり、豊かな気持ちになり、とても嬉しいです。(http://www.o-kasou
chi.co.jp/lifa/letter0906.pdf)

(47) AIM予備校の講師陣は、特に優れた学力と受験指導経験を有するのは当然のこと、
教え方や人間性も含め、試験・面接によって厳しく選別された精鋭揃いです。
個別指導塾では「プロ」とは名ばかりの／というのもおこがましい、指導力が十
分ではない講師が多く存在しますが、そのような講師はAIMでは一切採用せず、

さらに採用後も指導力・人間性・生徒さん達からの評価などにより厳しく選別を続けます。(例(30)を再掲)

(48) 日本で買う安物のワインの中にはフタもコルクではなく金属製、ビンの底も平らというものがありますが、あれはワインというのもおこがましい／とは名ばかりの混ぜもののお酒と思った方がいいでしょう。(例(1)、(2)、(5)、(14)、(23)、(42)を再掲)

(49) ええ、僕は彼らの発見物なんです。二人とも路上観察の仲間なんだけど、僕は仲間うちでも一人だけ年が一世代上だったし、ぼんやりしていたこともあって、もともと「ボケ老人」と言われていたんです。「長老」とも言われてるけど、その実、「長老」とは名ばかりの／というのもおこがましいボケ老人ってね(笑)。(例(24)、(28)、(38)、(43)を再掲)

(46)の話者は話題の対象である「ドアー1枚の交換」が、「リフォーム」の顕著例(住居空間の大幅な改築)と異なることから、「リフォーム」カテゴリーの周辺例として位置づけており、このような場合、「Xというのもおこがましい」は「Xとは名ばかり」に置き換えることができる。(47)では、話題の対象「指導力が十分ではない講師」について、「プロ(講師)」の理想例(指導力が優れている講師)と異なることから、「プロ(講師)」カテゴリーの周辺例としてカテゴリー化している。この場合も「Xとは名ばかり」を「Xというのもおこがましい」に置き換えられる。(48)では、話題の対象はすでに「ワイン」カテゴリーにカテゴリー化されているが、話者はそれが「ワイン」の典型例(フタがコルクであり、ビンの底も上げ底になっているワイン)と異なることから、「ワイン」の周辺例として位置づけながら、むしろ「混ぜもののお酒」カテゴリーの成員としてカテゴリー化すべきであると考え、再カテゴリー化していると考えられる。この場合、「XというのもおこがましいY」を「Xとは名ばかりのY」に置き換えることができる。(49)では、「僕」(話題の対象)の仲間たち(話者)が「僕」を「ボケ老人」とも「長老」とも呼んでいたが、実際は「僕」が「長老」カテゴリーの理想例(学徳があり、経験豊かで指導的立場にある長老)と異なることから、「長老」ではなく「ボケ老人」にカテゴリー化すべきであると判断している。この場合も、「Xとは名ばかりのY」を「XというのもおこがましいY」に置き換えられる。

以上のことから、「Xというのもおこがましい」と「Xとは名ばかり」、「XというのもおこがましいY」と「Xとは名ばかりのY」に見られるカテゴリー化の様相における共通点を次のようにまとめることができる。

両表現の共通点①「Xというのもおこがましい」と「Xとは名ばかり」

話者が話題の対象をXの中心例と比較し、それと異なることからXの周辺例（中心例より相対的に（－）評価性を持つ）としてカテゴリー化する。

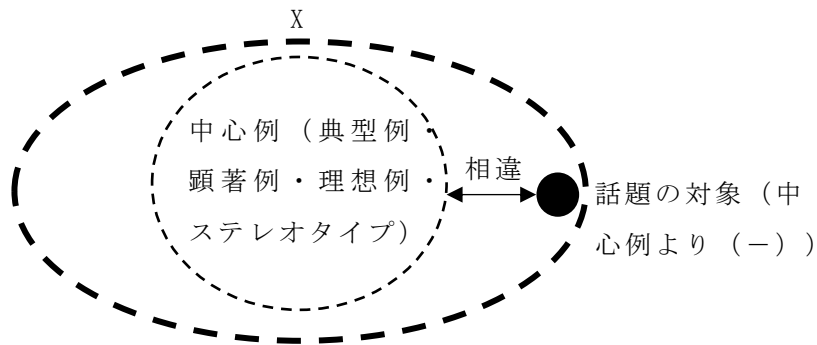


図9 「Xというのもおこがましい」と「Xとは名ばかり」に見られるカテゴリー化の様相

両表現の共通点②：「XというのもおこがましいY」と「Xとは名ばかりのY」

話者が話題の対象をXの中心例と比較し、それと異なることからXの周辺例（中心例より相対的に（－）評価性を持つ）として位置づけながら、それが（より強い（－）評価性を持つ）別のカテゴリーYの成員としてよりふさわしいと考え、それに注目し、Yの成員として再カテゴリー化する。

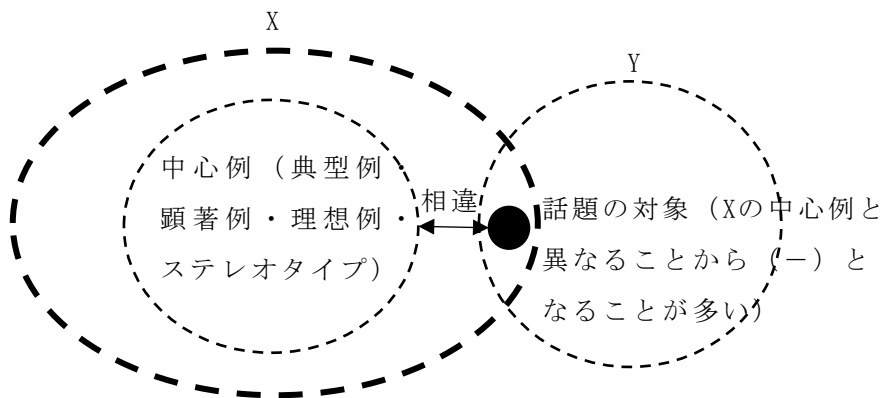


図10 「XというのもおこがましいY」と「Xとは名ばかりのY」に見られるカテゴリー化の様相

さらに、6.2.3.4節と6.3.3.3節では「Xというのもおこがましい（Y）」と「Xとは名ばかり（のY）／名ばかり（の）X」におけるカテゴリーXの縮小の様相について確認したが、この点も両表現の共通点として挙げるができると思う。

両表現の共通点③：カテゴリーXの縮小

話者は、話題の対象がすでに属していたカテゴリーXをXの中心例から成るXの下位カテゴリーに縮小させ、話題の対象をその外側に位置づけ（、Xと一部の共通

点を有する別のカテゴリーYの内側に再カテゴリー化する。

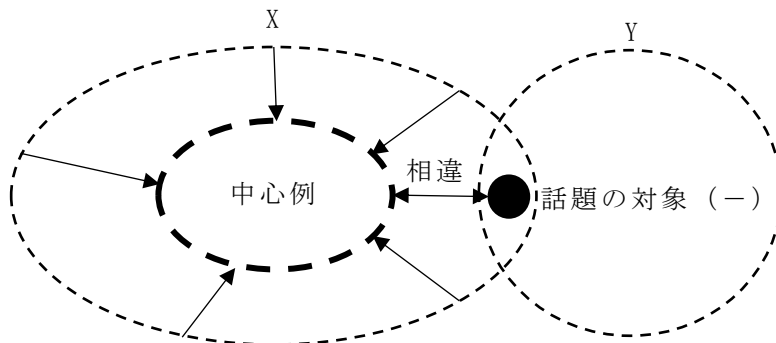


図 1 1 「XというのもおこがましいY」と「Xとは名ばかりのY」
に見られるカテゴリーの縮小

6.4.3.2 両表現の相違点

- (50) 「お友達クリエイターの（というのもおこがましい／*とは名ばかりの、ずっとお名前と作品は見ていた大先輩クリエイターの！）小太刀御禄さん（省略）
（例(9)、(20)、(44)を再掲）

(50)は、すでに6.2.3.3節で述べたように、カテゴリーYよりXの方が相対的に（-）評価性が強い場合の例文である。このような場合の「XというのもおこがましいY」を「Xとは名ばかりのY」に置き換えられないことから、「Xとは名ばかりのY」は、カテゴリーYよりXの方が相対的に（-）評価性が強い場合は用いられないと考えられる。

- (51) 「S.M作家 団鬼六」その字面に恐れをなして、父のもとを初めて訪問する編集者は皆、緊張の面持ちでやってくる。しかし、いつも帰り際には、「いや～、もっと怖い先生かと思っていました」と満面の笑みで別れの挨拶をするのである。すると父も決まって、「そう、鬼とは名ばかりの／*というのもおこがましいチャージングな紳士やろ？」と常套句を言ってカラカラと笑うのだった。（例(40)を再掲）

6.3.3.2節で述べたように、(51)も、(50)と同じく、カテゴリーYよりXの方が相対的に（-）評価性が強いように思われるが、ここでは「Xとは名ばかりのY」が言えて、「XというのもおこがましいY」は言えない。まず、「Xとは名ばかりのY」が言える理由は、「Xとは名ばかりのY」が、話題の対象がXという名称を持っていながら、それにふさわしい（中心例が持つ）特徴を持たず、Yによりふさわしいと話者が判断する

場合に用いられる表現であり、優先的にこの点に焦点が当てられるためであると考えられる。そのため、(51)のように、話者が話題の対象（自分自身）に対して、X（「鬼」）と呼ばれてはいるが、実際はXよりY（「チャーミングな紳士」）にふさわしいということに注目している場合は、Yのほうが明らかにXより（一）評価性を帯びていない場合でも「Xとは名ばかりのY」を用いることができる。次に、(51)において「Xとは名ばかりのY」を「XというのもおこがましいY」に置き換えられない理由は、(51)の話題の対象が話者自身に関することであるにもかかわらず、話者が自分のことをへりくだって言っていないためであると考えられる。「おこがましい」は本来「分不相応である・身の程をわきまえない・なまいきだ」のような国語辞典の意味記述からわかるように、人間関係において、決まった身の程にふさわしくない言動をする様子に対して非難する言葉であり、人間に対する評価に関わる表現である。この「おこがましい」が含まれ、話者の再カテゴリー化を表す「XというのもおこがましいY」でも、特にXとYが人間に対する呼び名である場合は話者による再カテゴリー化が話者に対する他の人の評価に影響する可能性が高い。そのため、(51)のように、話者が自分自身を高く評価していると思われる可能性がある場合、「XというのもおこがましいY」は用いられないと考えられる。このようなことから、「XというのもおこがましいY」は話者自身に対する聴者（読者）の評価を悪くする可能性がある（話者自身を高く評価したり、他人を低く評価する場合）場合は用いられないと考えられる。

両表現の相違点①：話題の対象とカテゴリーX及びYの評価性

「XというのもおこがましいY」：XとYが人間に対する名称である場合、話者自身に対する聴者（読者）の評価を悪くする可能性がある（話者自身を高く評価したり、他人を低く評価する場合）と用いにくい。

「Xとは名ばかりのY」：カテゴリーYよりXの方が相対的に（一）評価性が強い場合は用いられない。

(52)一方で、**実地検査**とは名ばかりの／＊というのもおこがましい観光旅行も行われている。（中略）五日間の日程で検査と思われる時間は九時間あまり。（例(45)を再掲）

(53)大分県豊後大野市三重町中津留に有る稲積水中鍾乳洞周辺に滝が有るとの事で訪問してみました。（中略）最初に現れるのが慈愛の滝です。そこそこの落差が有る良い滝です。（中略）鍾乳洞の内部にも「滝」の案内が有ります。案内板では2滝ですが、3つの滝が有りました・・・？**滝**とは名ばかりの／＊というのもおこがましい水も流れていない鍾乳石（滝状石灰華？）でした。（例(37)を再掲）

(52)と(53)では、「Xとは名ばかりのY」を「XというのもおこがましいY」に置き換えられない。 (52)と(53)では、「実地検査」「滝」と名付けられていた話題の対象が、実際は「観光旅行」「鍾乳石」だったという事実が述べられている。この場合、「Xとは名ばかりのY」を「XというのもおこがましいY」に置き換えると、Xの名称を持っている話題の対象が実はYだったという事実を表すことができず、話題の対象をXにカテゴリー化することは分不相応なことであるという、話者の主観的な判断が加わり、話題の対象をYに再カテゴリー化すべきであると主張する意味になり、本来の意味と大きくずれてしまうため、非文となると考えられる。このようなことから、Xの名称を持っている話題の対象が実はYだったという事実を表す場合は、話題の対象が名称Xにふさわしい属性を持っていない（かつ、Yにふさわしい属性を持っている）ことに話者の焦点が当てられる「Xとは名ばかりのY」が用いられると言える。一方、「XというのもおこがましいY」は、話者が話題の対象をXにカテゴリー化することは分不相応なことであるという、話者の主観的な判断を基に、話題の対象をYに再カテゴリー化すべきであると主張する場合でないと用いられにくいと考えられる。

以上の分析から導いた「XというのもおこがましいY」と「Xとは名ばかりのY」のそれぞれの再カテゴリー化の様相における特徴を以下にまとめる。

両表現の相違点②：話者の焦点及び主張と事実

「X というのもおこがましい Y」：話題の対象を X にカテゴリー化することは分不相応なことであるという、話者の主観的な判断を基に、話題の対象を Y に再カテゴリー化すべきであると主張する場合に用いられる。

「X とは名ばかりの Y」：話題の対象が名称 X にふさわしい属性を持っていない（かつ、Y にふさわしい属性を持っている）ことに話者の焦点が当てられるため、X の名称を持っている話題の対象が実は Y だったという事実を表す場合に用いることができる。

6.4.4 まとめ

本節では「Xというのもおこがましい (Y)」と「Xとは名ばかり (のY) / 名ばかり (の) X」を対象に、「話者による物事の再カテゴリー化の様相」に注目して両表現の共通点と相違点について考察した。その結果を以下にまとめる。

両表現の共通点①「Xというのもおこがましい」と「Xとは名ばかり」

話者が話題の対象をXの中心例と比較し、それと異なることからXの周辺例（中心例より相対的に（－）評価性を持つ）としてカテゴリー化する。

両表現の共通点②「XというのもおこがましいY」と「Xとは名ばかりのY」

話者が話題の対象をXの中心例と比較し、それと異なることからXの周辺例（中心例より相対的に（－）評価性を持つ）として位置づけながら、それが別のカテゴリーYの成員（より強い（－）評価性を持つ）としてよりふさわしいと考え、それに注目し、Yの成員として再カテゴリー化する。

両表現の共通点③カテゴリーXの縮小

話者は、話題の対象がすでに属されていたカテゴリーXをXの中心例から成るXの下位カテゴリーに縮小させ、話題の対象をその外側に位置づけ（、Xと一部の共通点を有する別のカテゴリーYの内側に再カテゴリー化する）る。

両表現の相違点①話題の対象とカテゴリーX及びYの評価性

「XというのもおこがましいY」：XとYが人間に対する名称である場合、話者自身に対する聴者（読者）の評価を悪くする可能性がある（話者自身を高く評価したり、他人を低く評価する場合）と用いられない。

「Xとは名ばかりのY」：カテゴリーYよりXの方が相対的に（－）評価性が強い場合は用いられない。

両表現の相違点②：話者の焦点及び主張と事実

「XというのもおこがましいY」：話題の対象をXにカテゴリー化することは分不相応なことであるという、話者の主観的な判断を基に、話題の対象をYに再カテゴリー化すべきであると主張する場合に用いられる。

「Xとは名ばかりのY」：話題の対象が名称Xにふさわしい属性を持っていない（かつ、Yにふさわしい属性を持っている）ことに話者の焦点が当てられるため、Xの名称を持っている話題の対象が実はYだったという事実を表す場合に用いることができる。

6.5 第六章のまとめ

第六章では、「再カテゴリー化」が見られる「Xというのもおこがましい（Y）」と「Xとは名ばかり（のY）／名ばかり（の）X」を対象に、「カテゴリー化の様相」に

注目して考察を行い、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴を明らかにした。

「X というのもおこがましい (Y)」と「X とは名ばかり (の Y) / 名ばかり (の X)」は、両方とも話者の評価性が強く現れる表現である。Y が明示されるかどうかによってカテゴリー化の様相も異なるため、本章では、まず Y の有無により分けて考察を行った。両表現とも Y が明示されない場合は、X の成員である話題の対象が X の中心例 (典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ) と異なることから、X の周辺例として位置づける。Y が明示される場合は、X の成員である話題の対象が X の中心例と異なることから、X の周辺例として位置づけられると同時に、Y の成員としても位置づけられ、再カテゴリー化が見られる。また、話者が X を X の中心例から成る下位カテゴリーに縮小させることにより、X の周辺例として位置づけられた話題の対象が X の成員から除外される意味となる。基本的には両表現とも X の中心より周辺のほうが、X より Y のほうが (一) 評価性を持ち、X の周辺例 (Y の成員) として位置づけられる話題の対象も (一) 評価を受ける。ただし、「X というのもおこがましい (Y)」は、Y より X のほうが (一) 評価性を持つ場合も用いられることがあり、それは話者が自分自身を低く評価したり、相手を高く評価する場合であると考えられる。このような場合、「X とは名ばかり (の Y) / 名ばかり (の X)」は用いられない。また、「X というのもおこがましい Y」は話題の対象を X にカテゴリー化することは分不相応なことであるという、話者の主観的な判断を基に、話題の対象を Y に再カテゴリー化すべきであるという話者の主張が表れないと用いられないが、「X とは名ばかりの Y」は話題の対象が X という名称を持っていながら、X の属性を持っていないことに焦点が当てられ、単に話題の対象の正体が X ではなく Y であるという事実を表すときも用いられる点において違いが見られる。

第七章 否定を含む表現の分析

7.1 はじめに

本章では、否定形式を含む表現「大したXではない」と「Xっぽくない」について考察し、「カテゴリー化の様相」に焦点を置き、考察を行う。次の(1)を見ると、「大したXではない」と「Xっぽくない」は、意味上の違いはあるが、話者が話題の対象「寿司」をカテゴリーX「料理」の中心例ではなく、周辺例として位置づける表現であるという点においては共通点が見られる。

(1) 寿司って良く考えたら大した料理じゃない／料理っぽくないやろ (<http://taoru-n.blog.jp/archives/9017753.html>)

本章では、「大したXではない」と「Xっぽくない」の「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴について考察し、両表現の共通点と相違点を明らかにすることを目的とする。

7.2 「大したXではない」

7.2.1 考察の対象と目的

現代日本語における「大したXではない」には、(2)のように、ある話題の対象がカテゴリーXの周縁的な成員であることを明示する働きがあると考えられる。

(2) 日本ハムの二刀流ルーキー・大谷翔平投手（18）が14日、右足首捻挫のため出場選手登録を外れ、千葉県鎌ケ谷市の2軍施設に戻った。13日のオリックス戦（ほっと神戸）でファウルゾーンへの打球を追いかけた際に負傷。一夜明けたこの日、神戸市内のホテルで取材に応じた際には報道陣に笑顔を見せるなど悲壮感はなく、「大したケガじゃないので、大事を取ってという感じ。長引くようなものじゃない」と軽症を強調した。（スポニチ2013年4月15日）

(2)の話者（大谷選手）は話題の対象である「左足首捻挫」が長引くようなものではなく、軽症であることから、「ケガ」カテゴリーの中心例（大したケガ）とは違い、周辺例であると考え、「大したケガじゃない」と言っている。このように、「大したXではない」はある話題の対象がカテゴリーXの周辺例であることを明示する表現であ

ると言える。本節では、「大したXではない」に見られるカテゴリー化の様相に焦点を置いて考察し、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴を明らかにすることを目的とする。

なお、本節の考察対象の形式は、(2)のように、「大した+名詞（カテゴリー名）+ではない」の形式とする³¹。

7.2.2 先行研究

本節では、「大したXではない」の意味を成す主要成分である「大した」に関する国語辞典の意味記述と、『教師と学習者のための日本語文型辞典』における「大したNではない」の記述を確認し、考察の課題を設定する。

『日本国語大辞典』

たい - した 【大一】 [連体]

(1) 程度がはなはだしいさまにいう。多く、肯定的に評価する表現として用いるが、時に逆説的に悪い意味にも用いる。特出した。非常な。たいへんな。おどろくほどの。

* 塩原多助一代記〔1885〕〈三遊亭円朝〉五「村方で田地の三百石も持て居ると富豪（タイシ）たもので御坐います」

* 初恋〔1889〕〈嵯峨之屋御室〉「見聞の狭い小児には、其が大した遊戯なので」

* 魔風恋風〔1903〕〈小杉天外〉前・病院・一「服装が莫大（タイシ）た服装ぢゃありませんか」

* 自由学校〔1950〕〈獅子文六〉自由を求めて「まったく、タイした体格でさア」

(2)（後に打消の表現を伴って、程度がはなはだしくはないことをいう）特に言い立てるほどの。取り立てて言うほどの。たいしたる。

* 人情本・春情花の朧夜〔1860頃か〕初・三回「何サ体（タイ）した訳ぢゃアないのサ」

* 和英語林集成（初版）〔1867〕「Taish' ta（タイシタ）ビョウキデワ ナイ」

³¹ 「大した」が連体詞であるため、Xに動詞や形容詞などの用言が入ることはない。特に「大した」の場合は名詞以外の体言（代名詞、数詞）が後続することも、名詞句が後続することもないと考えられ、考察対象の形式は「大した+名詞（カテゴリー名）+ではない」の形式のみとする。

*当世書生気質〔1885～86〕〈坪内逍遙〉三「君の精神上に、たいした影響を、及ぼさない事であれば」

*虞美人草〔1907〕〈夏目漱石〉一四「風邪でもない様だが、一なに大（タイ）した事もあるまい」

『大辞林 第三版』

たいした【大した】（連体）

- 1 程度がはなはだしいさまをいう。非常な。たいへんな。普通はよい意味に用いられるが、時に悪い意味にも用いられることがある。「一男だ」「一人数だ」「一悪党だ」
- 2 （下に打ち消しの語を伴って）とりたてていうほどの。それほどの。「一問題ではない」

『デジタル大辞泉』

たい - した 【大した】 [連体]

- 1 程度がはなはだしいさまをいう語。非常な。たいへんな。度はずれた。「一ものだ」「一数にのぼる」
- 2 あとに打消しの語を伴って、特に取り立てて言うほどのことではないという気持ちを表す。それほどの。「一ことはない」「一用事ではない」

『教師と学習者のための日本語文型辞典』

【たいした】

2 たいしたNではない (p.182)

(1) たいしたものではありませんが、おみやげにと思って買ってきました。

(2) 私にとってボーナスが多いか少ないかはたいした問題ではない。休みが取れるかどうか問題だ。

(3) A: 朝から病院って、何か大変なことがあったんですか。

B: いや、たいしたことではありません。家のねこがちょっとけがをただけです。

それほど重大なことではないという意味。

国語辞典の記述を見ると、本節の考察対象である「大したXではない」に関する記述は「(下に打ち消しの語を伴って)とりたてていうほどの。それほどの。」という記述である。この記述を本節の考察対象に当てはめると、「大したXではない」は「とりたてていうほどのXではない。それほどのXではない」という意味になる。次に、

『教師と学習者のための日本語文型辞典(グループ・ジャマシイ 1998)』では辞書とは違い、「たいしたNではない」を一つの項目とし、「それほど重大なことではないという意味」と記述している。これらの意味記述から、下の(3)(4)における「大したケガじゃない」と「大した男ではない」という表現を見た場合、それぞれ「それほどの(重大な)ケガではない」「とりたてていうほどの男ではない」という意味を表わすと考えられる。

- (3)日本ハムの二刀流ルーキー・大谷翔平投手(18)が14日、右足首捻挫のため出場選手登録を外れ、千葉県鎌ケ谷市の2軍施設に戻った。13日のオリックス戦(ほっと神戸)でファウルゾーンへの打球を追いかけた際に負傷。一夜明けたこの日、神戸市内のホテルで取材に応じた際には報道陣に笑顔を見せるなど悲壮感はなく、「大したケガじゃないので、大事を取ってという感じ。長引くようなものじゃない」と軽症を強調した。(例(2)を再掲)
- (4)予想外に多かったのが、公共の場所で足を開いて座る男性は小心者、というご高説。「自分の存在を過剰に誇示しないとられない、つまり自分に自信がない。でなければ、まったく空気の読めない人。いずれにせよ、迷惑な存在に変わりはない」(30歳・営業)「相手と話すときにやたらと腕組みするヤツは大した男じゃない」(36歳・介護)、「周囲に自分の成果を自慢する男は30過ぎても結婚できない」(23歳・販売)など、手厳しい分析は会社の中でも続く。(日刊SPA!
<http://nikkan-spa.jp/322462>)

しかし、(3)の「大したケガ」は「ケガ」のカテゴリーの成員の中でも「顕著例」を指し、(4)の「大した男」は「男」のカテゴリーの中で「理想例」を指しており、話題の対象と比較されているカテゴリーXの中心例はそれぞれ異なると考えられる。さらに、(3)の話題の対象であるケガは「大したケガじゃない」ことから「ケガ」カテゴリーの顕著例より(+)の評価性を帯び、(4)の話題の対象である男は「大した男じゃない」ことから「男」カテゴリーの理想例より(-)の評価性を帯びるため、それぞれの表現によって生じる評価性にも違いが見られる。このようなことから、「とりたてていうほどのXではない」「それほどのXではない」という記述だけでは「大したXではない」の意味を十分に説明しているとは言えず、より詳細な考察が必要であると考えられる。したがって、次節では「大したX」が指し示すものがカテゴリーXのどのような成員であるか、及び「大したXではない」が持つ評価性に注目して考察する。そうすることで、「大したXではない」が話題の対象をどのようにカテゴリーXの周辺例として位置づけるかについて考察し、カテゴリーの周辺例を明示する表現としての特徴を明らかにしたいと考える。

7.2.3 「大したXではない」に見られるカテゴリー化の様相

7.2.3.1 話題の対象の評価性がXの中心例より（－）である場合

(5) 予想外に多かったのが、公共の場所で足を開いて座る男性は小心者、というご高説。「自分の存在を過剰に誇示しないといられない、つまり自分に自信がない。でなければ、まったく空気の読めない人。いずれにせよ、迷惑な存在に変わりはない」（30歳・営業）「相手と話すときにやたらと腕組みするヤツは大した男じゃない」（36歳・介護）、「周囲に自分の成果を自慢する男は30過ぎても結婚できない」（23歳・販売）など、手厳しい分析は会社の中でも続く。（例(4)を再掲）

(6) 【中国】日本人はなぜこれほどチャーハンに夢中なのか？我々にとっては大した料理ではないのに…中国ネットユーザー

（省略）「中華料理といえば？」と日本人に聞けば、たいてい「チャーハン」という言葉が返ってくる。中国人にとってチャーハンは別に名物料理でもなんでもない。残り物の米飯を、翌日炒めて食べるものだと思っている。中華料理にはもっと素晴らしい料理がたくさんあるのに、なぜ日本人はチャーハンに夢中なのか。（<http://www.gurum.biz/articles/22721.html>）

(5)を見ると、ある女性が相手と話すときにやたらと腕組みする男性は「男」カテゴリーの周辺例であり、(6)では、話題の対象であるチャーハンが中国人にとっては「料理」カテゴリーの周辺例として位置づけられている。ここでそれぞれの話し手がそう考える基準となるのは、自分の存在を過剰に誇示しない男性や自分に自信がある「理想的な男性」、そして、名物料理や素晴らしい料理、残り物の材料で作るものではない料理といった「理想的な料理」であると考えられる。そのような理想的な料理と理想的な男性は、誰が判断しても「料理」と「男」のカテゴリーの成員としてカテゴリー化されることから、それぞれのカテゴリーの中心例として位置づけられやすいと考えられる。そのため、そのような理想例が持っている様々な属性を持っていない（またはその属性の度合いが低い）話題の対象は、そのカテゴリーの中心から離れている周辺例として位置づけられることになる。これらの例文でも、話題の対象である「チャーハン」と「やたらと腕組みする男」は、理想的な料理や男性とは程遠い周辺の成員になるため、理想例が持っているいい属性を持っていないか、持っているもその度合いが低く、望ましくないという（－）の評価性を帯びることになる。このようなことから、話題の対象は注目に値しない成員であるという話し手の評価も含意されると考えられる。

(7) **大した**お知らせではないですが、自分就職の関係でPS3を引っ越し先に送るため、27日の22時から30日の夕方までログインできないので、もし私に伝えたい事あればレッターかこの日記にコメント下さい→多分無いと思いますがw (<http://jp.finalfantasyxiv.com/lodestone/character/6155913/blog/1006983/>)

(8) **大した**質問じゃないかもしれませんが、回答お願いします。「果敢無い」「儂い」ではどちらがすきですか？ 本当にくだらないので、直感で応えていただければ結構です。それから、意味がどう違うのか知っている方は教えていただけると嬉しいです。(http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1297737897)

(7)と(8)は、話者が話題の対象を「お知らせ」と「質問」カテゴリーの中心例と比較して、話題の対象がそれと異なり、注目に値するほど重要なものではないということから(一)の評価を下し、それぞれのカテゴリーの周辺例として位置づけているという点では上の(5)(6)と同じである。しかし、(5)と(6)では比較されるカテゴリーXの中心例がXの理想例であったのに対し、(7)と(8)では「理想的なお知らせ」「理想的な質問」というものは想定しにくいいため、それぞれの理想例と比較しているとは考えられない。(7)と(8)において話題の対象と比較されているのは、「人々に知らせる必要のある重要なお知らせ」「わざわざ質問して答えてもらう価値のある重要な質問」であると考えられ、これらはそれぞれのカテゴリーにおいて「重要だ」という性質を他の成員より顕著に有していることから、「顕著例」と考えられる。

(9) ヘミングウェイの作品は、偽装されたヘミングウェイの生活にすぎないし、その生活はわれわれのうちの誰の生活とでも同じくらい、大したものではないことを証明しておく必要があった。(ミラン・クンデラ(著)/菅野昭正(訳)『不滅』BCCWJ)

(10) 「それで」と武史はうわずった声で聞いた。「何を聞かれたんです」「**大した**ことじゃないのよ」問題のあることを話し出そうとするときに、人が決まって使う常套句をママは使った。「武史ちゃんは週に何回くらい店に来るか、とか、学校は毎日、通ってたのか、とか、その程度のこと。(省略)」(小池真理子『殺意の爪』BCCWJ)

「大したXではない」のXには、(9)(10)のように、「もの」や「こと」が入る場合もある。そのような場合は、話題の対象が実質的な意味での「もの」や「こと」のカテゴリーにカテゴリー化されるというよりは、別の具体的なカテゴリーにカテゴリー化されると思われる。例えば、(9)の「大したものではない」は、話題の対象が、注

目に値するほど特別な、または理想的な生活ではないということを表し、(10)の「大した事じゃない」も、話題の対象が、注目に値するほど重要な質問ではないという意味で用いられていることから、(9)の「もの」は「生活」、(10)の「こと」は「質問」カテゴリーを示していると考えられる。このようにカテゴリーXが「もの」や「こと」である場合も、話題の対象がXの中心例（理想例または顕著例）より（-）の評価性を帯びることがある。

以上の考察から、「大したXではない」は、話者が話題の対象を、中心から周辺に行くほど（-）評価性が強くなるカテゴリーXの中心例（理想例・顕著例）と比較し、それと異なることからXの周辺例として位置づけ、注目に値しないということを表す表現であると言える。これを図に表すと図1となる。

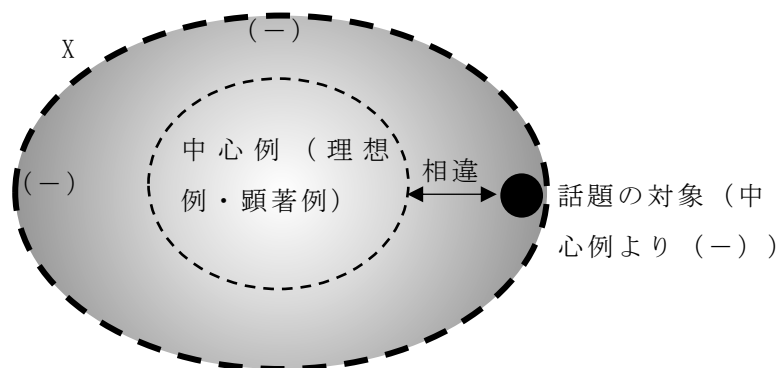


図1 話題の対象がXの中心例より（-）である場合の「大したXではない」に見られるカテゴリー化の様相

7.2.3.2 話題の対象の評価性がXの中心例より（+）である場合

(11)日本ハムの二刀流ルーキー・大谷翔平投手（18）が14日、右足首捻挫のため出場選手登録を外れ、千葉県鎌ケ谷市の2軍施設に戻った。13日のオリックス戦（ほっと神戸）でファウルゾーンへの打球を追いかけた際に負傷。一夜明けたこの日、神戸市内のホテルで取材に応じた際には報道陣に笑顔を見せるなど悲壮感はなく、「**大したケガ**じゃないので、大事を取ってという感じ。長引くようなものじゃない」と軽症を強調した。（例(2)、(3)を再掲）

(12)先頃、東京電力が電気料金原価を6000億円過大に見積もっていたことが判明した。しかし、この件について大前研一氏は何を思ったか。以下、大前氏の談だ。

東京電力の電気料金算定のもとになるコスト見積もりが、実際にかかった費用より過去10年間で合計約6000億円過大だったことが明らかになり、電気料金が必要以上に高く設定されていたのではないかとマスコミは騒いでいた。だが、これは**大した問題**ではない。10年で6000億円ということは、1年600億円。東電は売上高5兆3685億円（2011年3月期）の会社だから、600億円はその約1%である。つ

まり、東電の電気料金は見積もりより1%高かったにすぎないのだ。（週刊ポスト2011年11月11日号http://www.news-postseven.com/archives/20111101_67964.html）

(11)では、大谷投手が右足首捻挫という自分のケガについて長引くような重症のケガと比較し、それとは違う軽症であるという意味で、「ケガ」のカテゴリーの周辺例として位置づけている。ここで話題の対象と比較される基準は、ケガのカテゴリーの中でも長引くような重症のケガである。このような「長引くような重症のケガ」は「ケガ」カテゴリーの顕著例であり、「ケガ」のカテゴリーの中心に位置する成員であると考えられる。そのため、大谷投手のケガはケガの顕著例に比べるとその症状が軽い方であるが、2軍施設に戻る程度のケガであることは確かであり、「ケガ」のカテゴリーの周辺例として位置づけられる。また、(12)でも、話し手である大前氏が話題の対象である東電の見積もりが高かったことはマスコミが騒ぐほどの重大な問題ではないという意味で、「問題」のカテゴリーの周辺に位置づけている。ここで比較されている「マスコミが騒いでもいいほどの重大な問題」は「問題」のカテゴリーの中でも重大さという属性が顕著である成員、つまり、誰もが「問題」のカテゴリーの成員として認める顕著例であると考えられる。そのような「問題」の顕著例に比べ重大さがかなり低い話題の対象は、「問題」のカテゴリーの周辺例となり、「問題」の顕著例が持つマイナス評価も弱くなり、注目に値しないものという意味が含まれる。

話題の対象がカテゴリーXの中心例より（+）の評価性を帯びるのは、(11)の「ケガ」、(12)の「問題」のように、Xが基本的に（-）評価性を持つカテゴリーである場合であると言える。しかし、次の(13)のように、文脈によっては同じカテゴリーでも異なる評価性を持つことがあるため、それにより「大したXではない」の話題の対象の評価性も変化することがある。

(13) これってそもそも真剣に議論するほど大事な部分なのではないですか？先に答えを言ってしまうと、NOだと思います。スタートアップのアイデアに対する、「なぜ今までそれがなかったか」は大した問題ではありません。もっと大事なのはシンプルに「それが顧客にとって最も良いものであるかどうか」です。（<http://shunsuketakahash.fool.jp/blog/?p=1390>）

(13)のカテゴリーXは(12)と同じく「問題」であるが、それぞれの中心例と話題の対象の評価性は異なる。(12)では中心例の持つ評価性は（-）、話題の対象は中心例より（+）の評価性を持っている。一方、(13)の話者は話題の対象が「問題」の中心例（真剣に議論するほど大事な問題、顕著例）に比べ、大事ではないという意味で

「大した問題ではない」と言っている。したがって、(13)の話題の対象の持つ評価性は中心例に比べ、(－)となり、(12)とは反対となると考えられる。

また、話題の対象の持つ評価性がXの中心例より(＋)となる場合も、「大したXではない」のXの部分に「もの」や「こと」が入ることがあり、話題の対象は実質的な「もの」や「こと」の周辺例ではなく、文脈に示されている別のカテゴリーの周辺例としてカテゴリー化される。

(14) 共同体外部の人間であってもそこにいるかぎり規則に従わなければならない。

華美な装飾品を身に帯びないこと、整髪しないこと、歌舞音曲を慎むこと、娯楽(例えば闘鶏)に打ち興じないことがその根幹である。現在ではラジオをロングハウスでつけてはならないことにもなっている。これらの禁忌は大したものではないように見えるが、現実にはロングハウスで暮らしてみると意外に不便なものである。イバンの説明によれば、ウリットの意味はこうした不便を甘受することによって死者に対して、また直接の遺族に対して「気づかい」を示すことにある。つまり通夜におけるのと同様の釈義がここにも与えられているわけである。(内堀基光『死の人類学』BCCWJ)

(15) これまで、チャブも盆栽の世話も、彼女に任せっ放しだった。両方の面倒をみるのは、さほど大したことではなさそうだが、やりつけないことなので、うっかりすると失念する。なにしろ、生き物相手なので、手抜きは禁物だ。(日本文芸家協会(編)『文学 1988』BCCWJ)

(14)の話者は話題の対象の「これらの禁忌」が、従うのにそれほど難しくない規則であるという意味で、「大したものではない」と言っていると思われる。この場合、比較されるXの中心例は「従うことが難しい、不便を甘受しなければならない規則」(顕著例)であると思われ、(－)評価性を持ち、それと異なる話題の対象は中心例よりは(＋)に近い評価性を持つ。(15)でも、話者は話題の対象である「チャブと盆栽の面倒を見ること」が、難しいこと・大変なことではないという意味で「大したことではない」と言っている。そのため、(14)と同じく、Xの中心例は「難しいこと・大変なこと」(顕著例)となるため(－)の評価性を持ち、それと異なる話題の対象はXの中心例よりは(＋)の評価性を持つことになると考えられる。

本節の考察を通して、「大した X ではない」は、話者が話題の対象を、中心に行くほど(－)評価性が強くなるカテゴリーXの中心例(顕著例のみ)と比較し、それと異なることからXの周辺例として位置づけ、注目に値しないということを表す表現であると言える。さらに、この場合、話題の対象はXの中心例と異なることから、中心例より(＋)の評価性を帯びることになる。これを図に表すと図2となる。

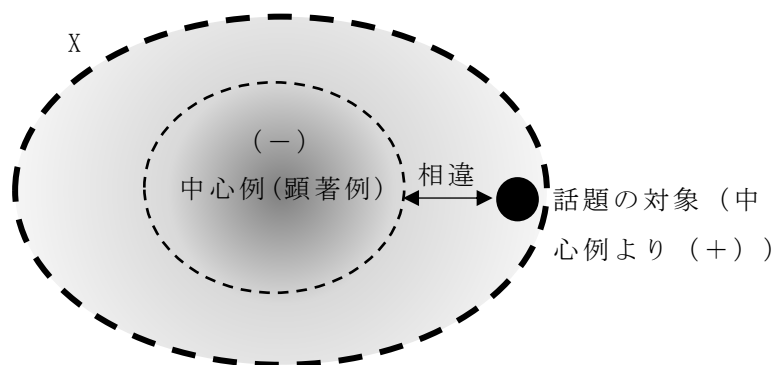


図2 話題の対象がXの中心例より (+) である場合の「大したXではない」に見られるカテゴリー化の様相

7.2.3.3 カテゴリーXの特徴

本節では、「大したXではない」のカテゴリーXの特徴について考えてみる。前節の考察から、「大したXではない」のXは、中心にある属性を顕著に有し、または理想的な属性を有し、誰もがそのカテゴリーの成員であると認める顕著例・理想例が存在するカテゴリーである。特に、カテゴリーXにおける評価性も一つの属性として考えてみると、話題の対象の評価性がXの中心例より (-) である場合でも (+) である場合でも、その評価性というのはあくまでも話題の対象とXの中心例の間の相対的な評価性であり、中心例の持つ評価性に比べて、周辺例の持つ評価性は弱くなると言える。つまり、カテゴリーXでは、中心から周辺に行くほど、顕著例・理想例が持つ様々な属性（特に評価性）が弱くなると考えられる。

なお、靱山(2014a: 666)の「「理想例」は、程度性のある特徴に注目している場合は、「顕著例」の特殊な一種と考えられる」という指摘のように、「大したXではない」の中心例も「理想例」が含まれた「顕著例」にまとめることができる。(16)を見ると、「大した男ではない」において話題の対象と比較されている「男」の理想例は、自分の存在を過剰に誇示しない男性や自分に自信がある男性である。ここで、話者は話題の対象が「自分の存在を過剰に誇示しない」「自分に自信を持っている」という理想的な特徴をどれだけ持っているかに注目し、各々の特徴の程度が高い成員を理想例と考えている。このように、理想例は程度性のある理想的な特徴を顕著に有する成員であるため、顕著例の一種であると言える。

(16) 予想外に多かったのが、公共の場所で足を開いて座る男性は小心者、というご高説。「自分の存在を過剰に誇示しないといられない、つまり自分に自信がない。でなければ、まったく空気の読めない人。いずれにせよ、迷惑な存在に変わりはない」(30歳・営業)「相手と話すときにやたらと腕組みするヤツは大した男じゃない」(36歳・介護)、「周囲に自分の成果を自慢する男は30過ぎても結婚で

きない」(23歳・販売)など、手厳しい分析は会社の中でも続く。(例(4)、(5)を再掲)

したがって、「大したXではない」において比較の基準となる中心例は、「顕著例」とまとめることができる。つまり、中心例が(+)評価を持つときは理想例となり、それ以外の場合(評価性を持たない場合や(-)を持つ場合)は顕著例となると考えられる。これは、「大したXではない」と言う場合は話題の対象とXの中心例が持つ「属性」が比較されるという点、カテゴリーXが中心から周辺に行くほど様々な属性(特に評価性)の度合いが低くなるようなカテゴリーであるという点に関係するものであると考えられる。

以上の考察から、「大した X ではない」の特徴はは次の図3のようにまとめられる。

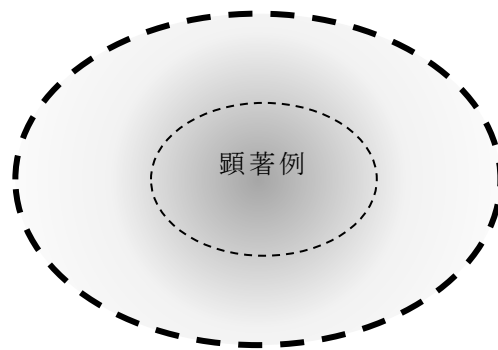


図3 「大したXではない」のカテゴリーX

7.2.3.4 「大したXではない」に見られるカテゴリーXの縮小の様相

「大したXではない」のカテゴリー化の様相を見ると、カテゴリーXの縮小が見られる。例文に即して具体的に見ると、(17)の話者は話題の対象である自分のケガを「ケガ」カテゴリーの周辺例として位置づけている。しかし、話者は頭の中で話題の対象までを含む「ケガ」カテゴリーを、「長引くようなひどいケガ」(顕著例)を成員とする「ケガ」の下位カテゴリーに縮小させ、縮小された「ケガ」カテゴリーに属さない話題の対象は注目に値しないと判断していると考えられる。

(17)日本ハムの二刀流ルーキー・大谷翔平投手(18)が14日、右足首捻挫のため出場選手登録を外れ、千葉県鎌ケ谷市の2軍施設に戻った。13日のオリックス戦(ほっと神戸)でファウルゾーンへの打球を追いかけた際に負傷。一夜明けたこの日、神戸市内のホテルで取材に応じた際には報道陣に笑顔を見せるなど悲壮感はなく、「大したケガじゃないので、大事を取ってという感じ。長引くようなものじゃない」と軽症を強調した。(例(2)、(3)、(11)を再掲)

このように、「大したXではない」の話者は、カテゴリーXをXの顕著例（理想例を含む）から成る下位カテゴリーに縮小させ、話題の対象がその下位カテゴリーの成員と異なることから、その下位カテゴリーの外側（元のXの周辺部）に位置づけ、注目に値しないという判断をしていると考えられる。これを図に表すと図4となる。

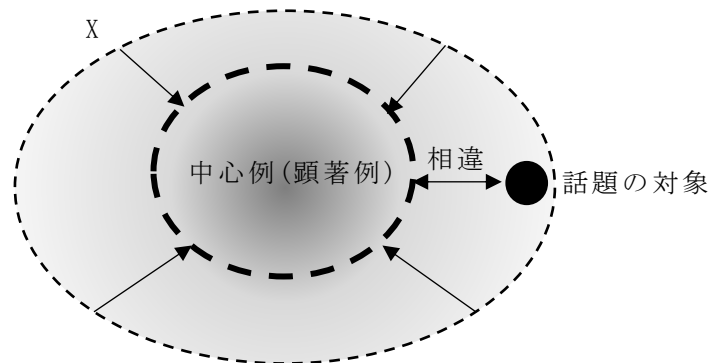


図4 「大したXではない」に見られるカテゴリーXの縮小の様相

7.2.4 まとめ

本節では、「大したXではない」を対象とし、そのカテゴリー化の様相について考察することで「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴を明らかにした。考察の結果は次のようにまとめられる。

「大したXではない」：

- ①話題の対象の評価性がXの中心例より（－）である場合：話者が話題の対象を、中心から周辺に行くほど（－）評価性が強くなるカテゴリーXの中心例（理想例・顕著例）と比較し、それと異なることからXの周辺例として位置づけ、注目に値しないことを表す。
- ②話題の対象の評価性がXの中心例より（＋）である場合：話者が話題の対象を、中心に行くほど（－）評価性が強くなるカテゴリーXの中心例（顕著例）と比較し、それと異なることからXの周辺例として位置づけ、注目に値しないことを表す。
- ③カテゴリーXの特徴：カテゴリーXは、顕著例を中心とし、中心から周辺に行くほど、顕著例が持つ様々な属性（特に評価性）が弱くなるカテゴリーである。
- ④カテゴリーXの縮小：話者は、カテゴリーXをXの顕著例（理想例を含む）から成る下位カテゴリーに縮小させ、話題の対象がその下位カテゴリーの成員と異なることから、その下位カテゴリーの外側（元のXの周辺部）に位置づけ、注目に値しないという判断をしている。

7.3 「Xっぽくない」

7.3.1 考察の対象と目的

「Xっぽくない」は、下の例(18)のように、話者が話題の対象をカテゴリーXの中心な成員ではなく、周辺的な成員として位置づける表現の一つである。

(18) 高身長な女子というだけで、クールな感じの女子と思われたり、子供っぽくないなど、とくに初対面の時には外見で判断する人がほとんどです。(https://pinky-media.jp/I0024488)

(18)の話者は、話題の対象である「高身長な女子」が「子供」カテゴリーの成員ではあるが、「子供」カテゴリーの中心例(背が低い子供)と異なることから、「子供」カテゴリーの周辺例として位置づけていると考えられる。このように、「Xっぽくない」は話題の対象がカテゴリーXの周辺例であることを明示する表現であると言える。本節では、「Xっぽくない」に見られるカテゴリー化の様相に注目して考察し、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴を明らかにする。

なお、本節の考察対象の形式は、話者によるカテゴリー化の様相が確認しやすい「名詞(カテゴリー名) + っぽくない」の形式とする。しかし、Xの部分には名詞だけでなく、(19)(20)のように形容詞の語幹や動詞の連用形などが来ることもある。

(19) Q: 女性は男を恋愛対象として選ぶ時、乗っている車も審査すると聞いたのですが本当ですか?(省略)

A: (前略) 後は車に異常にお金掛けて居る人より、運転が上手(荒っぽくない酔わない運転) 掃除をきちんとする、車内禁煙のほうが魅力的ですね。

(https://carview.yahoo.co.jp/near/catalog/toyota/auris/chiebukuro/detail/?qid=10160552940)

(20) 大きな目標を立てる必要は無く、やることに対しての段階的な目標を立ててみましょう。できれば、最低ここまでは行うという事を強く考えておきましょう。

そして、あとはその短期ゴールを達成していただくだけでいいのです、飽きっぽい人はこうした事を意識するだけで、周囲からも目標を達成できる飽きっぽくない人という風に見られるようになります。(http://wordpress.ideacompo.com/?p=9270)

本節では、(19)や(20)のように、「Xっぽくない」のXの部分に名詞以外のものが来る場合も広い意味でカテゴリーの周辺例を明示していると考えるが、考察の便宜上、ここでは(18)のように、Xが名詞(カテゴリー名)である例文を対象とし、考察を行

うことにする³²。

7.3.2 先行研究

7.3節の考察対象である「Xっぽくない」を対象とし、カテゴリー化の観点から考察している先行研究は管見の限り見当たらない。そのため、本節では、「Xっぽくない」の意味を成す主要成分である「(っ)ぽい」に関する先行研究の記述を概観し、次節の考察における課題を確認する。

『日本国語大辞典』

っぽ・い〔接尾〕（形容詞型活用）

- (1) 名詞に付いて、それを含む度合いが大きい、それによく似た性質である、の意を表わす。多くは、好ましくないことについていう。「水っぽい」「ほこりっぽい」「粉っぽい」「熱っぽい」「理屈っぽい」「愚痴っぽい」「色っぽい」「艶っぽい」「子供っぽい」「大人っぽい」など。
- (2) 色の名に付いて、その色を帯びているの意を表わす。「赤っぽい」「青っぽい」「黒っぽい」「白っぽい」「黄色っぽい」など。
- (3) 形容詞・形容動詞の語幹に付いて、その性質が表面に現われている、いかにもそういう感じであるの意を表わす。好ましくないことについていう。「荒っぽい」「哀れっぽい」「俗っぽい」「安っぽい」「きざっぽい」など。
- (4) 動詞の連用形に付いて、すぐに…する傾向が強い、の意を表わす。好ましくないことについていう。「飽きっぽい」「忘れっぽい」「おこりっぽい」「惚れっぽい」「うたぐりっぽい」など。

『大辞林 第三版』

ぽい（接尾）〔形容詞型活用〕

名詞、動詞の連用形などに付いて、そのような状態を帯びている意を表す。多く上の語との間に促音が入って、「っぽい」の形で用いる。…の傾向が強い。いかにも…という感じがする。「あきっーい」「赤っーい」「やすっーい」「ほこりっーい」「子供っーい」

³² ただし、下の例文のように、「Xっぽくない」のXが話題の対象を構成する一要素であり、「Xっぽくない」が話題の対象におけるXの物理的な含有量を表す場合は、話題の対象（この店のかき揚げ）がカテゴリーX（油）の成員であるかどうか判断することが困難であり、カテゴリー化の観点から考察することができないと考えられるため、本節の考察対象から省く。

（例）この店のかき揚げは最高です。油っぽくなくサクサクして最高に美味しいです。
（YAHOO!ブログ、BCCWJ）

『デジタル大辞泉』

っぽ・い [接尾] 《形容詞型活用》名詞や動詞の連用形などに付く。

- 1 …を多く含んでいるという意を表す。「粉一・い」
- 2 …の傾向が強いという意を表す。「俗一・い」「飽き一・い」「荒一・い」

まず、国語辞典の意味記述を見ると、『日本国語大辞典』では「(っ) ぽい」がどのようなものに接続するかによって意味を4つに分けて記述しており、『大辞林 第三版』では1つの意味を、『デジタル大辞泉』では2つの意味を記述しており、辞書によって様々な記述がなされていることがわかる。また、7.2節で考察した「大したXではない」とは違い、辞書に載っている「(っ) ぽい」の全ての例を否定形にして使うことができ、否定形の「Xっぽくない」に関して別に記述されていないことから、「Xっぽくない」は「(っ) ぽい」の単なる否定形式で、その意味も「(っ) ぽい」の意味を否定したものと見ていいと考えられる。ただし、小原(2010)、岩崎(2011)などの多くの先行研究で指摘されているように、「(っ) ぽい」が名詞・形容詞語幹・動詞連用形以外に接続している新奇な用法((21)(22))においては、否定形にして使うことができないことから、「(っ) ぽい」と「Xっぽくない」の統語的振る舞いに違いがあるのも確かである。本節では、考察対象を「名詞+っぽくない」に限定し、先行研究においてもできるだけ否定形「っぽくない」の形式で使える用法・意味記述を中心にし、次節の考察における課題を確認することとする。

- (21) a. リンキンパークに至っては最初からムリがあるっぽい(*っぽくない)です…。自分で特定のパートだけ抜き取る(小原 2010: 65の例13)
- b. *リンキンパークに至っては最初からムリがあるっぽくないです…。
- (22) a. 最近中二になって彼女ができたっぽいのにまだまだあどけない。(岩崎 2011: 83の例1)
- b. *最近彼女ができたっぽくない。

「(っ) ぽい」に関して考察している数多い先行研究の中で、本節の考察と関連のあるものを取り上げる。山下(1995)では、「一ぽい」「一らしい」「一くさい」の意味・用法を分析し、比較している。その結果、「一らしい」「一くさい」に比べ、「一ぽい」は、対象の状況について、結合する名詞が属性として持っている特徴や性格が外に表出された状態であると捉え、それが自己の基準に照らして、名詞への傾斜・偏向と捉えた感覚に基づく表現であると記述している。本稿の考察のように、カテゴリーとの関連が見られる部分は、ヒト名詞と結合した場合の記述である。山下(1

995)では、ヒト名詞に「ぼい」が結合した「男っぼい」「女っぼい」「大人っぼい」「子供っぼい」などについて、それ自体は評価性を持たないが、属性の評価性は主体と属性の適不適で決定されると述べている。例えば、例「彼女は女っぼいので男性にもてる。」と「彼は女っぼいので女性に嫌われている。」において、前者の「女っぼい」は(+)で、後者は(-)の評価性を持つが、それは話題の対象がその属性を持つことが適切であるかどうかによるものである。さらに、本来男性に対して使われる「女っぼい」が女性にも使われるようになり、現在ではその使い分けがほとんどなくなっているとも述べられている。これは「ぼい」の意味・用法の変化について考察した小島(2003)でも言及されており、「らしい」はXの属性が典型的に現れた様子であることを表すのに対し、「ぼい」はあくまでもXに通じるような部分があることを表すと述べ、そのため「ぼい」は実際そのカテゴリーの成員であるものにも成員でないものも使えるとしている。また、竹島(2010)では、書きことばにおける「名詞+ぼい」を対象に考察しているが、先行研究を踏まえ、「YはXっぼい」の基本的な意味「YがXの傾向・状態などを帯びている」をさらに詳細に整理している。それによると、「名詞+ぼい」の用法には①「Y=X」ではなく、Xが具象名詞の場合は「物理的含有量が多い」ことを意味する(あぶらっぼい)、②「Y=X」ではない或いはXがYの一要素であり、Xが半具象的な名詞、または抽象名詞の場合は「属性・特徴などの含有量が多い」ことを意味する(素人っぼい)、③「Y=X」が成立するかどうか不明、あるいは不確かな場合は「それと判断される可能性が高い」ことを意味する(悪性っぼい診断)があるとし、これらを「名詞+ぼい」の基本的な3用法として、新たに④本来あるべき性質・形状を発揮する((パンダの赤ちゃんに対して)パンダっぼい)という用法を認め、この用法では「Y=X」が成立するとしている。「ぼい」の意味が①から②、③を経て新たにこの④の用法に拡張したため、「彼女は女っぼい」という表現が一般化しつつあるのもであると指摘し、この用法で用いられるときは、「ぼい」がどちらかというプラスイメージを帯びることが多いと述べている。次節の考察では、「Xっぼくない」におけるカテゴリー化の様相に焦点を合わせて考察を行うため、これらの指摘を踏まえ、「話題の対象はXっぼくない」において、話題の対象がXの成員であるかどうか注目し、それによる評価性への影響について考えながら、「Xっぼくない」のカテゴリー化の様相を見ていきたいと考える。

久保(2009)では、現代語における接尾辞「ぼい」の用法について考察しており、「上接語の典型的な特徴が色濃く表れている(あぶらっぼい、子供っぼい、汗っぼい、青っぼい、塩っぼいなど)」「いかにも～である(学生っぼい、荒っぼい、色っぼい、女っぼい、戦争っぼいなど)」「～やすい傾向にある(浮気っぼい、怒りっぼい、忘れっぼいなど)」「上接語の典型的な特徴がどことなく感じられる(いたずらっぼい、風邪っぼい、海っぼい、夏っぼいなど)」の4つの用法を認めており、上接語の「典

型的な特徴」が注目されている。しかし、次の(23)と(24)を見ると、同じ「子供っぽくない(子供っぽい)」と言っても、話者が「子供」のどのような属性に注目しているのかにより、話題の対象と比較されている「子供」カテゴリーの中心例が異なることがわかる。(23)では話題の対象「高身長な女子」と比較されている「子供」カテゴリーの中心例が「大人より背が低い子供(典型例)」であり、(24)では話題の対象「子供たち」と比較されるのは「行儀がよくない子供(ステレオタイプ)」であると考えられる。したがって、次節の考察では、話題の対象と比較されるカテゴリーXの中心例(の属性)にも注目して考察を行いたいと考える。

(23) 高身長な女子というだけで、クールな感じの女子と思われたり、**子供っぽくない**など、とくに初対面の時には外見で判断する人がほとんどです。(例(18)を再掲)

(24) それと子供たちがずいぶんとお行儀が良くて**子供っぽくない**ところが気になりましたね(汗) 見学している人がいるので緊張しているのかも知れませんが子供はもう少し子供らしく元気にしてほしいとおもいましたね (<http://www.n-wood.co.jp/blog/index.php/archives/date/2011/11/02>)

ケキゼ(2003)では、「YはXっぽい」のように用いられる「っぽい」の7つの用法を認めている。まず、安定した用法は①「Yは、知覚的属性[X]を話者の暗黙の基準値よりも多く含む。ただし、その値は最大値には至らない(黒っぽい)」、②「Yは、内的属性[X]を感じさせるような知覚的属性を話者の暗黙の基準値よりも多く含む(安っぽい)」、③「Yは、[X]の典型例が持つ性質・属性を話者の暗黙の基準値よりも多く含む(男っぽい)」、④「Yは、好ましくないモノ[X]を話者の暗黙の基準値よりも多く含む(埃っぽい)」、⑤「Yは、話者の暗黙の基準値よりも「[X]をすることが多い」という好ましくない性質を持つ(怒りっぽい)」がある。次に新奇な用法は⑥「Yのカテゴリー認定(問題の対象の正体がわからない状況の中で用いられ、Yは[X]である可能性が高い、Yが[X](という属性を持つものの)カテゴリーに帰属する可能性があることを表す)(はっきり見えないものについて)それ、橋っぽくない?」、⑦「あいまい化(Kekidze 2003では「やわらげ」、断定を避ける表現のあり方)(ちょっと不安っぽい感じ)」があるとしている。本研究ではカテゴリー化に注目して考察するため、本研究と直接的に関わる用法は⑥Yのカテゴリー認定のように思われる。しかし、話題の対象の正体がわからない状況では、それがどのようなカテゴリーに属するかが重要な問題となるため、用法⑥においてカテゴリー認定の意味が浮き彫りになるということは確かであるが、話題の対象の正体が明確である状況でも、「Xっぽい/Xっぽくない」において広い意味でのカテゴリー化は常に起こると考える。例え

ば、ケキゼ(2003: 97)の例12「(はっきり見えないものについて) それ、橋っぼくない?」(用法⑥の例)の場合、明らかに話題の対象の正体がわからず、話者はそれが「橋」にカテゴリー化する可能性が高いことを表している。しかし、本研究では、カテゴリー化の様相にのみ注目し、用法①の「洋服が黒っぼい」(ケキゼ 2003: 85の例3)も「問題になっている洋服の色」が「黒」カテゴリーの成員としてカテゴリー化されていると考え、用法③の「彼女は実に女っぼい」(ケキゼ 2003: 90の例8)も「彼女」を「女」カテゴリーの中心的な成員としてカテゴリー化していると考え、このような観点から考察を行う。また、用法③の例として取り上げている「男っぼい」「田舎っぼい」などの場合、次の(25)(26)のように、基準となるのはXの典型例だけでなく、ステレオタイプもあると考えられ、話題の対象と比較される(カテゴリー化の判断の基準となる)Xの成員についてはより詳しい考察が必要だと思われる。

(25) **男っぼい**女は、パンツスタイルを好みます。女性らしいスカートは冠婚葬祭など「どうしても」という場面以外では履きません。(省略)

街を歩く女性のファッションを見ると、原色を取り入れていたり、柄を取り入れたりする人も多いですね。しかし、**男っぼい**女の人、派手すぎる色や柄を使わないモノトーンやシンプルなコーディネートを好む方が多いのです。シンプルさやモノトーンな服装が多いことから、より**男性っぼく**見られることが多くあるのです。(https://smartlog.jp/143415)

(26)Q: **都会っぼい**か**田舎っぼい**かとか、人のどこを見て判断しますか?

A: 服装と話し方

田舎の人は地味でオシャレじゃない服着てて、タメ口。狭い世界の話が多い
都会の人はかっちりしたオシャレで敬語なイメージです。(https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q11159416826?__yosp=55Sw6Ii044Gj44G944GE)

最後に、尾谷(2000)は、認知言語学の視点から接尾辞「ぼい」の意味と拡張用法の動機づけを明らかにしており、カテゴリー化の観点から考察を行っているため、最も本研究との関連性が多く見られる。尾谷(2000)では、「ぼい」の意味は最も典型的な①「物理的な含有量(水っぼいジュース)」からメタファーにより②「属性の含有量(子供っぼい太郎)」へ、さらに③「判断可能性の含有量(終わってるっぼい)」へ拡張すると述べ、カテゴリー化の観点から、③の場合、問題の対象TがXカテゴリーの成員である可能性が高いが、実際どのカテゴリーに属しているかは不明であり、推量用法と解釈されやすいと述べている。例えば、「Tは終わってるっぼい」と言えば、話者がそう推量したというだけで、本当に終わっているかどうかはわからないのであ

る。また、プロトタイプがカテゴリー化の際に認知的手掛かりとして、つまり参照点として機能することから、Xのプロトタイプ事例である参照点によって想起される潜在的なターゲットの集合はプロトタイプ事例によって想起されるカテゴリー成員であり、ターゲットはXカテゴリーの成員であると言う。さらに、「らしい」と比較すると、「ぽい」はTがXカテゴリーの成員でないことを含意すると述べ、「子供っぽい子供」は問題の子供よりさらに幼い子供のプロトタイプ事例を参照点として使用する場合以外は用いられないとしている。しかし、ケキゼ(2003)では、尾谷(2000)の指摘とは違い、「Xっぽい」は基本的な用法においてはXカテゴリーの成員でないものについて用いられるが、話題の対象がXの成員であっても用いることができると指摘している。例えば、「彼はどことなく女っぽい」と「彼女は実に女っぽい」のように、「女っぽい」という表現は男女両方に用いられ、その背景に、人間が多かれ少なかれ、女性性と男性性の両方の要素を持つという考え方があると言う。「男」の中の「女っぽさ」と女の中の「女っぽさ」の違いは、基準値(平均値)を引き出すもととなるスケールの違いであると述べている。本稿でもこのようなケキゼ(2003)の主張に同意し、「Xっぽくない」の話題の対象はXの成員である場合とそうでない場合、どちらとも判断できない場合があると見なし、考察を進める。

以上の先行研究の内容から次節の考察に関わる部分と考察の課題をまとめる³³。

・ 国語辞典

→①「Xっぽくない」は「(っ)ぽい」の単なる否定形式で、その意味も「(っ)ぽい」の意味を否定したものと見なす。

- ・ 小原(2010)、岩崎(2011)：「(っ)ぽい」が名詞・形容詞語幹・動詞連用形以外に接続している新奇な用法では「Xっぽくない」を用いられない。

→②考察対象を「名詞+っぽくない」に限定する。

- ・ 山下(1995)：ヒト名詞に「ぽい」が結合した「男っぽい」「女っぽい」「大人っぽい」「子供っぽい」などについて、それ自体は評価性を持たないが、属性の評価性は主体と属性の適不適で決定される。本来男性に対して使われる「女っぽい」が女性にも使われるようになり、現在ではその使い分けがほとんどなくなっている。

小島(2003)：「ぽい」は実際そのカテゴリーの成員であるものにも成員でないものも使える。

竹島(2010)：「名詞+ぽい」が用いられるのは、「Y=X」ではない場合、「Y=X」

³³ 網掛けの部分は次節の考察に関わる部分と考察の課題を表す。

ではない或いはXがYの一要素である場合、「Y=X」が成立するかどうか不明であるあるいは不確かな場合、「Y=X」である場合（新奇な用法）がある。

→③次節の考察では、「Xっぽい」におけるカテゴリー化の様相に焦点を合わせて考察を行う（話題の対象がXの成員であるかどうか注目し、それによる評価性への影響について考える）。

- ・久保(2009)：「っぽい」の「上接語の典型的な特徴が色濃く表れている」「いかにも～である」「～やすい傾向にある」「上接語の典型的な特徴がどことなく感じられる」の4つの用法を認めている。

→④「っぽい」が上接語の典型的な特徴が色濃く表れていること、またはその特徴がどことなく感じられることを表すという記述はもう少し詳細に考察し、記述する必要があると考えられ、次節の考察では、話題の対象と比較されるカテゴリーXの中心例（の属性）にも注目して考察を行う。

- ・ケキゼ(2003)：「っぽい」の7つの用の一つのカテゴリー認定用法（問題の対象の正体がわからない状況の中で用いられ、YはXである可能性が高い、YがX（という属性を持つものの）カテゴリーに帰属する可能性があることを表す）

→⑤話題の対象の正体が明確である状況でも、「Xっぽい/Xっぽくない」において広い意味でのカテゴリー化は常に起こると考え、考察を行う。

また、用法3（Yは、Xの典型例が持つ性質・属性を話者の暗黙の基準値より多く含む）の例として取り上げている「男っぽい」「田舎っぽい」などの場合、基準となるのはXの典型例だけでなく、ステレオタイプなどもあると考えられる。

→④話題の対象と比較される（カテゴリー化の判断の基準となる）Xの成員についてはより詳しい考察が必要である。

- ・尾谷(2000)：「っぽい」の意味3判断可能性の含有量の場合、カテゴリー化の観点から、問題の対象TがXカテゴリーの成員である可能性が高いが、実際どのカテゴリーに属しているかは不明であり、推量用法と解釈されやすい。カテゴリー化においては、プロトタイプが認知的手掛かりとして、つまり参照点として機能する。「っぽい」はTがXカテゴリーの成員でないことを含意する。→ケキゼ(2003)：「Xっぽい」は基本的な用法においてはXカテゴリーの成員でないものについて用いられるが、話題の対象がXの成員であっても用いることができる。

→⑥本稿でもケキゼ(2003)と同じく、「Xっぽくない」の話題の対象はXの成員で

ある場合とそうでない場合、どちらとも判断できない場合があると見なす。

7.3.3 「Xっぽくない」に見られるカテゴリー化の様相

7.3.3.1 話題の対象がXの成員である場合

山下(1995)、尾谷(2000)、ケキゼ(2003)、竹島(2010)などの先行研究によると、「Xっぽい」は基本的に話題の対象がカテゴリーXの成員ではない場合に用いられる。しかし、「Xっぽくない」は「Xっぽい」の否定形式であることから、「Xの成員ではない話題の対象がXの中心例と類似している」という意味を持つ「Xっぽい」の否定、すなわち、「Xの成員である話題の対象がXの中心例と類似していない」という意味を表すことが予測される。また、話題の対象が元々Xの成員でありながら、Xの中心例と異なることから、(一) 評価性を持ちやすくなることも予測されるため、まずは「Xっぽくない」の話題の対象がカテゴリーXの成員であり、かつ「Xっぽくない」が(一) 評価性を持つ場合から分析してみることにする。

(27) 高身長な女子というだけで、クールな感じの女子と思われたり、**子供**っぽくないなど、とくに初対面の時には外見で判断する人がほとんどです。(例(18)、(23)を再掲)

(28) それと子供たちがずいぶんとお行儀が良くて**子供**っぽくないところが気になりましたね(汗) 見学している人がいるので緊張しているのかも知れませんが子供はもう少し子供らしく元気にいてほしいとおもいましたね(例(25)を再掲)

(27)では、話者が話題の対象である「高身長な女子」が元々「子供」カテゴリーの成員であるにもかかわらず、「子供」カテゴリーの典型例(大人より背が低い子供)とは違い、背が高いということで「子供」カテゴリーの周辺例として位置づけている。(28)では、話題の対象「ずいぶんとお行儀がいい子供たち」は当然「子供」カテゴリーの成員であるが、「子供」カテゴリーのステレオタイプ(行儀を気にしない・気にすることができない子供)と異なることから、「子供」カテゴリーの周辺例として位置づけられていると考えられる。(27)と(28)では、元々「子供」カテゴリーの成員である話題の対象が、話者が考える「子供」カテゴリーの中心例(典型例・ステレオタイプ)と異なることから、「子供なのに子供らしくない=普通ではない=好ましくない」と判断され、(一) 評価性を帯びるようになったと思われる。

(29) だからケガをさせないように、コラーゲンやグルコサミンを勧めた。骨や腱に必要な栄養ですね。ただ、これを食事から摂ろうと思うと大変なんですよ。スー

プとか鍋でどうかとは思っているんですが、絶対量が足りない。で、サプリメントを使った。**薬**っぽくないドリンクタイプを選んで。これで急激な負荷がかかったときに起きる腱の痛みは、かなり軽減されますね（『T a r z a n 2004年9月8日号（No. 426、第19巻第16号）』BCCWJ）

(30) うちの主人は、予定をちゃんと決める人なんで、時間にも5分前にはいつも着いてるし、**アメリカ人**っぽくないなと思いました。むしろ、私のほうが時間に遅れる... 汗 (<http://marriage-life-in-az.blog.jp/archives/1945835.html>)

(29)の話者は話題の対象「ドリンクタイプのサプリメント」が食事だけでは十分に摂れない栄養を補ってくれるため、「薬」カテゴリーの成員ではあるが、ドリンクタイプということから「薬」の典型例とは異なると判断し、「薬」の周辺例であると考えている。(30)では、話者の夫がアメリカ人であるが、予定をちゃんと決め、時間をきちんと守るということから、「アメリカ人」のステレオタイプ（時間にルーズなアメリカ人）と異なることで、「アメリカ人」の周辺例として位置づけている。これらの例でも、元々Xの成員である話題の対象が話者が考えるXの中心例と異なることから、Xの周辺例として位置づけられる。しかし、(27)(28)とは違い、「Xっぽくない」で（+）評価性を表している。この場合、話者が考えるXの中心例が（-）評価性を持っており、それと異なる話題の対象が（+）の評価性を帯びるようになったと考えられる。

(31) 本当は電卓の中にもCPUがあつて、それを動かすためのプログラムが内部のROM（読み出し専用メモリー）に書き込まれているので、電卓もやはり「コンピュータ」なのです。つまり電卓で「×」というキーを使うと中ではそれを加減算に変換したプログラムが動いている、ということですが、外部から電卓をブラックボックスとして見たときに**コンピュータ**っぽくない、ということで最初にああいう例で話をしてみたんです。（山田勲『デジタルエレクトロニクスの秘法』BCCWJ）

(32) 前にも書いたけどサビーヌが**猫**っぽくない。しみことトモエが丸顔でちょっとポッチャリだからそれに見慣れてしまっていて私の猫イメージが狭いだけなんです。（<https://ameblo.jp/simmico/entry-12268101694.html>）

(31)では、話題の対象「電卓」がCPUを持ち、プログラムが内部のROMに書き込まれているため元々「コンピュータ」カテゴリーの成員であるが、外部からはそれがわからないことから、「コンピュータ」の典型例（内部に複雑な構造・プログラムを持つことが認識しやすいコンピュータ）とは異なるためその周辺例としてカテゴリー化さ

れている。(32)では話者の猫「サビーヌ」がおそらく以前から飼っている猫「しみこ」や「トモエ」と違い、丸顔でもなく、ポッチャリした体型ではないということから、すなわち、「猫」のステレオタイプ（丸顔でちょっとポッチャリした猫）とは違うということから、「サビーヌ」を「猫」の周辺例として位置づけていると考えられる。(31)と(32)では、(27)～(30)とは違って、話者がカテゴリXの中心例に対して何の評価性も持っていないため、「Xっぽくない」自体も評価性を持たないと思われる。

以上の分析から、「Xっぽくない」の話題の対象が元々Xの成員である場合、話者は話題の対象とXの典型例とステレオタイプを比較し、両者が異なることから話題の対象をXの周辺例として位置づけるということがわかった。これは、話者が話題の対象に対して「Xっぽい、Xっぽくない」を判断する際に、自分が元々持っているXの成員に対する知識が基準として働くためであると考えられる。その知識とは、普段Xの成員として数多く見られ、想起しやすい成員に関する知識、または話者がXの成員全般に対して十分な根拠なしに持っている、Xの一部の成員にのみ当てはまる知識であるため、判断の基準となるのはXの典型例とステレオタイプであると思われる。また、「Xっぽくない」が帯びる評価性は（－）、（＋）、（－）でも（＋）でもない場合があり、それは話者がXの中心例に対して持っている評価性によって決まると言える。以上の分析を図に表すと図5となる。

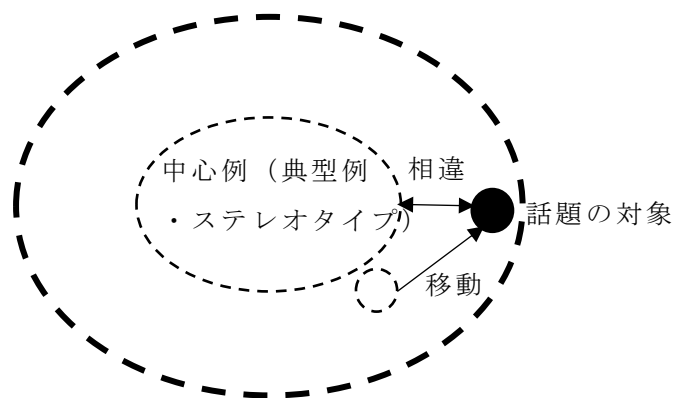


図5 「Xっぽくない」の話題の対象がXの成員である場合

7.3.3.2 話題の対象がXの成員ではない場合

次は、「Xっぽくない」の話題の対象が元々カテゴリXの成員ではない場合を見る。

(33)石黒達昌『平成3年5月2日、後天性免疫不全症候群にて急逝された明寺伸彦博士、並びに、』

架空の論文の体裁をとって横書きで書かれた小説。というふれこみだったが思っ

たほど論文**っぼくない**。面白いけど。(http://www.noiznoiznoiz.com/mt/archives/2010/06/index.html)

(34) そんな大学生に戻りたいあなたに、大学生気分に戻る3つの方法をお教えしよう!!!

1、大学生時代のサークルの友達と遊ぶ

やっぱりね、サークルの友達は違いますよ。もうウェイウェイしちゃうしね、昔話に花咲かせたりね、女の子もいたりしちゃって。飲んで騒いでもう学生に戻りたいね! (金曜日もしくは土曜日限定) そこがね、**学生**っぼくないよね・・・学生の時は平日も次の日を気にせず飲みまくったもんだ・・・懐かしい。

(http://yoyodanshi.hatenablog.jp/entry/2016/09/27/025758)

(33)の話者は、話題の対象が元々小説であるため「論文」カテゴリーの成員ではないが、架空の論文の体裁をとって書かれたため、「論文」カテゴリーの典型例(典型的な論文)と比較し、それと異なることから「論文」カテゴリーの周辺例として位置づけられていると考えられる。(34)では、社会人である話者が、大学生に戻りたくてサークルの友達に会っても、金曜日もしくは土曜日限定で飲んで騒ぐことができることから、「学生」カテゴリーの中心例と異なると判断し、「学生」の周辺例としてカテゴリー化していると思われる。ここで、「学生」カテゴリーの中心例は、「学生のときは平日も次の日を気にせず飲みまくったもんだ」という表現から、「平日と週末を区別せずに飲んで遊ぶ学生」であると思われ、そのような学生は「学生」カテゴリーの一部であるため、ステレオタイプに当たると考えられる。(33)と(34)の話者は「思ったほど」「面白いけど」「懐かしい」などの表現を使ったことから、話題の対象がカテゴリーXの周辺例であることに対して(－)評価をしていると思われる。(34)では、話者が大学生に戻りたいと考えているため、「学生」のステレオタイプは明らかに(＋)評価性を持っているが、(33)の場合は話者が「論文」カテゴリーの典型例に対して明らかな(＋)評価をしているわけではない。しかし、(33)の話題の対象が話者の期待より「論文」らしくなかったため、それに対して(－)に近い評価が読み取られる。

(35)「(省略) パパの話はすごーく面白いよ。私の知らないことばかり話してくれるの。ママとは全然違う。ちょっとエッチだけど…でもスケベ**っぼくない**から許してるの。いまはパパとは良好な関係よ」と淳子ちゃんは早口でしゃべり終わると少しの間沈黙した。(永倉萬治『人の気も知らないで』BCCWJ)

(36) 彼女が朝、知り合いの人と会ってて、心理テストをされたらしく“私、中身は男なんだって!・・・男の中の男、って言われた。”と。彼女、見た目全然**男**っぼく

なくて、可愛いんですよ。(http://naosora.ashita-sanuki.jp/e906603.html)

(35)では、話者が話題の対象である「パパ」が、ちょっとエッチな話をするため、「スケベ」カテゴリーの成員と類似するところはあるが、「スケベ」の典型例(度を過ぎて性的な言動をすることで相手を不快にするスケベ)とは異なることから、「スケベ」の周辺例としてカテゴリー化していると思われる。話者が「パパ」に愛情を持っていると思われることから、話者は「パパ」を元々「スケベ」カテゴリーの成員であると考えてはいないと判断される。(36)の話者は、話題の対象「彼女」が「中身は男」と言われたことから、「彼女」を「男」カテゴリーの成員だと想定し、「男」カテゴリーのステレオタイプ(見た目がかわいくない男)と比較したが、それと異なることから、「男」カテゴリーの周辺例としてカテゴリー化していると考えられる。(35)と(36)では、話者が考える「スケベ」と「男」カテゴリーの中心例が(－)評価性を持つため、それと異なる話題の対象は(＋)評価性を持つことになる。

(37)林 それで自分なりのお通をつくらうと思われたんですね。

米倉 自分なりというか、原作読んでると私**っ**ぽくないなと思ったし。撮影が始まる前から、「原作はあっても原作はない」みたいに聞いてましたね。私が選ばれたってことは私なりでいいんじゃないかと思っていました。根性があるような女性であればいいのかなと思って。(『週刊朝日 2003年8月15-22日合併号(第108巻第38号、通巻4577号)』BCCWJ)

(38)林先生って、鬼コーチと呼ばれてるけど、思ったより厳しくないし、あまり**鬼**っ**ぽくない**ね。(作例)

(37)の話者は、話題の対象である「原作のお通(の様々な面)」が「私(の様々な面)」カテゴリーの典型例(普段の自分(の様々な面))と異なることから、その「私(の様々な面)」カテゴリーの周辺例として位置づけていると考えられる。(38)では、話者が「林先生」に対し、鬼コーチと呼ばれているが、思ったより厳しくなく、「鬼」カテゴリーのステレオタイプ(言動が厳しくて怖い鬼)と異なることから、「鬼」カテゴリーの周辺例として位置づけている。(37)と(38)の話題の対象「原作のお通」と「林先生」は、元々「私(米倉)」「鬼」カテゴリーの成員ではない。また、話題の対象と比較されている「私(の様々な面)」と「鬼」の中心例が明らかな評価性を持たない³⁴ことから、それと比較される話題の対象も特に評価性を持たないと思

³⁴ 「鬼」カテゴリーのステレオタイプの持つ「言動が厳しくて怖い」という属性は場合によっては(－)評価性を持つこともあるが、(38)においては話者がそれに対して明らかな評価を下していないため、評価性を持たないと判断される。

われる。

以上の分析から、「Xっぽくない」の話題の対象が元々カテゴリーXの成員ではない場合、Xの成員ではないにもかかわらず、話題の対象がXの成員と類似しているある属性を持っているため、話者は話題の対象をXの中心例（典型例・ステレオタイプ）と比較し、両者が異なることからそれをXの周辺例として位置づけると言える。話題の対象はXの成員ではなく、Xと対立する別のカテゴリーYの成員（例えば、(34)では「社会人」、(36)では「女」など）である場合もあり、Yが明示されていない、または予想できない場合もあると思われる。ただし、話題の対象は元々Xの成員ではなかったため、Xの外から話者によってXの内部の境界に近いところに移動されると考えられる。また、話題の対象の評価性は、話題の対象がXの成員である場合と同じく、比較されるXの中心例の持つ評価性によって決まることが多く、Xの中心例が評価性を持つ場合はそれと反対の評価性を帯びることになるが、文脈の影響を受けることもあると考えられる。この分析結果を図に表すと図6となる。

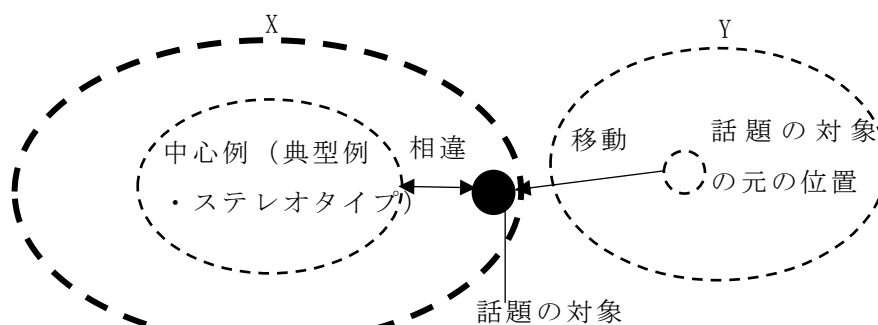


図6 「Xっぽくない」の話題の対象がXの成員ではない場合

7.3.3.3 話題の対象がXの成員であるかどうか明確でない場合

最後に、「Xっぽくない」の話題の対象がカテゴリーXの成員であるかどうか明確でない場合のカテゴリー化の様相を見る。

(39) （夜にビール500mlとから揚げ、サラダ、ごはん、野菜炒め、冷やし中華、そば大盛り、カレーライス、麻婆豆腐などを食べるという食事記録を見て）事前に食事記録をもらって気になっていたのは、夜のメニューだった。ビール500mlということは、たぶん、自宅で食べているのだろうが、メニューがどうも**手作りっぽくない**。時間が遅いからコンビニで買って帰っているのだろうかと思ったら、「奥さんが買ったお惣菜です。サラダもカット野菜みたいです」という回答に、彼こそ、自分で自分の健康を守るしかない、と思わざるをえなかった。 (<https://diamond.jp/articles/amp/39700?page=3&skin=amp>)

(40) (高校の校内で)ねえ、あの人、さっき職員室から出てきたけど、見たことないよね。ひげ生えてるし、服ボロボロだし、なんか先生っぽくないけど…怪しいなあ。(作例)

(39)の話者は、ある男性の食事記録を見て、「夜の食事のメニュー」が「手作り」なのかどうか判断している。男性が食べたメニューがコンビニなどで簡単に買えるものであるため、話者はそのメニューを「手作り」カテゴリーの典型例と異なると判断し、「手作り」の周辺例として位置づけていると考えられる。また、そのメニューが予想通り「手作り」ではないことを確認した話者が「彼こそ、自分で自分の健康を守るしかない」と考えていることから、話者は「手作りっぽくない」メニューに対し、望ましくないという(一)評価をしていると思われる。(40)では、「学校の職員室から出てきた人」を見て、「先生」カテゴリーの成員であるかどうか判断している。話者はその人の見た目から「先生」のステレオタイプ(清潔でスーツなどフォーマルな服装をしている先生)と異なると判断し、「先生」カテゴリーの周辺例としてカテゴリー化している。さらに、「怪しい」という言葉から、「先生っぽくない人」に対する(一)評価が読み取れる。

(41)二次会の服はあまりドレスっぽくないほうがいいかもしれません。二次会だけの人は結構ラフだったりするし。ドレスアップはもちろん必要ですけどね。(Yahoo!知恵袋、BCCWJ)

(42)二十五歳女性です。喪服はどこのブランドがいいと思いますか?今いいなと思っているのはブランドフォーマルセレクションです。おばさんっぽくない喪服がいいです。(Yahoo!知恵袋、BCCWJ)

(41)の話者は、知人の結婚式の二次会でドレスを着たほうがいだろうかという質問に対し、「二次会の服」は「ドレス」カテゴリーの典型例(フォーマルなドレス)とは異なる、すなわち、「ドレス」カテゴリーの周辺例がいいと勧めている。ここで、話題の対象である「二次会の服」はまだ未定であるため、「ドレス」カテゴリーの成員であるかどうかはわからない。なお、(41)の話者が進めている服は、「ドレスアップはもちろん必要」ということから、「ドレス」カテゴリーから完全に外れたものではないが、典型例とも異なる服であると考えられる。(42)では、25歳の女性が、「喪服」を買う前にアドバイスを求めている。ここでも、話題の対象である「喪服」はまだ決まっていないため、実際「おばさん(に見える服)」の成員であるかどうかはわからない。(42)の話者は「おばさん(に見える服)」のステレオタイプ(ダブダブだったり、デザインが古かったりして老けて見える服またはそのような服を着たおばさ

ん) と異なる、「おばさん (に見える服)」カテゴリーの周辺例がいいと考えている。ここで、話者は「おばさん (に見える服)」カテゴリーから完全に外れた喪服を探している可能性もあるが、ただ単に喪服のブランドを勧めてほしいというだけではなく、あえて「おばさんっぽくない喪服がいい」と言っていることから、喪服を着るとおばさんに見える可能性があることを承知した上で、できるだけ「おばさん (に見える服)」カテゴリーの境界に近い周辺例を望んでいると考えられる。(41)と(42)では、話者が話題の対象と比較している X の中心例をよくないと考えており、それと異なる「X っぽくない」ものがあると思っていることから、(+) 評価性を持っていることがわかる。

(43) 今、キッズウォーの再放送にはまっています。これはCBCの制作みたいです。が、ロケやキャストが名古屋っぽくない気がします。撮影は東京のほうなのでしょ
うか? 主役の女の子 (あかね) は、名古屋在住の子でしょうか? ストーリーも
他のCBC制作のものより、しっかりしているというか面白いです。(Yahoo! 知
恵袋、BCCWJ)

(44) 横目でその姿を確認する。若い女だ・・・それも身なりがそれなりに綺麗だ。
俺のお化けイメージが崩れる。いや、お化けっぽくないってことは・・・
男「お化けじゃない！」
おっと、思わず声に出してしまった。だが、奴がお化けじゃない可能性は高い。い
つの間にか侵入した変態野郎の可能性もある。(http://onlivedoor.com/2018/0
7/02/post-5958/2/)

(43) では、話者がCBC制作のドラマを見て、その「ロケやキャスト」が「名古屋 (のロケやキャスト)」カテゴリーの成員であるかどうかを聞いている。話者はCBCが制作したことから、「名古屋 (のロケやキャスト)」の成員である可能性があるが、話題の対象がその典型例 (典型的な名古屋の場所や人) とは何らかの点で違うと判断し、「名古屋っぽくない」と判断していると考えられる。(44) の話者は近くに見える「若い女」の正体はわからないが、その身なりがきれいだということから、「お化け」カテゴリーのステレオタイプと違うと判断し、「お化け」の周辺例としてカテゴリー化している。(43) と(44) では、「名古屋」と「お化け」の中心例に対して話者が (+) (-) の評価をしているわけではないため、話題の対象にも評価性は感じられない。

以上の分析から、「X っぽくない」の話題の対象がカテゴリー X の成員であるかどうか分からない場合、話者は話題の対象が X の成員である可能性があることから、X の典型例・ステレオタイプと比較し、両者が異なることで X の周辺例としてカテゴリー化するとと言える。また、話題の対象が X の成員であるかどうか明確でない場合も、「X っ

「ぼくない」の評価性は（－）、（＋）、（－）でも（＋）でもない場合がある。これを図に示すと図7のようになる。

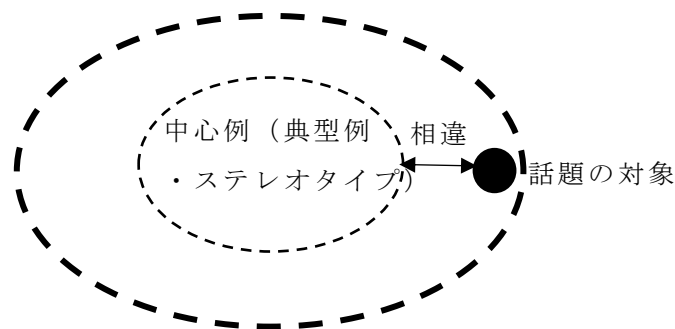


図7 「Xっぼくない」の話題の対象がXの成員であるかどうか明確でない場合

7.3.3.4 「Xっぼくない」に見られるカテゴリーXの縮小の様相

7.2節で考察した「大したXではない」と同じく、「Xっぼくない」においても、カテゴリーXの縮小が見られる。例えば、下の(44)の場合、「子供っぼくない」と言った話者は、話題の対象が「子供」カテゴリーの成員であることから「子供」カテゴリーを想起するが、話題の対象が高身長であることで、「子供」の典型例と異なると判断し、「子供」カテゴリーの周辺例として位置づけるが、さらに「子供」カテゴリーをその典型例から成る下位カテゴリーに縮小させ、その下位カテゴリーの外側に位置される話題の対象を実質「子供」カテゴリーから排除することになると考えられる。これを図に表すと図8となる。

(45) 高身長な女子というだけで、クールな感じの女子と思われたり、**子供っぼくない**など、とくに初対面の時には外見で判断する人がほとんどです。(例(18)、(23)、(27)を再掲)

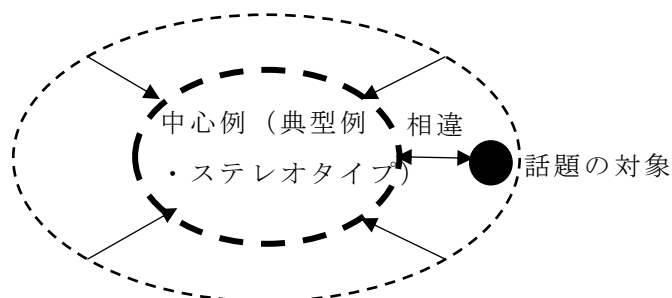


図8 「Xっぼくない」に見られるカテゴリーXの縮小

もちろん、「Xではない」と言うよりは「Xっぼくない」と言うほうが、話題の対象をカテゴリーXの成員（周辺例）として認めていると考えられるが、実質的に話者の頭の中ではXの縮小により、Xの成員は「典型例・ステレオタイプのみ」ということに

なり、話題の対象をXから排除することになると考えられる。これは話題の対象がXの成員であるかどうかにかかわらず、全ての「Xっぽくない」に当てはまると思われる。

以上の分析から、「Xっぽくない」の話者は、話題の対象がカテゴリーXの成員である、またはXの成員とある共通点を持つためXを想起するが、話題の対象がXの中心例（典型例・ステレオタイプ）と異なることからXの周辺例として位置づけ、さらにXをその中心例から成る下位カテゴリーに縮小させることで、その下位カテゴリーの外側に位置される話題の対象をXから排除すると考えられる。

7.3.4 まとめ

7.3節では「Xっぽくない」を対象にカテゴリー化の様相に注目して考察し、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴を明らかにした。特に、「(っ)ぽい」の先行研究を踏まえ、話題の対象がXの成員であるかどうかという点と「Xっぽくない」が持つ評価性に焦点を置いて分析を行った。その結果をまとめると次のようになる。

「Xっぽくない」：

- ①話題の対象がXの成員である場合：話者がXの成員である話題の対象をXの典型例とステレオタイプと比較し、両者が異なることから話題の対象をXの周辺例として位置づける。
- ②話題の対象がXの成員ではない場合：Xの成員ではない話題の対象がXの成員と何らかの点で共通点を持つため、話者が話題の対象をXの内部に移動させるが、話題の対象をXの典型例とステレオタイプと比較し、両者が異なることから、Xの周辺例として位置づける。
- ③話題の対象がXの成員であるかどうか明確でない場合：正体が明確ではない話題の対象がXの成員と何らかの点で共通点を持つため、話者が話題の対象をXの典型例とステレオタイプと比較し、両者が異なることから、Xの周辺例として位置づける。
- ④「Xっぽくない」の持つ評価性：（－）、（＋）、（－）でも（＋）でもない場合があり、それは話者が考えるXの中心例の持つ評価性によって決まる（Xの中心例の持つ評価性と反対の評価性を持つ）。
- ⑤カテゴリーの縮小：話者は、話題の対象がカテゴリーXの成員である、またはXの成員とある共通点を持つためXを想起するが、話題の対象がXの中心例（典型例・ステレオタイプ）と異なることからXの周辺例として位置づけ、さらにXをその中心例から成る下位カテゴリーに縮小させることで、その下位カテゴリーの外側に位置される話題の対象をXから排除する。

7.4 「大したXではない」と「Xっぽくない」の比較

7.4.1 考察の対象と目的

7.2節と7.3節での考察を通し、「大したXではない」と「Xっぽくない」は同じく「カテゴリーの周辺例を明示する表現」であり、話者が話題の対象をXの中心例と比較し、両者が異なることからXの周辺例として位置づける表現であることがわかった。さらに、両表現とも否定形式をとっており、話者によるカテゴリーXの縮小が見られる表現であることも共通点である。しかし、「大したXではない」と「Xっぽくない」はカテゴリー化の様相においては類似しているが、次の(46)(47)のように、ほとんどの場合、互いに置き換えができず、先行研究においてもこれらを類義表現として取り扱っているものは管見の限り見当たらない。これは両表現の意味の違いが大きいためであると考えられ、両表現を類義表現とは言い難い。

(46) 日本ハムの二刀流ルーキー・大谷翔平投手（18）が14日、右足首捻挫のため出場選手登録を外れ、千葉県鎌ケ谷市の2軍施設に戻った。13日のオリックス戦（ほっと神戸）でファウルゾーンへの打球を追いかけた際に負傷。一夜明けたこの日、神戸市内のホテルで取材に応じた際には報道陣に笑顔を見せるなど悲壮感はなく、「大したケガじゃない／*ケガっぽくないので、大事を取ってという感じ。長引くようなものじゃない」と軽症を強調した。（例(2)、(3)、(11)、(17)を再掲）

(47) 高身長な女子というだけで、クールな感じの女子と思われたり、子供っぽくない／*大した子供ではないなど、とくに初対面の時には外見で判断する人がほとんどです。（例(18)、(23)、(27)、(45)を再掲）

(48) 寿司って良く考えたら大した料理じゃない／料理っぽくないやろ（例(1)を再掲）

一方、(48)のように、置き換えても意味のずれがそれほど大きくない場合があることも事実である。本節では、このように「大したXではない」と「Xっぽくない」が互いに置き換えられる例文とそうでない例文を取り上げ、両表現の共通点と相違点を明らかにすることで、各々の特徴についてより深く考察する。

なお、考察の対象は7.2節及び7.3節と同じく、「大した+名詞（カテゴリー名）+ではない」と「名詞（カテゴリー名）+っぽくない」の形式とする。

7.4.2 先行研究

すでに述べたように、「大したXではない」と「Xっぽくない」を類義表現として取

り扱っている先行研究は管見の限り見当たらない。本節では、7.2.2節と7.3.2節で概観した「大したXではない」と「(っ)ぼい」に関する先行研究における記述を簡単に確認し、次節の考察における課題を設定する。

「大したXではない」：（辞書類における記述）特に言い立てるほどの。取り立てて言うほどの。それほどの。それほど重大なことではないという意味。

「(っ)ぼい」：

（辞書類における記述）それを含む度合いが大きい、それによく似た性質である（竹島(2010)における記述）一書きことばにおける「YはX(名詞)+ぼい」の用法
基本的な用法

- ①「Y=X」ではなく、Xが具象名詞の場合は「物理的含有量が多い」ことを意味する。
- ②「Y=X」ではない或いはXがYの一要素であり、Xが半具象的な名詞、または抽象名詞の場合は「属性・特徴などの含有量が多い」ことを意味する。
- ③「Y=X」が成立するかどうか不明、あるいは不確かな場合は「それと判断される可能性が高い」ことを意味する。

新たな用法

- ④「Y=X」が成立する場合は「本来あるべき性質・形状を発揮する」ことを意味する。

先行研究における意味記述をまとめると、「大したXではない」は「取り立てて言うほどのXではない」「それほど重大なXではない」という意味を表す。また、「(っ)ぼい」の辞書類における意味記述から「Xっぽくない」の意味を考えると、「Xを含む度合いが小さくない」「Xによく似た性質ではない」という意味を表すと考えられる。さらに、7.3節の考察と同じく、話題の対象とカテゴリーXの関係に注目し、「YはXっぼい」の意味を記述している竹島(2010)の意味記述から「Xっぽくない」の意味を考えると、①「Y=X」ではなく、Xが具象名詞の場合は「物理的含有量が少なくない」ことを意味し、②「Y=X」ではない或いはXがYの一要素であり、Xが半具象的な名詞、または抽象名詞お場合は「属性・特徴などの含有量が少なくない」ことを意味し、③「Y=X」が成立するかどうか不明・不確かな場合は「それと判断される可能性が高くない」ことを意味し、④「Y=X」が成立する場合は「本来あるべき性質・形状を発揮しない」ことを意味すると考えられる。これらの意味を実例に基づいて考えてみる。

- (49) 日本ハムの二刀流ルーキー・大谷翔平投手（18）が14日、右足首捻挫のため出場選手登録を外れ、千葉県鎌ケ谷市の2軍施設に戻った。13日のオリックス戦（ほっと神戸）でファウルゾーンへの打球を追いかけた際に負傷。一夜明けたこの日、神戸市内のホテルで取材に応じた際には報道陣に笑顔を見せるなど悲壮感はなく、「大したケガじゃないので、大事を取ってという感じ。長引くようなものじゃない」と軽症を強調した。（例(2)、(3)、(11)、(17)、(46)を再掲）
- (50) 予想外に多かったのが、公共の場所で足を開いて座る男性は小心者、というご高説。「自分の存在を過剰に誇示しないといられない、つまり自分に自信がない。でなければ、まったく空気の読めない人。いずれにせよ、迷惑な存在に変わりはない」（30歳・営業）「相手と話すときにやたらと腕組みするヤツは大した男じゃない」（36歳・介護）、「周囲に自分の成果を自慢する男は30過ぎても結婚できない」（23歳・販売）など、手厳しい分析は会社の中でも続く。（例(4)、(5)を再掲）

まず、(49)と(50)の「大したケガじゃない」と「大した男じゃない」を見ると、「取り立てて言うほどのケガ／男ではない」「それほど重大なケガではない」という意味記述で説明はできると考えられる。しかし、7.2節ですでに述べたように、(49)と(50)では、話題の対象をXのどのような成員と比較しているかという点において違いが見られ（(49)は「ケガ」の顕著例、(50)は「男」の理想例）、話題の対象とXの中心例が持つ評価性が反対である（(49)では話題の対象は（＋）、Xの中心例は（－）、(50)では話題の対象は（－）、Xの中心例は（＋））という違いもある。したがって、カテゴリー化の様相に注目して考察する場合は、これらを分けて考察する必要があると思われる。

- (51) 林 それで自分なりのお通をつくろうと思われたんですね。
米倉 自分なりというか、原作読んでると私**っぼくない**なと思ったし。撮影が始まる前から、「原作はあっても原作はない」みたいに聞いてましたしね。私が選ばれたってことは私なりでいいんじゃないかと思っていました。根性があるような女性であればいいのかなと思って。（例(37)を再掲）
- (52) 二次会の服はあまり**ドレス**っぼくないほうがいいかもしれません。二次会だけの人は結構ラフだったりするし。ドレスアップはもちろん必要ですけどね。（例(41)を再掲）
- (53) 高身長な女子というだけで、クールな感じの女子と思われたり、子供**っぼくない**など、とくに初対面の時には外見で判断する人がほとんどです。（例(18)、(2

3)、(27)、(45)、(47)を再掲)

次に、「Xっぽくない」について考えてみる。まず、(51)～(53)の「私っぽくない」「ドレスっぽくない」「子供っぽくない」を辞書類における意味記述に当てはめ、「私／ドレス／子供（の中心例が持つ属性）を含む度合いが大きくない」「私／ドレス／子供（の中心例）によく似た性質ではない」という意味を表すと考えると、説明できなくはない。しかし、記述の中に「（の中心例が持つ属性）」や「（の中心例）」という表現を入れないと意味記述として不自然になるため、「Xっぽくない」の意味を適切に記述しているとは言えないと考える。次に竹島(2010)の記述に当てはめると、(51)は「原作の中のお通＝私」ではないため、②「属性・特徴などの含有量が多くない」という意味となり、「原作の中のお通が私の属性・特徴などを多く持っていない」という意味を表すと考えられる。(52)は「二次会の服＝ドレス」が成立するかどうか不明・不確かであるため、③「それと判断される可能性が高くない」という意味となり、「二次会の服がドレスであると判断される可能性が高くない」という意味を表すと思われる。(53)は「高身長な女子＝子供」が成立するため、④「本来あるべき性質・形状を発揮しない」という意味となるが、「高身長な女子は子供の本来あるべき性質・形状を発揮しない」という意味を表すと言える。しかし、(51)～(53)においても「Xっぽくない」が持つ評価性がそれぞれ異なる（(51)は（－）でも（＋）でもなく、(52)は（＋）、(53)は（－））ため、「大したXではない」と比較する際はその点に注意する必要があると考えられる。また、「Xっぽくない」では、話題の対象がXの成員であるかどうかの意味に影響するため、それが意味記述に反映されているが、「大したXではない」の場合は意味記述には話題の対象とXの関係に関する記述が含まれていない。その理由は、「大したXではない」の話題の対象が常にXの成員であるためであると考えられるが、「大したXではない」と「Xっぽくない」の比較においては、この点も考慮すべきであると考えられる。

先行研究の意味記述がある程度妥当であることを確認した上で、両表現が置き換えられる条件とはどのようなものか考えてみる。それは評価性や話題の対象とXの関係などの条件が同じで、両表現の意味に共通する意味を持つ場合であると考えられ、そのような場合は、評価性が同じく（－）または（＋）で、話題の対象がXの成員でありながら、「大したXではない」と「Xっぽくない」が「本来あるべき重要な性質・形状を発揮しない」という意味を持つ場合であると考えられる。

以上を踏まえ、次節の考察では「大したXではない」と「Xっぽくない」の先行研究における意味記述を参考にしながら、「評価性」「話題の対象とXの関係」に注意し、両表現のカテゴリー化の様相における共通点と相違点について分析する。

7.4.3 分析

7.4.3.1 両表現の共通点：カテゴリー化の様相

7.2節と7.3節の考察で明らかになったように、「大したXではない」と「Xっぽくない」は話者が話題の対象をカテゴリーXの中心例と比較し、それと異なることからXの周辺例として位置づける表現である点で共通点が見られる。

(54)【中国】日本人はなぜこれほどチャーハンに夢中なのか？我々にとっては**大した料理**ではないのに…中国ネットユーザー

(省略)「中華料理といえば？」と日本人に聞けば、たいてい「チャーハン」という言葉が返ってくる。中国人にとってチャーハンは別に名物料理でもなんでもない。残り物の米飯を、翌日炒めて食べるものだと思っている。中華料理にはもっと素晴らしい料理がたくさんあるのに、なぜ日本人はチャーハンに夢中なのか。(例(6)を再掲)

(55)そこで、研究開発部の方にインタビューした後に、私の方でその場で料理をし、その料理と料理でないものをクックパッドの機械学習モデル(AI)が正確に認識できるかという「クックパッド機械学習モデル VS 料理好き弁護士」企画も提案してみたところ、これも快く応じて頂きました。(省略)

(1) ポテサラとちらし寿司

いずれもカラフルであまり料理っぽくないので。(https://storialaw.jp/blog/3422)

例えば、(54)「大した料理ではない」の話者は「チャーハン」を「料理」カテゴリーの中心例(名物料理など素晴らしい料理)と比較し、それと異なることから、「料理」カテゴリーの周辺例としてカテゴリー化している。同じく、(55)「料理っぽくない」の話者も、「ポテサラとちらし寿司」を自分が考える「料理」カテゴリーの中心例(カラフルではない料理)と比較して、それと異なることから「料理」カテゴリーの周辺例として位置づけている。さらに、両方とも話者がカテゴリーXをXの中心例から成る下位カテゴリーに縮小させ、Xの周辺例である話題の対象はその下位カテゴリーの外側に位置づけられることになるという点においても共通点が見られる。

「大したXではない」と「Xっぽくない」の間には、このようにカテゴリー化の様相における共通点があるため、両表現が典型的な類義表現ではないとしても、下の(56)、(57)のように互いに置き換えても意味のずれがそれほど大きくない例文も存在する。

(56) 寿司って良く考えたら大した料理じゃない／料理っぽくないやろ (例(1)、(4)

8)を再掲)

(57)「頭から水がピュー」事件、というのは、「金スマ」をご覧になっていなかった方のためにご説明申し上げますと、当時さまざまに奇抜な演出をしていたベストテンの演出家が、火に包まれた少女をマッチが救出する、というストーリーを考えまして、その際に頭に穴のあいたチューブを巻きつけ、そこから水を流すことによってマッチの額から汗が流れる、という演出を狙ったのですが、それが見事に失敗。「頭から水がピュー」というほどひどくはなかったんですが、まるで頭から水がわき出てくるようなマヌケな感じになってしまった。

これだけでは、ああ失敗失敗、って、ちっとも**事件**っぽくない／大した**事件**じゃないんですが。(http://hashimotoriu.cocolog-wbs.com/blog/2010/03/post-a678.html)

前節で立てた仮説では、両表現が置き換えられるのは、評価性が同じく(－)または(＋)で、話題の対象がXの成員でありながら、両方とも「本来あるべき重要な性質・形状を発揮しない」という意味を持つ場合であった。(56)と(57)を見ると、評価性は(56)の「大した料理じゃない」が(－)、(57)の「事件っぽくない」が(＋)に近いと思われ、(56)の話題の対象「寿司」も(57)の「頭から水がピュー事件」も一応「料理」と「事件」カテゴリーの成員ではあると考えられる。意味は、おそらく(56)では「寿司が手間がかかり、誰でも簡単に作ることができないという料理として本来あるべき重要な性質を持っていない」という意味であり、(57)では「頭から水がピュー事件が何らかの被害を伴ったり、犯人が犯罪を犯して起こるなど、事件として本来あるべき重要な性質を持っていない」という意味を表すと考えられ、仮説の条件を揃えていると考えられる。

カテゴリー化の様相について見ると、(56)の話者は「寿司」が「料理」カテゴリーの中心例(手間がかかり、誰でも簡単に作ることができない料理)と異なることから、「料理」カテゴリーの周辺例としてカテゴリー化している。(57)では、話者が「頭から水がピュー事件」に対して、「事件」カテゴリーの中心例(何らかの被害を伴ったり、犯人が犯罪を犯して起こったりする事件)と異なることから、「事件」の周辺例として位置づけていると考えられる。

以上のことから、「大したXではない」と「Xっぽくない」はカテゴリー化の様相において、話者が話題の対象をカテゴリーXの中心例と比較し、それと異なることからXの周辺例として位置づける表現であるという共通点を持ち、評価性が同じく(－)または(＋)で、話題の対象がXの成員でありながら、両方とも「本来あるべき重要な性質・形状を発揮しない」という意味を持つ場合、置き換えられると言える。

両表現の共通点：カテゴリー化の様相

話者が話題の対象をカテゴリーXの中心例と比較し、それと異なることからXの周辺例として位置づける。

7.4.3.2 両表現の相違点①：話題の対象がXの成員であるかどうか

すでに述べたように、「大したXではない」と「Xっぽくない」は共通点よりは相違点が多い。まず、これまでの考察でも述べたように、「大したXではない」はカテゴリーXの成員である話題の対象がXの中心例（顕著例・理想例）と類似しているかどうか問題となり、それと類似していないことから、Xの周辺例として位置づけられる表現である。そのため、話題の対象がXの成員であることが前提となるが、「Xっぽくない」は話題の対象がXの成員ではない場合も、Xの成員であるかどうか明確でない場合も用いることができる点で違いが見られる。

(58) 彼女が朝、知り合いの人と会ってて、心理テストをされたらしく“私、中身は男なんだって！…男の中の男、って言われた。”と。彼女、見た目全然男っぽくなくて／*大した男じゃなくて、可愛いんですよ。（<http://naosora.ashita-sanuki.jp/e906603.html>）

(59) （夜にビール500mlとから揚げ、サラダ、ごはん、野菜炒め、冷やし中華、そば大盛り、カレーライス、麻婆豆腐などを食べるという食事記録を見て）事前に食事記録をもらって気になっていたのは、夜のメニューだった。ビール500mlということは、たぶん、自宅で食べているのだろうが、メニューがどうも手作りっぽくない／*大した手作りではない。時間が遅いからコンビニで買って帰っているのだろうかと思ったら、「奥さんが買ったお惣菜です。サラダもカット野菜みたいです」という回答に、彼こそ、自分で自分の健康を守るしかない、と思わざるをえなかった。（<https://diamond.jp/articles/amp/39700?page=3&skin=amp>）

(58)では、話題の対象が「彼女」であり、「男」カテゴリーの成員ではない。(59)では、話題の対象である「夜の食事のメニュー」が、「手作り」カテゴリーの成員であるかどうか不確かであり、話者はおそらく「手作り」カテゴリーの成員ではないだろうと考えている。このような場合は「Xっぽくない」を「大したXではない」に置き換えることができないことから、「大したXではない」は話題の対象がXの成員ではない場合は用いられないが、「Xっぽくない」は話題の対象がXの成員であるかどうかに関係なく用いることができることがわかる。

両表現の相違点①：話題の対象がXの成員であるかどうか

「大したXではない」：話題の対象がXの成員である場合のみ用いられる。

「Xっぽくない」：話題の対象がXの成員であるかどうかに関係なく用いられる。

7.4.3.3 両表現の相違点②：カテゴリーXの中心例の種類

「大したXではない」と「Xっぽくない」の2つ目の相違点として、カテゴリーXの中心例の種類が異なることが挙げられる。7.2節で分かったように、「大したXではない」では、話題の対象とXの顕著例または理想例を比較する。一方、「Xっぽくない」の話者は、話題の対象とXの典型例またはステレオタイプを比較する。

(60) 日本ハムの二刀流ルーキー・大谷翔平投手（18）が14日、右足首捻挫のため出場選手登録を外れ、千葉県鎌ケ谷市の2軍施設に戻った。13日のオリックス戦（ほっと神戸）でファウルゾーンへの打球を追いかけた際に負傷。一夜明けたこの日、神戸市内のホテルで取材に応じた際には報道陣に笑顔を見せるなど悲壮感はなく、「大したケガじゃない／＊ケガっぽくないので、大事を取ってという感じ。長引くようなものじゃない」と軽症を強調した。（例(2)、(3)、(11)、(17)、(46)、(49)を再掲）

(61) 予想外に多かったのが、公共の場所で足を開いて座る男性は小心者、というご高説。「自分の存在を過剰に誇示しないとられない、つまり自分に自信がない。でなければ、まったく空気の読めない人。いずれにせよ、迷惑な存在に変わりはない」（30歳・営業）「相手と話すときにやたらと腕組みするヤツは大した男じゃない／??男っぽくない」（36歳・介護）、「周囲に自分の成果を自慢する男は30過ぎても結婚できない」（23歳・販売）など、手厳しい分析は会社の中でも続く。（例(4)、(5)、(50)を再掲）

(60)と(61)は「大したXではない」の例文である。7.4.2節でも簡単に言及したように、(60)では、話者が話題の対象である「ケガ（右足首捻挫）」を「ケガ」カテゴリーの顕著例（長引くようなひどいケガ）と比較している。また、(61)では、話題の対象である「相手と話すときにやたらと腕組みするヤツ」が「男」の理想例（自分の存在を過剰に誇示しない男性や自分に自信がある男性）と比較していると考えられる。(60)と(61)の「大したXではない」を「Xっぽくない」に置き換えると、(60)の「ケガっぽくない」は非文となる。これは話題の対象が軽傷だとはいえ、出場選手登録から外され、2軍に戻るほどのケガであり、顕著例ではないとしても「ケガ」の典型例に近いことから、「Xっぽくない」を用いることができないためであると考えられる。また、(60)のようなコンテクストがない場合、「大したケガじゃない」と言えば、話題の対象が「ケガ」ではあるが、「ケガ」カテゴリーの中で顕著例ではないというこ

とを表すが、「ケガっぽくない」と言うと、話題の対象が「ケガ」カテゴリーの成員であるかどうかを判断し、ぎりぎり「ケガ」カテゴリーの成員だということを表す。このようなことから、「大したXではない」は話題の対象がXの中で中心例（顕著例・理想例）であるかどうかにか話者の焦点が置かれ、「Xっぽくない」は話題の対象がXの成員であるかどうかにか話者の焦点が置かれると考えられる³⁵。(61)の「男っぽくない」に置き換えることは容認できるが、この場合、話題の対象と比較されるのは「男」のステレオタイプ（相手と話すときに腕組みしない男）となり、話者はそれを基準とし、話題の対象が「男」カテゴリーの成員であるかどうかを判断することになる。

(62) だからケガをさせないように、コラーゲンやグルコサミンを勧めた。骨や腱に必要な栄養ですね。ただ、これを食事から摂ろうと思うと大変なんですよ。スープとか鍋でどうにかとは思っているんですが、絶対量が足りない。で、サプリメントを使った。薬っぽくない／*大した薬ではないドリンクタイプを選んで。これで急激な負荷がかかったときに起きる腱の痛みは、かなり軽減されますね。(例(29)を再掲)

(63) うちの主人は、予定をちゃんと決める人なんで、時間にも5分前にはいつも着いてるし、アメリカ人っぽくない／*大したアメリカ人ではないなと思いました。むしろ、私のほうが時間に遅れる... 汗(例(30)を再掲)

(62)と(63)は「Xっぽくない」の例文である。(62)では、話者が「ドリンクタイプのサプリメント」を「薬」カテゴリーの典型例（錠剤の薬）と比較しており、(63)では、話者がアメリカ人である「うちの主人」を「アメリカ人」のステレオタイプ（時間にルーズなアメリカ人）と比較している。(62)と(63)では両方とも「Xっぽくない」を「大したXではない」に置き換えることができないが、(62)の場合、「大した薬ではない」というと、話題の対象を「薬」カテゴリーの理想例（効果がいい、よく効く薬）と比較することになり、全く異なる意味となってしまう。(62)でも、「大したアメリカ人ではない」というと、話題の対象を「アメリカ人」の中で何らかの属性を顕著に持っている成員、または理想的な成員と比較するという意味となり、意味が完全にずれてしまうため、置き換えられないと考えられる。

以上の分析から、「大したXではない」は話題の対象とXの顕著例または理想例を比較し、「Xっぽくない」は、話題の対象とXの典型例またはステレオタイプを比較する点において異なることがわかる。

³⁵ 各表現における話者の焦点については、7.4.3.5節で詳しく考察することとする。

両表現の相違点②：カテゴリXの中心例の種類

「大したXではない」：話題の対象とXの顕著例または理想例を比較する。

「Xっぽくない」：話題の対象とXの典型例またはステレオタイプを比較する。

7.4.3.4 両表現の相違点③：Xの中心例及び話題の対象の評価性

次に、「大したXではない」と「Xっぽくない」におけるカテゴリXの中心例及び、それと比較される話題の対象の評価性の違いについて考えてみる。

(64)【中国】日本人はなぜこれほどチャーハンに夢中なのか？我々にとっては**大した料理**ではない／??**料理**っぽくないのに…中国ネットユーザー

(省略)「中華料理といえば？」と日本人に聞けば、たいてい「チャーハン」という言葉が返ってくる。中国人にとってチャーハンは別に名物料理でもなんでもない。残り物の米飯を、翌日炒めて食べるものだと思っている。中華料理にはもっと素晴らしい料理がたくさんあるのに、なぜ日本人はチャーハンに夢中なのか。(例(6)、(54)を再掲)

(65)先頃、東京電力が電気料金原価を6000億円過大に見積もっていたことが判明した。しかし、この件について大前研一氏は何を思ったか。以下、大前氏の談だ。

東京電力の電気料金算定のもとになるコスト見積もりが、実際にかかった費用より過去10年間で合計約6000億円過大だったことが明らかになり、電気料金が必要以上に高く設定されていたのではないかとマスコミは騒いでいた。だが、これは**大した問題**ではない／***問題**っぽくない。10年で6000億円ということは、1年600億円。東電は売上高5兆3685億円(2011年3月期)の会社だから、600億円はその約1%である。つまり、東電の電気料金は見積もりより1%高かったにすぎないのだ。(例(12)を再掲)

(64)では、話者(中国人)が「チャーハン」を「大した料理ではない」と考えており、(+)評価性を持つ「料理」の理想例に比べ、(-)評価性が感じられる。一方、(65)では、「東京電力の電気料金のコスト見積もりが6000億円過大だったこと」について、話者が「大した問題ではない」と言い、「問題」の顕著例(深刻な問題)に比べて(+)評価性を帯びると考えられる。(64)の「大した料理ではない」を「料理っぽくない」にすると、「チャーハン」が「料理」カテゴリの成員であるかどうかの問題となり、意味が大きくずれる。また、「大した料理ではない」というと、多くの場合(-)評価性を持つが、「料理っぽくない」は下の(66)にも見られるように、必ずしも(-)評価性を帯びるとは言えず、(-)でも(+)でもない場合にも用いられる。

(66)そこで、研究開発部の方にインタビューした後に、私の方でその場で料理をし、その料理と料理でないものをクックパッドの機械学習モデル(AI)が正確に認識できるかという「クックパッド機械学習モデル VS 料理好き弁護士」企画も提案してみたところ、これも快く応じて頂きました。(省略)

(1) ポテサラとちらし寿司

いずれもカラフルであり料理**っぼくない**ので。(例(54)を再掲)

次に、(65)の「大した問題ではない」を「問題**っぼくない**」に置き換えると、(64)と同じく、話題の対象が「問題」カテゴリーの成員であるかどうかにより焦点が当てられ、意味がずれてしまう。(65)の「問題」カテゴリーの中心例は明らかに(－)評価性を持つため、「問題**っぼくない**」という表現に置き換えても「大した問題ではない」と同じく、「問題」カテゴリーの中心例より(＋)評価性を持つことになる³⁶。(65)の話題の対象は「問題」カテゴリーの成員の中でも典型例に近いので、「問題」の成員であることは確かであり、ここで「問題**っぼくない**」を用いることはできないと考えられる。

(67)本当は電卓の中にもCPUがあって、それを動かすためのプログラムが内部のROM(読み出し専用メモリー)に書き込まれているので、電卓もやはり「コンピュータ」なのです。つまり電卓で「×」というキーを使うと中ではそれを加減算に変換したプログラムが動いている、ということですが、外部から電卓をブラックボックスとして見たときに**コンピュータ**っぼくない**／*大した**コンピュータ**ではない**、ということで最初にああいう例で話をしてみたんです。(例(31)を再掲)

(68)前にも書いたけどサビーヌが**猫**っぼくない**／*大した**猫**ではない**。しみことトモエが丸顔でちょっとポッチャリだからそれに見慣れてしまっていて私の猫イメージが狭いだけなんです。(例(32)を再掲)

(67)と(68)は「X**っぼくない**」の例文であるが、両方とも「大したXではない」に置

³⁶ 「問題**っぼくない**」は「大した問題ではない」と同じ評価性を持つため、この場合は「大した問題ではない」を「問題**っぼくない**」に置き換えられない理由が評価性の違いにあるわけではないと考えられるが、「大したXではない」のXの中心例が(－)で、話題の対象が(＋)になる場合は「X**っぼくない**」に置き換えても評価性が同じであることが多い(例(50)、(65)など)。ここでは、「大したXではない」のXの中心例が(－)で、話題の対象が(＋)評価性を持つ例を確認するため、(64)を挙げておく。

き換えることができない。(67)では、話題の対象が「コンピュータ」の典型例（内部に複雑な構造・プログラムを持つことが認識しやすいコンピュータ）と比較され、(68)では「猫」のステレオタイプ（丸顔でちょっとポッチャリした猫）と比較されている。(67)も(68)もXの中心例は（－）や（＋）の評価性を持たず、それと比較される話題の対象も評価性を帯びていない。この場合、「Xっぽくない」を「大したXではない」に置き換えると、何らかの評価性（「大したコンピュータではない」と「大した猫ではない」の場合、（－）評価性を帯びる）が生じ、コンテキストと合わなくなる。このようなことから、Xの中心例と話題の対象が（－）か（＋）の評価性を持たない場合、「Xっぽくない」は用いることができるが、「大したXではない」は用いられないと考えられる。

両表現の相違点③：Xの中心例及び話題の対象の評価性

「大したXではない」：Xの中心例と話題の対象が（－）か（＋）の評価性を持つ場合のみ用いられる。

「Xっぽくない」：Xの中心例と話題の対象が（－）か（＋）の評価性を持つ場合も持たない場合も用いることができる。

7.4.3.5 両表現の相違点④：話者の焦点と態度

最後に、「大したXではない」と「Xっぽくない」における話者の焦点と態度の違いについて考えてみる。すでに述べたように、「大したXではない」は話題の対象がXの成員であり、話者の焦点は話題の対象がXの中心例（顕著例・理想例）であるかどうか当てられる。一方、「Xっぽくない」は話題の対象がXの成員であるかどうか話者の焦点が置かれる。

(69) **大した**質問じゃない／??質問っぽくないかもしれませんが、回答お願いします。
「果敢無い」「儂い」ではどちらが好きですか？ 本当にくだらないので、直感で
応えていただければ結構です。それから、意味がどう違うのか知っている方は教えていただけると嬉しいです。（例(8)を再掲）

(69)を見ると、話者はまず「自分の質問」が「質問」カテゴリーの中心例であるかどうかを考え、それが「質問」の顕著例（わざわざ質問して答えてもらう価値のある重要な質問）と異なることで、「質問」カテゴリーの周辺例であると判断したと思われる。なお、「本当にくだらない」という表現からもわかるように、「自分の質問」が「質問」カテゴリーの周辺例であるため、注目に値しないという態度が感じられる。ここで、「大した質問じゃない」を「質問っぽくない」に置き換えると、話題の対象

が「重要な質問ではない」という意味ではなく、「質問」カテゴリーの成員であるかどうかの問題になるため、意味が大きくずれる。

(70)そこで、研究開発部の方にインタビューした後に、私の方でその場で料理をし、その料理と料理でないものをクックパッドの機械学習モデル(AI)が正確に認識できるかという「クックパッド機械学習モデル VS 料理好き弁護士」企画も提案してみたところ、これも快く応じて頂きました。(省略)

(1) ポテサラとちらし寿司

いずれもカラフルであり料理っぽくない／*大した料理ではないので。
(例(55)、(66)を再掲)

(70)では、話題の対象である「ポテサラとちらし寿司」が「料理」カテゴリーの成員ではあるが、話者はこれらが「料理」カテゴリー成員であるかどうかを問題にしており、これらがカラフルであることから、「料理」のステレオタイプと異なると考え、「料理」の周辺例として位置づけている。7.3.3.1節でも述べたように、「Xっぽくない」では、話題の対象がXの成員であるかどうかには焦点が当てられ、話者が本来持っているXの成員に対する知識(普段Xの成員として数多く見られ、想起しやすい成員(典型例)に関する知識、または話者がXの成員全般に対して十分な根拠なしに持っている、Xの一部の成員(ステレオタイプ)にのみ当てはまる知識)を基準とし、それと異なることから話題の対象をカテゴリーXの周辺例として位置づけ、さらにXの縮小により、Xから排除しようとする態度が感じられる。(70)の「料理っぽくない」を「大した料理ではない」に置き換えると非文となるが、これは「カラフルではない」という属性は「料理」の顕著例・理想例の持つ属性ではなく、それを基準として「料理」の中心例(顕著例・理想例)であるかどうかを判断することができないためであると考えられる。

両表現の相違点④話者の焦点と態度

「大したXではない」：話者の焦点は話題の対象がXの中心例(顕著例・理想例)であるかどうかには当てられ、話題の対象がXの中心例ではなく、周辺例であることから、注目に値しないという態度が見られる。

「Xっぽくない」：話題の対象がXの成員であるかどうかには話者の焦点が置かれ、話者が本来持っているXの成員に対する知識を基準とし、それと異なることから話題の対象をXの周辺例として位置づけ、さ

らにXの縮小により、Xから排除しようとする態度が感じられる。

7.4.4 まとめ

本節では、「大したXではない」と「Xっぽくない」の考察結果に基づき、両表現の共通点と相違点について考察した。その結果を以下にまとめる。

両表現の共通点：カテゴリー化の様相

話者が話題の対象をカテゴリーXの中心例と比較し、それと異なることからXの周辺例として位置づける。

両表現の相違点①：話題の対象がXの成員であるかどうか

「大したXではない」：話題の対象がXの成員である場合のみ用いられる。

「Xっぽくない」：話題の対象がXの成員であるかどうかに関係なく用いられる。

両表現の相違点②：カテゴリーXの中心例の種類

「大したXではない」：話題の対象とXの顕著例または理想例を比較する。

「Xっぽくない」：話題の対象とXの典型例またはステレオタイプを比較する。

両表現の相違点③：Xの中心例及び話題の対象の評価性

「大したXではない」：Xの中心例と話題の対象が（－）か（＋）の評価性を持つ場合のみ用いられる。

「Xっぽくない」：Xの中心例と話題の対象が（－）か（＋）の評価性を持つ場合も持たない場合も用いることができる。

両表現の相違点④：話者の焦点と態度

「大したXではない」：話者の焦点は話題の対象がXの中心例（顕著例・理想例）であるかどうか当てられ、話題の対象がXの中心例ではなく、周辺例であることから、注目に値しないという態度が見られる。

「Xっぽくない」：話題の対象がXの成員であるかどうか話者の焦点が置かれ、話者が本来持っているXの成員に対する知識を基準とし、それと異なることから話題の対象をXの周辺例として位置づけ、さらにXの縮小により、Xから排除しようとする態度が感じられる。

7.5 第七章のまとめ

第七章では、否定を含む表現である「大したXではない」と「Xっぽくない」を対象に、両表現のカテゴリー化の様相について考察した。本節では、考察の結果、明らか

になった両表現の「カテゴリー化の様相」における特徴をまとめる。

まず、「大したXではない」は、話者の評価が強く現れる表現であり、話者がカテゴリーXの中心例と話題の対象に対して持つ評価性によって、カテゴリー化の様相も2つに分けられる。一つ目に、Xの中心例（顕著例・理想例）より話題の対象の評価性が（－）である場合、話者の話題の対象への非難や疑問などの態度が感じられる。二つ目に、Xの中心例より話題の対象の評価性が（＋）である場合は、話題の対象がXの中心例よりはいいと評価され、心配するほど深刻なものではないという態度が読み取られる。また、両方とも話題の対象がXの顕著例・理想例と異なることから、注目に値しないという態度も現れる。「大したXではない」の話題の対象は本来Xの成員でなければならず、Xの内部において、中心例と異なることから周辺例として位置づけられる。

「Xっぽくない」は、話題の対象が本来カテゴリーXの成員であるかどうかによってカテゴリー化の様相が異なるため、①話題の対象がXの成員である場合、②Xの成員ではない場合、③Xの成員であるかどうか不確かな場合に分けて分析した。①の場合、話題の対象はXの中心例（典型例・ステレオタイプ）と異なることから、Xの内部において周辺例として位置づけられる。②の場合は、Xの成員ではない話題の対象がXの成員が持つ属性を持っていることからXにカテゴリー化されるという意味で、再カテゴリー化が見られると言えるが、Xの中心例とは異なることから、周辺例として位置づけられる。③の場合は、話題の対象がXの成員であるかどうか不確かであるため、話者がその正体に疑問を持っているか、未定・不特定の物事に対して言及する場合に当たる。

「大したXではない」と「Xっぽくない」は両方ともカテゴリーXの縮小が見られ、話題の対象がXの周辺例であることから、縮小されたXの下位カテゴリー（中心例から成るカテゴリー）に入らず、まるで話者によってXから除外されるような意味になる。話者の焦点が「話題の対象がXの中心例であるかどうか」に当てられる「大したXではない」は、「中心例ではないが、Xの周辺例ではある」という意味を持つが、「Xっぽくない」は話者の焦点が「Xの成員であるかどうか」に当てられるため、「Xの成員としてみなすことができない」という意味となり、Xから除外されるという意味がより強くなると考えられる。

第八章 結論

8.1 本研究のまとめ

8.1.1 10表現に見られるカテゴリー化の様相のまとめ

本研究では、現代日本語における「カテゴリーの周辺例を明示する表現」を対象にし、各々のカテゴリー化の様相に注目して、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての特徴について認知言語学的な観点から考察した。

その結果、10表現における共通点として、まず一つ目に、10表現全てにおいて（一部の下位分類・用法を除き）話者が話題の対象をXの中心例と比較し、両者が異なることからXの周辺例として位置づけるということが明らかになった。二つ目に、話題の対象と比較されるXの中心例には「典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ」があるということがわかった。話者はこれらの成員の属性が、Xの全ての成員に当てはまるものではなく、一般性の程度が完全ではないにもかかわらず、カテゴリー化の際にこれらがXの中心的な成員であると考え、話題の対象をXにカテゴリー化する際に基準（参照点）として用いて、話題の対象がこれらとどれだけ類似しているかによって、Xの中心に近いところから境界に近い周辺部までさまざまな位置づけをされると考えられる。「典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ」がカテゴリーの中心例として見なされる理由は、それぞれの特徴から導くことができる。典型例はそのカテゴリーにおいて数多く見られ、想起しやすい成員であるため、一般性の程度が高く、中心例とされやすい。理想例は理想的な特徴を有する成員であり、顕著例は程度性のある特徴を顕著に有する成員であるため、これらも他の成員より際立ちやすく、中心例になりやすいと考えられる。ステレオタイプは実際その特徴を有する成員がそのカテゴリーの一部であるとしても、言語共同体においてそのカテゴリーの成員はその特徴を有すると広く信じられているため、慣習性の程度が高く、中心例とされやすいと思われる。このような理由から、カテゴリー化におけるXの中心例は、一般性や慣習性の程度が高い特徴を持っている成員、または何らかの観点から他の成員より際立っている成員であると考えられる。我々がある話題の対象をあるカテゴリーにカテゴリー化する際、そのカテゴリーのプロトタイプと比較するという事は、多くの先行研究において指摘されてきたが、本研究の考察により、「典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ」もカテゴリー化の基準として用いられるということが明らかになった。

三つ目に、全ての表現において、カテゴリーXの拡張・縮小が見られることが明らかになった。話者はある話題の対象をXにカテゴリー化する際、Xの中心例から成る下位カテゴリーを拡張させ、話題の対象をその拡張されたXの成員として位置づけることで本来Xの（中心的な）成員ではなかった話題の対象をXの成員として認めたり、反対にXをXの中心

例から成る下位カテゴリーに縮小させ、Xの中心例とは異なる話題の対象をXから除外させたりすると考えられる。これは、あるカテゴリー（プロトタイプ・カテゴリー）の境界は明確に決まっているものではなく、話者によって随時変化するダイナミックなものであるという認知言語学の立場を裏付ける一つの根拠となると思われる。

8.1.2 カテゴリー化における特徴による分類

本研究の考察対象である10表現には、様々な相違点も見られ、同じ「カテゴリーの周辺例を明示する表現」においても、表現によって様々な特徴を持つということがわかった³⁷。10表現に見られる固有の特徴に基づき、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」をいくつかに分類することができると考えられる。

①カテゴリーXの拡張・縮小

まず、全ての表現（一部の用法を除いて）に見られた「カテゴリーXの拡張・縮小」に基づいて分類すると、10表現は次のように分けられる。

カテゴリーXの拡張が見られる表現：「ぎりぎりX（である）」「Xの端くれ」「まるでX（である）」「もはやX（である）」「Xと言えなくもない」「Xとも言える」
カテゴリーXの縮小が見られる表現：「Xというのもおこがましい（Y）」「Xとはなばかり（のY）／名ばかり（の）X」「大したXではない」「Xっぽくない」

すでに述べたように、話者はカテゴリーXの中心例から成る下位カテゴリーを拡張させ、話題の対象をその拡張されたXの成員として位置づけることで本来Xの（中心的な）成員ではなかった話題の対象をXの成員として認めるため、カテゴリーXの拡張が見られる表現においては、「周辺例ではあるが、Xの成員である」という話者の態度が感じられる。反対に、話者がXをXの中心例から成る下位カテゴリーに縮小させ、Xの中心例とは異なる話題の対象をXから除外するため、カテゴリーXの縮小が見られる表現においては、「周辺例であるため、Xの成員として認められない」という話者の態度が読み取れる。

②話者による再カテゴリー化

話者による再カテゴリー化が見られるかどうかということも、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」を分類する一つの基準になると考えられる。本研究では、「再カテゴリー化」を、話者が話題の対象をカテゴリーXから、別のカテゴリーYへと移動させ、位置づけることと考え、考察を行った。そのため、「話者による再カテゴリー化」が見られる表

³⁷ 10表現の具体的な特徴については表(p. 235～237)を参照。

現は「XというのもおこがましいY」と「XとはなばかりのY」の二つとなる³⁸。

「話者による再カテゴリー化」が見られる表現：「XというのもおこがましいY」「XとはなばかりのY」

また、本来（実際）Xの成員ではない話題の対象がXの成員として位置づけられたり、本来Xの成員であるものがXから除外される場合も一種の再カテゴリー化であると考えれば、次のように分類することができる。

「広義の話者による再カテゴリー化」が見られる表現：「まるでX（である）」「もはやX（である）」「Xと言えなくもない」「Xとも言える」「Xっぽくない（話題の対象がXの成員ではない場合）」

このように、話者による再カテゴリー化が見られる場合、特にXが両極的反義関係（両端の間に中間的段階がない場合で、論理的には‘ $\sim A=B$ ’、‘ $A=\sim B$ ’という関係にあるが、言語的意味としては、Aの否定はBと全く等しいということはない（國廣 1982: 172）を持つ名詞である場合は、本来Yである話題の対象をXの周辺例として位置づけることで、「話題の対象はYの周辺例である」という意味をより強く表すことになると考えられる。例えば、ある女性に対して「まるで／もはや男だ」「男と言えなくもない」「男とも言える」などと言う場合、話題の対象である女性は表現上では「男」カテゴリーの周辺例として位置づけられるが、実際にはいくつかの特徴が類似していることで性別が簡単に変わることはあり得ないため、これらの表現は話題の対象である女性が「女」カテゴリーの周辺例であることを意味すると考えられる。

③話題の対象と比較されるXの中心例

本研究の考察対象の10表現では（一部の用法を除いて）、話題の対象がXの周辺例としてカテゴリー化される際にXの中心例と比較され、それと異なることからXの周辺例として位置づけられる。このようなことから、各表現において、話題の対象がXのどのような中心例と比較されるかにより、次のように分類することができる。

話題の対象が「典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ」と比較される表現：「ぎりぎりX（である）（Xがプロトタイプ・カテゴリーである場合）」「まるでX（である）」「Xと言えなくもない（用法①②③）」「Xとも言える

³⁸ 話題の対象が本来（実際）Xの成員であるかどうかは、10表現におけるそれぞれの用法によって異なる場合があるが、そのような用法別の違いを踏まえ、分類する。

(用法①②)」「Xというのもおこがましい(Y) (XがYより (-) 評価性を持つ場合を除く)」「Xとはなばかり(のY) / 名ばかり(の) X」

話題の対象が「典型例・顕著例・理想例」と比較される表現：「Xとも言える(用法③)」

話題の対象が「典型例・顕著例・ステレオタイプ」と比較される表現：「Xというのもおこがましい(Y) (XがYより (-) 評価性を持つ場合)」

話題の対象が「顕著例・理想例」と比較される表現：「大したXではない(話題の対象の評価性がXの中心例より (-) 評価性を持つ場合)」

話題の対象が「典型例・ステレオタイプ」と比較される表現：「Xっぽくない」

話題の対象が「顕著例」と比較される表現：「大したXではない(話題の対象の評価性がXの中心例より (+) 評価性を持つ場合)」

話題の対象が「理想例」と比較される表現：「もはやX(である)」

8.1.3 「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての10表現の位置づけ

本研究では、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」である10表現を対象に、「カテゴリー化の様相」に注目してその特徴を明らかにした。その結果に基づき、各表現において話者が話題の対象をカテゴリーXのどの位置に位置づけるかにより、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」としての10表現の位置づけを次の図1のように行うことができると考えられる³⁹。

³⁹ 各表現の用法別に位置づけが異なる場合は用法別に分けている。

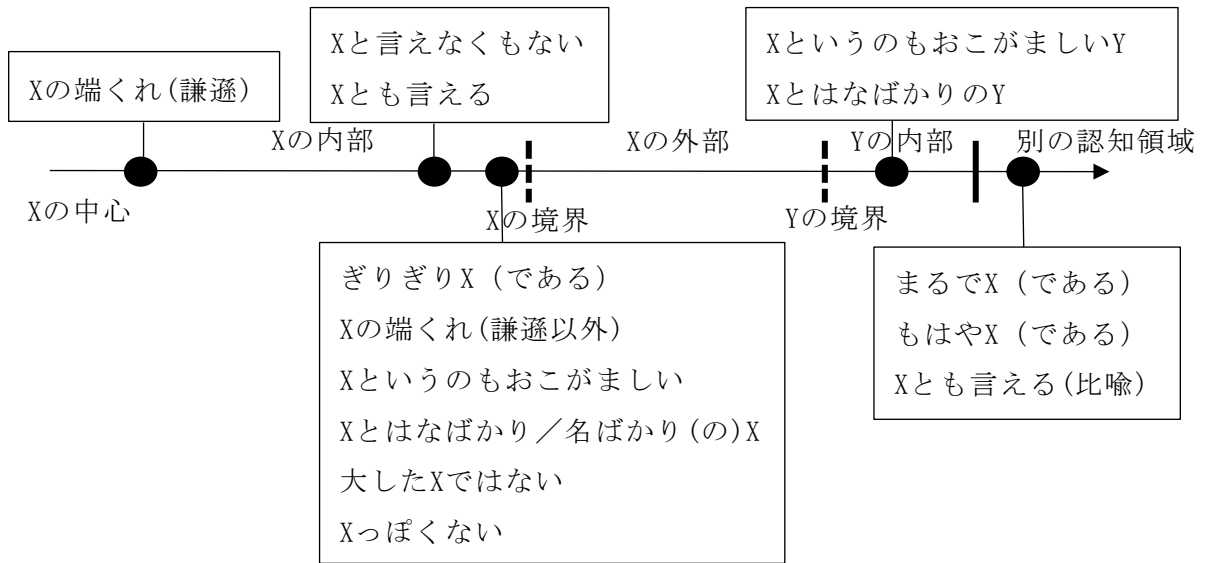


図1 「カテゴリーの周辺例を明示する表現」の位置づけ

まず、Xの中心から最も近いところに位置づけられる表現は、話題の対象が実際にはXの中心例である可能性があり、聴者もそのように受け止められることができることから、「Xの端くれ」が謙遜の表現効果を持つ場合であると考えられる。Xの境界に近い内側に位置づけられるのは、Xの境界に近いことを表す「ぎりぎりX（である）」と「Xの端くれ（謙遜以外）」であると考えられる。また、話者がXの縮小により話題の対象をXから除外する「Xというのもおこがましい」「Xとはなばかり／名ばかり(の)X」「大したXではない」「Xっぽくない」もXの内部の位置づけられてはいるが、本来Xの成員ではない話題の対象をXの周辺例として位置づけることができる「Xと言えなくもない」「Xとも言える」に比べると、中心からは遠い位置に位置づけられると考えられる。また、話題の対象がXからYへと再カテゴリー化されることを表す「XというのもおこがましいY」「XとはなばかりY」はXの外部のYの内部に位置づけられ、「比喻」用法を持つ「まるでX（である）」「もはやX（である）」「Xとも言える（比喻）」は、話題の対象がXの外部の別の認知領域に存在するため、Xの中心からは最も離れていると考えられる。

8.2 本研究の意義の今後の課題

本研究は、従来注目されてこなかった「カテゴリーの周辺例を明示する表現」について考察し、その特徴を明らかにした。また、同じ「カテゴリーの周辺例を明示する表現」においても、様々な側面から違いがあることから、そのような相違点について分析し、その結果に基づいて「カテゴリーの周辺例を明示する表現」の下位分類と位置づけを試みた。

今後は、まず、先行研究で「カテゴリーの周辺例を明示する表現」として指摘されている表現（「XといえばX」「XらしくないX」「Xではない」「Yに近いX」「XでありながらY」

「下手なX」「立派なX」「一応X」など)を加え、分析を続けたい。さらに、「かろうじてX」「ただのX(である／ではない)」「ほぼX」「しいて言えばX」「どちらかというX」など、より多様な「カテゴリーの周辺例を明示する表現」について考察を行い、「カテゴリーの周辺例を明示する表現」のカテゴリー化における諸特徴を解明し、網羅的に記述したいと考える。また、本研究ではできなかったが、日本語母語話者が実際カテゴリー化の際に考察結果と同じ認知的プロセスを経てカテゴリー化をしているか、日本語母語話者が持っているカテゴリーに関する知識は考察結果と一致するかについて適切な方法を用いて検証し、個別的な表現の分析に留まるのではなく、認知言語学的に一般化させたいと考える。そうすることで究極的には、本研究だけでは十分ではなかった「カテゴリー」に関する我々の認識と「カテゴリー化」に関わる認知能力の解明に貢献したい。

表 カテゴリーの周辺例を明示する10表現の特徴

	下位分類(用法)	Xの伸縮	Xの特徴	話者の焦点	話者の態度(表現効果)	再カテゴリー化	実際(本来)話題の対象の位置	比較されるXの中心例	別のカテゴリーの存在	その他
ぎりぎりX(である)	①Xがプロトタイプ・カテゴリー	拡張	プロトタイプ・カテゴリー	Xであるか否か(Xだが、中心と違う)	Xに入って安心・うれしい、中心例ではないという失望(軽蔑も表れる)		決まっていない(話者が決める)	典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ	必要(境界を超えると別のカテゴリー)	
	②Xが必要十分条件に基づくカテゴリー	無し	必要十分条件に基づくカテゴリー					無し		
Xの端くれ(評価性強)	①謙遜	拡張	職業・身分の場合が多い。中心に行くほど(+)強い。理想例が想定できれば、人間以外にも使える	Xではあるが、Xの理想例であるか否か(Xだが、理想と違う)	謙遜/中心+	一種の再カテゴリー化	Xの内部(中心に近い可能性あり)	理想例		話者の位置づけと聴者の知識の食い違い
	②軽蔑				軽蔑/周辺-		Xの内部			
	③自慢				自慢/周辺+					
	④認定				認定/周辺×					
まるでX(である)	比喻	拡張	話題の対象のある性質が顕著であるカテゴリー	Xじゃないが、Xの中心と似てる	Xを参照点として話題の対象を説明(Xと似てる)		全く別のカテゴリー	典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ	元のカテゴリーとして存在	
もはやX(である)	比喻		あるプロセスにおける究極的な目標点・終着点	Xじゃないが、Xの中心と似てる+Xが終着点			別のカテゴリー(Xと近くてもOK)			

Xと言えなくもない(消極的)	①先行する発話やそれにより生じる含意を否定	拡張			相手の否定を否定	一種の再カテゴリー化	X×意見を否定→Xの外から内へ	典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ		=Xとも言える③
	②生起・可能性・存在が皆無でない				可能性提示		別のカテゴリー		あり	
	③断定・直接的な言い方を回避				自分の意見を和らげる		Xの外→ <input type="checkbox"/> 心→周辺			=Xとも言える①
	④和らげ・配慮	無し			相手を認める		Xの外→内		中心例無し	
Xとも言える	①和らげ	拡張			自分の意見を和らげる	一種の再カテゴリー化	Xの外→ <input type="checkbox"/> 心→周辺	典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ	あり	
	②比喻				たとえる(話題の対象の特徴を強調、わかりやすく)		別の領域の別のカテゴリー		あり	言えなくもない×
	③言い換え				違う観点から見る		別のカテゴリー		あり	
	④誇張	無し	話題の対象の持つ特徴を顕著に持っているカテゴリー		強調する		Xの近い外→内		中心例無し	
Xというものもおこがましい(Y)(評価性強)	①Xというものもおこがましい	縮小	話題の対象がXの中心例より(-)		非難、批評、謙遜		内→周辺(外)	典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ		
	②XというものもおこがましいY		YがXより(-)	再カテゴリー化に焦点	非難、批評、謙遜	再カテゴリー化	内→周辺(外) X→Y		Xを包含・Xと重なるY	
	③評価性反対		Xの中心例が(-) XがYより(-)	人と関連する場合、自分への評価が大事	謙遜、相手を尊重(自分の評価)	Yがあると再カテゴリー化	内→周辺(外) X→Y		典型例・顕著例・ステレオタイプ	

Xとは名ばかり (のY) / 名ばかり (の) X (評価性強)	①Xとは名ばかり / 名ばかり (の) X	縮小	話題の対象がXの中心例より (-)		(+) は名前だけ、高く評価しない (Yがふさわしい)		内 → 周辺 (外)	典型例・顕著例・理想例・ステレオタイプ		
	②Xとは名ばかりのY		Y が X より (-) ことがほとんど	名称と属性のマッチ	再カテゴリー化	内 → 周辺 (外) X→Y	Xを包含・Xと重なるY		単に事実を述べる時も用いられる	
大したXではない (評価性強)	①話題の対象の評価性がXの中心例より (-)	縮小	中心にある属性を顕著に持つ。話題の対象はXの成員。	Xの中心例か否か	非難、疑問 注目に値しない		内→周辺	顕著例・理想例		
	②話題の対象の評価性がXの中心例より (+)				中心例ほど (-) ではない。注目に値しない			顕著例		
Xっぽくない	①話題の対象がXの成員	縮小		Xの成員かどうか → 成員らしくないから排除	Xの中心例と反対の評価		内→周辺	典型例・ステレオタイプ (中心例に評価性がなくてもOK)		
	②話題の対象がXの成員×					一種の再カテゴリー化			外→内 (周辺)	あり
	③話題の対象がXの成員かわからない					正体に疑問、不特定			どこからなのかわからない	

引用文献

- 井出温子(1996)「連用副詞「すでに」と「もはや」の意義記述」、『国際交流セミナー研究論文集』7、pp. 19-27、岐阜女子大学
- 今井忍(2008)「日本語のカテゴリー帰属表現について」、『言葉と認知のメカニズム—山梨正明教授還暦記念論文集』、pp. 499-513、ひつじ書房
- 岩崎真梨子(2011)「「ーぼい」の意味用法と展開」、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』第31号、pp. 83-96、岡山大学大学院社会文化科学研究科
- 尾谷昌則(2000)「接尾辞「ぼい」に潜むカテゴリー化のメカニズム—「女っぼい人は女ですか?—」、『日本言語学会第120回大会予稿集』、pp. 168-173、日本言語学会
- 梶川克哉(2012)「属性カテゴリーの周辺的事例を示す「～ながら」」、『日本語文法学会第13回大会発表予稿集』、pp. 198-205、日本語文法学会
- 梶川克哉(2013)「「XはYでありながらX」で示す主体属性との非親和性」、『日本認知言語学会論文集』第13巻、pp. 335-346、日本認知言語学会
- 梶原彩子(2014)「カテゴリー帰属を表す日本語のヘッジ表現—名詞修飾表現の考察から—」、『日本認知言語学会論文集』第14巻、pp. 237-247、日本認知言語学会
- 北邨美代子・中山晶子・村田知子・中道真木男(1978)「発話行動を表す動詞の意味分析」『日本語教育』34、pp. 73-93、日本語教育学会
- 國廣哲彌(1982)『意味論の方法』、大修館書店
- 久保有佐(2009)「現代語における接尾辞「ぼい」の用法」、『玉藻』44、pp. 1-10、フェリス女学院大学国文学会
- グループ・ジャマシイ編(1998)『教師と学習者のための日本語文型辞典』、くろしお出版
- Kekidze, Tatiana(2003)『現代日本語の非断定的表現—「そうだ」、「げ」、「っぼい」を中心に—』、名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士学位論文
- ケキゼ, タチアナ(2003)「「ぼい」の意味分析」、『日本語教育』118号、pp. 27-36、日本語教育学会
- 小池康(2003)「比況のモダリティ副詞の史的変遷—マルデを中心に—」、『計量国語学』第23巻第8号、pp. 387-406、計量国語学会

- 国立国語研究所『基本動詞ハンドブック』 (<http://verbhandbook.ninjal.ac.jp>)
- 小島聡子(2003)「接尾語「ぼい」の変化」、『明海日本語』第8号、pp. 31-38、明海大学日本語学会
- 小原真子(2010)「接尾辞「ぼい」について」、『島大言語文化』29、島根大学法文学部言語文化学科編
- 小矢野哲夫(1995)「程度副詞としての「まるで」」、『日本語・日本文化研究』第5号、pp. 1-14、大阪外国語大学日本語講座
- 小矢野哲夫(1997)「疑似モダリティの副詞について—「まるで」を例として—」、佐藤喜代治編『国語論究6 近代語の研究』、明治書院
- 柴田武・山田進・加藤安彦・靱山洋介編(2008)『講談社 類語辞典』、講談社
- 滝理江(2018a)「例示の機能を持つ助詞ナンテの意味分析—カテゴリーの観点から—」、『日本認知言語学会論文集』第18巻、pp. 393-405、日本認知言語学会
- 滝理江(2018b)「助詞トカの意味分析—カテゴリーの観点から—」、『日本認知言語学会第19回大会予稿集』、pp. 202、日本認知言語学会
- 竹島奈歩(2010)「接尾辞「ぼい」と共起する名詞について—新聞記事の見出しを例として—」、『同志社大学日本語・日本文化研究』第8号、pp. 20-37、同志社大学日本語・日本文化教育センター
- 辻幸夫編(2013)『新編 認知言語学キーワード事典』、研究社
- 中村明(1977)『比喩表現の理論と分類』国立国語研究所報告57、秀英出版
- 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部編(2001)『日本国語大辞典第二版』、小学館
- 野呂健一(2007)「構文文法からのアプローチによる同語反復表現の考察—「XらしいX」を中心に—」、『日本認知言語学会論文集』第7巻、pp. 511-521、日本認知言語学会
- 野呂健一(2008)「同語反復表現「XといえばX」におけるカテゴリー化について」、『日本認知言語学会論文集』第8巻、pp. 223-233、日本認知言語学会
- 野呂健一(2010)『現代日本語の反復構文—構文文法と類像性の観点から—』、名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士学位論文
- 朴秀娟(2016)「完全否定を表す副詞「まるで」「ぜんぜん」「まったく」に関する一考察」、『神戸大学留学生センター紀要』22、pp. 41-57、神戸大学留学生センター
- パリハワダナ, ルチラ(2013)「二重否定表現「～なくは／もない」「～ないでも／はない」「～ないことは／もない」「～ないものでは／もない」の使い分けを

- 巡って」、『京都大学国際交流センター論攷』3、pp. 43-59、京都大学国際交流センター
- 飛田良文・浅田秀子(2003)『現代副詞用法辞典 第四版』、東京堂出版
- 松村明編(2006)『大辞林 第三版』、三省堂
- 松村明監修『デジタル大辞泉』、小学館（「YAHOO! JAPAN辞書」 (<https://dic.yahoo.co.jp/>) 及び「コトバンク」 (<https://kotobank.jp/>) にて検索)
- 水谷静夫(1995)「「まるで」攷」、『計量国語学』第20巻第3号、pp. 99-111、計量国語学会
- 梶山洋介(1997)「発話動詞の分析—「言う」と「おっしゃる／申し上げる／申す」について—」、名古屋・ことばのつどい編集委員会編『日本語論究5 敬語』、pp. 21-42、和泉書院
- 梶山洋介(2008)「カテゴリーのダイナミズム—「人間」を中心に—」、森雄一・西村義樹・山田進・米山三明編『ことばのダイナミズム』、pp. 123-137、くろしお出版
- 梶山洋介(2010a)『認知言語学入門』、研究社
- 梶山洋介(2010b)「百科事典的意味観」、山梨正明他編『認知言語学論考』No. 9、pp. 1-37、ひつじ書房
- 梶山洋介(2014a)「百科事典的意味における一般性が不完全な意味の重要性」、『日本認知言語学会論文集』第14巻、pp. 661-666、日本認知言語学会
- 梶山洋介(2014b)『日本語研究のための認知言語学』、研究社
- 梶山洋介(2016)「ステレオタイプの認知意味論」、山梨正明他編『認知言語学論考』No. 13、pp. 71-105、ひつじ書房
- 森山卓郎(2000)「「とよえる」をめぐる—テキストにおける客観的妥当性の承認—」、『言語研究』118号、pp. 55-79、日本言語学会
- 山下喜代(1995)「形容詞性接尾辞「—ばい」・「—らしい」・「—くさい」について」、『講座日本語教育』第30分冊、pp. 183-206、早稲田大学語学教育研究所
- 吉村公宏(2004)『はじめての認知言語学』、研究社
- Lakoff, G. (1972) “Hedges: A Study in Meaning Criteria and the Logic of Fuzzy Concepts.” *CLS* 8, pp. 183-228, Chicago Linguistic Society.
- Lakoff, G. (1987) *Women, Fire, and Dangerous Things*. The University of Chicago Press. (池上嘉彦他(訳)(1993)『認知意味論』、紀伊国屋書店)
- Langacker, R. W. (1987) *Foundations of Cognitive Grammar Vol. 1*, Stanford:

Stanford University Press.

Taylor, J. R. (2003) *Linguistic Categorization: Prototypes in Linguistic Theory* (Third Edition) , Oxford University Press. (辻幸夫他(訳)(2008)『認知言語学のための14章』、紀伊国屋書店)

Rosch, Eleanor. (1975) “Cognitive representations of semantic categories” *Journal of Experimental Psychology: General*, Vol.104, No.3, pp.193-233, American Psychological Association.